



石川 奥 研究室 2011  
Ishikawa Oku Laboratory



## 価値を創造する「場」を大切にしたい

独特の場の雰囲気がある、

独自の基盤技術を生みだし、それを磨く力、  
そこから新しい応用展開を生み出す力、  
それらをさまざまに融合させ、さらなる高みに立つ力、

これらの力が生み出す創造の場、  
そこに吹く心地よい風を感じてみたい。

# 目次

1. 研究コンセプト / Concept	1
2. センサフュージョン / Sensor Fusion	
2.1 「ロボットが投げたボールをロボットが打つ」システムの開発	4
2.2 波動伝播に基づく高速スローイング動作	4
2.3 高速打撃動作におけるボール制御	5
2.4 多関節マニピュレータを用いた高速打撃動作	5
2.5 反転動作を用いた高速キャッチング	6
2.6 高速マニピュレーションシステム	7
2.7 列並列ビジョン(CPV)による高速ターゲットトラッキングシステム	7
2.8 軽量高速多指ハンドシステム	8
2.9 高速キャッチングシステム(日本科学未来館常設展示)	8
2.10 2台の高速多指ハンドとスライダを用いた布の動的な折りたたみ操作	9
2.11 高速アームを用いた動的な線状柔軟物体の操り	9
2.12 スキル統合に基づく結び目の生成	10
2.13 高速多指ハンドを用いた柔軟紐の片手結び	11
2.14 高速運動中の微小物体把持	12
2.15 高速多指ハンド、高速視覚を用いた道具操り	12
2.16 高速多指ハンドを用いたダイナミックリグラスティング	13
2.17 高速多指ハンドを用いた高速ペン回し	13
2.18 高速多指ハンドを用いた動的保持動作	14
2.19 高速多指ハンドと柔軟指先を用いたソフトキャッチング	15
2.20 高速多指ハンドを用いたダイナミックキャッチング	15
2.21 人間-ロボット共存のための衝突回避行動	16
2.22 ロボットハンドからの接触感覚を触覚神経経由により提示するシステムの開発	16
2.23 その他の研究成果	17
3. ダイナミックイメージコントロール / Dynamic Image Control	
3.1 高速飛翔体の映像計測	20
3.2 サッカードミラー(駆動鏡面を用いた高速視線制御デバイス)	20
3.3 高速フォーカスビジョン	21
3.4 高フレームレート全焦点画像合成のための高速可変焦点光学系	22
3.5 高速・高解像力の液体可変焦点レンズ—ダイナモルフレンズ	23
3.6 1-kHz 高速可変焦点レンズ(HFL)	24
3.7 マイクロビジュアルフィードバック(MVF)システム	25
3.8 人間と微生物との実世界インタラクション	26
3.9 高速オートフォーカスによる高速走査型顕微鏡	27
3.10 ホヤ精子の高速トラッキング	28
3.11 微生物の3次元トラッキング	28
3.12 微生物電気走性の継続観察システム	29
3.13 微生物トラッキングシステム	30
3.14 画像処理を用いた微生物の擬似静止観察	30
3.15 DFDiによる細胞群の高速奥行き位置推定	31
3.16 細胞の高速オートフォーカス(DFDi)	32
3.17 微生物トラッキングのための高速ビジョン用動的輪郭モデル	32
3.18 モバイル顕微鏡システム	33
3.19 3次元空間内での微生物運動制御	33
3.20 微生物のセンシング情報の可視化	34
3.21 ゾウリムシの非ホロノミック性と軌道計画	36
3.22 微生物電気走性のダイナミクスモデル	36
3.23 走電性をもつ微生物運動制御のための電流制御型電気刺戟デバイス	37
3.24 高速トラッキングによる微生物の運動制御	37
3.25 微生物群によるオーガナイズドバイオモジュール	38

# 目次

4. ビジョンチップ / Vision Chip	42
4.1 画像モーメントセンサ	42
4.2 ダイナミック回路を用いた $320 \times 240$ 画素試作チップ	42
4.3 $128 \times 128$ 画素試作チップとセンサボード	42
4.4 超並列コプロセッサ搭載型高速ビジョンシステム	43
4.5 多点瞬時解析プロセッサ	43
4.6 $64 \times 64$ 画素を搭載したプログラマブルなビジョンチップ	44
4.7 高速対象追跡ビジョンチップ	44
4.8 CPV: 列並列ビジョンシステム	45
4.9 投げ上げカメラを用いた広範囲画像センシング	45
4.10 シンクロナイズドビデオ: 身体動作と調和するビデオ操作	46
4.11 ブックフリッピングスキャニング	46
4.12 携帯機器向け空中タイピングインターフェース	47
4.13 高速ビジョンシステムを用いた回転体の表面展開図作成	47
4.14 ウエアラブルカメラを用いた人間の歩行状態推定	48
4.15 高フレームレートカメラを用いた動被写体の高画質撮影	48
4.16 ズーミングタッチパネル	49
4.17 運動／変形物体の高速リアルタイム形状計測	49
4.18 高速リアルタイム粒子計測／流体計測	49
4.19 複数の距離画像を用いた曲面／運動同時推定による高解像度形状復元	50
4.20 事前知識を用いたステレオビジョンの高性能化	51
4.21 Analysis-by-Synthesis 法を用いた三次元物体姿勢推定	51
4.22 可展面モデルを用いた非剛体変形の推定	52
4.23 その他の研究成果	53
5. メタ・パーセプション / Meta-Perception	
5.1 Invoked Computing: まわりにあるものを視覚・聴覚インターフェイスに変える拡張現実感	56
5.2 Virtual Haptic Radar: 存在しないものを感じるシステム	56
5.3 箱の中の自己 (boxedEgo): 自分をのぞき見るメディアアート	57
5.4 変形するディスプレイ (Deformable Workspace): 3 次元の仮想物体を扱うための新しい枠組み	58
5.5 パララックス・オーギュメンティッド・ディスプレー	59
5.6 3 次元データの能動的表示 (Volume Slicing Display)	60
5.7 テレビンボン: IT を用いたワームホールの検証実験	60
5.8 クロノスプロジェクト: 時空間を操るディスプレー	61
5.9 Laserinne: 雪上へのレーザー描画を通じた大規模インタラクション	62
5.10 Light Arrays: 光を用いた身体拡張	63
5.11 スマートレーザープロジェクター: カメラレス センシングディスプレイシステム	64
5.12 スコアライト: レーザーを用いた人工的共感生成楽器	65
5.13 スティッキーライト: レーザーを用いた局所特徴の抽出と制御	66
5.14 触覚フィードバックを用いた引き込み式 3 次元マウス	68
5.15 スマートレザスキャナ: カメラレス 3 次元インターフェイス	69
5.16 Earlids: 筋電センシングによる聴覚情報制御	69
5.17 ハプティカ: ハプティックレーダーの自動車への応用	70
5.18 ハプティックレーダー: 近接覚と振動刺激による皮膚感覚の拡張	71
5.19 ChAff: 韻律的な情報によるリアルタイム会話分析	72
5.20 Roboethics: ロボット倫理学	73
5.21 メタ倫理学	73
5.22 Boo-Hooray: 倫理に関する記述の識別、分析手法	73
6. メンバ / Members	75

# 目次

■ 7. 所在地 / Location	76
■ 8. 論文 / Papers	
センサフュージョン / Sensor Fusion	78
ダイナミックイメージコントロール / Dynamic Image Control	91
ビジョンチップ / Vision Chip	95
メタ・パーセプション / Meta Perception	104
光コンピューティング / Optics in Computing	107
■ 9. 受賞 / Awards	113

## 研究コンセプト Concept



Sensor Fusion

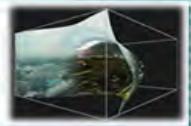
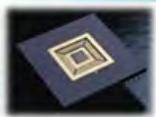


Dynamic Image Control



Ishikawa Oku Laboratory  
The University of Tokyo

Vision Chip



Meta-Perception

## 研究コンセプト

センサやロボットはもちろんのこと、社会現象や心理現象等も含めて、現実の物理世界＝リアルワールドは、原則的に並列の演算構造を有している。その構造と同等の構造を工学的に実現することは、現実世界の理解を促すばかりでなく、応用上の様々な利点をもたらし、従来のシステムをはるかに凌駕する性能を生み出すことができ、結果として、まったく新しい情報システムを構築することが可能となる。そこで本研究室では、特にセンサ情報処理における並列処理の利用に関する研究として、

- I. 五感の工学的実現を目指したセンサフュージョン技術の構築およびその理論に関する研究、特にセンサフィードバックに基づく知能ロボットの研究、
- II. 高速視覚情報処理に基づいた画像制御を実現するダイナミックイメージコントロールに関する研究、特に動的な対象の映像制御の研究、
- III. 汎用の完全並列演算構造を有する超並列・超高速ビジョンチップ技術の構築およびその理論に関する研究、特にその高速性を利用した高速画像処理の応用の研究、
- IV. 実世界の新たな知覚手法を通して新しい対話の形の実現を目指したメタ・パーセプション技術の構築と利用に関する研究、特に新たなモダリティの創出と応用の研究、

を行っている。

## Concept

Interactions in the real world (not only physical but also social and psychological interactions) are inherently parallel phenomena. By constructing models and engineering systems that take into account such parallelism, one can expect a better understanding of the real world as well as enhanced performance of systems when dealing with practical applications. These fundamental considerations lead us to concentrate on parallel processing for sensory information. Four main related topics are currently being explored in Ishikawa-Oku Laboratory:

- i . Sensor Fusion theory and implementation in engineering systems;
  - ii . Dynamic Image Control Dynamic control of image based on high-speed visual information processing;
  - iii . Massively parallel image processing through a Vision Chip, which is capable of realizing high-speed real-time vision tasks on the basis of VLSI technology, and
  - iv . Meta Perception concerns ways of capturing, manipulating and presenting information which is normally inaccessible to humans and machines.  
(Past research on Optics in Computing: architectures that combine the advantages of
- v . optics and electronics to realize enormous computing throughput).

# センサフュージョン Sensor Fusion

人間の脳は、従来から開発されてきたコンピュータとは異なり高い順応性を持つ。これは、脳が神経系からなる閉じた系ではなく、非常に多くの感覚器から外界からの情報を得て、多数の運動制御機能を用いて外界に働きかけるという開放系であり、外界との情報のやりとりを通じて適応能力や学習能力を高めていくことができるためである。このような感覚からの情報の流れは一つではなく、層状構造をもつ多数の神経細胞により相互に情報をやりとりしながら並列に処理される。結果として、調和のとれた柔軟性・信頼性の高い認識・行動機能を実現することができる。

本研究では、脳がもつこのような感覚と運動の統合機能に注目して、実環境に対する柔軟な認識・行動の実現が可能な工学的な脳型処理システムを構築する。特に、人間の運動機能の中でも重要な役割を果たす「手」に注目して、人間や従来ロボットの性能をはるかに超える超高速・高機能ロボットハンドシステムを構築する。最終的に、ロボットの物理的な動作限界を極める超高速マニピュレーションを実現することを目指とする。



A human being recognizes external environment by using many kinds of sensory information. By integrating these information and making up lack of information for each other, a more reliable and multilateral recognition can be achieved. The purpose of Sensor Fusion Project is to realize new sensing architecture by integrating multi-sensor information and to develop hierarchical and decentralized architecture for recognizing human beings further. As a result, more reliable and multilateral information can be extracted, which can realize high level recognition mechanism.



## 2.1 「ロボットが投げたボールをロボットが打つ」システムの開発

従来の知能ロボットは、人間と比較してその動作が緩慢であった。一方、産業用ロボットは、一定の繰り返し作業に対しては高速の動作が実現されていたが、特定の繰り返し作業に特化した動作しか実現されていなかった。また、両者ともその対象は静止状態あるいは静止状態に近いものが想定されており、動きを伴い変化する対象に対しての作業は実現できていなかった。その意味で、人間の能力には遠く及ばなかった。

今回、人間の能力を超えるロボットとして、動的に変化する対象を扱うロボットの実現をめざし、その第一歩として、スローリングロボットとバッティングロボットを開発し、その連続動作を実現した。

このシステムは、①人間のように多指ハンドを用いてボールをコントロールし、目標位置に投球するスローリングロボットと、②高速ビジョンを用いてボールを確実に打つバッティングロボットを組み合わせたものであり、今回、これら2つのロボットを用いてボールを投げて打ち返すという連続的な動作を実現した。

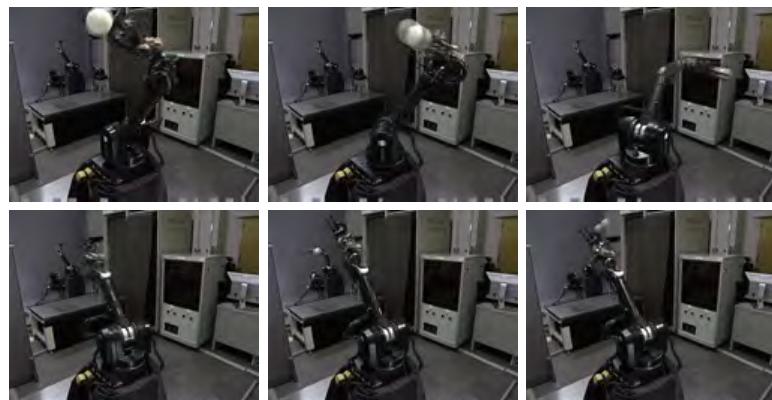
General intelligent robots cannot achieve fast and dexterous movement such as human motion. On the other hand industrial robots can repeat preplanned motion quickly, however its variation of motion is limited only to a certain specific task. In addition these robots cannot respond quickly to changing objects due to insuf-

スローリングロボットでは、1秒間に180度の開閉動作を10回実現する指を備えた高速多指ハンドを開発し、腕と指を巧みに操った器用なリリース動作によってストライクゾーンへの投球を実現した。バッティングロボットは、1秒間に1,000枚の画像を処理する高速ビジョンにより、ボールの軌道を的確に捕らえ、ストライクのボールを確実に打つことが可能である。

これらのロボットは、従来のロボットの動作速度の限界を打ち破る運動性能と人間を超える高速の認識機能を実現したものである。従来のロボットが静止状態に近いものを対象としていたのに対して、動的に変化する対象物に対してもロボットの応用可能性を広げたものであり、人間を超える能力を有するロボットの研究を加速するとともに、生産工程の高速化や飛んでいる対象を扱うロボット等、今後のロボット技術の対象範囲を飛躍的に拡大する可能性を示唆するものである。

ficient motor performance and recognition performance.

In this research we aim at the realization of the robot which can manipulate dynamic changing objects. As a first step, we have developed a Throwing and Batting robot system and achieved the high-speed continuous motion.



## 2.2 波動伝播に基づく高速スローリング動作

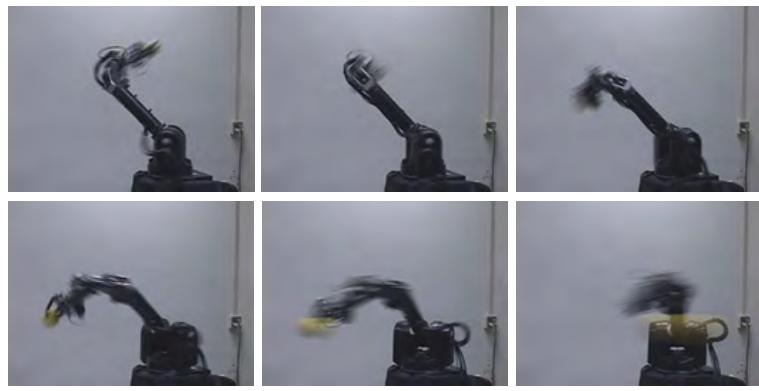
ハンドアームシステムによる高速作業の実現を目指して、アームを主体とした高速化とハンドによる器用なコントロールから構成されるスローリング動作をおこなった。

スイング動作は、バイオメカニクスの分野で研究されている人間の投球動作「キネティックチェーン」

を参考にして、波動の位相伝播に基づく運動の高速化をおこなった。またリリースの制御においては、高速動作で顕著に出現する慣性力を巧みに利用することでボールの投球方向をロバストに制御する方法を提案した。実験では、目標方向に向かってボールを高速にリリースするスローリング動作を実現した。

The speed of robotic manipulation is slow at present although a mechanical system excels in the speed of motion fundamentally. In this paper the robotic throwing task is taken up in order to achieve high-speed robot manipulation. We propose a strategy focused on the

superposition of wave patterns. In addition the contact model for ball control is analyzed. Experimental results are also shown in which a high-speed manipulator throws a ball toward targeted direction.



## 2.3 高速打撃動作におけるボール制御

現在のロボットマニピュレーションにおいて欠けている要素の一つに、"俊敏さ"が挙げられる。ロボットの高速化は、産業用ロボットなど生産システムのスループットの向上につながるという点だけではなく、不安定状態や非接触状態を積極的に利用した器用な操りを実現するための要因となることからも重要な指標といえる。

従来のロボットシステムでは(人間もそうであるが)視覚など感覚機能の処理速度が遅いために、その軌道

生成の過程には予測や学習などフィードフォワードに焦点が当てられており、反応速度まで含めた運動能力が十分に引き出せていないかった。そこで我々は高速マニピュレーションシステムに適した動作戦略として、運動速度と反応速度の高速性を最大限に利用するハイブリッド軌道生成を提案した。

これをバッティングロボットに応用することで、人間が投げたボールをロボットが狙った場所に打ち返すタスクを実現し、その有効性を示した。

Speeding up of robot motion provides not only improvement of operating efficiency but also dexterous manipulation taking advantage of unstable state or non-contact state. We propose a hybrid trajectory generator in order to produce high-speed manipulation. This

algorithm consists of both mechanical high-speed motion and sensor-based reactive motion. As an example of high-speed manipulation, a robotic ball control in batting task has been realized.



## 2.4 多関節マニピュレータを用いた高速打撃動作

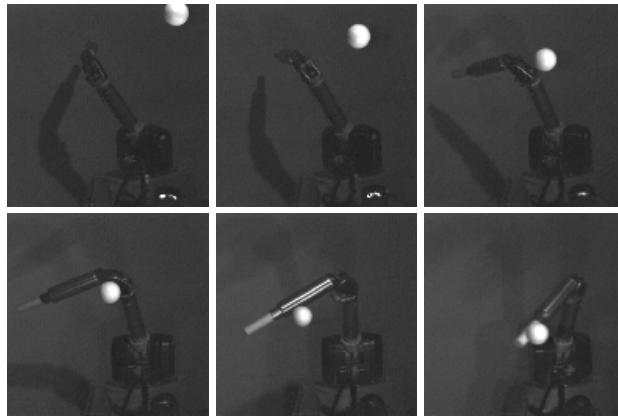
人間のマニピュレーション動作の中にはゆっくりとした精密な動作だけではなく、操作対象との接触状態が激しく変化するような「打つ」「捕る」「投げる」などの俊敏でダイナミックな動作が存在する。ここでは高速ダイナミックマニピュレーションの一例としてバッティングタスクを取り上げる。

ボールの速度に関わらずバットを高速に振り切るスイング動作と、バットの芯で正確に捉えるヒッティング動作を統合するハイブリッドな軌道生成ア

ルゴリズムを提案した。前者のスイング軌道は高速動作となるように最適化しておき、これを時間軌道として与える。後者のヒッティング動作は、視覚フィードバックにより1msごとのボールの動きに合わせてマニピュレータの軌道を修正する。予測を用いた場合とは異なり、変化球を打つことも可能である。2.5m離れた位置から人間がランダムにボールを投げるという設定で、ロボットがスイング時間約0.2sで打ち返すことを達成した。

Batting motion using a high-speed arm and a high-speed stereo vision is represented. In the algorithm, in order to achieve both rapidity of swing and accuracy of hitting, a hybrid trajectory generator of both visual information and time variable is proposed and it is compensated by visual feedback in real time. As a result, under

a severe condition that such as when the manipulator must immediately start to swing 0.1s after the vision sensor recognized the ball, the manipulator can hit the ball near the core of the bat by high-speed visual feedback.



## 2.5 反転動作を用いた高速キャッチング

我々の研究室では，“ロボットハンドアームによる高速な投球動作”を実現してきた。また、ロボットによる捕球の研究の中に、捕球時のボールとハンドの速度が小さくなるようにアームを動作させる戦略があり、捕球時の衝撃を小さくできたり、捕球がしやすくなるなど点において優れている。しかし、この戦略ではボールと手先の速度を等しくしなければならないため、アームの最高速度より遅いボールしか捕球できない。

そこで我々は、上記の投球動作を捕球に応用することで高速なボールを捕球できると考えた。また、投球

と捕球は運動の方向が反対であるため、ある動作を時間的に逆再生した動作を『反転動作』と定義し、投球の反転動作を捕球に用いる戦略を提案した。ここで、反転動作は元の動作を逆再生した動作であり、上記の投球動作は最適化計算により求められるものであるため、そのままでは捕球動作に適用できない。そこで、本戦略では予め何種類か反転動作軌道を用意しておき、それらをボールの軌道に基づいて補間することで、捕球動作に対応した。そして、ボールの捕球実験を行った。

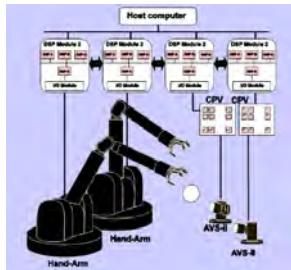
We had developed "High-speed Throwing Motion Based on Wave Propagation (throwing strategy)". On the other hand, there is a catching strategy to minimize the velocity difference between ball and manipulator at the moment of catching. This strategy is effective in terms of making impact smaller and avoiding flipping a ball because the velocity difference is small. However, with this strategy we can only catch a slower ball than the maximum velocity of the arm because we must move the arm at the same velocity as the ball. In other words, we must move the arm at high speed to catch a high-speed ball.

We consider that we can achieve catching a faster ball by applying the throwing strategy. Therefore, we

propose catching strategy using the inverse motion of the throwing motion because catching and throwing move in opposite direction. Here we defined "Inverse motion" as the motion that played the original motion backwards. However, we can't generate catching motions simply, because the inverse motion is the motion that played the original motion backwards and the throwing strategy is calculated by optimal calculations. Therefore, we calculate several types of the inverse motion of throwing motion preliminarily and generate the catching motion by interpolating the inverse motions based on trajectory of the ball. We achieved catching a ball in planar motion.



## 2.6 高速マニピュレーションシステム



実環境において、投げる・捕るなどの代表されるような動的な操り動作を実現することを目的して、視覚フィードバックに基づく高速マニピュレーションシステムを開発した。このシス

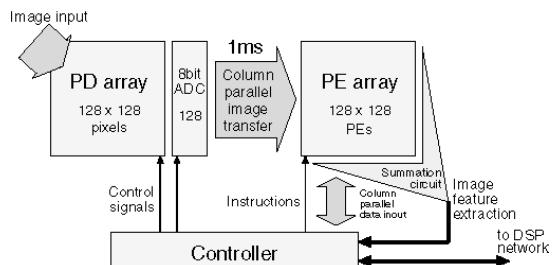
テムは、センサとして高速ビジョンチップシステムを搭載した双眼アクティブビジョン、アクチュエータとして双腕4軸高速マニピュレータと3指高速ハンド、処理システムとしてDSPを用いた階層並列システムを備えている。システムの各構成要素の動特性を考慮して設計されているために、無駄のない最適なパフォーマンスを引き出すことが可能である。移動物体に対する把握実験を行うことで、構築したシステムの有効性を示した。

In most conventional manipulation systems, changes in the environment cannot be observed in real time because the vision sensor is too slow. As a result the system is powerless under dynamics changes or sudden accidents. To solve this problem we have developed a high-speed manipulation system using high-speed visual feedback. This is a hand-arm with a hierarchical parallel processing system and visual feedback rate is set as 1ms. Using this system, we have achieved

many manipulation such as grasping, collision avoidance, and so on.



## 2.7 列並列ビジョン(CPV)による高速ターゲットトラッキングシステム



本研究の成果が浜松ホトニクス(株)により製品化されました→インテリジェントビジョンシステム。

本システムでは、列並列画像伝送と完全並列処理を

組み合わせることで、1msの高速性と128X128画素の高解像度を実現した。

センサチップは128x128画素のフォトディテクタと128個の8bitのAD変換器からなり、列ごとに並列に、ビットシリアルにデータを出力する。これに対して並列処理部は多数のFPGAを用いて実装され、128X128個のプロセッシングエレメント(PE)により、画素ごとに完全並列な処理が行われる。

これまでに1msのサイクルタイムでの画像の取り込みと処理を実現し、アクティブビジョンに搭載しての高速ターゲットトラッキングや、パターンマッチングなどの汎用画像処理を実装して、その有効性を確かめた。

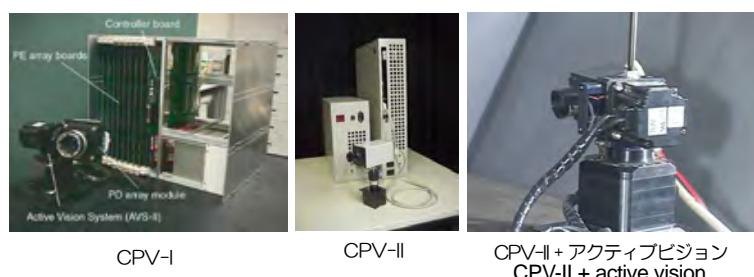
(本研究は浜松ホトニクス(株)との共同研究です)

The research results have been a commercial reality by Hamamatsu Photonics. -> Intelligent Vision Sensor.

Our 1ms vision system has a 128x128 PD array and an all parallel processor array connect to each other in a column parallel architecture, so that the bottleneck of an image transfer has been solved. 1ms visual feedback

has been realized in this system, in which the image feature value is extracted in 1ms cycle-time for visual servoing.

(This is a collaborative research with Hamamatsu Photonics)



## 2.8 軽量高速多指ハンドシステム

従来より、器用で柔軟な把握機能の実現を目指して、多指ロボットハンドの研究が進められてきたが、そのほとんどは準静的な手の運動を対象としており、その動作速度はそれほど速くはなかった。しかし、人間の把握動作では、眼の機能と合わせた高速で動的な握りが大きな役割を果たしている。現状の技術の進展から、工学的ハンドシステムにおいては、原理上、同様の動作を人間よりも速い速度で実現できるはずである。

そこで我々の研究室では、機械システム並びに視覚システムの速度限界を追求し、超高速の領域で、人間と同様な目と手の協調動作を実現した。視覚システムとして、1msで汎用画像処理が実現可能なビジョン

チップシステムを用い、機械システムとしてのロボットハンドには新たに開発した軽量・高トルクモーターを用いることにより、機械システム限界に迫る速度(180度開閉を0.1秒で実行可能)を実現することに成功した。

開発したハンドを用いて、様々なタスクが実現されている。

落ちてくるボール(約4m/s)を指先でつまむという人間にはできないタスクを実現した。ここで、つかむ瞬間は0.01秒にも満たない超高速動作であり、人間の目に見えない速度でタスクが実現されている。

(本ハンドは、ハーモニック・ドライブ・システムズの協力を得て製作されました)

Dynamic grasping using a newly developed high-speed hand system and high-speed vision is proposed. In the high-speed hand system, a newly designed actuator provides the finger with excellent features: It is lightweight (about 110g per finger), and it is moved with speed reaching about 4m/s and 4N power at a finger tip,

and backlash is small enough for high-gain feedback control. As a result high-speed motion at 180deg/0.1s is realized. With high-speed visual feedback at a rate of 1KHz, the hand can grasp and handle dynamically moving object. Experimental results are shown in which a falling object is caught by high-speed hand.



## 2.9 高速キャッチングシステム（日本科学未来館常設展示）



投げ込まれたボールの軌道をビジョンによって瞬時に判断してキャッチすることができる。超高速ロボットハンドシステムを開発した。このシステムは、1ms(0.001秒)で画像

開発された技術に基づいており、2005年7月より、日本科学未来館(東京都江東区)において展示されている。

本システムは、セイコープレシジョン(高速キャッチングシステム開発、視覚フィードバック制御担当)、ハーモニック・ドライブ・システムズ(高速ロボットハンド開発担当)の協力を得て製作されました。



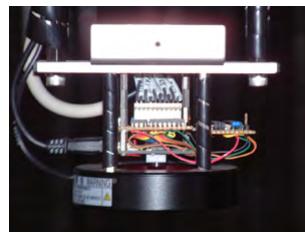
処理が可能なビジョンチップ、人間を超える高速運動が可能な高速ロボットハンド、画像情報に基づいてロボットを制御する視覚フィードバック制御の3つがキーとなる技術であり、わずか0.1秒で到達するボールを、人間の眼には見えない速度で瞬時にキャッチすることができる。

本システムは、独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業の研究テーマ「感覚運動統合理論に基づく「手と脳」の工学的実現」(研究代表者:石川正俊、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)で

A multifingered hand system which can catch a thrown ball at a high-speed (0.1s) by visual feedback control is developed.

It has been exhibited in National Museum of Emerging Science and Innovation since July 2005.

This system is developed in cooperation with SEIKO Precision, Inc. (Catching System and Visual Feedback Control) and Harmonic Drive Systems, Inc.(High-speed Hand Mechanism).



## 2.10 2台の高速多指ハンドとスライダを用いた布の動的な折りたたみ操作

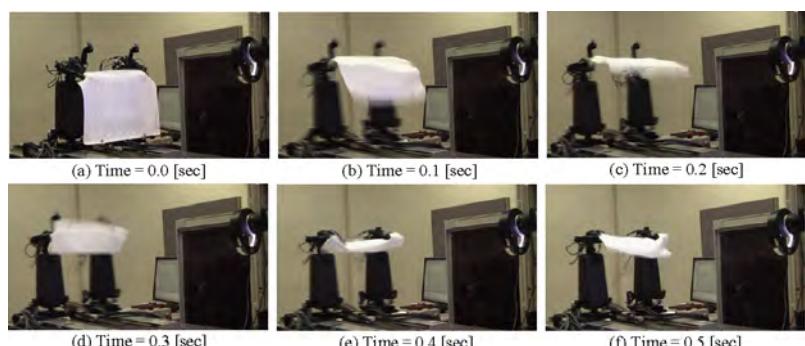
これまでに剛体のマニピュレーションを対象として、様々な解析・制御手法提案が行われ、現在も盛んに研究されている。一方、柔軟物体のマニピュレーションはその実現が望まれているものの、タスクを実現するための戦略提案、柔軟物体のモデル構築と制御などの多くの問題点が存在し、その実現が困難とされてきた。近年になり、柔軟物体のモデルが構築され、視覚フィードバックによる軌道生成手法も提案され、線状柔軟物体のマニピュレーションとして紐結びが実現され、面状柔軟物体のマニピュレーションとして布の展開動作や折り紙操作が実現されている。さらに、面状柔軟物体に似た帯状柔軟物体のモデル構築も行われている。

しかしながら、従来の柔軟物体マニピュレーションは、ロボットを低速で動作させて静的な操りを行ってきた。本研究室では柔軟物体の動的マニピュレーションを目指して、ダイナミックな紐結び操作を実現している。そこでは、ロボットの高速性を利用した簡易モデル(代数方程式)を提案し、その有効性を確認している。また、紐の形状から導出できる軌道生成手法を提案した。

本研究では線状柔軟物体のダイナミックマニピュレーションの発展研究として、面状柔軟物体のダイナミックマニピュレーション実現を目指す。具体的なタスクとして、空中での布のダイナミックな折りたたみ動作を行う。はじめに、人間の折りたたみ動作の解析を行い、タスク実現に必要な運動を抽出している。次に、線状柔軟物体のモデルの拡張として、ロボットの運動から代数的に変形が計算できる布の変形モデルを提案した。布の変形モデルを用いて、布の目標形状を得るためのロボットの軌道生成手法を提案している。そして、シミュレーションにより、得られた軌道の妥当性を検討している。さらに、タスクの成功率を向上させるために、高速視覚フィードバックを導入している。ロボットハンドの指と布に取り付けたマーカーをトラッキングし、2msごとにマーカー位置と画像面積を計測することで、布が折りたたまれた瞬間の把持タイミングを検出し、ロバストな把持戦略を提案している。以上のロボットの軌道と視覚フィードバックを基に実験した結果が下図であり、約0.4秒での高速な折りたたみ操作が可能である。

The purpose of this research is to achieve a dynamic manipulation of sheet-like flexible object. As one example of dynamic manipulations of sheet-like flexible object, dynamic folding of a cloth with two high-speed multifingered hands mounted on sliders system will be carried out. First, the dynamic folding by a human is analyzed in order to extract the necessary motion for achievement of this task. Second, a model of the cloth will be proposed by extending the linear flexible object

model (algebra equation) using high-speed motion. Third, the motion planning of the robot system will be performed by using the proposed model and the simulation result will be shown. Fourth, a high-speed visual feedback (2ms) is introduced in order to improve the success rate. Finally, the experiment with the trajectory obtained by the simulation and high-speed visual feedback will be executed.



## 2.11 高速アームを用いた動的な線状柔軟物体の操り

マニピュレーションを対象物体と操り手法の観点から考察すると、これまでに剛体の静的・動的マニピュレーションや柔軟物体の静的マニピュレーションなどが実現されてきた。これらのマニピュレーションに

ついては、適切な戦略もしくは制御手法が提案されてきた。しかしながら、柔軟物体の動的マニピュレーションは実現されておらず、適切な戦略や制御手法も提案されていない。そこで本研究では、高速アームを

用いた線状柔軟物体の動的マニピュレーションを行う。その1例として、柔軟紐のダイナミックな紐結び操作の実現を目指す。

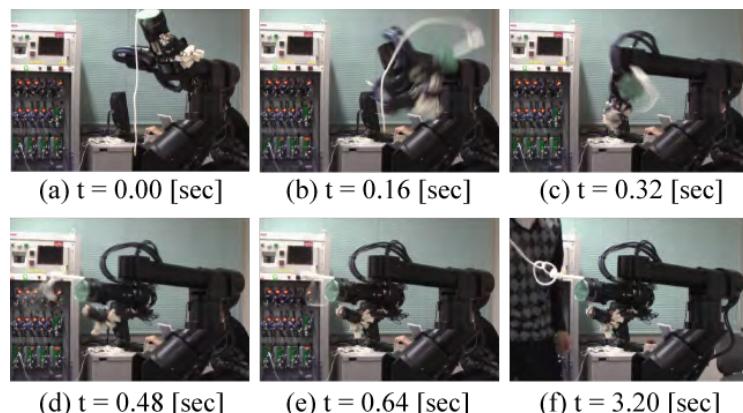
高速アームの軌道に、人間による紐結びを解析し、動作を抽出し、その運動を実装している。これまで柔軟物体のモデルは、分布定数系で表現されたモデルや柔軟物体を多リンク系と仮定し、微分方程式で表現したモデルなどで記述されてきた。これらのモデルは複雑で、モデルパラメータに大きく依存し、軌道生成や制御手法の提案に有効であるとは言い難い。そこで本

研究では、ロボットの高速性を利用してことで、ロボットの運動から幾何学的な表現(代数方程式)で柔軟物体をモデル化できることを示している。そして、提案したモデルを用いて高速アームの軌道の妥当性を検討している。さらに、モデルが代数方程式であることから、紐の形状を指定したときに、その形状からアームの軌道を得ることも可能である。高速性を利用してすることで、従来よりも比較的簡単なモデルが得られており、制御も容易になると期待する。

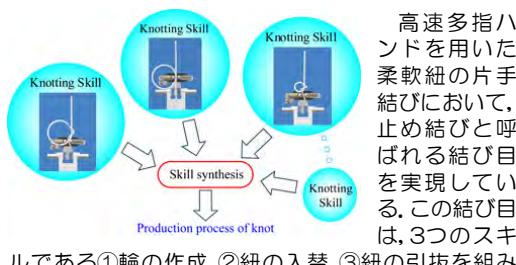
Considering the manipulation from the viewpoint of target object and manipulation method, the static manipulation of a rigid body or a flexible object and the dynamic manipulation of a rigid body have been achieved. And, the suitable strategies and control methods about these manipulations are proposed. However, the dynamic manipulation of a flexible object has not been performed, and the strategy and the control method has not also been suggested. So, this research performs the dynamic manipulation of a linear flexible object by a high-speed robot arm. As an example, the dynamic knotting of a flexible rope is achieved.

The motion of the high-speed robot arm is extracted by analyzing the dynamic knotting by a human. Until now, the model of the flexible object is described by

distributed parameter system or ordinary differential equation based on the multi-link model. These models are extremely complex and depend on the model parameter. Thus, we consider that these models are not effective for the motion planning and the proposition of the control method. In this research, we show that the model can be described by the algebraical relation from the robot trajectory during the high-speed robot motion. Moreover, the robot arm trajectory can be obtained from the rope state by using the proposed model. And, the proposed model is not more complex than the typical model. Therefore, we expect that the control of the flexible object will be more simple by using the high-speed motion.



## 2.12 スキル統合に基づく結び目の生成



合わせることにより実現され、これらのスキルのロバスト性を向上させるために高速視触覚フィードバック制御手法を提案している。

しかしながら、結び目生成に関する一般的な議論は行われていなかった。そこで、本研究では、結び目を実現するために最小限必要なスキルを人間の結び動作を基に抽出し、抽出されたスキルを統合することにより様々な結び目の生成が可能であることを示している。

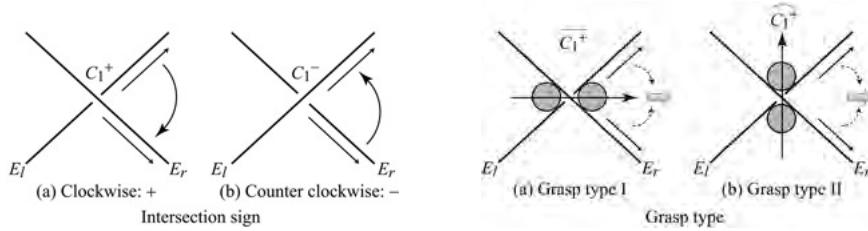
In the previous research (One Handed Knotting of flexible rope using a High-speed Multifingered Hand), an overhand knot is achieved by high-speed multifingered hand. This knot is carried out by combining the three skills such as loop production, rope permutation, and rope pulling. Moreover, in order to improve the robustness of these skills, high-speed visual and tactile sensory feedback control method is proposed.

However, the general knotting production has not been suggested. Therefore, this research examines the relationship between a knotting process and the

individual skills of which a robot hand is capable. To determine the necessary hand skills required for knotting, we first analyzed the knotting action performed by a human subject. We identified loop production, rope permutation, and rope pulling skills. To take account of handling of the two ends of the rope, we added a rope moving skill. We determined the characteristics of these skills using an intersection-based description. The knotting process was examined based on the analysis of knots and the characteristics of the robot hand skills.

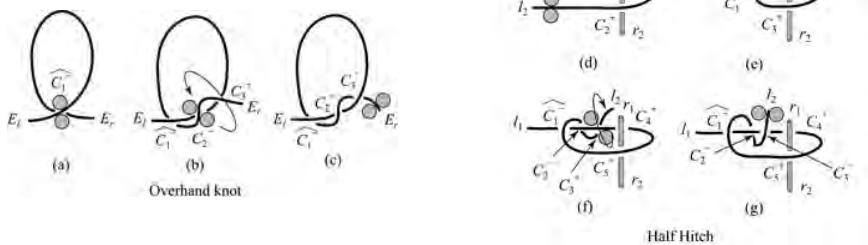
結び目の記述として、結び目を構成している交点に着目し、交点の記述を以下の法則に従って記述している。

As the description of the knot, the intersections that constitute the knot is considered. The intersection description can be obtained by following law.



止め結びとひと結びの生成方法を以下に示す。

The production methods of two knots (overhand knot and half hitch) are shown.



## 2.13 高速多指ハンドを用いた柔軟紐の片手結び

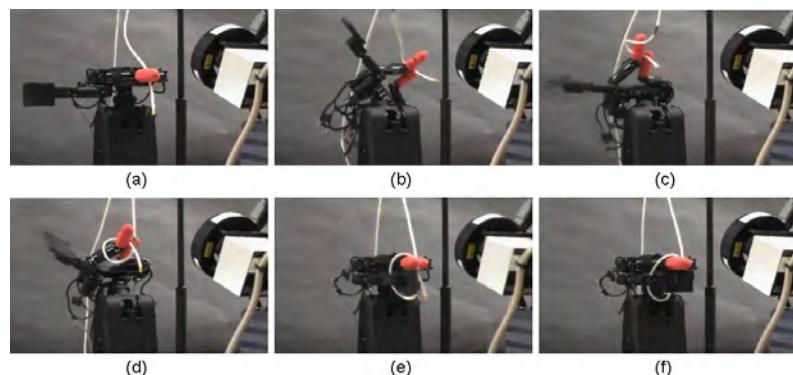
これまでに本研究室では、高速多指ハンドと高速な応答性を持つセンサシステムにより様々なタスクを実現してきた。しかし、それらのタスクは対象物体が剛体と仮定できるものであった。今後、ロボットハンドの開発を行う上で、器用さという点も重要になる。以上の点を考慮して本研究では、柔軟線上物体の操りの1例として多指ハンドによる柔軟紐の片手結びを行っている。

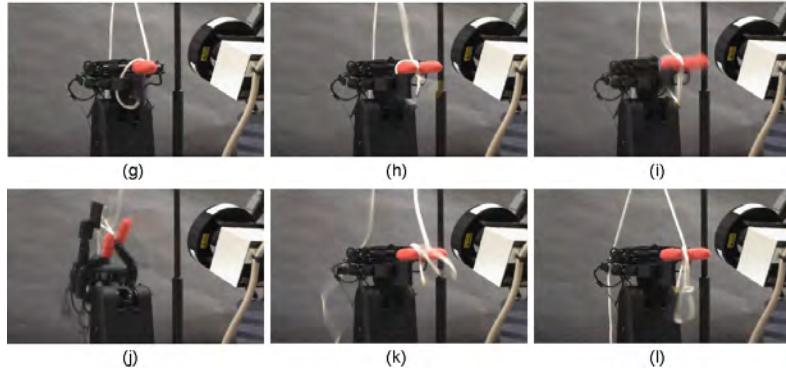
片手結びを実現することは極めて困難であり、また、片手結びを実現する技能が必要である。片手結び

を比較的容易に実現でき、片手結びの技能を抽出するために、人の片手結びを参考に、紐結び動作を3つのスキルに分割している。そのスキルとは、①輪の作成、②紐の入替、③紐の引抜である。①輪の作成において、高速ビジョンを用いて手首の旋回軸制御を提案し、輪の作成の成功率を向上させている。さらに、②紐の入替において紐が入替る瞬間の両指の間隔を適切にするために、触覚センサの力情報を基に、把持力制御を実現している。以上の技能とフィードバック制御により片手結びを実現している。実験結果を下図に示す。

This research proposes a new strategy of one handed knotting with a high-speed multifingered robot hand and tactile and visual sensors. The strategy is divided to three steps: loop production, rope permutation, and rope pulling. Through these three steps, a

knotting is achieved by only one multifingered robot hand. Moreover, this study proposes the control method of wrist joint angle in loop production and the grasping force control in rope permutation.





## 2.14 高速運動中の微小物体把持

これまでに本研究室ではロボットの器用な道具の操りを目指し、道具の受動関節性を提案した。また、ここで扱う高速ロボットシステムでは、高速なアクチュエータや高速画像処理技術を用いることによって、精確性はもちろんのこと、人間よりも速い動作と外界の認識を行うことができ、人間では行えないタスク、道具の操りを実現できる可能性を秘めている。そこで本研究では、高速運動する物体の扱いを通して、ロボットの高速性を活かした道具の器用な操り技能の獲得

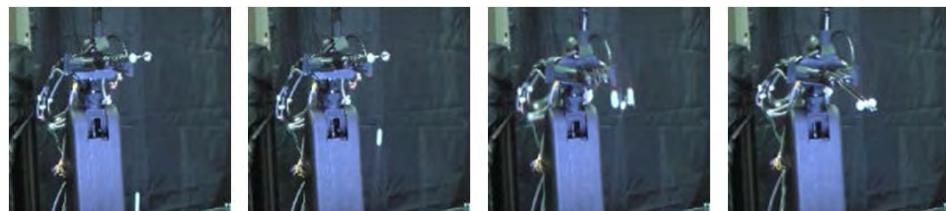
を目的とする。

人間を超える動作例として、空中を放物運動中の直径6mmのプラスチック球(米粒ほどの大きさ)をピンセットでキャッチする実験を行った。ここで用いるピンセットの鉛直方向の幅は3mmであり、キャッチ時にはピンセットの中心部とプラスチック球の位置誤差は±1.5mmしか許されず、高精度な操りが要求されるタスクである。

So far, we proposed the passive joint between hand and tools in order to achieve more skillful tool-handling. The high-speed robot system we developed has the potential of achieving the task and tool-handling which human cannot do, because it can behave faster and get information from the external world faster than human by high-speed actuator and high-speed vision system. In this research, we aim for finding out new skill in tool-

handling which uses high-speed performance maximally.

For instance of task overcoming human, we achieved catching 6mm plastic ball in parabolic motion using tweezers. In this task, the margin for error between the center of tweezers and ball is plus or minus 1.5mm. So precise handling is needed.



## 2.15 高速多指ハンド、高速視覚用いた道具操り



多指ハンドが器用な操りをするうえで、道具の操りは欠かせないタスクである。道具を扱うには、時間ごとに変化する多指ハンド、道具、道具に

よって操る対象の三者の相対位置や姿勢を知る必要がある。本研究ではこの問題を高速視覚を用いることによって解決し、ハンドと道具との間に生じる受動関節性を利用しより柔軟に操りを実行している。その一例として、多指ハンドによるピンセットの操りを取り上げ、実験を行っている。

In order to achieve skillful handling, it is necessary that a multifingered hand has a capability to manipulate tools. One important problem of tool handling with a

multifingered hand is that the relative positions among a robot hand, a tool and a handled object change during the handling. For this reason, it is necessary to measure

the relative positions in real time, and to control a hand so as to cancel the changes by passive joint arise from frictional force between hand and tools. In our research,

we have resolved this problem by using a high speed visual servoing. As an example, a tweezers is handled by a multifingered hand.

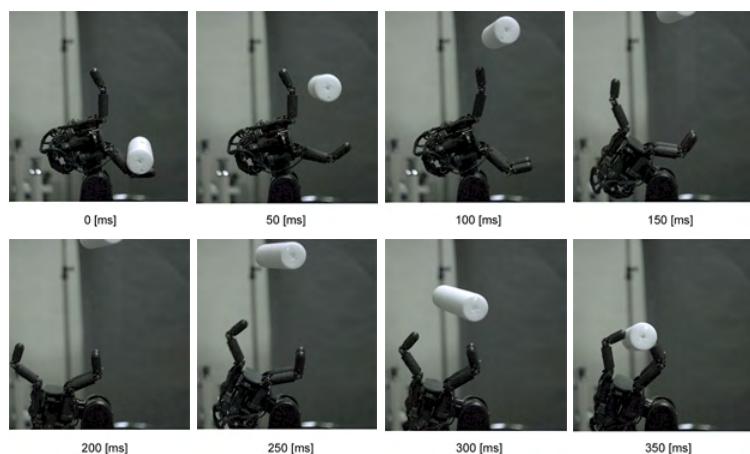
## 2.16 高速多指ハンドを用いたダイナミックリグラスピング

多指ロボットハンドによるリグラスピングに関して、従来の手法では、安定な把持を保ちつつ把握状態を遷移させる必要があるため、高速なリグラスピングは困難であった。そこで本研究では、新たなリグラスピング戦略としてダイナミックリグラスピングを提案する。ダイナミックリグラスピングでは、対象を上

方に投げ上げて自由回転により姿勢を変化させ、落下時にキャッチすることによって、リグラスピングを実行する。その一例として、高速多指ハンドと高速ビジョンを用いた円柱に対するダイナミックリグラスピングについて、実験を行っている。

In most previous studies, it has been difficult for a robot hand to regrasp a target quickly because its motion was static or quasi-static with keeping contact state. In order to achieve high-speed regrasping, we propose a new strategy which we call dynamic regrasping. In this strategy, the regrasping task is achieved by throwing a target up and by catching it. In this paper, the

regrasping strategy based on visual feedback and the experimental results using a high-speed multifingered robot hand and a high-speed vision system are shown. As an example of a target for dynamic regrasping, we selected a cylinder and we achieved the dynamic regrasping tasks in the experiment.



## 2.17 高速多指ハンドを用いた高速ペン回し

ロボットハンドに人間のような器用な把持・操りをさせるためにはリアルタイムでの触覚情報が必須であるが、現状では、触覚フィードバック制御によるロボットハンド制御の研究例は少ない。本研究の目的は、0.1秒で関節角度が180度の動作が可能な高速多指ロボットハンドに、1ms以内に重心情報が取得可能な高速触覚センサを装着することにより、器用な操り動作を高速に実現することである。

また、世の中にあふれている工具・道具等にはペン状物体が多い。そこでペン状物体を器用・高速に扱う

タスクの一例としてペン回しを選定し、これをロボットハンドに実行させた。

ペン回しを実現させる際に、はじめに2本指でペン振り動作を実現し、そのペン振り動作に対して触覚センサ情報を基に、ペンから指を離すタイミングを抽出し、ロボットハンドの中指を中心にしてペンを回す。その後、触覚センサからペンが中指に接触している位置を計測し、把持タイミングを抽出し、ロボットハンドに把持する。これを繰り返すことでペン回しを実現している。

We propose a tactile feedback system in real time using a high-speed multifingered robot hand and a high-speed tactile sensor. The hand and the sensor are capable of high-speed finger motion up to 180 [deg] per [0.1] s and high-speed tactile feedback with a sampling

rate higher than 1 [kHz], respectively. In this research, we achieve a dynamic pen spinning as an example of a skillful manipulation task using a high-speed multifingered hand equipped with tactile sensors.

At first, we perform a pen oscillation using the two

fingers of the robot hand. Next, we introduce the tactile feedback in order to extract timings of grasp and release of the pen. And then, the pen spinning can be carried out by using the pen oscillation and the grasp and

release of the pen using tactile feedback. The below figures show the experimental result of the pen spinning.

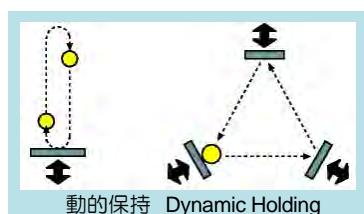
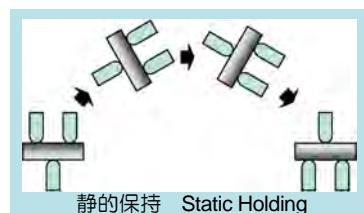


## 2.18 高速多指ハンドを用いた動的保持動作

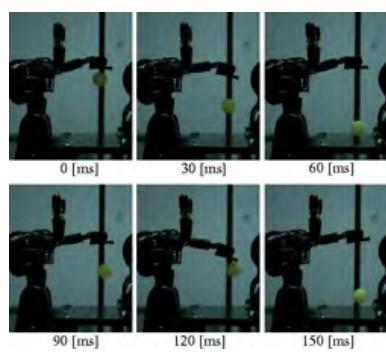
ロボットハンドによる器用な操りの実現を目指して、さまざまな把握や操りのアルゴリズムが考えられてきたが、これらの多くはロボットの指先を対象物に接触させて、静的な安定条件を実現させることを目的としていた。一方、人間による操り動作にはこのような静的な操りだけではなく、指と対象物の接触状態が動的に変化するような操りも存在する。人間の操りがロボットに比べて器用で柔軟なのはこのためである。このような器用な動きを実現するために、我々は「動的保持」と呼ばれる動作を提案している。動的保持動作とは、静的には安定状態にない物体を定常な周期運動状態に保つ動作のことである。

In order to achieve faster and more dexterous manipulations, we are proposing a strategy called "dynamic holding." In the dynamic holding condition, an object is held in a stable condition while the object is moving at high-speed. In this research, high-speed dribbling is achieved as an example of dynamic holding

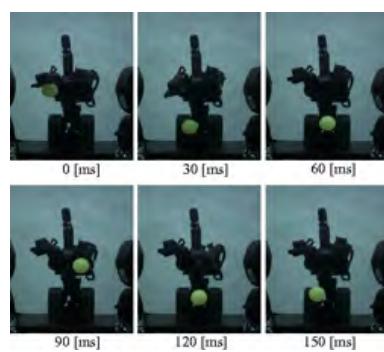
本研究では、高速で器用な動的操りを目的とした動的保持動作の一例として、高速多指ハンドによる毎秒10回のドリブル動作実験を行っている。



using a high-speed multifingered hand and a high-speed vision system.



一本指ドリブル  
One Finger Dribbling



二本指ドリブル  
Two Finger Dribbling

## 2.19 高速多指ハンドと柔軟指先を用いたソフトキャッチング

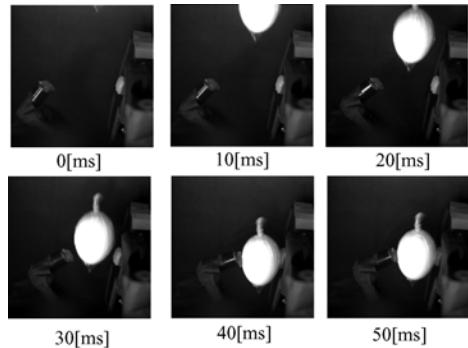
ロボットハンドの運動能力を人間以上に高速化することを目指して高速ハンドが開発されている。このロボットハンドを1[kHz]の視覚フィードバックで制御することで捕球実験が行われており、現在までに球や円柱などの捕球に成功している。

しかし、これらの実験で用いたロボットハンドは、プラスチック成型した指先に滑り止めのゴム被覆をつけた、固いハンドであった。そのため、高速な繰りを行なう場合には、対象に過大な力を加えてしまう危険があり、今までの捕球実験では捕球対象として柔らかい

ものしか用いることができなかった。

そこで本研究では、この問題を解決するために、指先にゲルを用いた柔軟被覆をつけた高速指モジュール制御システムを開発した。ゲルの持つ衝撃吸収能力と、高速視覚フィードバックによる仮想インピーダンス制御を統合することで、壊れやすい物体を高速に捕球することを目指す。今回の実験では、このことを実証するために壊れやすい物の代表として「生卵」を選択し、これを割らずに把握する実験を行った。

Using a high-speed multifingered hand, which can move at 180[deg]/0.1[s], a high-speed catching of a falling ball was achieved. However it was impossible to catch a fragile object, because a collision made a large impact with it. In this paper, a high-speed catching of a fragile object, like an egg, is achieved, using a high-speed hand with a gel fingertip and using shock absorption of gel in combination with visual feedback control.



## 2.20 高速多指ハンドを用いたダイナミックキャッチング

0.1秒で指の180度開閉動作が実行可能な、新しい高速多指ロボットハンドが開発されている。これにサイクルタイム1msの高速視覚フィードバックシステムを適用することにより、これまでのロボットハンド

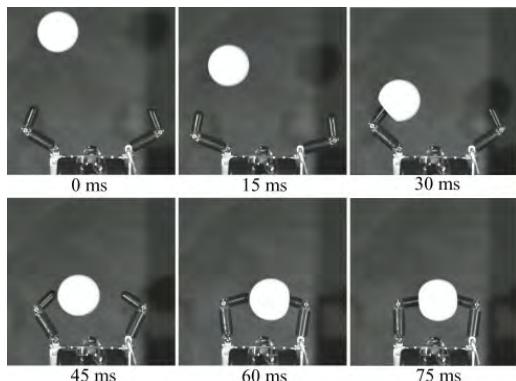
には不可能であった様々な動的操縦が可能になる。ここでは、動的操縦の一例として、落下物体の捕球動作を取り上げる。

We have achieved dynamic catching tasks as examples of dynamic manipulation. In this regard, we propose an “active” strategy for catching. The catching strategy in our previous study may be called “passive” in that impact forces between the target and the fingertip are kept as low as possible. However, in order to be

effective in various situations, it is important to utilizing the high-speed motion of the hand and impact forces actively. This is because the hand may catch the target in the optimal position by changing the position and the orientation of the target. We use a falling ball and a falling cylinder as catching targets.

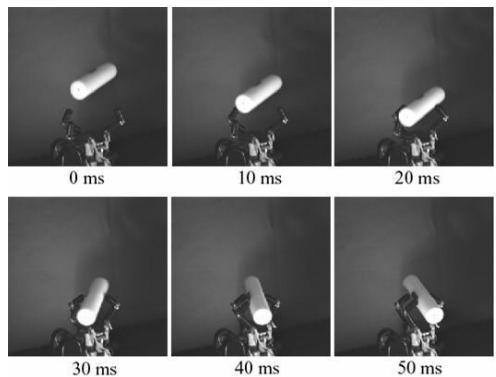
落下球の能動的キャッチング動作 Active catching of a falling ball

約1[m]の高さから落下するゴムボールを、2本指を用いて捕球する。落下位置は2本の指のちょうど中心とは限らず、指の設置された直線上においていくらかのずれがあるとする。このような場合、落ちてきたそのままの位置で安定して把持することは難しい。しかし、球を指との衝突現象をうまく利用することにより、安定しやすい2本指の中心位置に球を追い込み、捕球を成功させる。このような能動的な捕球戦略は、対象の動きに対して受動的な捕球動作と比較して、捕球の可能性を広げることができるものと考えられる。高速ビジョンシステムを用いて球の3次元位置情報をフィードバックしながらハンドを制御し、このタスクを実現した。

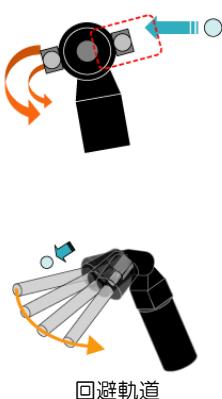


## 落下円柱の能動的キャッチング動作 Active catching of a falling cylinder

約1[m]の高さから落下する円柱を、3本指を用いてキャッチングする。このとき、ある傾きを持って落下する円柱を、3本指をうまく用いて回転させることにより、把握しやすい姿勢まで操作する。対象の3次元位置に加えて姿勢の情報もフィードバックすることにより、このタスクを実現した。



## 2.21 人間 - ロボット共存のための衝突回避行動



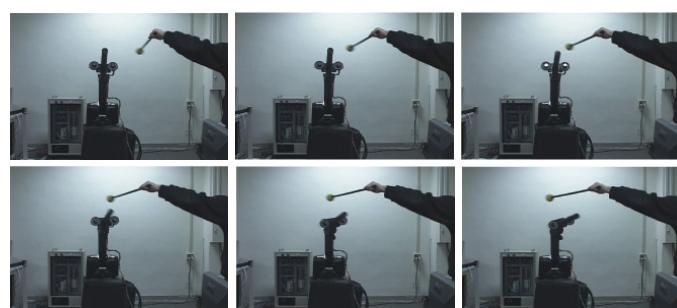
近年、ロボットは工場などの人間からある程度隔離されている環境のみならず、コミュニケーションロボットなどといった、人と積極的に関わり、人と生活を共にするような環境での活躍が期待されている。このよ

うにロボットと人間が関わりあう機会が増えるにつれ、ロボットが人間を傷つけないため、またはロボット自身が傷つかないための安全対策が重要になってくる。

本研究では、ロボットに接近してくる対象を実時間に回避することを目標とした。ロボットアームのリンク部分に高速視覚を搭載する機構を用いており、エンドエフェクタ部が障害物の運動に対して回り込むような回避行動をとるよう制御している。

Recently, the need for a robot that collaborates with humans has increased not only in the industrial settings but also in home use. It is certain that the opportunities that robots associates with humans increase from now on, and human safety

becomes a big problem. In our research, we propose a collision avoidance system in which high-speed camera heads are placed on a robot manipulator. The manipulator can avoid the fast moving obstacle. The arm link is controlled so that the obstacle describes a spiral on the image plane, and the trajectory of the end effector describes a spiral.



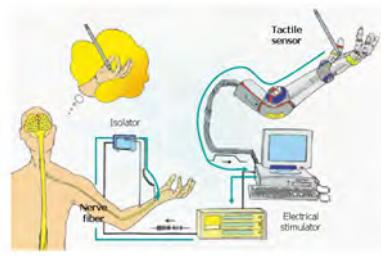
## 2.22 ロボットハンドからの接触感覚を触覚神経経由により提示するシステムの開発

触覚センサを装着したロボットハンドの把持動作により生じた触覚情報を、触覚神経経由で生体に伝達するシステムを構築しました。システムは被験者とロボットハンド側の2つに分かれており、相互をネットワークにより接続しています。被験者が右手により把持動作を行うと、その動作をサイバーグローブにより計測し、ネットワーク経由でロボットハンド側に伝送

して、ロボットハンドを制御します。把持動作によって生じた対象物との接触状態を触覚センサにより検出し、再度ネットワーク経由で被験者側に伝送し、被験者の左腕の触覚神経系に挿入した微小電極により神経線維に電気刺激(パルス列)を与え生体に提示します。被験者は提示された感覚強度を足元のペダルにより表現します。実験の結果、触覚センサの出力変化

に応じて被験者が申告する感覚強度に変化が生じていることが確認できました。(本研究は、東大 満渕研究室、電通大 下条研究室との共同研究です。)

Signals are inputted directly to human's sensory nerves to transmit the sense of touch. This method may not only applied to virtual reality technology, but also applied to prosthesis technology.  
(This is joint research with Mabuchi Laboratory and Shimojo Laboratory.)



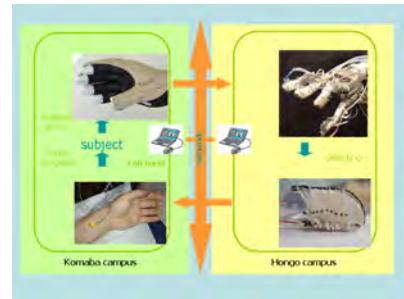
### システム構成

被験者は、左腕の触覚神経系に満渕グループで開発した神経インターフェースを埋め込みます。また、右腕にはロボット操作用に、サイバーグローブを装着します。一方、ロボットには、下条グループで開発した高密度触覚センサを、石川グループで開発した4本指ロボットハンド上に装備しました。ロボットと人間は、お互いにネットワークで接続することで、感覚情報と運動指令の送受信をリアルタイムで行います。

### 実験

実際の実験の様子を示します。

- (写真左上) 被験者の右手。サイバーグローブにより操作を行う。
- (写真右上) 触覚センサを装備したロボットハンド、ゴムボールを指先に接触している。
- (写真右下) 触覚情報の大きさをリアルタイムに表示している。
- (写真左下) 被験者に与えられる触覚情報、神経刺激のそれぞれの電気信号を表示している。同時に、被験者が実際に感じた触感を定性的に表示している。



## 2.23 その他の研究成果

この他にも、高速視覚を用いた100Gキャプチャリングシステム、階層並列センサ情報処理システム(1ms感覚運動統合システム)、リアルタイム実環境仮想接触システム、人間-ロボット共存のための緊急停止、高速視覚フィードバックを用いた把握行動、ビジュアルインピーダンスによるロボットの制御、能動的探り動作と目的行動の統合、視触覚フィードバックを用いた最適把握行動、視覚教示を利用した力制御の学習、通信遅延を考慮したセンサ選択手法、最適軌道の探索と逆モデルの学習を行う運動の習熟機構、複数センサによる誤差を用いたアクティブセンシング、触覚パターン獲得のための能動的触運動、3軸パラレルリンク構造を用いた小型作業支援ツール、視力覚フィードバックに基づく実環境作業支援システム、視触覚モダリティ変換による物体形状の提示等の研究を行っている。



# ダイナミックイメージコントロール

## Dynamic Image Control

ダイナミックイメージコントロールとは、様々なダイナミクスを有する現象に対して、光学系・照明系・処理系などをうまくコントロールすることで、通常では見ることができない対象や現象を人間にとてわかりやすい形で提示する技術である。従来の固定で低速の撮像システムでは、対象のダイナミクスが映像に混入していたのに対して、この技術により、利用形態に合わせた映像のコントロールが可能となる。

本研究は、ダイナミックイメージコントロールに基づく次世代のメディアテクノロジーの創出を目的としており、

- ・対象の画像計測に困難が多く技術による計測支援が重要な医療・バイオ・顕微鏡分野
- ・新たな映像表現が求められる映像・メディア分野
- ・人に理解しやすい映像が求められるFA・ヒューマンインターフェース分野

このような幅広い分野において、対象の本質を捕らえ、ユーザーが必要とする映像を提供することで、映像利用の新たな展開を生み出すことを目指している。

Dynamic Image Control (DIC) is a technology to show dynamic phenomena with various physical properties to human in comprehensible and intelligible way. Many dynamic phenomena in real world have immoderate characteristics that prevent human from clear understanding. For instance, we can't see a pattern on a flying bee wing, flowing red blood cell in vein, nor printed characters on a whacked golf ball dropping onto a fairway. This difficulty is due to the relatively slow frame-rate of conventional imaging systems that permit the object's dynamics superimposed onto the interested image.

DIC modulates images by controlling optics, illuminations, and signal processing so as to output adequate images for a given purpose. The purpose of this research is to create and develop an epoch-making media technology based on dynamic image control. Followings are supposed application fields:

- ・Biomedical instruments, Microscopy
- ・Visual instruments, Media technology
- ・Factory automation, Human interface



### 3.1 高速飛翔体の映像計測

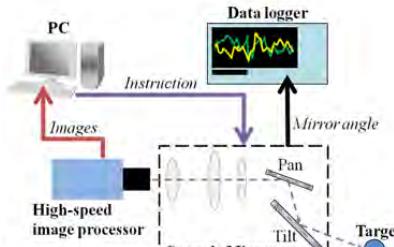


図1 ビジュアルフィードバック系  
Fig.1 Visual feedback system.

メディア、FAなど様々な分野で有用性が期待される。しかし従来の電動雲台によるアクティビジョンではミリ秒オーダーという高速な視線制御が実現出来ない。そこで我々は電動雲台ではなく、光学的にカメラの視線だけを高速に制御出来るデバイス(サブシステム)、『サッカードミラー』を開発した。サッカードミラーはパン・チルトそれぞれ60度の視線制御可能範

囲を有し、そのステップ応答はわずか3.5msである。撮像レートと視線制御レートとともにミリ秒オーダーの超高速アクティビジョンは、ロボットビジョン。

我々はこの高速性を生かして、スポーツ中継などに大きく貢献すると考えられる高速飛翔体の映像計測システムを構築した。本システムは、サッカードミラー、高速ビジョン、計算機からなるビジュアルフィードバック系である(図1)。映像計測したい対象の画像内の重心位置を逐次計算し、その位置と画像の中心が一致するように視線を制御する。これを繰り返すことで、常に画像中に計測対象がおおよそ画像中心にあるような映像を得ることが出来る(図2)。

ただし、実際にはサッカードミラーの応答時間の限界や計算機による遅延などもあり、とくに計測対象が高速である場合は、完全に画像中心と対象物体を一致させることは困難である(トラッキングエラー)。そこで取得された映像の各フレームに対して再度重心を計算し、その重心が完全に画像中心になるよう画像自身をスライドすることでトラッキングエラーを補正している。本補正技術は、微生物の擬似静止観察に用いた2nd-pass Image Processingを並進方向に對してのみ適用したものである。

We have developed "Saccade Mirror" and successfully achieved a millisecond-order high-speed pan/tilt camera. As an application of this high-speed pan/tilt camera, we propose a stationary observation system for high-speed flying objects. This system is a kind of visual feedback system which is composed of the Saccade Mirror, a high-speed image processor and a computer (Fig.1).

A developed tracking algorithm is presented (Fig.2). It computes the center of mass of a dynamic target for every frames, and controls the mirrors' angle to let the center of mass correspond with the center of image. Then, it can track the target by these iteration.

These images, however, still have a little translational tracking error due to the mirrors' response and the computer's delay. So for our stationary observation, the computer finally let obtained each image slide even to

compensate the tracking error using 2nd-pass Image Processing (for only translational components).

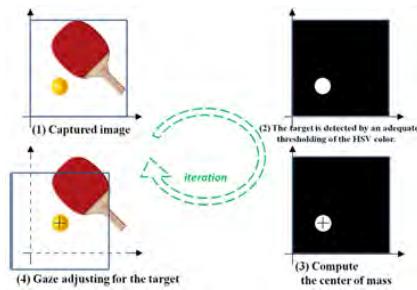


図2 トラッキングアルゴリズム  
Fig.2 Tracking Algorithm.

### 3.2 サッカードミラー（駆動鏡面を用いた高速視線制御デバイス）

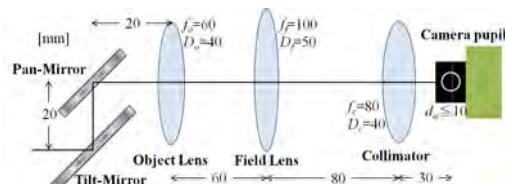


図1 サッカードミラーのセットアップ  
Fig.1 Setup of Saccade Mirror

通常ビジョンシステムの視野には限界があるが、主として監視用途やロボットビジョン用途ではその範囲を超えた広い領域の映像を取得したい場合が多く、レンズを含むビジョン(カメラ)自体を動かしてパン・チルトの視線方向を制御できる電動雲台がよく用いられている。一方で近年ビジョンシステムのフレームレート・画像処理速度は共に高速化してきており、一般にこのようなビジョンシステムを高速ビジョン(High-speed Image Processor)と呼ぶ。もしこの高速ビジョンの視線を、ミリ秒(1ミリ秒 = 0.001 秒)オーダーの撮像・画像処理時間に見合う速さで動的に

制御すれば、従来ならば速過ぎて差し迫った画角で撮影するのが困難であった運動対象を、適当な画角でかつブレが無い状態で映像計測することが可能となる。このような映像は、メディアコンテンツ、医療、FA、ロボットビジョンなど様々な分野での応用が期待できる。ところが現実には、電動雲台を用いてビジョンの視線を制御するのに要する時間は、撮像・画像処理に要する時間に比べてはるかに長く、これがシステム全体の高速化のボトルネックとなっている。そこで我々は、ビジョン自体は固定したまま、光学的に視線方向のみを高速に制御可能なデバイス、サッカードミラー(Saccade Mirror)を提案する。

サッカードミラーは、2軸のガルバノミラーと瞳転送系と呼ばれるレンズ群から構成される。前者は本来レーザを走査するためのデバイスであるため、鏡面のサイズは小さく高速な応答を実現する。しかし、単純にミラーだけを直列に配置した場合、光線束が鏡面上を通過する領域は大きく制限されるため実用的な画角を得ることが出来ない。かといってミラーサイズを大きくしてしまうと、せっかくの高速性を著しく損ねてしまう。そこで瞳転送系と呼ばれるレンズ群を、ミラーとマウントするカメラの間に配置し、カメラの瞳

を両ミラーの前後に転送することで本問題を解決した。

この度設計した試作品は、およそ30degの画角まで対応できるものとなっている。実際に試作品の応答時

We developed a high-speed gaze control system to achieve a millisecond-order pan/tilt camera. We named this system "Saccade Mirror." A pan/tilt camera, which can control the gaze direction, is useful for observing moving objects for supervision, inspections, and so on. A high-speed image processor that can both image and process in real time every 1-ms cycle has recently been developed. If this image processor were applied to a pan/tilt camera, it would enable observation of extremely dynamic objects, such as flying birds, balls in sports games, and so on. However, to control the camera's gaze with millisecond order in real time is difficult. The main reason is the method of controlling the gaze. A general pan/tilt camera is mounted on a rotational base with two-axis actuators. The actuators must control both the base and the camera. For millisecond-order control, the weight of the rotating parts must be reduced as much as possible. In our method, the camera is fixed and Saccade Mirror is installed next to the camera. Saccade Mirror controls the camera's gaze optically using two-axis rotational light mirrors.

間を測定した結果、pan, tiltとも視線の最大走査時(60deg)で3.5ms以内という非常に小さい値であった。

Saccade Mirror is composed of two important parts, two galvanometer mirrors and pupil shift lenses. A facial size of a galvanometer mirror is small because it is usually used for scanning laser. We cannot expect a wide angle of view if only galvanometer mirrors are used. Pupil shift lenses, however, make an angle of view wider with shifting the camera pupil to near the mirrors. The prototype of Saccade Mirror can be applied up to approximately 30 deg. We measured its response time and ascertained it was mere 3.5 ms even if scanning 60 deg, the widest angle, for both pan and tilt.

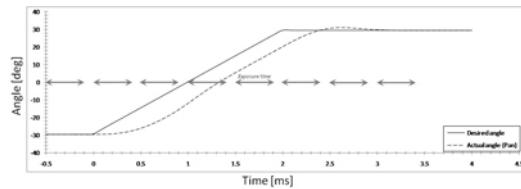


図2 応答時間測定実験の結果

Fig.2 Experimental Result

### 3.3 高速フォーカスビジョン

多くのビジョンセンサは、映像をセンサ面に投影する光学系と投影された画像を取得・処理する撮像・処理部からなる。近年の情報処理技術の飛躍的な進歩を背景として、撮像・処理部の性能の向上、特に高速化が著しく、研究レベルでは1000fpsで画像の取得と処理を完了できるものが報告されている。

しかし、一方で、もう一つの構成要素である光学系の応答はいまだ遅く、焦点距離の調節やズーム比の変更には1秒近く必要である。光学系の焦点調節は、これまでそのほとんどが機械的に内部のレンズ(群)を動かすことで実現されており、それ以外の方法はほぼないに等しい。レンズは質量が重く、応答の高速化は非常に難しかった。ところが、光学系は画像計測の入り口に位置しており、その特性を対象や環境に調節することで、より的確に対象を認識することが可能であつたり、もしくは通常は計測できない対象の奥行き情報を計測できるなど、様々なメリットがあることが知られている。そのため、光学系の高速化への要求は強い。

これに対し我々は、ミリ秒オーダーで光学特性を制御

可能な光学素子である、ダイナモルフレンズを開発してきた。そこで、ダイナモルフレンズの利用を前提として、ミリ秒オーダーで光学特性を制御可能な光学系とやはりミリ秒オーダーで高速に画像の取得から処理までを行う高速ビジョンとを組み合わせることで、光学系のボトルネックをミリ秒のオーダーで完全に解消した「高速フォーカスビジョン」を提案する。

提案する高速フォーカスビジョンの有効性を検証するために、特にフォーカスの制御を目的とした高速フォーカスビジョンの試作システムを構築した。さらに、試作システムを用いて、コントラスト法に基づく高速オートフォーカス実験と、運動する対象にフォーカスをあわせ続けるフォーカストラッキング実験を行った。コントラスト法は画像に含まれる高空間周波数成分を評価することで合焦を判定する手法で応答の高速化が難しいことで知られるが、高速オートフォーカスでは15.8msで合焦を実現し、また、フォーカストラッキング実験では運動する対象にフォーカスをあわせ続けることに成功した。

Although dynamic control of the optical characteristics is an important function in computer vision, the response time of the conventional optical system is too slow (>0.1 s). To solve this problem, we developed a high-speed liquid lens, called a Dynamorph Lens (DML), that achieved both millisecond-order response speed and practical optical performance. A computer vision system equipped with the DML can dynamically control its optical characteristics based on acquired images. In particular, if the total period for image acquisition and processing is matched with the response time of the DML, dynamic and adaptive control of the optical characteristics can be achieved without any loss of bandwidth. Thus, we propose a new vision system,

called the {it high-speed focusing vision system}, composed of high-speed image processing technology and a high-speed lens system based on the DML. State-of-the-art high-speed computer vision systems can acquire and process one image in 1 ms, which is almost matched with the period of the lens system (~ 2 ms).

To validate the concept of High-Speed Focusing Vision System, we developed a prototype system composed of an imaging optical system with a DML, a high-speed image processor system for high-speed visual feedback, a high-speed camera to record images at high frame rate for monitoring, and a personal computer (PC) to control the whole system. Using this prototype system, a high-speed autofocusing experiment and a

focus tracking experiment were demonstrated.

Autofocusing is an essential function for modern imaging systems. One common method is contrast measurement, which finds the best focus position by detecting the maximum contrast of images. The contrast method needs to acquire two or more images at different focus positions and evaluate their contrast. Since the focusing speed of conventional optical systems is slow, the autofocusing process tends to take a long time (typically ~ 1 s). This problem could be solved by our high-speed focusing vision system. Thus, we implemented the contrast method of autofocusing in the prototype system. Figure 1 shows the result of the autofocusing when the object was the surface of an electronic substrate. The focus scanning process started at  $t=0$  ms and finished at around  $t=14$  ms. The peak of the focus measure was observed at about  $t=7.5$ . After the focus scanning process, the focus was controlled to the estimated correct focus position. The

entire autofocus process finished at  $t=15.8$  ms. Note that the total autofocus period of 15.8 ms is shorter than the typical frame period (30 to 40 ms) of conventional vision systems.

Next, a dynamic focus control experiment was conducted. The purpose of this experiment was to track the correct focus for a dynamically moving object. For this purpose, a quick estimation of the target depth is important. Thus, we developed a technique that vibrates the object plane position around the target. Three images were captured at near, correct, and far focus positions and their focus measures were measured to estimate the object's depth. Then, the center of the vibration was adjusted to be the object position estimated from the latest three focus measures. Experimental results of focus tracking are shown in Figure 2. The focus tracking was started at  $t=0$ . From the images captured by the high-speed camera (Figure 2 (b)), the image was successfully kept in focus.

図 1 高速オートフォーカス実験結果。

時刻0より焦点位置を移動させながら合焦測度(d)を画像から計測し、合焦測度が最大だった場所に焦点をあわせている。図より15.8msですべての処理を終えていることがわかる。

Figure 1. Experimental results for high-speed autofocus of an electronic substrate.

(a) Image sequence captured by the high-speed camera at 2200 fps. (b) Instruction voltage input to the piezostack actuator. (c) Displacement of the actuator measured by a built-in sensor. (d) Focus measure (Brenner gradient) calculated by the PC.

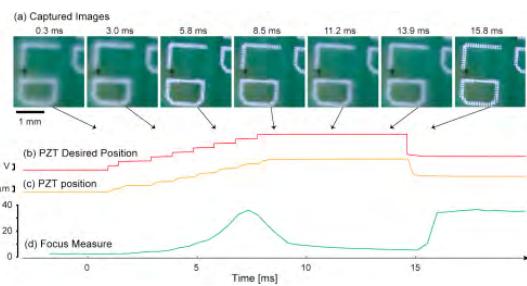


図 2 高速フォーカストラッキングの実験結果。

フォーカストラッキングなしの場合の対象画像系列(a)とフォーカストラッキングを有効にした場合の対象画像系列(b)

Figure 2. Results of the high-speed focus tracking experiment.

Upper row shows an image sequence without focus tracking (a), and lower row with focus tracking (b).

### 3.4 高フレームレート全焦点画像合成のための高速可変焦点光学系

近年では自動車の衝突や動物の飛翔などの高速現象を撮影するために、しばしば高速度カメラが使われる。高速度カメラは高フレームレートで撮影するため露光時間が短く、十分な光量を確保するために明るいレンズを使う必要がある。しかし光学で知られている性質から、明るいレンズを使用すると被写界深度が浅くなってしまう。

被写界深度とはピントが合っている奥行きの範囲のこととて、被写界深度が浅いとピントの合う範囲が狭まり、観察したい対象の一部にしかピントが合わない、動き回る動物がすぐにピントから外れてしまうなどの問題が生じる。この被写界深度を深くする手法として、全焦点画像合成という技術が存在する。これは異なる位置に焦点の合った複数枚の画像を合成して被写界深度を深くするというものである。この全焦点画像合成に必要な焦点位置の異なる複数枚の画像を用意するためには、撮影に用いる光学系の焦点位置を動かす必要がある。しかし今までの技術ではこれを高速に行なうことができなかった。

本研究では、当研究室で開発された 液体可変焦点レ

ンズであるダイナモルフレンズを用いた光学系を開発し、焦点位置変化の速度を飛躍的に向上した。この光学系で振幅約30mm、振動数500Hzで焦点位置を変化させながら8000fpsで撮影した画像を全焦点画像合成することで、被写界深度の拡張された映像を1000fpsという高速度カメラに匹敵する高フレームレートで出力することができた。

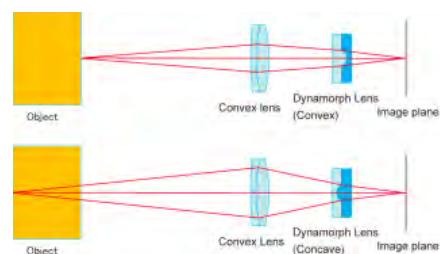


図1 構築した光学系  
Figure 1. Schematic diagram of the developed High-Speed Variable-Focus Optical System.

Recently, a high-speed camera is frequently used to record dynamic phenomena such as a collision of cars and a flying animals. The lens of the high-speed camera needs to be bright because the exposure time of the high-speed camera is short due to its high frame rate. The bright lens, however, decrease the depth of field (DOF).

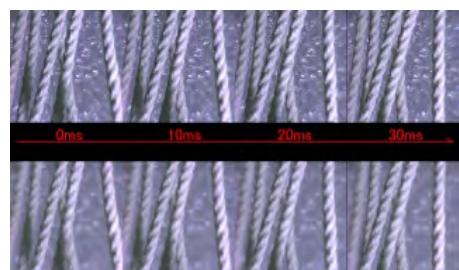
DOF means the depth range of the position in focus. If the DOF is short, some part of the objects may become out of focus or moving animals may instantly go out of focus. Focus stacking is a method for extending the DOF. It synthesizes images whose focal points are at different position, and produce an image with

extended DOF. To prepare such images for focus stacking, shifting the focal point of the optical system is required. However, the speed of shifting the focal point of the conventional optical system is strictly limited.

In this research, we developed a new optical system with Dynamorph lens, which is the liquid lens we developed, and greatly improved the speed of shifting the focal point. By applying focus stacking to the images acquired using this optical system and the high-speed camera, we succeeded in producing 1000-fps movies with extended DOF from 8000-fps images captured while scanning the in-focus position with an amplitude of about 30 mm and a frequency of 500 Hz.

図2 被写界深度の拡張(上)  
振幅約30mm, 500Hzで焦点位置を振動させながら撮像した8000fpsの画像から全焦点合成した, 1000fpsの合成画像系列。(下)全焦点合成を行わず, ある焦点位置における画像を1000fpsの画像系列として示したもの。

Figure 2. Results of DOF Extension  
(top: images synthesized by focus stacking; bottom: unsynthesized images).



### 3.5 高速・高解像力の液体可変焦点レンズ－ダイナモルフレンズ－

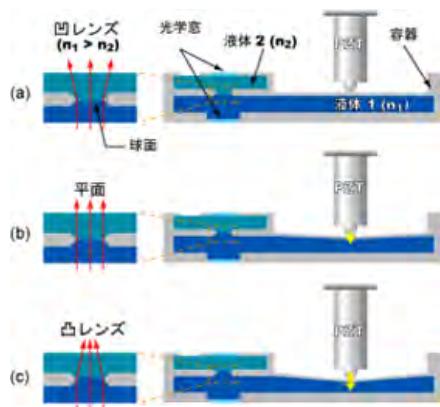


図1 ダイナモルフレンズの断面図と可変焦点の仕組み

Figure 1. A photograph of the prototype(a), and cross-sectional view of the Dynamorph lens to illustrate its focusing mechanism(b)-(d).

近年、液体界面を屈折面とした可変焦点レンズ技術が登場し注目を集めている。液体界面は、変形が容易であることに加え、理想的には形状が球面となるため可変焦点レンズの屈折面として適している。特に液体の濡れ性が電気的に制御できることを利用して面の曲率を制御する方式は複数の企業により研究・開発され、実用に非常に近い段階に入っている。これらは特に光学系の小型化・省電力化を実現するためのキーデバイスとして開発されている。

一方、可変焦点レンズのもうひとつの可能性として、焦点距離制御の高速化があげられる。既存のほとんどの焦点距離制御手法は、光学系を構成するレンズ

(群)位置を動かすことで実現されており、その高速化は難しかった。しかし、可変焦点レンズでは表面形状のわずかな変化のみで焦点距離を大きく変えることが可能であり、高速化が容易であることが期待される。

我々は積層型ピエゾアクチュエータを利用する高速応答を実現する駆動原理と、実用的な収差量の可変屈折面である液-液界面とを組み合わせることで、高速かつ高解像力の可変焦点レンズを研究・開発している。我々の提案する可変焦点レンズは、図1に示すように堅い容器の内部に2種類の互いに混ざらない液体を入れた構造を持つ。2種類の液体は容器内に作成された円形開口で互いに接しており、この部分が光線を屈折する面として機能する。界面形状はピエゾアクチュエータが伸縮することに伴う容積変化を利用して変化させる(図1(a)-(c))。この方式では液-液界面がダイナミックに変形するので、我々はこの方式の可変焦点レンズをダイナモルフレンズ(Dynamorph Lens)と名付けた。

実際に試作したダイナモルフレンズの写真を図2に示す。試作したレンズは、絞り径3mmを持ち、液体の初期状態に依存して、約-50～50[D]の範囲の屈折力をもたらせることができる。([D=1/m]は焦点距離の逆数)ピエゾアクチュエータの伸縮によってこの初期状態から最大で50[D]程度の屈折力変化を起こすことができ、80.3nmの波面収差(二乗平均)と71.84 [lp/mm]の解像力が測定されている。このレンズを用いて高速に焦点位置を切り替えながら電子基板を撮影したところ、約2[ms]の応答速度が観察された。図3に高速に焦点位置を切り替えながら電子基板を観察している時の像を2200[fps]の高速カメラで計測した結果を示す。また、ページ下部に試作したダイナモルフレンズの動作動画と本実験の動画を示す。

High-speed focusing technology has been desired for decades. The focusing speed of conventional optical systems is limited by the slow response time involved

with the physical actuation of lenses. One possible solution is to develop variable-focus devices. Production of practical focusing devices with both high response

speed and high optical performance is, however, still a challenge. A liquid interface is known to be suitable for the surface of such a lens due to its almost perfect spherical shape and deformability. Therefore, liquid lenses show great potential to realize both high-speed focusing and high optical performance.

We developed a liquid lens using a liquid-liquid interface that can arbitrarily control the focal length in milliseconds and achieve practical imaging performance. This lens dynamically changes the curvature of the interface by means of liquid pressure, as shown in Fig. 1. Two immiscible liquids, indicated as liquids 1 and 2, are infused in two chambers, but they are interfaced at a circular hole that works as an aperture of the lens. This interface works as a refractive surface due to the different refractive indices of the two liquids. One chamber (the lower chamber in Fig. 1) is equipped with a deformable wall that a piezostack actuator thrusts to change the chamber volume. When the piezostack actuator extends, the lower chamber volume decreases, and the surplus liquid volume presses the interface to change its shape from convex to concave. Since this lens morphs its interface dynamically, it is called a Dynamorph Lens.

Based on the above design, a prototype with an aper-

ture diameter of 3.0 mm was developed. Its photograph is shown in Fig. 1 (a). Ultrapure water and polydimethyl-siloxane (PDMS) were used as immiscible liquids. A wide refractive power change of about 52 D was achieved with a displacement of only 12  $\mu\text{m}$ . Note that the initial refractive power could be adjusted by altering the infused volume of liquid 1. The response time of the prototype was measured to be about 2 ms by capturing high-speed video through the prototype while switching its focal length every 10 ms. Image sequences and input/output signals are shown in Fig. 2. Movies of the prototype and the images captured by the high-speed video are also shown in the below.

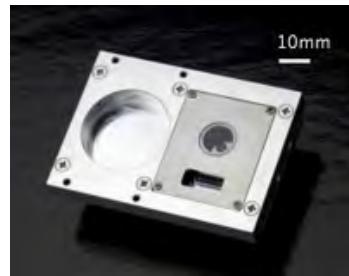


図2 試作したダイナモルフレンズの写真

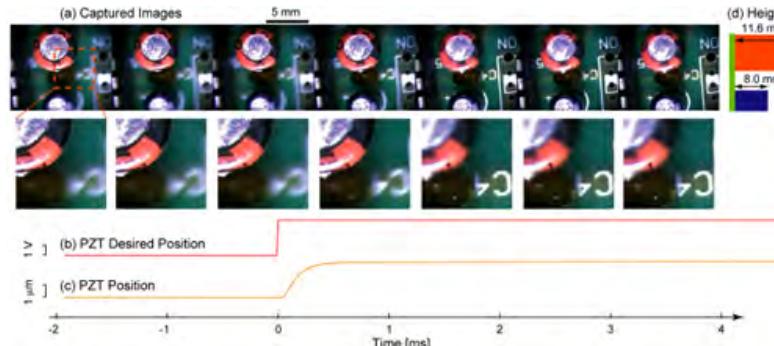


図3 高速にフォーカス位置を切り替えながら撮像した結果。

図中(a)には高速カメラで撮像された連続写真、(b)と(c)にはそれぞれピエゾアクチュエータへの位置指令値と実際のピエゾアクチュエータ応答、(d)には対象を横から見た時の形状、が示されている。画面左上のコンテンサー上面から画面右

下の基盤表面まで焦点面を切り替えており、時刻(Time)0で切り替えを開始してから2msでほぼ切り替えを終えていることがわかる。なお、コンテンサー上面から基盤上面までの距離は約11.6mmであった。

Figure 2. Step response of the prototype.

Top image sequence was captured at 2200 fps through the prototype (a). The voltage input to the actuator (b) and the resulting position (c) are shown below. Focus measures of two

regions, the top of the capacitor and the substrate, were extracted from the captured images (d). The capacitor was 11.6 mm in height (e).

### 3.6 1-kHz 高速可変焦点レンズ (HFL)

近年の高速視覚システムの発展に伴い、結像光学系にも高速性が求められるようになってきている。例えばフレームレート1[kHz]の高速視覚システムと光学ズームを組み合わせて、撮像する画像毎に光学ズームの量を変化させたいとする、光学ズームにも1[kHz]程度の高速性が要求される。しかし、既存の光学系の応答は非常に遅く、市販品では10[Hz]程度、研究

レベルでも最も速くて150[Hz]程度の応答しかない。そこで、この問題を解決するために、1[kHz]の応答をもつ高速可変焦点レンズの実現を目的として研究をおこなっている。

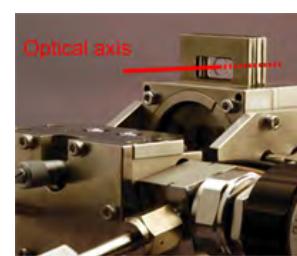
試作品レベルでは、1[kHz]の応答が確認されている。

High-speed focusing is required in many application fields as a result of the recent development and widespread use of optical devices. For example, rapid axial scanning of the focal plane is important for confocal scanning microscopes to acquire three-dimensional information of objects at high speed. In these application fields, since millisecond-order scanning is required, we assume that 1-kHz bandwidth is adequate for our proposed high-speed focusing device.

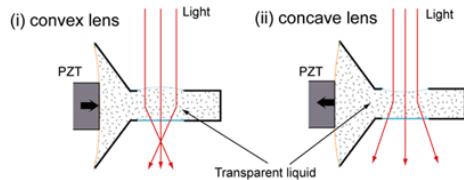
However, no previous focusing mechanisms have yet attained a 1-kHz bandwidth. For example, the axial

tracking mechanism of optical disks, which is one known fast-focusing system, has a first resonant frequency of around 100 Hz.

To solve this problem, we proposed a variable-focus lens with 1-kHz bandwidth. The lens transforms its shape rapidly using



the liquid pressure generated by a piezo stack actuator. This mechanism also includes a built-in motion amplifier with high bandwidth to compensate for the short working range of the piezo stack actuator. Prototypes have been developed to validate the proposed design. A 1-kHz bandwidth of the lenses was confirmed by measuring the frequency responses. Refractive power ranging from -1/167 to 1/129 mm<sup>-1</sup> and a maximum resolution of 12.3 cycles/mm were attained.



### 3.7 マイクロビジュアルフィードバック (MVF) システム

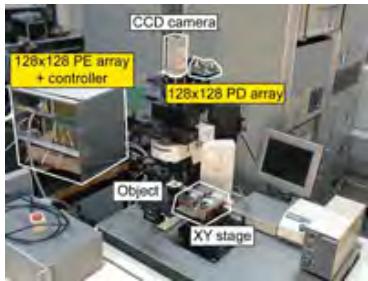
顕微鏡下で代表されるマイクロ世界における作業のほとんどは、環境に合わせた作業を行うためのスキルを人間が習得する必要があった。この状況を開拓し、人間に過度な負担をかけることなくマイクロ世界での自律的な操作を目指して、マイクロ世界において高速なビジュアルフィードバックを実現可能とする手

法であるマイクロビジュアルフィードバック(MVF)を提案し、MVFシステムを試作してきた。MVFは高速視覚によって、微小な対象の情報を高速・高精度・非接触に計測・フィードバックすることで微小対象の自律的な制御を行う手法である。

With the rapid development of micro technology, it becomes more important to handle micro objects such as LSIs and cells. For human beings, however, handling micro objects through micro scope is very difficult. To solve this problem and realize automatization of manipulation of micro objects, we proposed MVF (Micro

Visual Feedback). MVF is a technique that uses High-Speed Vision as a sensor to control micro objects. It has three advantages: high precision, high-speed, and no physical contact. By using MVF, systems can automatically control micro objects.

#### 試作したMVFシステム

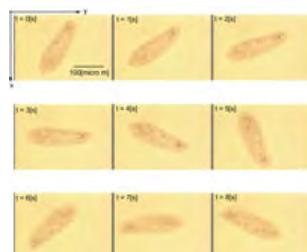
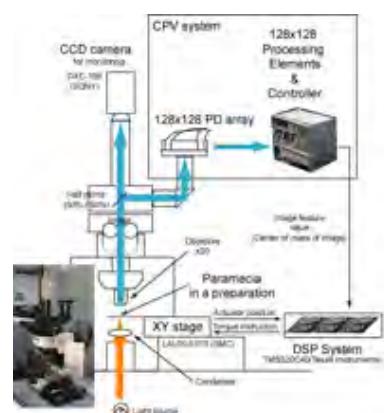


システムの現段階での構成は、マイクロ世界の運動対象を視野内に捕捉するための仕様をとっており、その構成は、列並列ビジョンシステム

Developed MVF system is designed to control the position of micro objects in field of view. Components are Column Parallel Vision (CPV) system, microscope, XY stage with two computer controlled linear actuators, and DSP system.

CPV system watches a magnified image of micro objects through the microscope. CPV system captures and processes the image and output image feature values to DSP system in 1.28[ms] per frame. DSP system output torque instructions to actuators which were calculated from the image feature value.

(CPV), 顕微鏡、直動コイルアクチュエータによる二軸のXYステージ、それらを制御するDSPシステムからなる。対象の画像は顕微鏡を通して拡大され、高速視覚システム、CPVシステムに入力される。高速視覚システムは、画像の入力・処理を行い、画像特徴量を抽出して外部に出力する。この画像の入力から出力をまでを、1フレームあたり1.28[ms]で行う。画像処理結果は制御用DSPシステムに送られ、その情報をもとに制御用DSPはアクチュエータに対して制御指令を与える。現在のシステムではこれらの全体の制御ループを約1kHzでの動作で実現している。



#### 運動する微生物の顕微鏡視野内トラッキング

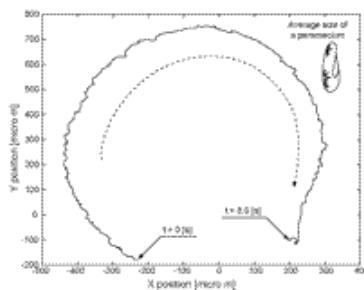
運動する微生物を顕微鏡で観測しようとする場合、対象がすぐに顕微鏡視野から外れてしまい、継続的な観測が難しいという問題点がある。そこで、運動する微生物を顕微鏡視野内にトラッキングする実験を行った。本実験では運動する微生物としてゾウリムシを対象とした。

トラッキングしている様子の連続写真と、その時のゾウリムシの軌跡を示す。ゾウリムシの軌跡は、XYステージの位置と画像中の対象位置を合わせて算出した結果を図示している。

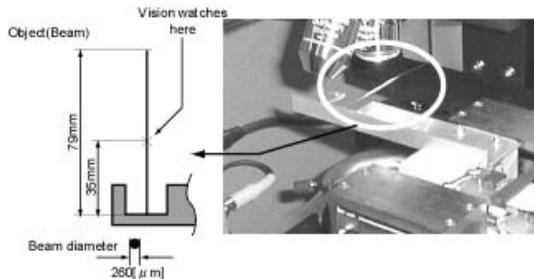
When observing motile microorganisms, objects swim out of field of view very quickly. This phenomena hinders the observer from observing one microorganism continuously for a long time. This problem is solved by using MVF to track the object within the field of view. Visually tracking a paramecium experiment was done. As a result, MVF system could track a paramecium continuously.

Photos captured by CCD camera for monitoring and trajectory of a paramecium are shown. The trajectory of a paramecium is calculated from both the position of the XY stage and the position of the paramecium in the image.

これらの結果から、ゾウリムシのような運動する微生物を顕微鏡視野内に補足しつづけることができる事がわかる。



### 微小な片持ち梁の振動制御

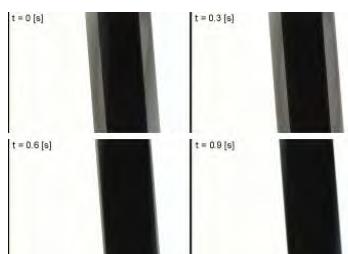


In this experiment, MVF system controlled micro beam vibration to stop using high-speed visual feedback.

The object's first order characteristic frequency was about 21[Hz]. Results show that the developed system succeeded to control the object and stopped its vibration.

外乱を受けて振動する片持ち梁をビジュアルフィードバックで制御することで、その振動が止まるように制御した。

対象は図に示すような細い針金(一次固有振動数 約21[Hz])を用いた。結果の連続写真から、振動を制御して、止めていることがわかる。



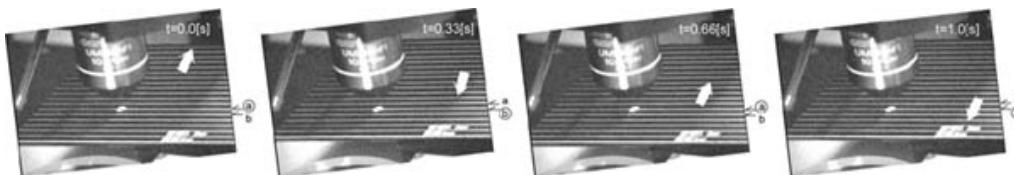
### 自律的直線検出実験

隣接する直線を高速視覚からの情報のみから自律的に検出・補足する実験。この実験では一つの直線を200msトラッキングすると、隣接する直線を探しにいき、検出するとその直線をまた200msトラッキン

グするという動作を繰り返す。本実験から本システムは自律的にマイクロ世界対象を操作できることがわかった。

In this experiment, MVF system searches and finds a line using only high-speed visual feedback. Once a line found, the system tracks a line for 200[ms], and move to

search another line. The result shows that the system can visually search and find a line automatically.



## 3.8 人間と微生物との実世界インタラクション

近年の計算機科学の発展は遠隔地や仮想空間内の相手との自在なインタラクションを可能にしたが、異なるスケールの世界にいる存在とのインタラクションは未だに困難である。特にマイクロ・バイオ分野の発展によりマイクロ世界とのインタラクションの必要性が高まっているにも関わらず、マイクロ世界との

インターフェースは未だ顕微鏡のレンズをのぞき込むことが主流であり、ユーザビリティは著しく低い。

そこで本研究ではこのスケールの壁を取り払い、マイクロ世界とマクロ世界をつなぐ新しいインターフェースを提案したい。ここではその第一歩として、微生物との物理的な触れ合いを等価的に体験できる

インタラクションシステムを提案し、まるでペットと遊ぶように微生物と触れ合えるシステムを実現する。

本研究では実世界志向の直観的な触れ合いを重視し、微生物の運動や状態をマクロ世界で体現するアバタロボットを介して、微生物と人間がインタラクションを行う。微生物の位置や姿勢、速度等は微生物トラッキング顕微鏡によってリアルタイムで計測・処理され、アバタロボットに伝えられる。これにより、ロボットはまるで微生物が乗り移ったかのように動く。また微生物が非常に元気な時はロボットのLEDが光るなどの演出も考えられる。逆にユーザがロボットに

近付いた、触れたなどの情報はロボットに装着された各種センサで検知され、電気走性アクチュエーションなどの手段によって微生物にアクションがかかる。こうして双方向のインタラクションループが形成され、一種のリアルタイムなコミュニケーションが微生物とユーザとの間で成立する。あいだにイーサネットを介することで、さらに場所の壁も超えた遠隔コミュニケーションも可能になる。

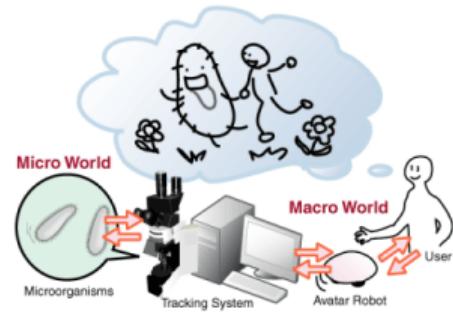
エンターテインメント、教育・学習、アート・インスタレーションなどへの展開が期待される。

Recent progress in computer technologies has enabled us to interact with people in distance or in virtual spaces. It is still almost impossible, however, to interact with existences in the world with different scales. Though demand for interaction with microscopic world is more and more increasing according to the development of micro-bio technologies, peering into the microscope is still the only interface for the micro world, whose usability is extremely low.

We would like to propose a novel interface to link the micro and macro world by removing the wall of scale. For its first step, here we propose a system which allows us to experience equivalent physical interaction with microorganisms like playing with your pets.

Focusing on real-world-oriented interaction, we use a small robot as an avatar, or the substantialized entity embodying the status of the microorganism. A human and a cell in react with each other via this robot. The position, attitude and other status of the cell are measured and processed in real-time by Tracking Microscope and sent to the robot. The robot moves as if the

cell appears in our macro world. Conversely, when the user touches or approaches the robot, the information is detected by several sensors, and feed some actions back to the cell by galvanotaxis actuation and so on. Thus bilateral interaction loop is formed, and a kind of real-time communication between the cell and the user is established. The ethernet will also enable us to communicate with cells even in other continents.



### 3.9 高速オートフォーカスによる高速走査型顕微鏡

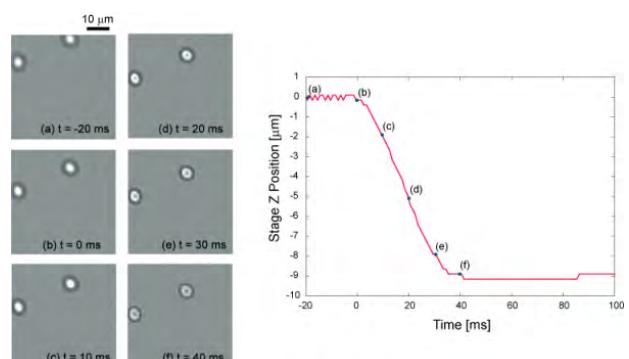
顕微鏡下対象の計測や作業の自動化・自律化において、オートフォーカスの実現は最も重要な作業の一つである。というのも、顕微鏡の焦点面は非常に浅いため、対象が数マイクロメートル上下に動いただけで画像がぼやけてしまい、対象の情報を正確に計測することができなくなってしまうからである。

一方、顕微鏡には視野の制限があるため、膨大な对象を計測するためには、視野を移動しながら複数回の撮像を行う必要がある。そのため、対象や顕微鏡自体を電動ステージなどで移動させながら計測を行う走査型顕微鏡が開発されている。走査型顕微鏡の計測スループットはその移動速度に依存しているが、従来はオートフォーカスが低速であったため、オートフォーカスに必要な時間がボトルネックとなってそのスループットには限界があった。

これに対し、我々は細胞を対象として高速なオートフォーカスの実現を可能にする手法としてDepth From Diffraction (DFDI)を提案している。この手法は、細胞を平行かつコピーレンントな光で照明した際にその背後にできる

干渉パターンを計測することで、焦点面と細胞の奥行き方向の位置関係を一枚の画像から推定可能とするものである。この手法を走査型顕微鏡に応用すれば、従来よりはるかに高速な走査型顕微鏡を実現できることが予想される。

そこで、本研究では、走査型顕微鏡に適したDFDI手法に基づく画像処理アルゴリズムを開発し、それを実装して高速なオートフォーカス機能を有する高速走査型顕微鏡を試作した。以下にイースト菌を対象とした場合のフォーカシング実験結果を示す。イースト菌は画像上部から下方方向に自動ステージにより移動しており、視野内に対象が入る(b)とすぐにオートフォーカスが開始され、40ms後(f)には合焦していることがわかる。



When the number of specimens is large, it is impossible to observe all specimens in a static field of view of a microscope due to the limited resolution of the microscope or camera. A scanning microscope solves this problem by moving its field of view to observe the specimen as a

sequence of images. Scanning microscopes are commonly used in the field of cytometry.

Autofocusing is essential for the scanning microscope to obtain a precise image of the specimen. It is not possible to maintain focus simply by determining the best focus depth at two points on a microscope slide and scanning along the line between them in three-dimensional space. There may be many reasons for this, including mechanical instability of the microscope and irregularity of the glass slide surface.

Furthermore, major applications of such automated measurement, such as image cytometry, require high throughput because the number of target specimens tends to be enormous. Therefore, high-speed auto-

cusing is important.

We developed a high-speed scanning microscope using high-speed autofocusing algorithm based on Depth From Diffraction (DFDi) method and DFDi algorithm for multiple cells that we've developed. High-speed scanning and observation of enormous yeast cells were conducted to confirm it's validity. Results are shown below. Left image sequence are captured images while laterally scanning the specimens. At first (a), the incoming two cells were out of focus. As they entered inside of the field of view (b), the system started autofocusing and move them into focus just in 40 ms (f). Right plot shows depth position of the target. Videos are also available below in this page.

### 3.10 ホヤ精子の高速トラッキング

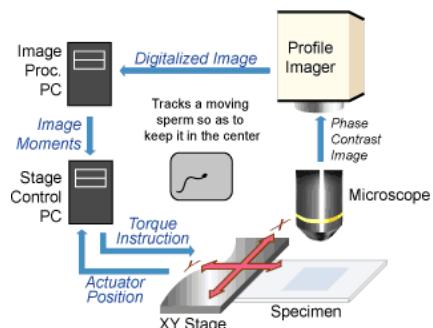
本研究室で開発した微生物トラッキングシステムを実際の生物学研究に応用する試みの一つとして、東京大学三崎臨海実験所の吉田グループと共同で、ホヤ精子研究への応用をすすめている。

ホヤ精子にはある種の化学物質に近寄って行く性質(走化性)があり、走化性のメカニズムの解明は不妊治療応用などの点から期待されている。精子走化性を評価するには、顕微鏡下で精子の位置姿勢や鞭毛の形状を広範囲にわたって継続的に観察する必要があるため、本研究室の微生物トラッキングシステムを導入することとした。

ホヤ精子は1秒間に頭部直径の150倍の距離を泳ぐという驚異的な遊泳スピードを持ち、また非常に小さく見えづらいことから、トラッキングが難しい対象である。しかし、構成要素やアルゴリズム等を調整することで、極めて高速なホヤ精子をトラッキングする

ことに成功した。

現在、誘引物質の濃度勾配を形成する特殊な容器を用いて実際にホヤ精子の走化性を計測している。

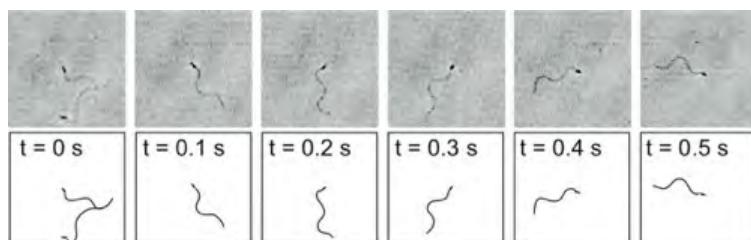


We have utilized our microorganism tracking system to assess chemotaxis of ascidian spermatozoa, collaborating with Prof. Yoshida in Misaki Marine Biological Station, University of Tokyo.

The new system is capable of tracking fast-moving, small objects under extreme conditions by using high-speed visual feedback for assessing sperm chemotaxis. The system shows remarkable performance and versa-

tility, good enough for practical use in biology. Spermatozoa are tracked under severe conditions of ultra-high speed, diffraction-limit size, and the low contrast targets.

Experimental results showed that we successfully achieved continuous stable tracking of swimming ascidian spermatozoa with quality sufficient for assessing sperm motility, indicating the feasibility of our system to tracking almost any type of cell.



### 3.11 微生物の3次元トラッキング

これまで運動する微生物対象が常に顕微鏡視野内に捕捉され続けるようにする微生物トラッキングシステムを構築してきたが、対象の2次元的な運動にしか対応できないという問題点があった。そこで、細胞に対する高速なオートフォーカスを実現する DFDi 手

法を微生物トラッキングシステムと組み合わせて、3次元的に運動する微生物をトラッキングするシステムを構築した。

本システムでは、顕微鏡視野内の微生物対象の3次元位置を高速な視覚システムで計測・フィードバッ

クすることで、運動する微生物対象の顕微鏡視野内へのトラッキングを実現している。画像重心から対象の画像面内における2次元的な位置を計測し、残りの1次元である対象の奥行き方向位置はDFDi手法により計測している。

実際に自由に遊泳するゾウリムシに対して3次元ト

ラッキング実験をおこない、約70秒間にわたり対象をトラッキングしつづけられることが確かめられた。また、そのときのXYZステージの軌跡から対象微生物の3次元遊泳軌跡が計測できた。この記録から対象微生物の運動をコンピュータグラフィックスで再構成した映像を動画として以下に示した。

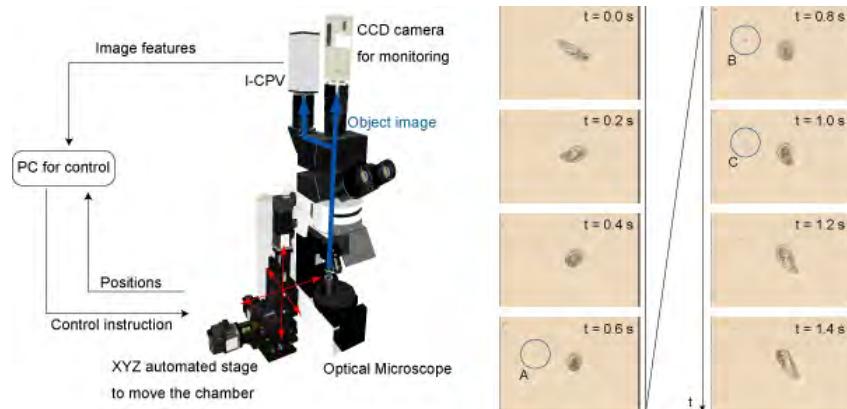
The microorganism tracking system was developed to track a freely swimming microorganism two-dimensionally. This system, however, could not track the target movement in depth direction.

To solve this problem, dynamic focusing using the depth-from-diffraction (DFDi) method was applied to three-dimensional tracking of a swimming paramecium.

Experimental system was developed to demonstrate the three-dimensional tracking of a paramecium. The system was consist of an optical microscope, an XYZ automated stage, a high-speed vision system (I-CPV), and a CCD camera for monitoring. It can track the specimen three-dimensionally by controlling the chamber position using X and Y axis of the stage to keep the

specimen within the field of view, and by controlling the depth position of the chamber to keep the specimen focused using DFDi method.

Three-dimensional tracking of a swimming paramecium for 70 s was successfully demonstrated. Right figure shows a sequence of images captured by the monitoring CCD camera while the paramecium turned from facing the bottom of the chamber to facing the top, while tracking the paramecium to keep it on the focal plane. The focal position variance can be seen by observing a dust particle indicated by the circles A, B, and C in the figure. The specimen's trajectory can be calculated from the sequence of the XYZ stage position.



### 3.12 微生物電気走性の継続観察システム

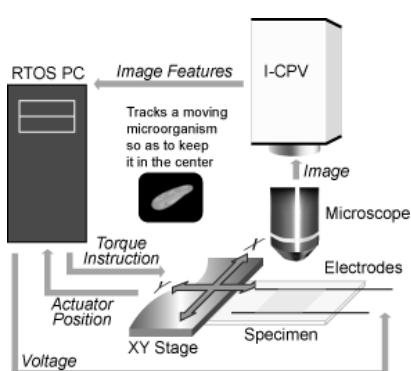
微生物は進化の過程で高性能なセンサとアクチュエータを体内に獲得してきた。我々は微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御することを目指している。

多くの微生物にはある種の外部刺激に対して定位しながら移動する性質があり、「走性」と呼ばれている。OBM (Organized Bio-Modules) の実現においては微生物制御手法の確立が大きな課題であり、この走性の利用が制御手法として有用と考えられる。

微生物の走性には個体差があるため、より高度なア

クチュエーションを実現するには、微生物の走性を個体レベルで観察、評価する必要がある。しかし、従来の観察方法では、高倍率で観察するとすぐに微生物を見失ってしまい、一個体の電気走性の継続観察が非常に困難であった。そのため、対象が視野から外れないよう低倍率での観察を余儀なくされていた。

この問題を解決するため、高速視覚によるダイナミックイメージコントロールを応用して、微生物一個体の電気走性を高倍率で継続的に観察可能なシステムを構築した。

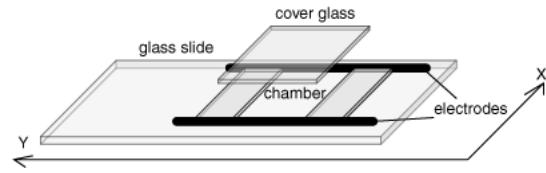


#### システム構成

構成要素は、対象の画像情報を高速に取得する高速視覚システムと対象を視野中心に保持するXYステージ、電気刺激入力デバイス、制御用PC、および顕微鏡である。

A novel system for measurement of motile microorganism galvanotaxis using high-speed vision is presented. Our goal is to construct a smart microsystem composed of many controlled microorganisms. The

system utilizes galvanotaxis (intrinsic reaction to electrical stimulus) of microorganisms for actuation. For evaluation of taxis, continuous observation of a moving single cell in a sufficiently large working area without fixation is needed. Using high-speed vision, we developed a system for continuous evaluation of galvanotaxis of freely swimming cells in a large area at the single-cell level. Experimental results demonstrate the continuous measurement of galvanotaxis of a Paramecium caudatum cell moving in a 3.5-mm-square area for 18 s with 1 ms precision.



### 3.13 微生物トラッキングシステム

運動する微生物をそのまま顕微鏡で観察しようとすると、すぐに顕微鏡の視野から外れてしまい、継続的に観測することができないという問題がある。そこで、運動する微生物対象が常に顕微鏡視野内に捕捉され続けるようにする微生物トラッキングシステムを構築した。

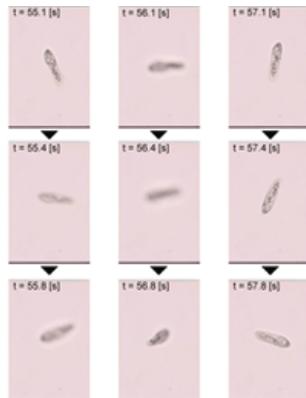
Continuous observation of individual motile microorganisms is difficult, since their swimming speed is fast compared with their diameters. Microorganisms can quickly go out of the range of static measurement instruments, such as the field of view of optical microscopes.

To solve this problem, a microorganism tracking

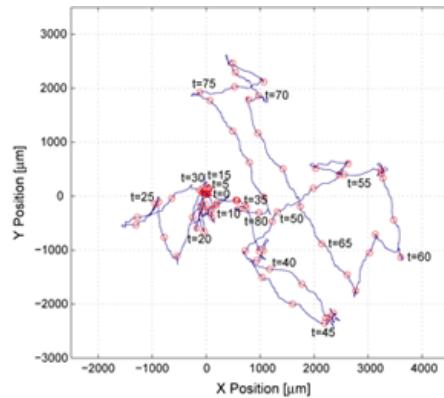
本システムでは、顕微鏡視野内の微生物対象位置を高速な視覚システムで計測・フィードバックすることで、運動する微生物対象の顕微鏡視野内へのトラッキングを実現している。

また、このシステムでは2次元のトラッキングであるが、3次元のトラッキングも実現されている。

system using a high-speed vision system has been developed. This system tracks a freely swimming microorganism within the field of an optical microscope by moving a chamber of target microorganisms based on high-speed visual feedback.



Photographs captured by CCD camera



Obtained trajectory of the target paramecium

### 3.14 画像処理を用いた微生物の擬似静止観察

運動する微生物を継続的にかつ安定的に観察するために、我々は3次元的に運動する微生物のトラッキングシステムを実現した。ところがこのシステムでは、トラッキングそのものは成功しているものの、アクチュエータの限界から生ずるわずかな並進ぶれや回転の動きは映像に残っており、これらを取り除くことが課題と言える。そこで我々は従来のシステムの後に、画像処理(2nd-pass Image Processing)を導入することでこれらの問題点を解決した。

We have realized 3-D Tracking System in order to observe dynamic microorganism continuously and stably. The movies captured by this system, however, included mere small blurring and microorganism's rotation as problems. Therefore we resolved it using image processing in addition to the conventional system, which was named "2nd-pass Image Processing."

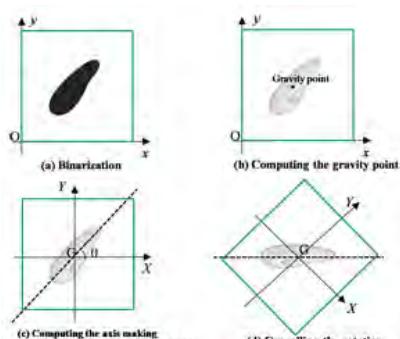


図1 画像処理アルゴリズム  
Fig.1 Algorithm

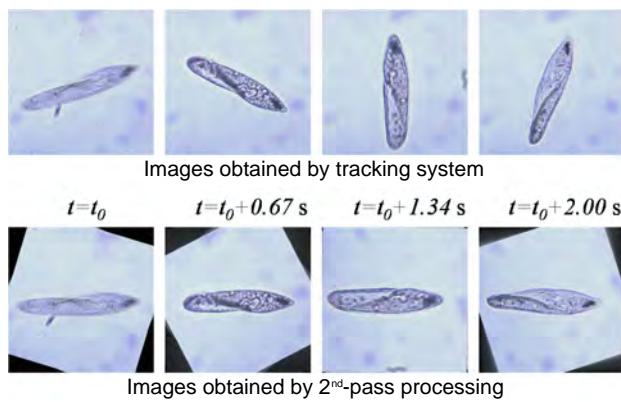


図2 実験結果  
上段：2nd-passフィルタ無し  
下段：2nd-passフィルタ有り

Fig.2 Experimental Result  
Upper: 2nd-pass Filter OFF  
Lower: 2nd-pass Filter ON

### 3.15 DFDiによる細胞群の高速奥行き位置推定

我々は細胞を対象として高速なオートフォーカスの実現を可能にする手法としてDepth From Diffraction (DFDi)を提案している。この手法は、細胞を平行かつコヒーレントな光で照明した際にその背後でできる干渉パターンを計測することで、焦点面と細胞の奥行き方向の位置関係を一枚の画像から推定可能とするものである。

これまで細胞単体に対してその有効性を確認してきたが、走査型顕微鏡による計測や自動検査等を考慮すると、視野内に複数の細胞が存在する方が一般的である。そこで本研究では、視野内に多くの細胞が存在する場合でも適用できるDFDi手法に基づく画像処理アルゴリズムを開発した。

We proposed a new autofocus method for micro-biological specimens, such as cells, using depth information included in their diffraction pattern. This method was named as Depth From Diffraction (DFDi).

The previously developed image processing algorithm of DFDi could estimate depth of a cell only when single cell is included in a field of view. However, it's common case when multiple cells exist in the field of view, considering real applications such as scanning microscopy and automated inspections. Thus, we developed a new image processing algorithm for DFDi that can estimate depth of multiple cells.

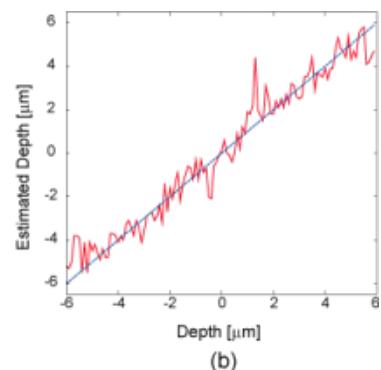
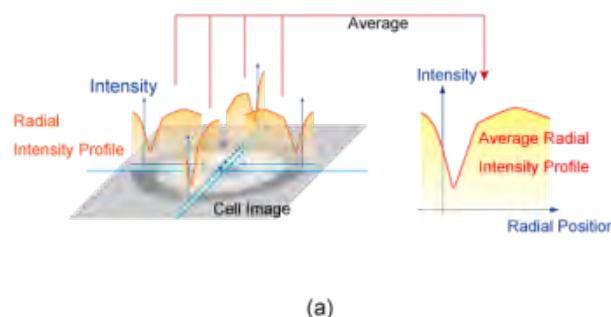
This algorithm recognizes boundaries of each cell in

本アルゴリズムは、細胞群を構成する個々の細胞の輪郭を抽出してから、輪郭と垂直な方向にどのような光量分布をもっているのかを抽出し、これを画像特徴量として細胞群の奥行き位置を推定する物である。図(a)に抽出している光量分布(Radial Intensity Profile)を示した模式図を示す。また、実際にイースト菌の細胞を対象として、この特徴量を基に奥行き位置を推定した結果を図(b)示す。おおむね1マイクロメートル程度の誤差で対象の奥行き位置を推定できていることがわかる。

実際にこのアルゴリズムを用いてオートフォーカスを行った結果は高速オートフォーカスによる高速走査型顕微鏡に示す。

the acquired image first. Then it extracts radial intensity profiles which is image intensity profile along perpendicular direction to the cell boundary. A schematic figure of this process is shown in the following figure (a). Finally, it estimates the depth of cells from the extracted radial intensity profiles.

This algorithm was applied to yeast cell. Figure (b) shows it successfully estimated its depth with an error of 1 um. It also applied to high-speed autofocusing of multiple yeast cells. This result is shown in High-Speed Scanning Microscope by Depth From Diffraction (DFDi) Method.



### 3.16 細胞の高速オートフォーカス (DFDi)

顕微鏡下対象の計測や作業の自動化・自律化において、オートフォーカスの実現は最も重要な作業の一つである。というのも、顕微鏡の焦点面は非常に浅いため、対象が数マイクロメートル上下に動いただけで画像がぼやけてしまい、対象の情報を正確に計測することができなくなってしまうからである。

しかし、従来提案されてきたオートフォーカス手法は焦点位置を移動しながら複数枚の画像を計測し、その画像に含まれる空間周波数の成分を計測することで合焦位置を判断するもので、オートフォーカスには最短でも1秒程度の時間が必要であった。特に、ハイスクローリングなどの応用を考えた場合、この時間は遅すぎるものである。

そこで、特に細胞を対象として高速なオートフォーカスの実現を可能にする手法として、Depth From

Diffraction (DFDi)を提案した。この手法は対象を細胞に限定し、細胞を平行かつコピーメントな光で照明した際にその背後にできる干渉パターンを計測することで、焦点面と細胞の奥行き方向の位置関係を一枚の画像から推定可能とするものである。これにより、従来手法で必要であった、複数枚の画像を焦点位置を変えながら取得するプロセスを省くことが可能となるため、高速なオートフォーカスを実現できた。

以下にゾウリムシを対象とした場合に観測される干渉パターンの写真を示す。焦点面に前後して明暗の干渉縞の位置関係が逆転していることがわかる。

実際にDFDi手法を細胞のオートフォーカスに適用した結果は微生物の3次元トラッキングに示されている。

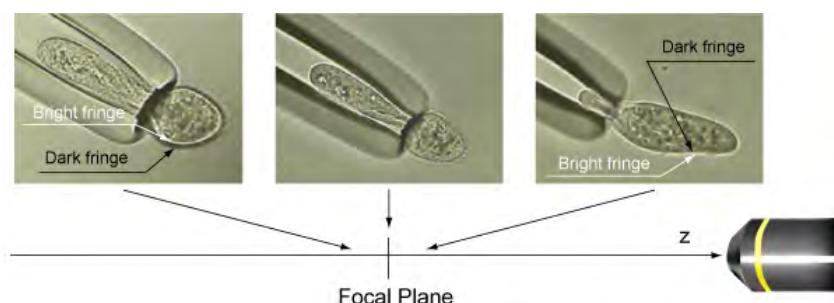
Automated microscopic measurement of biological specimens is becoming increasingly important in medicine and life sciences. A critical step in such measurement is autofocusing. Since the depth of focus of microscopes is very shallow, on the order of several micrometers, small shifts in the depth direction cause the specimen to easily become out of focus; thus, autofocusing is essential to keep the object in focus for precise observation. Furthermore, major applications of such automated measurement, such as image cytometry, require high-throughput because the number of the target specimens tends to be enormous. Therefore, high-speed operation is also important.

Many microscope focusing methods based on the spatial frequency of the acquired image have been proposed. The best focal position providing the highest amount of detail can be estimated from a focus curve, formed by sampling a focus score and plotting it against

focal position in the depth direction. The best focal position is then found by searching for the peak in the focus curve. However, sampling of the focus curve takes a considerable amount of time, because many images at many focal positions must be individually acquired and processed.

To solve this problem, we proposed a new autofocus-ing method for microbiological specimens, such as cells. The proposed focusing method used a quick focus estimation named "depth from diffraction", based on a diffraction pattern in a defocused image of a biological specimen. Since this method can estimate the focal position of the specimen from only a single defocused image, it can easily realize high-speed autofocusing.

For example, here shows the diffraction patterns generated by the target specimen, a paramecium. Bright and dark fringe position changes depending on the z-position of the specimen.

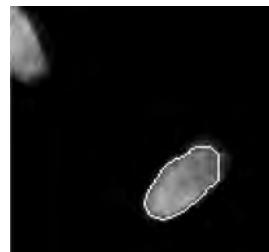


### 3.17 微生物トラッキングのための高速ビジョン用動的輪郭モデル

微生物の画像処理で求められる要求にあった画像処理アルゴリズムとして動的輪郭モデルがある。これを高速ビジョンに適用し、高速処理を行う手法が提案されている。しかし、この手法では画面内にある微生物全てを抽出してしまうので、一匹の微生物を継続し

て抽出する用途には向いていない。そこで本研究では、微生物一個体の発生する光量が位置姿勢にかかわらず一定であるということを利用し、一匹の微生物を継続して輪郭抽出を行う新しい動的輪郭モデルを提案した。

tinuously by using the fact that the total intensity emitted by a single cell is constant independent of the cell attitude.



Active Contour method (Snake method) is one of a candidate for cell image processing. Though our laboratory has proposed a high-speed algorithm suitable for high-speed vision system, it has a drawback that all cells in the frame are extracted. Thus we proposed a novel Active Contour model to extract a single cell con-

### 3.18 モバイル顕微鏡システム

従来の台に置かれた光学顕微鏡には、ステージに載せられないような大きなものや分解できないものを観察できないという欠点がある。そこで、それを解決する「モバイル顕微鏡」のコンセプトを提案する。これは、手で顕微鏡本体を持ち、対象へ向けるという観察スタイルを採用する。これにより、手の届く範囲ならどこでも観察できるという大きなメリットが生まれる。

モバイル顕微鏡の実現のためには手ブレの影響の除去が不可欠である。そのために、ビジュアルフィードバックを用いた画像安定化手法を提案した。撮像面を光学軸に対して傾けた高速ビジョンにより、顕微鏡と対象の3次元相対位置を計測する。そして、その相対位置を一定に保つように、顕微鏡システムをフィードバック制御する、という手法である。

われわれは、この手法を実装したシステムを試作した。相対位置を保つためのアクチュエータは、顕微鏡内部ではなく対象の置かれたステージに装備した。

顕微鏡観察実験を行った結果、このシステムによって顕微鏡画像を安定化できた。

キーワード: 顕微鏡、画像安定化、ビジュアルフィードバック



図1：モバイル顕微鏡コンセプト  
figure 1:The concept of the "mobile microscope".

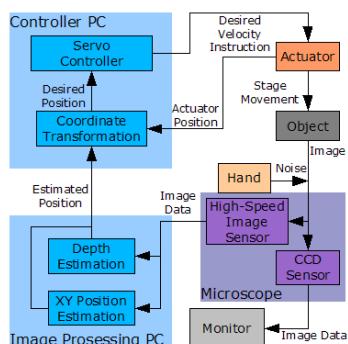


図2：試作システムのダイアグラム  
figure 2:System diagram of the trial microscope system.

We propose a concept of "mobile microscope" for handheld use, which enable various places to be observable.

We propose an image stabilization method for images from microscope effected by hand-shake. This method

is based on high-speed visual feedback with an inclined image sensor to measure the 3D movements of a microscope.

We developed a trial microscope system employing the method without a built-in actuator. Experimental results showed that images from a handheld microscope can be stabilized by the proposal method.

Key Words: microscope, image stabilization, visual feedback

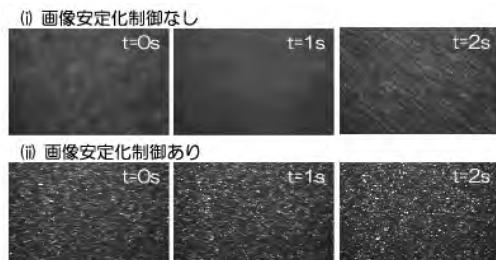


図3：観察実験結果  
figure 3:Experimental result.

### 3.19 3次元空間内の微生物運動制御

近年ナノ・マイクロテクノロジーの進歩に伴い、微細な領域で計測・制御を行う機会が増加している。だが顕微鏡下での作業は操作者に大きな負担を強いるため、このような作業を補助するマイクロマシンの実現が求められている。

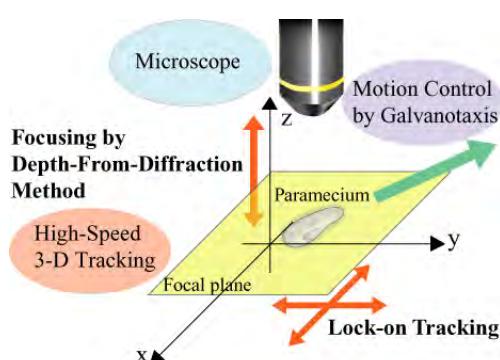


Fig.1. 3次元空間内の微生物運動制御のコンセプト。  
Fig.1. The concept of motion control of microorganisms in 3-D space.

我々は、微生物が進化の過程で高性能なセンサとアクチュエータをその微小な体内に獲得したことによる目し、微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御することを目指している。微生物は外部からの電気刺激に対してその運動方向を変化させる「走電性(電気走性)」を持つため、これを運動制御の手段として利用した研究を行ってきた。

だが従来の研究は制御が2次元平面内に限定されており、マイクロマシンとしての応用を考えたとき3次元空間内への制御へ拡張されることが望ましい。しかし正確に微生物の3次元位置を計測するために顕微鏡の倍率を上げてしまうと、顕微鏡で観察可能な領域、すなわちマイクロマシンとしての作業領域は狭くなってしまうというトレードオフが問題となっていた。

そこで高速な視覚システムを用いた微生物の3次元トラッキングによってこのトレードオフを根本的に解消した。常に視野中心・焦点面内に微生物を捉え続けることで広い作業領域を実現した。これに走電性による制御を組み合わせることにより3次元空間内で微生物の運動を制御することを可能にした。

We propose a new framework and novel visual control system for motile cells in three-dimensional (3-D) space.

Our goal is to utilize microorganisms as micro-robots in various applications by exploiting galvanotaxis (locomotor response to electrical stimulus) to actuate them. This requires automated motion control of swimming cells in 3-D space; in contrast, our previous work has been limited to 1-D or 2-D motion control on the focal plane.

The system is capable of 3-D tracking and control of swimming cells by utilizing a high-speed vision system. A combination of "lock-on" tracking within the focal plane and automated focusing using a Depth-From-Diffraction method executed at 1-kHz frame rate ensures both detailed measurement and a large working space. Experimental results for closed-loop 3-D motion control of Paramecium cells trapped within a

small 3-D region demonstrate the possibility of using microorganisms as micromachines.

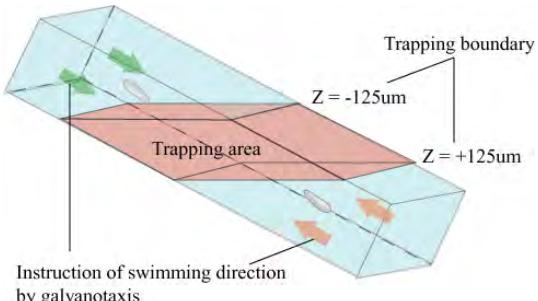
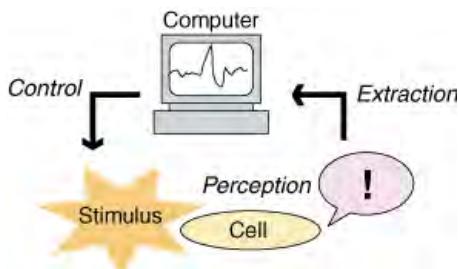


Fig.2. トラッピング制御実験。  
Trapping Area内に閉じ込める運動制御を行った。  
Fig.2. Trapping task.

### 3.20 微生物のセンシング情報の可視化



これまでに提案してきたマイクロセンサーと比べて微生物の持つ知覚は優れた点を多く持つ。そのような微生物が体内に持つ洗練された知覚能力を利用することが出来れば大きなメリットがあると考えられる。下図に示されるように、PCを用いて微生物から知覚情報の抽出や解析またそれらの情報を基に微生物に対しフィードバックをかけることは、これまでにない生物模倣型センサーの実現に向けた大きな一歩

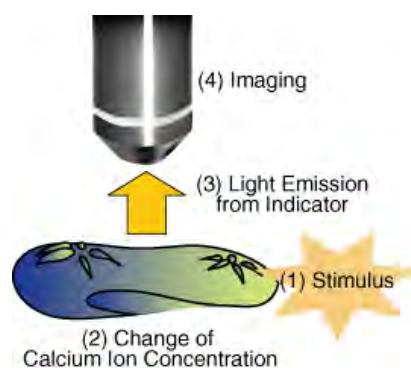
になる。また、筆者らが行ってきた微生物の運動制御と相まって、微生物をマイクロロボットとして利用することへの期待も高まる。

本研究では対象として単細胞原生生物の一種であるParamecium caudatum(ゾウリムシ)を取り上げる。Parameciumは筆者らが微生物のマイクロロボット応用へ向けた研究を行ってきた際の対象でもある。Parameciumは障害物等との接触刺激を感じると障害物を避けるように逆向きに遊泳する性質を持ち、この過程において細胞内のカルシウムイオン濃度が上昇することが知られている。言い換えると、接触したという情報がカルシウムを用いた信号に変換されていると言える。もしこの機械受容信号を抽出し解析することができれば、細胞が何を知覚したのかを知ることが出来る。機械受容信号の抽出には信号を可視化する手法が有効と考えられ、カルシウムに反応する指示薬等を用いれば細胞内におけるカルシウム濃度を下図のように可視化することが出来る。

In this paper, we propose a novel microsensing scheme in which intrinsic sensing capability in microorganisms is utilized. Extraction of signals inside the cell and decoding of stimuli received would be an interesting challenge toward development of novel biomimetic sensors, or for potential utilization of a living microorganism itself as a microrobot. As a prototype, we focus on the mechanosensory process in Paramecium cells. When a mechanical stimuli is applied, calcium ion concentration in the cell rises. By visualizing the calcium level rise by using calcium fluorescent indicators and input intensity data into PCs, we can extract the sensation perceived by the cell. A simple experiment was performed in vivo and contact sensation was successfully extracted and decoded. It can be applied for on-board sensors in cells as microrobots in future works. Technology to link living cells and computers would lead to the Cell Machine Interface, to come next after the forthcoming brain machine interface (BMI) paradigm.

The sensing ability of living things are superior to most of the existing artificial microsensors. It would be of great benefit and interest to utilize such sophisticated capabilities built in living cells in vivo. As illustrated in

figures below, extraction, decoding, and feedback of the sensation received by microorganisms by computers would be an interesting challenge toward development of novel biomimetic sensors, or for potential utilization of a living microorganism itself as a sensor, coupled with robotic maneuvers of living cells that the authors have achieved.



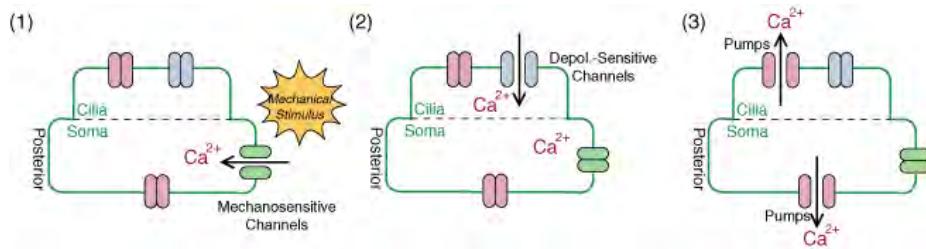
As an example, we introduce Paramecium caudatum, a kind of unicellular protozoa, which we have utilized for microrobotic application. A Paramecium cell detects a contact stimuli and swims back so as to avoid an obstacle. During this behavior, the calcium ion concentration rises inside the cell. In other words, the stimulus

information is coded as a calcium signal. If we can extract this mechanosensation signal and decode it, we can estimate what the cell perceived. For extraction of the signal, some visualization methods would be effective. For example, calcium indicators can visualize the intracellular calcium concentration, as illustrated below.

Parameciumの接触刺激に対するカルシウム濃度の変化は下図のようにイオンチャネルを通したカルシウムイオンの移動で説明される。マイクロ・インジェクションで細胞内にカルシウム指示薬を注入す

As a prototype, we considered visualization of contact stimuli using Paramecium caudatum cells. When a paramecium cell receives a contact stimulus, a rise in calcium concentration occurs inside the cell, which can

ることで、カルシウムイオンによる信号伝達を視覚化しParameciumが接触刺激を受けた瞬間の推定を行った。



### 結果

指示薬による蛍光発光を撮影した画像を以下に示す。刺激が与えられるとカルシウム濃度が急激に増大

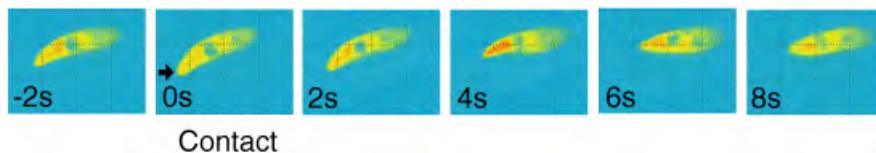
be visualized by calcium indicators. We introduced an indicator into cells by microinjection, visualize the signal transduction, and estimate the timings of when the cell detected contact stimuli.

した後にゆっくりと減衰していくのが分かる。

### Experimental Results

The figure below shows an example of the captured image sequence of the detected fluorescence. After

stimulus application, one can find that the calcium level increased rapidly and then decayed slowly.

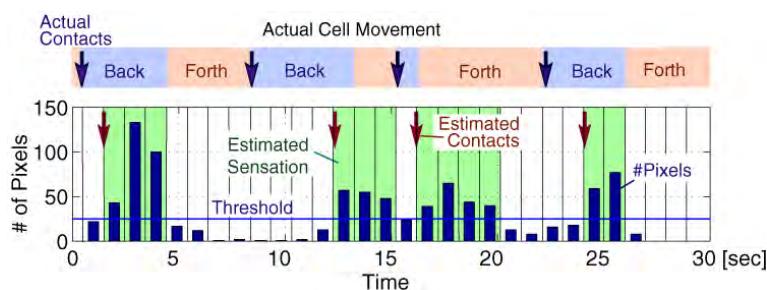


蛍光物質の画像輝度から細胞の先端が接触を起こしたかどうかの情報を得ることが出来る。カルシウム濃度の情報を用いた細胞が接触を知覚したかどうか、またその時刻を推定した。推定はオフラインで

MATLABを用いて行った。その結果30秒間に起こった4回の接触を数秒の遅れがあるものの全て推定することに成功した。

From the intensity of the pseudocolored image sequences, we retrieved the information on whether or not the head of the cell made a contact, i.e., on/off 1 bit information. Using calcium level data, we estimated the

sensation the cell perceived, and the timings of contact. The estimation was performed off-line by MATLAB. Four contacts occurred in 30s were successfully estimated with a few seconds of delays.



### 3.21 ゾウリムシの非ホロノミック性と軌道計画

微生物は進化の過程で高性能なセンサとアクチュエータを体内に獲得してきた。我々は微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御することを目指している。

微生物マイクロマシン応用においてアクチュエーション技術の確立は最重要課題であり、これまでゾウリムシに対し電気走性を利用したごく単純な運動制御が行われているが、これらは経験則に基づいた制御のため、制御性能に限界があった。これに対し、ゾウリムシをロボティクスの枠組から議論すればより高度な制御が可能になると考えられる。このための最低限の準備として、まずゾウリムシの物理的なダイナミクスモデルを構築した。

このモデルを簡略化することにより、ゾウリムシが二輪車によく似た非ホロノミック拘束系であること、大域的に可制御であることを示した。この結果によ

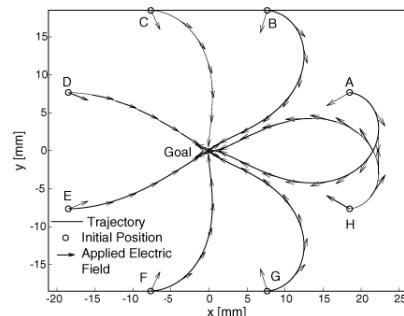
り、ロボティクス分野において確立された既存の非ホロノミック系の軌道計画手法がゾウリムシに適用できる可能性が明らかれた。

さらに、このモデルにLyapunovライクな手法を適用して、切り返し等による尖点をなくした軌道計画および運動制御手法を提案し、任意の地点から目標地点に向かって安定に軌道が収束することを数値実験により検証した。



Our goal is to utilize microorganisms as micro-robots by using galvanotaxis (locomotor response to electrical stimulus). Previous studies were based on simple empirical rules without consideration of the dynamics of the cells, and thus had limited control performance. To achieve more precise control as microrobots, it is essential to deal with Paramecium cells in the framework of standard robotics methodologies. This paper is the first attempt to derive a control law of Paramecium cells under an electric field from a dynamics model for micro-robotic applications. Simplification of the dynamics model reveals that a Paramecium cell in an electric field is a nonholonomic system. Based on the simplified model, we derive a control law for cells using a common Lyapunov-like method for nonholonomic systems and generate cusp-free trajectories. Numerical experiments

demonstrate successful static convergence of the cell trajectories to the desired position and attitude.



### 3.22 微生物電気走性のダイナミクスモデル

微生物は進化の過程で高性能なセンサとアクチュエータを体内に獲得してきた。我々は微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御することを目指している。

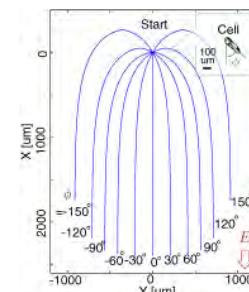
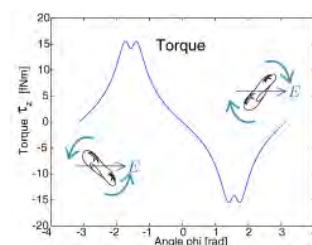
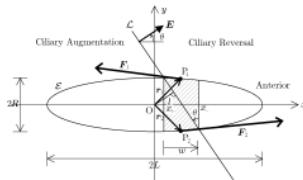
微生物マイクロマシン応用においてアクチュエーション技術の確立は最重要課題であり、これまでゾウリムシに対し電気走性を利用したごく単純な運動制御が行われているが、これらは経験則に基づいた制御のため、制御性能に限界があった。これに対し、ゾウリ

ムシをロボティクスの枠組から議論すればより高度な制御が可能になるとと考えられる。このための最低限の準備として、まずゾウリムシの物理的なダイナミクスを把握し数学的に表現することが必要となる。

そこで、ゾウリムシの電気走性のダイナミクスモデルを構築し、実際のゾウリムシの行動と比較してその振舞いが定性的に妥当であること、陰極への遊泳やUターン行動などが再現されることを確認した。

We propose a qualitative physical model of galvanotaxis of Paramecium cells using a bottom-up approach to link the microscopic ciliary motion and the macroscopic behavior of the cells. From the characteristic pattern of ciliary motion called the Ludloff phenomenon,

the torque that orients the cell toward the cathode is derived mathematically. Dynamical equations of motion are derived and their stability is discussed. In numerical simulations using our model, cells exhibit realistic behavior, such as U-turns, like real cells.



### 3.23 走電性をもつ微生物運動制御のための電流制御型電気刺戟デバイス

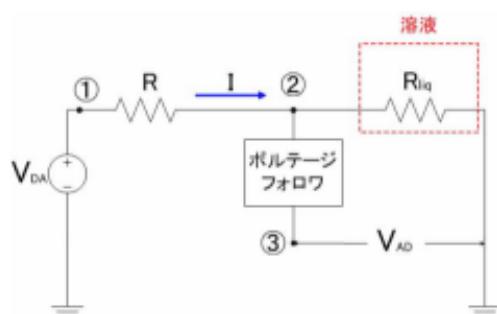
微生物は進化の過程で高性能なセンサとアクチュエータを体内に獲得してきた。我々は微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御することを目指している。

本研究では、負の走電性を利用して微生物の運動を制御する手法をより厳密に研究するために、より高い

精度で溶液中の電位分布の制御が可能となる電流制御手法を提案した。次に、提案手法に基づいて開発した電流制御型電気刺激デバイスを開発し、これを用いておこなった電位分布制御実験から、提案手法の有効性を示した。

Microorganisms have smart built-in sensors and actuators in their bodies. Our goal is to control microorganisms as micro-scale smart robots for various applications.

In this Paper, we propose a current controlled electro-stimulation device to control and predict the shape of electric potential gradient in the liquid. We aim at controlling the motion of paramecia by using paramecia's galvanotaxis. By using this device, we can predict the shape of electric potential gradient in the liquid, and control paramecia more precisely.



### 3.24 高速トラッキングによる微生物の運動制御

微生物はその進化の過程で、既存のマイクロマシンを凌駕する高性能なセンサとアクチュエータを体内に獲得してきた。我々の目的は、微生物を高機能マイクロマシンとみなして制御する「オーガナイスドバイオモジュール(OBM)」システムの構築である。本論文ではその最初のステップとして、視覚フィードバックによる微生物の制御システムを構築した。

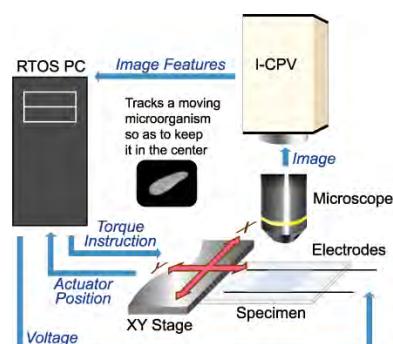
多くの微生物には電気刺激に対して定位しながら移動する「電気走性」という性質があり、微生物の制御手法として有用と考えられる。電気走性には個体差があるため、高度なアクチュエーションには、運動する微生物を一個体レベルで観察、評価する必要がある。

しかし従来の観察方法では、高倍率で観察するとすぐに微生物を見失ってしまい、低倍率での観察を余儀なくされていたうえに、作業領域が視野内に限られていた。そこでトラッキング技術を応用して、作業領域の制限なしに微生物一個体を高倍率で評価できるようにした。また、トラッキングを1kHzという高速で行うことにより、従来のトラッキングの問題点である magnification と trackability のトレードオフを解消するとともに、従来のビデオレート視覚フィードバックではなしえなかった、リアルタイムでの微生物制御を可能にしている。

Microorganisms have smart built-in sensors and actuators in their bodies. Our goal is to control microorganisms as micro-scale smart robots for various applications. As a first step, we have developed a visual feedback control system for Paramecium caudatum cells.

In order to ensure both detailed measurement and a large working space, lock-on tracking of a free-swimming cell with high frame rate is essential. In our system, high-speed (1-kHz frame rate) tracking hardware and software are used for continuous observation of moving cells with high magnification. Cells swim in a chamber, and their positions and other properties are measured and computed in real time. The chamber position is visually controlled automatically to track a specific cell. The cell motion is controlled electrically by utilizing the galvanotaxis (intrinsic reaction to electrical stimulus) of microorganisms. Experimental results for

open-loop control (periodic zigzag motion) and closed-loop control (trapping within a small region 1 mm wide) demonstrate the possibility of using microorganisms as micromachines.



#### システム概要

システム概要是以下のとおりである。プレパラート上のチャンバー内を運動する微生物の位置が、イメージインテンシファイア付高速ビジョンであるI-CPVによって1kHzという高フレームレートで計測され、軌跡や姿勢などの情報がリアルタイムで計算される。チャンバーはXYステージ上に固定されているので、

ステージ位置を視覚情報によってフィードバック制御することで、個体を常に視野中心に据えてトラッキングできる。また微生物に電気刺激を与えるための電極がチャンバーに設置され、微生物のリアルタイムアクチュエーションを実現する。

## 実験結果

実験では原生生物の一種であるゾウリムシ (*Paramecium caudatum*) を用い、4.1V/cmの電圧印加によって制御実験を行った。ゾウリムシは電場をかけた方向に向かって泳ぐという負の電気走性がある。

### Experimental Results

We used *Paramecium caudatum* cells, which tends to swim toward the cathode (the negative pole).

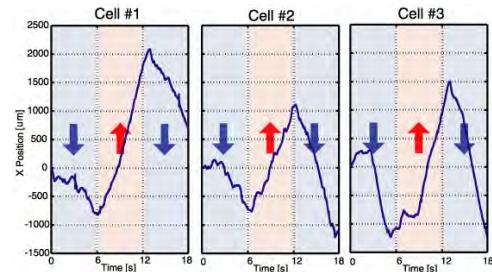
#### フィードフォワード制御実験

フィードフォワード制御実験(電場を6秒ごとに反転させる)の結果を以下に示す。制御入力に追従してゾウリムシの往復運動が実現されている。

#### Open-Loop Control

First, open-loop control of cells was performed. Cells were controlled by a time-varying stimulus whose pattern was fixed in advance. The electrical stimulus was applied, and reversed every 6 s. The strength of the voltage gradient was 4.1 V/cm (9 V across a 22mm gap).

The left plot shows the X position (parallel to the electric field) of cells in the open-loop control experiment. Arrows indicate the direction of the applied electric field. The right plot shows the trajectory of cell #3, and its orientation (small arrows), where the direction of the electric field is horizontal. The spiral path and the ever-changing orientation of the cell were reconstructed with high fidelity. It also indicates that both high magnification and good trackability over a large working area were achieved.



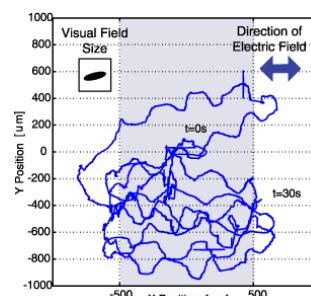
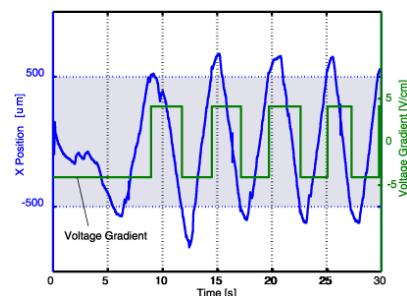
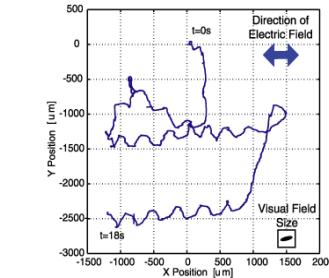
#### フィードバック制御実験

フィードバック制御実験(狭い領域内に細胞をトラップする)の結果を以下に示す。ブルーの網掛け領域がトラッピング領域である。トラッピング領域内へのゾウリムシ閉じ込めに成功している。

#### Closed-Loop Control (Trapping)

In order to confirm the ability of closed-loop visual feedback control of cells, we performed a simple trapping experiment; the stimulus was adjusted in real time according to the target status. The width of the trapping region was set to 1 mm. The voltage was reversed when the cell moved out of the boundaries. Other conditions were the same as those of the open-loop control experiment described above.

The plots below demonstrate results of the control experiment, where the blue area is the trap region. The left plot shows the time sequence of both the voltage and the position parallel to the field (X), and the position perpendicular to the field (Y). The voltage was reversed when the cell went out the region. Consequently the cell swam back and forth in the region. The trajectory of the cell is shown in the right plots.



## 3.25 微生物群によるオーガナイズドバイオモジュール

本研究は、微生物をモジュールとして情報処理機構と結合することで、柔軟かつ多様な機能を提供する超大規模マイクロシステムの実現を目指すものである。

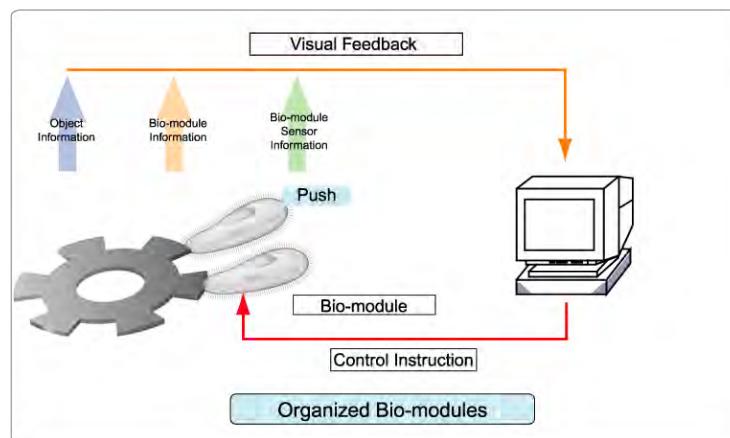
生物にとって、環境変化の的確な検知とそれに対応した素早い行動は生死に関わる。そのため、微生物も体内に高感度、高精度なセンサとアクチュエータを発達させてきた。本研究では微生物をセンサとアクチュエータの統合体ととらえてバイオモジュールと呼び、複数のバイオモジュールとコンピュータを結合させるインターフェースを開発する。これにより生物と情報処理機構を融合した新しいマイクロシステムの実現を目指している。

既存のマイクロエレクトロメカニカルシステム(MEMS)技術では、システムの状態をセンシングすることが困難であり、ひとつのハードウェアはひとつの機能しか提供できない。しかし微生物は非常に優れたマイクロマシンである。したがって、多数の微生物を協調させるフィードバック制御システムが構築できれば、既存のMEMSの概念を超越するプログラム可能な多機能マイクロシステムが実現できる。

ビジュアルサーボ理論、ダイナミックイメージコントロール(DIC)システム、高速可変焦点レンズなどの知見を生かし、OBMの実現に向けて研究を進めている。

Our goal is the realization of a super-large-scale microsystem that provides flexible and various functions, by integrating microorganisms as modules into information processing systems. For existing Micro-Electro Mechanical System (MEMS), it has been difficult to sense the status of the system. Therefore it provides only a single function. However, microorganisms are very smart micromachines with built-in sensors and

actuators in their bodies. By feedback control system which makes many microorganisms cooperate together, a novel programmable and multi-functional microsystem will be realized. Our technologies, such as Visual Servoing Theory, Dynamic Image Control (DIC) System and High-speed Focusing Lens, will be applied effectively to the OBM system.

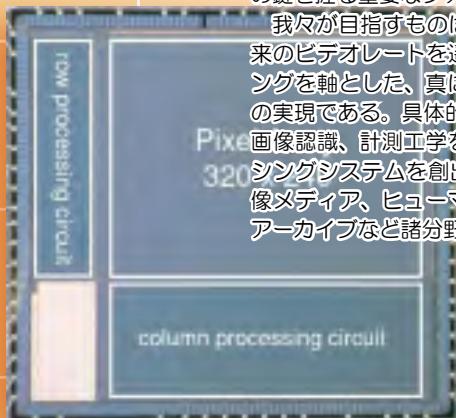




# ビジョンチップ Vision Chip

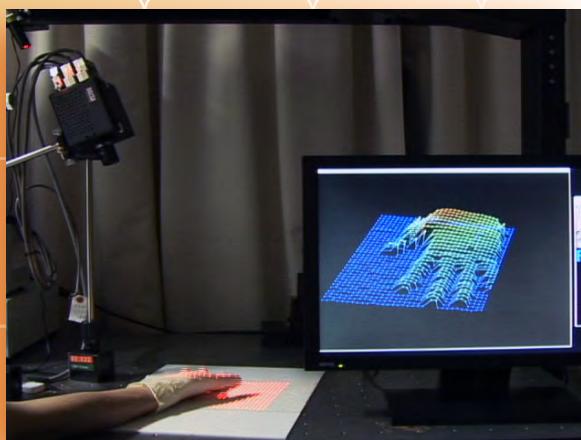
次世代のシステム技術の開発では、限界性能に近いデバイスの動作を求められる局面に直面する。要求される性能を充足しない領域でシステムを開発した場合、機能の制限を余儀なくされる。この背景のもと、「超高速」は、新技術を顕在化させる新たなトレンドである。超高速システムの実現のためには、着目するタスクが描く要求充足ラインを超える領域での最適なシステム設計によって、理想的な認識・応答を備えることが鍵となる。新たな応用を切り拓く上で、ビジョンを用いた高速なセンシングは、この鍵を握る重要なファクターである。

我々が目指すものは、この設計思想に基づき、従来のビデオレートを遥かに凌ぐ超高速の画像センシングを軸とした、真にリアルタイムなシステム技術の実現である。具体的には、VLSI 技術、並列処理、画像認識、計測工学を駆使して、超高速の認識センシングシステムを創出し、ロボティクス、検査、映像メディア、ヒューマンインターフェース、デジタルアーカイブなど諸分野での新応用を具現化している。



The next-generation technologies require the involved functions to achieve those limit performance. In this trend, high-speed capability is the powerful factor to lead incredible advances. The key to realize high-speed system depends heavily on the elaborate scheme for the development. The scheme needs to be drawn in the area exceeding the requirements defined by the focused application task. In order to pioneer new applications, the feasibility is under the high-speed sensing using vision.

Based on this design concept, our goal is to realize a truly real-time system technology centering on high-speed image sensing far exceeding the conventional video rate. Specifically, we create high-speed recognition systems through VLSI technology, parallel processing, image recognition, and measurement engineering, and generate new applications in various fields including robotics, inspection, video media engineering, human-computer interaction, digital archiving, and so on.



## 4.1 画像モーメントセンサ

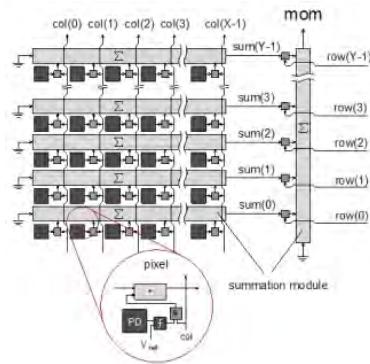
近年、機器の自動制御において視覚情報が重要な役割を果たすようになってきた。これらのアプリケーションの実現には、画像から対象を抽出し、識別や姿勢推定を行う必要がある。このような処理は、画像の部分領域における画素値の重み付け線である、画像モーメントを計算することで実現できる。

一方で、単一のチップにイメージセンサと画像処理回路を搭載した、スマートイメージセンサの研究開発が行われている。これらは小型・安価で使いやすいが、抽出できる情報が限られていたり、処理回路が占める割合が高く、画素数や開口率が限られるという問題があった。

そこで、画像の統計量であるモーメントの抽出に特

In order to realize automatic control of machines, we designed a new vision chip specialized for extraction of image moments. Moments are statistical values containing information of object size, position, orientation and shape, and are used in object recognition and pose estimation.

化したスマートイメージセンサを開発した。画像モーメントから、面積や重心、拡大縮小・回転・アフィン変換に対する不变量が算出でき、物体識別や機械制御などに利用できる。開発した画像モーメントセンサは、4画素で1つの演算器を共有することで画素回路の大規模な小型化を図るとともに、可変長パイプライン構造によって演算の高速化を図っている。



## 4.2 ダイナミック回路を用いた320×240画素試作チップ

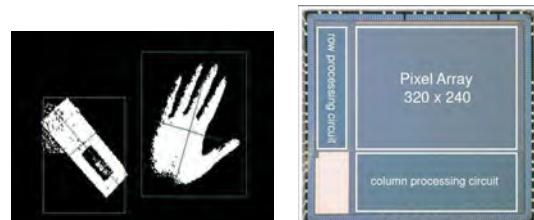
近年、工業製品検査や乗り物の緊急回避など、システム自動化の分野において、視覚情報が重要な役割を果たすようになってきた。これらのアプリケーションの実現には、画像から対象を抽出し、識別や姿勢推定を行う必要がある。このような処理は、画像の部分領域における画素値の重み付け線である、画像モーメントを計算することで実現できる。

モーメント演算を高速に実行するためには強力なプロセッサが要求されるが、一般的に大型で高コストとなる問題がある。民生品や汎用組立ロボットなど、今後の需要拡大が期待される分野のニーズに応えるには、撮像と演算を1チップ化し、小型化・低コスト化

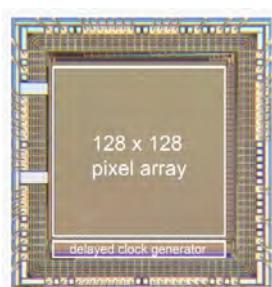
We reduced transistors in the pixel circuit using dynamic logic and implemented 320x240 pixels in 9.22mm x 8.52mm chip. This is the biggest size among vision chips that perform digital processing.

を測る必要がある。また、多数の対象の抽出や不变量を利用した識別などを実現するには、高い解像度と高次モーメントの演算能力が必要である。

これらの要求を満たすため、我々はモーメント抽出に特化したCMOSスマートイメージセンサの開発を行った。ダイナミック回路を用いて画素回路の素子数を削減し、チップサイズ9.22mm×8.52mmに320×240画素を実装した。これはデジタルで演算を行うビジョンチップでは最大規模の画素数である。



## 4.3 128×128画素試作チップとセンサボード



センサ情報を用いた機器の自動制御は一般的に行われているが、画像情報を利用したものは少ない。画像情報をリアルタイムに分析し、必要な情報を取得しようとすると、イメージセンサのほかに膨大な画像情報を必要とし、そのことが機器の大型化と高コスト化を招いていた。

一方、イメージセンサの画素ごとに処理回路を搭載

したビジョンチップの研究が行われている。しかし高精度な画像処理を実現するチップを作ろうとすると画素回路が大きくなってしまうという問題があり、機器の自動制御に十分な機能を、十分な画素数・小さい面積で実現したものはなかった。

そこで、機器の自動制御において特に重要な機能である、画像モーメントの抽出に特化したビジョンチップを開発した。写真は開発したセンサとそれを搭載した小型ボードである。センサチップのピクセル数は128×128でチップ面積は3.28mm×3.48mmとなっている。センサボードは、5.5cm角の基板にセンサチップ、ボードレンズ、制御用FPGA、通信用マイコン、USBコネクタが実装されており、PCIに接続して簡単に動作を確認できる。

The photos of developed sensor and small board on which the sensor is mounted are shown below. The number of pixels of the sensor is 128x128 and the chip area is 3.28mm x 3.48mm. The sensor chip, board lens, FPGA for control, microcontroller for communication, and USB connector are mounted on the 5.5cm square board. You can easily connect the board to a PC and confirm the operation.



## 4.4 超並列コプロセッサ搭載型高速ビジョンシステム



運動物体や変動現象を制御するアプリケーションでは、外界情報をリアルタイムに定量化する必要がある。このような局面で利用される

センサ情報として、視覚情報が担う役割は大きい。加えて、リアルタイム化の要請から、結果を取得する頻度を最大化し、その際の遅延を最小化することが必要となる。

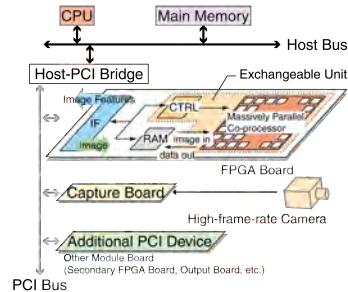
High-speed image processing at high frame rates is highly effective in real-time applications, including automation, inspection, robot control, microscope observation, and manmachine interfaces. However, the performance demonstrated thus far is not high enough to observe and control phenomena that typically require data output at high throughput rates and low latency.

Our proposed system involves three effective strategies: (A) parallelization of algorithms to minimize the amount of calculation, (B) optimal processor circuit structure for the algorithms, and (C) large scalability. We realize these features by introducing a swappable massively parallel processing module as a co-processor having specialized functionality and configuration. The

このような背景のもと、リアルタイム視覚情報処理をkfpsレベルが要請される局面でも実行できる環境の構築が目標課題となる。このような課題に対するボトルネックは、データ処理の速度にあると考えられる。目標となる高速ビジョンシステムは、特定用途化によって達成される処理速度と、多様な応用展開を可能とする機能の柔軟性の両者が求められている。

提案するビジョンシステムは、演算機能や内部の構成について専用のアーキテクチャを備えた超並列コプロセッサを交換可能な形式で搭載するものである。このようなマルチコアシステムは、低/中位の視覚情報処理のための並列処理モジュールの強化に焦点が置かれており、様々な高速ビジョン応用において有効であると考えられる。

developed system demonstrates a throughput of 1 kfps and a latency of several milliseconds.



## 4.5 多点瞬時解析プロセッサ

多点計測は、画像内の多数分割領域の局所変化を解析し、計測量を推定するものであり、様々な応用で利用できる基盤技術である。多点計測が関連するアプリケーションは、粒子製品の検査、バイオイメージング、血流解析、流体計測、微生物の観測、マイクロ応用における微小物体のマニピュレーション、基板などの表面洗浄のための塵検出、大気中の粒子観測、テクスチャを用いた運動計測、3次元計測、イメージセンサによる光無線通信などがある。

これらの事例における新たな計測制御応用の開発のために、リアルタイム化、サンプリングレートの向上、観測点数の増大、柔軟性の高い計測量の利用な

We developed a processor for moment-based analysis of numerous objects. Moments are useful values providing information about geometric features and invariant features with respect to image-plane transformations. In addition, the simultaneous observation of numerous objects allows recognition of various complex

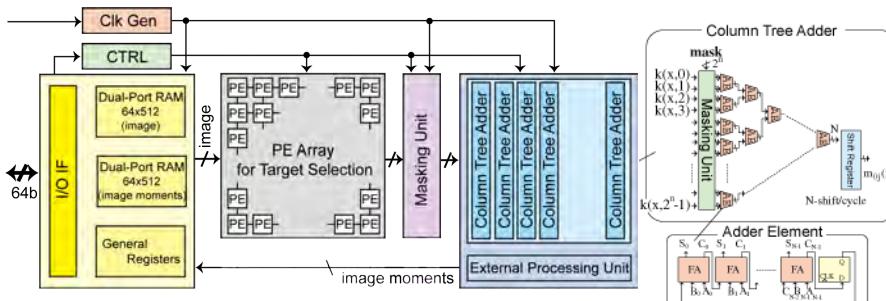
が必要になると考えられる。

そこで、1kfpsで1,000～2,000個の対象の画像解析を可能とする多点瞬時解析プロセッサを開発した。本プロセッサは、画素単位の演算並列化によって特徴量演算の高速化を図り、対象単位の演算並列化によって対象数増大に伴う計算量を抑えるアーキテクチャとなっている。超並列コプロセッサ搭載型高速ビジョンシステムに完全画素並列構造のコアを搭載し、kfpsレベルのスループットで、1,000個以上の2次までの画像モーメントを取得できることを確認した。例えば、下左図のような画像から、サイズ、位置、傾き、縦横比などをリアルタイムに得ることができる。

phenomena. Our processor has a high-performance core based on a pixel-parallel and object-parallel calculation method.

This module was mounted to the high-speed vision system as a co-processor. As a result, the moments from 0th to 2nd order of 1,024 objects were extracted at

1kfps. We believe that the achieved performance is highly promising for wide range of applications such as flow control, particle manipulation, image classification in industrial inspection, real-time shape measurement for robotics, and so on.



## 4.6 64×64 画素を搭載したプログラマブルなビジョンチップ

近年、半導体集積化技術の進歩や、画像処理を手軽に扱いたいというニーズの高まりから、画像処理を専門に扱うプロセッサをワンチップ化する動きが進んでいる。

しかし、従来の画像処理用プロセッサは、その並列性により主に初期視覚処理に対して強い威力を発揮するが、より高度な処理を行おうとした場合に、非局所演算が不得手であることや、画素数と汎用性の間にトレードオフが存在することなどの問題があった。

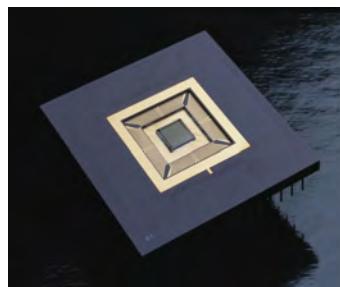
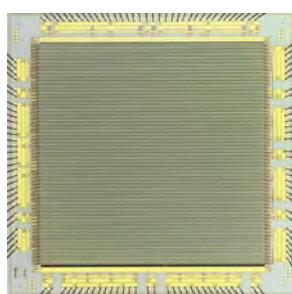
そこで、イメージセンサの画素ごとにPEを取り付け

A programmable vision chip that integrates 64x64 pixels has been developed. It adopts newly designed dynamically reconfigurable SIMD architecture for processing circuits. It is fabricated using 0.35μm CMOS

For example, the features including size, centroid, orientation, and horizontal to vertical ratio can be obtained at high throughput rates and low latency as shown below.

ることで、高フレームレートの画像処理を実現するビジョンチップの開発を行った。開発したビジョンチップは、64×64画素を搭載し、プログラマブルで処理を与えることが可能である。演算回路には新たに設計した動的再構成可能なSIMDアーキテクチャを採用している。0.35 μm CMOSプロセスを使用しており、チップサイズは5.4mm×5.4mmである。各画素の面積は67.4 μm×67.4 μmであり、256×256画素が約1.8cm角のチップに乗る計算である。

process and the chip size is 5.4mm x 5.4mm. Each pixel area is 67.4um x 67.4um and 256x256 pixels could be integrated on about 1.8cm square chip.



## 4.7 高速対象追跡ビジョンチップ

2004年度計測自動制御学会技術賞・友田賞をいただきました。

1秒間に1000フレーム以上の処理を行う高速ビジョンによって、新しい応用が可能になると考えられる。この実現に向けて、センサと並列演算装置を一体化し、1チップ上に収めたビジョンチップというデバイスを開発している。

これまで汎用性を重視したビジョンチップの開発を進めてきたが、多様な画像処理が可能である反面、限られたチップ面積上に多くの画素を配置すること

が困難であった。応用の場面を想定した場合、特定用途化により小型化・低コスト化を図った新しいビジョンチップも有効であると考えられる。

開発した高速対象追跡ビジョンチップは、特徴として、(1)ターゲットトラッキングに用途を限定、(2)セルフウィンドウ法をハードウェア化、(3)モーメント抽出回路の導入が挙げられる。実用化に向けて、日本プレシジョン・サーキッツ(株)と共同で、64×64画素を集積したチップを試作したほか、48×32画素のチップを搭載した小型モジュールを開発した。

A new architecture for compact and low-cost vision chips by single-purpose specialization has been designed. It features (1) the function is limited to binary target tracking, (2) hardware implementation of the Self

Windowing algorithm, (3) dedicated moment extraction circuit. Collaborating with Nippon Precision Circuit Inc., 64x64 pixel prototype chips are produced, as well as compact modules with a 48x32 pixel chip.

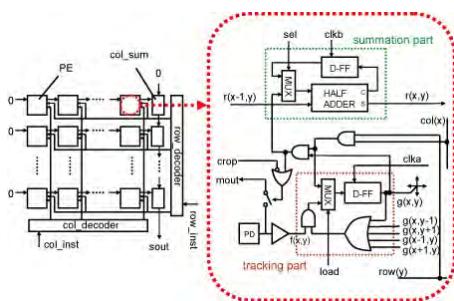


Fig.1 高速対象追跡ビジョンチップのアーキテクチャ  
Fig.1 Architecture of high speed target tracking vision chip

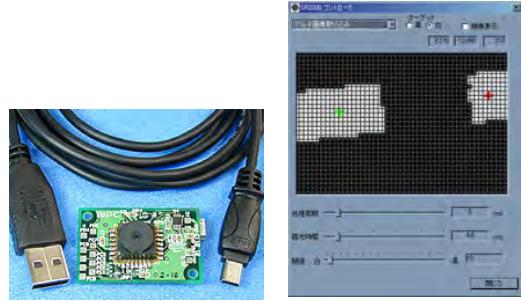


Fig.2 試作した小型モジュールとデモソフトウェア  
Fig.2 Developed compact module and demo software

## 4.8 CPV: 列並列ビジョンシステム

本研究の成果が浜松ホトニクス(株)により製品化されました→インテリジェントビジョンシステム

ビジュアルフィードバックによってロボットの高速かつ動的な制御を実現したいという要求が高まっている。このためにはビジョンシステムが、高速な動きに追従し、高速な処理と特微量のフィードバックを実現しなければならない。

これに対して、ロボットの制御に必要なサーボレートは一般に1kHz程度であり、動的な制御を実現する上で、これまでのビジョンシステムはこの要求を満たすものではなかった。

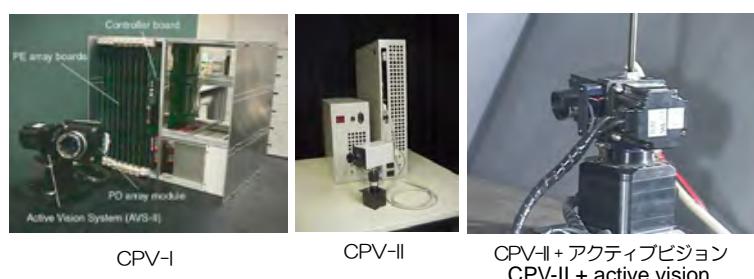
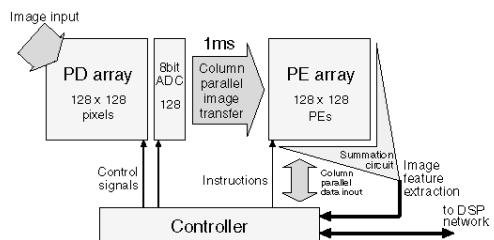
The research results have been a commercial reality by Hamamatsu Photonics. -> Intelligent Vision Sensor

Our 1ms vision system has a 128x128 PD array and an all parallel processor array connect to each other in a column parallel architecture, so that the bottleneck of an image transfer has been solved. 1ms visual feedback has been realized in this system, in which the image feature value is extracted in 1ms cycle-time for visual servoing.

(This is a collaborative research with Hamamatsu Photonics)

このような背景のもと、我々は、列並列画像伝送と完全並列処理を組み合わせることで、1msの高速性と128×128画素の高解像度を実現した。センサチップは128×128画素のフォトティックと128個の8bitのAD変換器からなり、列ごとに並列に、ピットシリアルにデータを出力する。これに対して並列処理部は多数のFPGAを用いて実装され、128×128個のプロセッシングエレメント(PE)により、画素ごとに完全並列な処理が行われる。

(本研究は 浜松ホトニクス(株)との共同研究です)



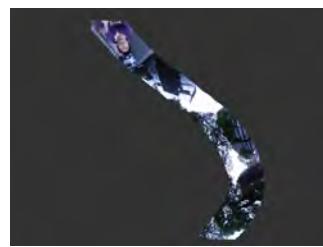
## 4.9 投げ上げカメラを用いた広範囲画像センシング

カメラを固定したまま撮影した場合、狭い範囲の情報しか取得することができない。そこで、シーンに関するより多くの情報を得るために、カメラを固定せずに撮影する方法が用いられる。例えば、複数の画像を合成して1枚の大きな画像を生成する技術として、イメージもザインキングがある。しかし、これまでにはカメラを動かす範囲は自分の手の届く範囲までであり、例えば自分の頭上からの画像などを撮影することは難しい。

そこで、本研究では、カメラを自由運動させることにより、すばやく広範囲の画像をセンシングする手法を提案する。これによって、短時間で広範囲の環境をセンシングすることが可能であると考えられる。

具体的には、投げ上げカメラで撮影した動画像をイメージモザイキングにより合成することを行っている。高フレームレートで撮影画像を用いることで、高精度に情報を獲得することができるることを示している。

In this study, we propose a method of wide range image sensing using a thrown-up camera. By throwing up a camera, we can get images that were difficult to get before, such as those taken from overhead. As an example of wide range image sensing, we integrated video images captured by the camera using image mosaicing technique. We also propose to use a high frame rate camera (HFR camera) in order to get much information. A seamless large image was obtained by synthesizing the images captured by a thrown-up HFR camera.



生成された画像  
The image generated by using the image mosaicing technique

## 4.10 シンクロナイズドビデオ：身体動作と調和するビデオ操作

ビデオコンテンツの多様化とともに、そのインターフェースデザインが重要な課題となっている。本研究では、ビデオとユーザーのインタラクションが鍵となるものに焦点を当てる。代表的な例として、ユーザーに新しい動作を紹介するビデオが挙げられる。このタイプのビデオの目的は、ユーザーが、提示される動作要素を身体へ適応的にマッピングすることを促すインタラクションを生み出すことである。

しかし、既存のビデオ閲覧技術は、そのようなビデオの潜在的価値を阻害するものであったと考えられる。問題は、ユーザーが受動的にビデオ閲覧を行うことを前提とするデザインにある。これまでの操作には、付属機器や、ジェスチャ、音声などに基づくものがあ

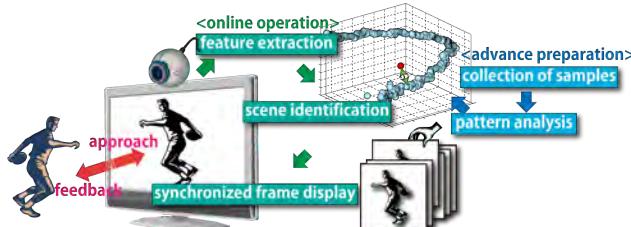
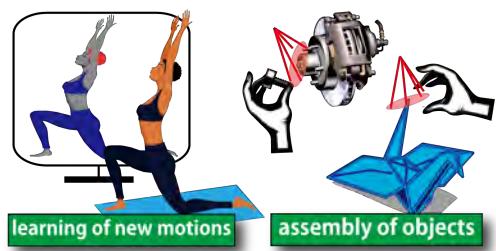
るが、いずれも明示的な指令を伴う非効率的なデザインであり、ユーザーがビデオとのインタラクションに集中する構成をとっているかった。

提案するシンクロナイズドビデオは、実世界の状態と同期して、映像を提示するビデオ操作技術である。このようなビデオ操作に有効なコンテンツには、体操などのフォームや構造物の組み立ての学習などが考えられる。提案するインターフェースにおける同期は、機器などの明示的な指令を介さず、ユーザーが創出する実世界の状態が、ビデオを直接操作する構成となっている。これによって、ビデオ操作の感覚を強く意識させず、意図した映像を直感的に取得する連続的なインタラクションを形成することができる。

Synchronized Video is a video control technique that shows frames in synchronization with real-world actions. Suitable video content for this type of video interface includes learning forms of exercise and assembly of structural objects. In the proposed system, the user feels as if he or she is standing in front of a strange mirror where there is a virtual human performing the correct actions in synchronization. Also, the proposed technology is effective for projecting target images onto real-world objects serving as a screen, for recreating the same situation as in prepared video content.

The synchronization in this proposed interface is achieved without the user performing any explicit operations. The state created in the real world by the user is

what directly controls the video. This design allows transparent video control for users. The intended frames could be provided intuitively in a continuous form.



## 4.11 ブックフリッピングスキャニング

デジタル書籍の市場が全世界で急速に拡大している。しかし、紙に印字された従来の書籍を、高速かつ手軽に電子化するための技術力はそのニーズに対して十分でない。超高速な書籍の電子化技術は、ビジネスから日常まであらゆる局面に対して影響を与える強力なものである。次世代のスキャナは、シンプルな構成の下、手軽で高速な読み取りを実現することが求められている。鍵となるポイントは、複数のページの書籍情報を読み取る際にいかにユーザーの作業負担を減らすことができるか、にあると考えられる。

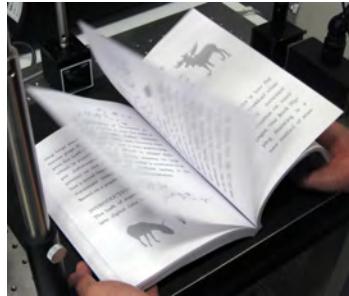
提案する「ブックフリッピングスキャニング」は、ユーザーによるページめくり中に、紙面の動きを止める

ことなく、連続的に書籍を読み取る新しい技術である。ブックフリッピングスキャニングのアプローチは強力であり、様々な応用形態を提供しうると考えられる。

開発したシステムは、高速に変形する紙面の3次元形状をリアルタイムに捉えるセンシング技術を用いて、変形と書籍表面の画像情報を同時に一つのカメラで高速に捉えることができる。また、紙の物理モデルに基づき、紙面変形を推定することができる。さらに、読み取られたデータは歪んだ画像になるが、推定された紙面変形から、平坦な状態に補正された書籍情報を出力する機能を備えている。

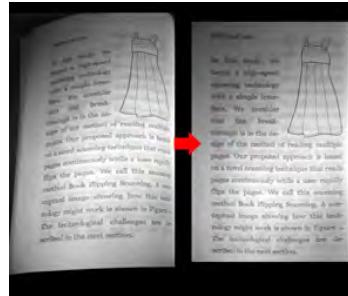
Digitalization of documents has become an important technology. The technical challenge is to realize an easy-to-use, simple, and high-speed scanning system. The key point is how the system can decrease the user's workload when scanning document information on many pages.

Our Book Flipping Scanning is a new method of scanning large stacks of paper while the user performs a



continuous page flipping action.

Here we report the core of this proposed technology, which is simultaneous sensing of 3D paper deformation and the information printed on the pages. Our prototype also has a novel function of reconstructing the document image from a distorted one based on a paper deformation model.



## 4.12 携帯機器向け空中タイピングインターフェース

近年携帯機器の小型化が進行し、携帯電話などが広く世の中に普及する一方で、機器表面に広い操作領域を確保する事は難しくなってきている。この問題は人間の手の大きさなどに由来する問題であり、解決するためには新たな入力インターフェースが必要不可欠である。

これまでにこの問題に取り組んでいる多くの先行研究が存在する。しかし、それらの先行研究の多くは特定の使用環境で使用可能なものや特別な機器を装着する必要があるものなど、使用にあたって制約があるものが多い。我々は外部機器や特別な環境を必要と

しない・直感的な操作が可能である・広い操作領域が実現可能といった特徴を備えた空中タイピングインターフェースを提案する。

本研究では、単眼カメラを用いて指先の動きを3次元追跡し、指先の微小な動きをキーストローク動作として検出する。カメラから近い位置での指先の動きは、画像上で高速に移動するため、高フレームレートカメラを用いることで安定したトラッキングを行った。キーストローク動作を他の動作と分離して検出するために、指先画像のスケール変化に対して周波数フィルタを適用した。



## 4.13 高速ビジョンシステムを用いた回転体の表面展開図作成

カメラを用いた検査自動装置は幅広く活用されている。一方で、フレームレートの制限により高速化が難しかった。高速ビジョンは、外観検査において、このような問題を解決する技術として期待が寄せられている。

本研究では、我々が開発したFPGAベースの並列画像処理ボードPB-1と1,000fpsの高速エリアカメラからなるビジョンシステムを用いて、回転移動する円筒の表面展開図の生成をデモンストレーションした。

We demonstrate surface image synthesis of moving spinning cylindrical objects using a high speed area scan camera commercially available. The frame rate used for demonstrations is 1,000 fps, and it successfully

特に、エリアカメラによる画像処理によって、合成や幾何情報取得のために回転数などの詳しい情報が必要である点で優れている。

実験では、回転数30rps以上の回転体の展開図生成が行え、また寸法誤差も理論通りの振る舞いをし、1.5%以下であった。この技術によってより柔軟な対象物体の運動に対しても表面検査が行えることが期待される。

covers the surface image synthesis of cylinders spun over 30 rps. A FPGA-based parallel image processing board, PB-1, we have developed is used to implement this demonstration.



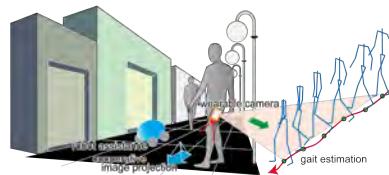
## 4.14 ウェアラブルカメラを用いた人間の歩行状態推定

実環境下における人間の位置・姿勢推定に関して、様々な研究が行われてきた。これまでの研究では、GPSによる位置のみの推定や、設置カメラによる姿勢推定が行われていた。一方、日常環境や屋外で人間のモーションキャプチャを行う技術のニーズも高まってきた。このような技術は、従来の複数のカメラを固定設置して行うやり方では実現が難しいと考えられる。屋内や、障害物がある環境下、群衆中においても適用可能なモーションキャプチャを実現するためには、新たな技術が必要とされている。

そこで、本研究では、ウェアラブルカメラによって、周囲の環境に影響されず、歩行中の人の位置と姿勢を取得する新たなセンシング手法を提案する。我々の手法は、ユーザの動作に関する事前知識を利用して、1台

のカメラから得られる外界の変動を入力するだけで、歩行動作を推定することができる。

実験では1台の小型な高速カメラを大腿部に設置し、歩行推定を行った。その結果、全身の歩行姿勢とともに、ユーザの大域的な位置も推定可能であることを示した。下図は、ユーザの実際の歩行と推定された歩行動作を比較したものである。



We focus on the growing need for a technology that can achieve motion capture in outdoor environments. The conventional approaches have relied mainly on fixed installed cameras. With this approach, however, it is difficult to capture motion in everyday surroundings.

This page describes a new method for motion estimation using a single wearable camera. We focused on walking motion. The key point is how the system can estimate the original walking state using limited information from a wearable sensor. This page describes three aspects: the configuration of the sensing system, gait representation, and the gait estimation method.



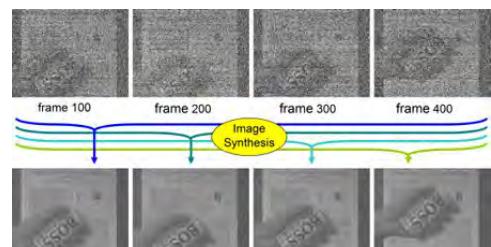
## 4.15 高フレームレートカメラを用いた動被写体の高画質撮影

イメージセンサの性能向上に伴い、デジタルカメラの高画質化が進んでいる。しかし、暗所で利用したり、動被写体をぶれなく撮影したりしようとする、イメージセンサのさらなる高S/N化が必要となる。

イメージセンサのS/Nを向上させる簡単な手段として、露光時間を長くするという方法がある。露光時間を長くすることにより、信号量を増やすことができるので、ノイズが一定量の場合にはS/Nを向上させる

ことができる。しかしこの方法では、対象が静止していないければならず、カメラや撮影対象が動いた場合は画像がぶれてしまうという問題がある。

そこで本研究では、1秒間に1000枚の高フレームレート撮像が可能なカメラを用いることで、ぶれの少ない画像を多数枚取得し、それらを合成することで高画質の画像を得る手法を提案する。



In this paper we propose a method of high quality imaging of a moving object by combining images captured by a high-frame-rate camera. Extraction of target region enables combination of both target and background areas. Video-to-video conversion is also realized by repeating image combination with shifting a base frame.

## 4.16 ズーミングタッチパネル

タッチパネルは、銀行のATM、駅の券売機、飲食店のオーダー端末などあらゆる場面で使われている。タッチパネルの利点は操作が直感的で、誰にでも使いやすいということにある。しかしタッチパネルには細かい操作が難しいという問題や指が接触する前にどこを指しているか分からぬという問題がある。

本研究では、カメラを用いることで新たな機能を実現するタッチパネルを提案する。本システムは、2台のカメラを利用して、指先の3次元位置を計測することができる。これによって、指先の3次元座標に基づいた

Information devices with a touch panel are often seen in our life, but a touch panel is difficult to operate precisely as well as it is unsanitary.

We developed a touch panel with new interface, which measures three dimensional position of the finger near the panel using two cameras, displays a cursor on the panel, and zooms the screen according to the finger depth.

画面のスクロール及びズームを行うインターフェースを実現することができる。このようなインターフェースは、広い表示範囲と精細な表示を両立させることができる。

具体例として、駅の券売機への応用を想定した試作を行った。大都市の地下鉄網は稠密で画面上にすべての項目を表示することは難しい。そこで、ズームの機能を活用することで地図上で直接目的地を選択して切符を買うことのできるアプリケーションを実装した。



## 4.17 運動／変形物体の高速リアルタイム形状計測

1kHzのサンプリングレートと数msのレイテンシーでの高速センシングが、様々な問題を解決し、新たな応用を創出することが明らかにされつつある。しかし、従来の3次元センシングでは静止した物体の観測が主流であり、物体が運動・変形する局面に対して、十分な機能を有するものが存在しなかった。

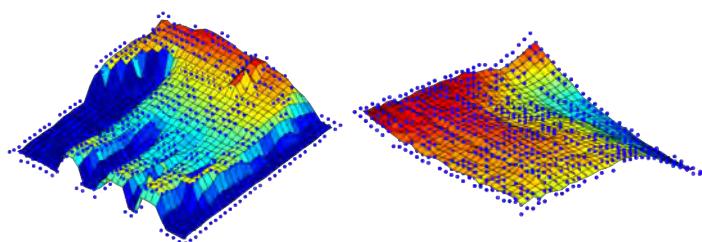
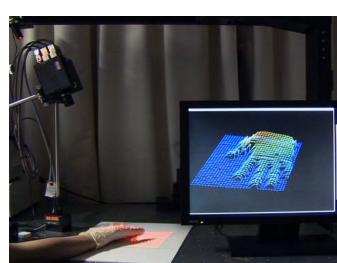
直面する課題は、運動する物体を捉える原理とセンシング速度の2点である。このような課題を克服した超高速のリアルタイム3次元センシングシステムは、ロボティクス、工業製品検査、自動車応用、マンマシンインターフェースにおいて、強力な役割を果すことが期待される。

我々が新たに開発した3次元センシングシステムは、1,100点のマルチスポットパターンを投影することで、単一の撮像画像から形状を取得し、さらに、独自の超並列画像処理システムによって、秒間1,000回の速度で画像を3次元点の情報へ変換することができる。このような高速3次元センシング技術を用いて、従来にはなかったデジタルアーカイブ応用や、インテラクティブディスプレイシステムを実現した。また、3次元センシングを支える情報処理技術として、超高速に取得された形状情報を用いて、高解像度の形状を復元する技術も開発している。

We have described a time-sequential highframe-rate shape measurement system for moving and deforming objects. The system is based on multi-spot projection measurement in a single image using a high-speed vision with a co-processor for numerous-point analysis. We demonstrated a throughput of 955 fps and a latency of 4.5 ms. Experimental results for three kinds of objects

showed that the objects were measured correctly.

This type of measurement system is expected to find uses particularly in feedback applications such as robotic manipulation, automobile application, surgery support, inspection, human-machine interfaces, and so on.



## 4.18 高速リアルタイム粒子計測／流体計測

粒子計測では、錠剤、食品顆粒、金属粒子、蛍光粒子、生体細胞などを扱う。計測の目的は、多数個の粒子材料を同時に観測し、個々のサイズ、位置、速度、形状などの情報を同時に取得することである。本計測は、静止画による製品検査から、動画像による流体解析まで様々な局面で利用することができる。しかし、従来はオフラインベースのものや、光散乱を観測する手法に基づくものが主であった。

粒子計測は、高フレームレート視覚情報処理の導入によって、その応用範囲がさらに広がると期待でき

る。例えば、リアルタイム化、運動の詳細観測、粒子数の増大、パターン解析による柔軟性などのアドバンテージを得ることが可能となる。ここでは、多点瞬時解析高速ビジョンシステムによる検証事例について述べる。

Fig.1は、流体中を運動する粒子群を955fpsでリアルタイムに観測した結果である。Fig.2, Fig.3は、サイズの異なる運動粒子群のパターン識別を実施した結果である。

Objects of particle measurement include tablets, food granules, metallic particles, fluorescent particles, biologic cells, and so on. In this measurement, we need to observe numerous particles at a time and obtain information of each one such as size, position, moving velocity and shape. This can be used in still-image-based inspection and video-based fluid analysis. However, the conventional ones are mainly based on off-line operation or light scattering data analysis.

Introduction of high-frame-rate image processing is expected to lead the expansion in the range of its applications. For example, it enables to give advantages such as real-time operation, detail observation of moving particles, increase of number of particles, and high flexibility by pattern analysis. Here, we show two examples using a high-speed vision for numerous-point analysis.

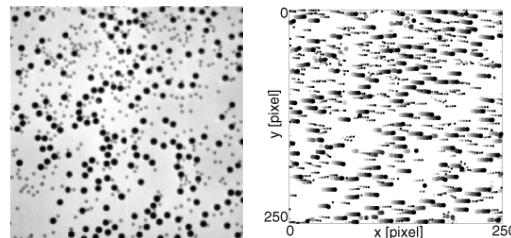


Fig.1 流体中の粒子軌跡  
Fig.1 Real-time Fluid Measurement

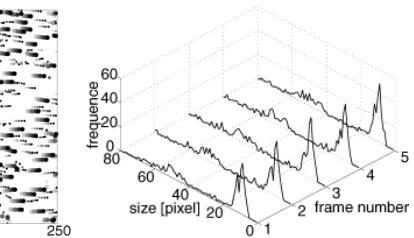


Fig.2 運動粒子群のサイズ識別  
Fig.2 Size Classification of Moving Particles

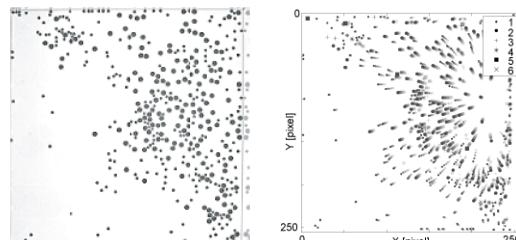


Fig.3 運動粒子群の衝突解析  
Fig.3 Collision Analysis of Moving Particles

## 4.19 複数の距離画像を用いた曲面 / 運動同時推定による高解像度形状復元

運動中の物体形状を高速かつ高解像度で観測する技術は、様々な応用展開で実現が有望視されるものであると考えられる。しかし、速度と解像度に関する性能をセンシングシステムが両立することは難しい。

そこで、我々は複数の距離画像を統合することで、高解像度の形状を復元する手法を実現した。仮定する

状況は、固定されたセンサ系が運動剛体を観測するケース、または静止物体をセンサ系が動いて観測するケースである。このようなセンサ系と対象物体の相対位置の変化によって、いくつかのセンシングシステムの原理では、異なる時刻に、対象表面の異なる位置をサンプルした距離画像が取得される。これらの距離画

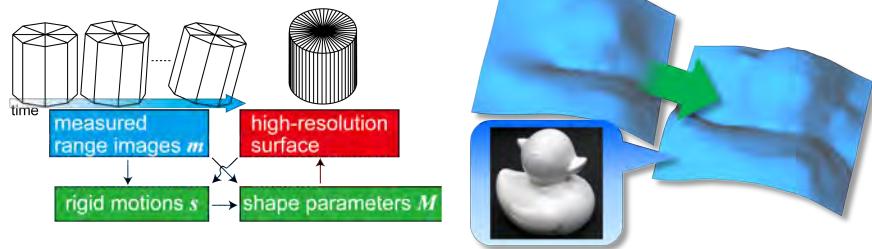
像によって、使用されるセンサ系の解像度の限界を超える形状復元が実現できると考えられる。本タスクは、レジストレーションと曲面復元の2つのプロセスを行う必要がある。提案手法は、これらのプロセスを同時推定の枠組みで解くものである。ま

High-resolution shape reconstruction from acquired range images is a highly promising technique for various applications, regardless of sensing principle. This task involves two processes: registration and surface reconstruction. Those processes are essentially interrelated problems, and performing registration using only the acquired range images causes errors because of the image degradation involving aliasing and measured noise. Also, the shape surface representation needs to have a continuous form and a high degree of freedom with a compact data set. In addition, local smoothness

た、形状表現として、陰関数曲面を導入し、様々な運動物体の形状に対する高解像度化を実現する。評価実験では、提案手法と従来手法を複数の物体に対して適用し、その有効性を示した。

control is an important issue for surface reconstruction.

Based on these requirements, in this paper, we present an algorithm for estimating the motions and surface jointly. The method realized shape reconstruction based on an implicit surface obtained using an RBF function. We demonstrated the potential of this approach with three kinds of real shapes. The experiments were successfully achieved. The obtained results show that we can see details on the surface that cannot be found in a single range image.



高解像度形状復元のプロセス概念図と高解像度形状復元の結果  
The process and the results of high-resolution shape reconstruction

## 4.20 事前知識を用いたステレオビジョンの高性能化

ロボティクスなどの分野において、ステレオ視を用いた3次元復元が広く用いられている。一方、ステレオ視では、視点間の対応点を求める必要があるが、画像のみからこの問題を解くことは難しかった。

特に、屋内環境では、壁などテクスチャがない部分が視野に多く存在する。このような問題を解決するために、屋内環境の大域的な構造の特性を事前知識として利用する手法を提案する。このようなアプローチは、エイムズの部屋のような錯視にも見られるよう

We propose a new method of indoor-scene stereo vision that uses probabilistic prior knowledge of indoor scenes in order to exploit the global structure of artificial objects. In our method, we assume three properties of the global structure (planarity, connectivity, and parallelism/orthogonality) and we formulate them in the framework of maximum a posteriori (MAP) estimation.

To enable robust estimation, we employ a probability

に、人間の視覚認識においても有効な役割を果たしている。

提案する手法は、人工物の事前知識に関する3つの仮定を利用する。この仮定を用いて、確率による問題の記述を行い、最適化問題によってステレオ視の3次元復元を行う。実験の結果、提案手法が、視差画像の滑らかさを仮定したグラフカットによる手法に比べて、テクスチャレスな領域が大きい入力画像に対して有効であることがわかった。

distribution that has both high peaks and wide flat tails. In experiments, we demonstrated that our approach can estimate shapes whose surfaces are not constrained by three orthogonal planes. Furthermore, comparing our results with those of a conventional method that assumes a locally smooth disparity map suggested that the proposed method can estimate more globally consistent shapes.



Fig1. 入力画像  
Fig1. Input images

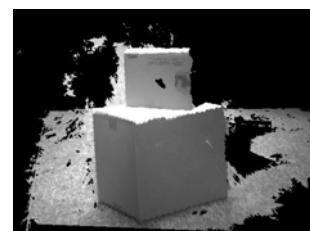


Fig2. 復元された3次元形状  
Fig2. The result of reconstruction with the proposed method

## 4.21 Analysis-by-Synthesis 法を用いた三次元物体姿勢推定

既知物体の姿勢推定は対象物体に対してマシンビジョンシステムが行動を取る為の第一段階であり、様々な手法が提案され、実システムに広く応用されている。しかしビジョンシステムは一般に計算量が大きく、実用的な処理時間で姿勢を推定するためには様々な制約が必要となる。そのため、現時点では二次元画像認識の利用が主流であり、三次元の位置姿勢を推定するには適切な初期値を与えて探索範囲を狭めるか、初めの位置姿勢を既知としてトラッキングを行う手法が多い。手法も材質や光源、オクルージョンなどの条件に対して特化していることが多いため、様々な問題に対して一つの手法で対処することが難しいという問題がある。

We propose a new method for 3D object pose estimation using the analysis-by-synthesis (A-b-S) method. This method is applicable to machine vision systems for 3D object recognition and generalized in terms of the operating conditions, such as materials and lighting. An A-b-S approach usually requires a number of computations so large that a conventional global search was not applicable. We realized a global search for pose estimation by an effective algorithm using a coarse-to-fine strategy and a weak perspective projection assumption. We implemented this method and made full use of both the rendering and computing power of a graphics processing unit (GPU). The system could evaluate 964,207 candidate poses per second



Fig. 2 複雑な背景を持つ入力画像  
Fig. 2 Input image

そこで我々は、三次元モデルが既知の物体の位置姿勢推定にAnalysis-by-Synthesis(A-b-S)法を利用し、Computer Graphics(CG)による予測画像の描画と入力画像とのマッチングにGraphics Processing Unit(GPU)の能力を積極的に活用する手法を提案した。A-b-S法によって、モデルの情報から逆問題として解くことが難しい材質や光源等の条件を、合成した画像上で探索的に扱うことが出来る。

本手法により、複雑な背景のある入力画像とGPUでレンダリングした予測画像のエッジ画像同士のマッチングによって毎秒964,207個の姿勢を評価し、テクスチャの少ない三次元物体の位置姿勢推定を約1分半で行えることを実験で確認した。

and estimate the pose of a textureless 3D object in about one and a half minutes.

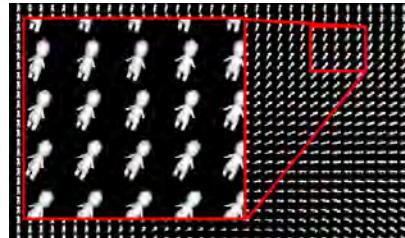


Fig. 1 GPUによってレンダリングした予測画像群  
Fig. 1 Candidate images rendered by GPU



Fig. 3 位置姿勢推定結果  
Fig. 3 Result

## 4.22 可展面モデルを用いた非剛体物体変形の推定

非剛体物体の3次元変形を高精度かつ高解像度に取得するセンシング技術のニーズが高い、しかし、計測機器の性能限界によって、そのニーズに応えることは難しかった。

そこで、本研究では、事前知識によって構造化された変形モデルを組み込むことで、限られたセンシングデータから、低ノイズ・高解像度の形状情報を推定する。特に、非剛体の対象として、可展面に注目する。可展面は、伸縮・断続することなく平面に展開することができる特殊な非剛体であり、紙などの様々な物体が

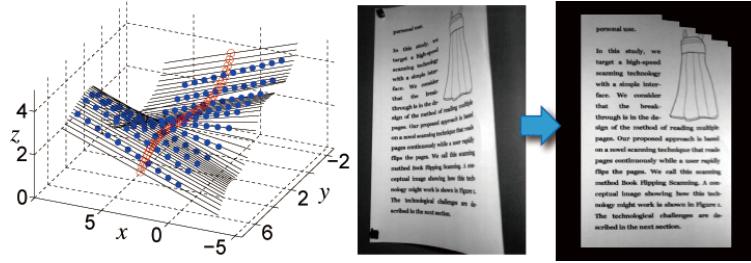
この特性を満たしている。

提案手法は、可展面の幾何学的特徴に基づいた微分幾何モデルを導入し、逆問題の枠組みにより正確な形状推定と平面展開をおこなうものである。これは少ないパラメータで高い自由度を表現できるモデルを用いることで、低解像度で、またノイズが含まれるような3次元データからでも高精度な推定を可能とするものである。この提案手法を用いた発展研究として、ブックフリッピングスキャニングがある。

There is a strong demand for a method of acquiring a non-rigid shape under deformation with high accuracy and high resolution. However, this is difficult to achieve because of performance limitations in measurement hardware.

We propose a model-based method for estimating non-rigid deformation of a developable surface. The

model is based on geometric characteristics of the surface, which are important in various applications. This method improves the accuracy of surface estimation and planar development from a low-resolution point cloud. Experiments using curved documents showed the effectiveness of the proposed method.



## 4.23 その他の研究成果

この他にも、VCS-IV: ビジョンチップを用いた実時間視覚処理システム , RISC 統合型ビジョンチップコントローラ , ビジョンチップ用超並列コンパイラ vcc , VCS-III: ビジョンチップを用いた実時間視覚処理システム , ビジョンチップ用プログラミング言語 SPE-C , ビジョンチップコントローラの設計 , S3PE アーキテクチャに基づくフルカスタム試作チップ , 1ms ビジュアルフィードバックシステム , SPE-4k システム , ピクセル参照のインターリーブ高速画像認識のためのメモリ共有型マルチ SIMD アーキテクチャ , 多数粒子情報の並列抽出アーキテクチャ , 動的再構成可能な SIMD 型超並列処理アーキテクチャ , デジタルビジョンチップのためのグレイコードを用いたビットシリアル AD 変換 , S3PE: 超並列ビジョンチップアーキテクチャ , 高フレームレートカメラを用いたビデオモザイキング , 顔追跡による遠隔カメラの PTZ 制御 , 運動物体の高解像度三次元形状の復元 , 特徴点追跡による三次元形状復元 , 運動物体形状の高解像度化のためのマルチフレーム同時位置合わせ , モーメントを用いた三次元物体のトラッキング , 空中タイピング動作の認識 , リアルタイム視覚計測 : 対象計数 / 回転計測 , 2 分探索ラベリング / マルチターゲットトラッキングアルゴリズム , ビジョンチップを用いたウェアラブルマンマシンインターフェース , ビジョンチップのための複雑背景下での二値画像トラッキングアルゴリズム , ビジョンチップ用コンパイラのためのビットレベル最適化 , ソフトウェア A-D 変換を用いたセンサ特性制御 , Self Windowing を用いた高速対象追跡 , ビジョンチップのためのマッチングアルゴリズム等の研究を行っている。



# メタ・パーセプション Meta-Perception

人間の知覚は、本質的に限界がある。人間の能力を超えた知覚を適切な形で人間に与えることは、人間の認識行動能力の向上に寄与するとともに、新たなマンマシンインターフェイスの開発につながる。このためには、人間の認識行動様式を把握し、適切なインターフェイスを設計する必要がある。機械の知覚も同様であり「はかる」技術から「わかる」技術への変革が求められており、高度な知能システムには、自己の認識や感情の認識などの新たな知覚が求められている。その際、認識と行動は一体のものとして設計される必要がある。

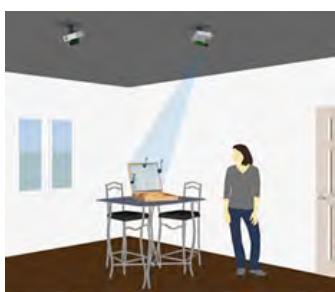
メタ・パーセプションは、これらの技術の総称であり、本研究室では、センサや知能システムの技術ばかりではなく、ヒューマンコンピュータインタラクション、メディアアート、神経生理学、倫理学などの分野からのアプローチにより、ユーザや機械が扱えないとされてきた情報を取得・操作することと共に、新たな学際分野の確立を目指している。

Human sensorial modalities are inherently limited, as is our cognitive capacity to process information gathered by the senses. Technologically mediated sensory manipulation, if properly implemented, can alter perception or even generate completely new forms of perception. At a practical level, it can improve the efficiency of (low or high level) recognition tasks such as behaviour recognition, as well as improve human-to-human interaction. Such enhancements of perception and increased behavior recognition also allow for the design of novel interfaces. The problems of human perception and machine perception are reciprocally related; machine perception has its own limitations but can be trained to recognize self-perception, social perceptions, and emotional expressions.

Meta Perception is an umbrella term for the theory and research practice concerned with the capture and manipulation of information that is normally inaccessible to humans and machines. In doing so, we hope to create new ways of perceiving the world and interacting with technology. Our group is not only concerned with intelligent sensors and systems technology, but also augmented reality, human-computer interaction, media art, neurophysiology, perspectives from fields such as ethics, and the computer-supported cooperative-work. Combining techniques we aim to integrate human and machine perception and as a consequence create a new interdisciplinary research area.



## 5.1 Invoked Computing: まわりにあるものを 視覚・聴覚インターフェイスに変える拡張現実感



普段使っているモノがそのまま拡張され、人間と直接インタラクションをとれるようになることは、人間の本来持つ能力を伸ばすヒューマンコンピューターインターフェースへの第一歩です。

Rich Goldは過去にユビキタスコンピューティングのことを「魔法にかけられた村」に例えています(R. Gold, "This is not a pipe," Commun. ACM 36, July 1993)。そこでは、人々は普段使っている(インターフェースとして機能している)モノから隠されたアフォーダンスを見つけ出してゆきます。このプロジェクトでは我々はRich Goldの説とは逆の方向からアプローチします。ここでは、ユビキタスシステムは人が取る行動によって提示された行動を発見し、それに応じたアフォーダンスを提供します。ここでの人が取る

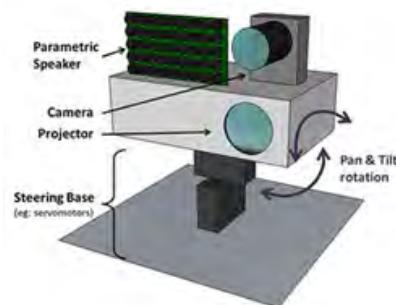
行動とは、普段使っているモノをつかって何かの動作をまねる一連の流れをさします。まねることで、ユビキタスシステムの環境が、共通のAR技術を利用して実在するモノの機能を拡張させ、環境を統合できます。例えば、バナナをもって耳に近づける動作。マイクと部屋のなかの見えないところに設置されたパラメトリックスピーカーを通じて実在するバナナに現実世界の受話器の機能をその場で与えることができます。

言い換えれば、“invoked computing”プロジェクトの狙いは、普段つかっているモノが、その場でコンピュータインターフェースになったり、コミュニケーションデバイスに変わったりするようだがマルチモーダルなARシステムを開発することだと言えます。動作を試してもらうことで、アプリケーションが起動します。システムは提示されたアフォーダンスを理解し、AR技術を通して提示された機能を具現化します。(例えば、ノートPCの機能を起動するにはユーザはピザの箱をあけて軽く表面を叩いてあげればよいといったものがあげられます。)我々はみな普段使っているモノを音や映像で拡張してゆくことに興味があるのです。

Direct interaction with everyday objects augmented with artificial affordances may be an approach to HCI capable of leveraging natural human capabilities. Rich Gold described in the past ubiquitous computing as an “enchanted village” in which people discover hidden affordances in everyday objects that act as “human interface “prompt[s]” (R. Gold, “This is not a pipe.” Commun. ACM 36, July 1993.). In this project we explore the reverse scenario: a ubiquitous intelligence capable of discovering and instantiating affordances suggested by human beings (as mimicked actions and scenarios involving objects and drawings). Mimicry will prompt the ubiquitous computing environment to “condense” on the real object, by supplementing it with artificial affordances through common AR techniques. An example: taking a banana and bringing it closer to the ear. The gesture is clear enough: directional microphones and parametric speakers hidden in the room would make the banana function as a real handset on the spot.

In other words, the aim of the “invoked computing” project is to develop a multi-modal AR system able to

turn everyday objects into computer interfaces / communication devices on the spot. To “invoke” an application, the user just needs to mimic a specific scenario. The system will try to recognize the suggested affordance and instantiate the represented function through AR techniques (another example: to invoke a laptop computer, the user could take a pizza box, open it and “tape” on its surface). We are interested here on developing a multi-modal AR system able to augment objects with video as well as sound using this interaction paradigm.



## 5.2 Virtual Haptic Radar: 存在しないものを感じるシステム

Virtual Haptic Radarは、CGを後から合成する仮想的なスタジオにおいて、見えない仮想物体の存在を役者に伝えるためのウェアラブルデバイスである。本デバイスは、Haptic Radarを、バーチャルリアリティ空間で利用するための拡張システムである。Haptic

Radarは振動素子と実在の障害物に対する距離を測るレンジファインダから構成されているが、Virtual Haptic Radarはレンジファインダの代わりに超音波型の位置測定システムを備えている。これは、スタジオ内の相対位置を測るためにものである。同モジュ

ルは、現在の仮想シーンに対する簡単な3次元マップをワイヤレスに取得することができる。仮想物体との距離が近いことを検出した場合には、振動素子がユーザにその距離を伝える。

このような仮想スタジオでのトラッキングシステムは、次の要求仕様を満たす必要がある。(1)それぞれのモジュールは室内での自己位置を、他のモジュールと独立して、分散的に取得する必要がある。(2)スケラビリティの点から安価である必要がある。(3)各モジュールは役者を撮影するカメラに対して不可視である必要がある。(4)モジュール間の干渉が起こらない構成である必要がある。

The Virtual Haptic Radar (VHR) is a wearable device helping actors become aware of the presence of invisible virtual objects in their path when evolving in a virtual studio (such as a "bluescreen" filming stage). The VHR is a natural extension of the Haptic Radar (HR) and its principle in the realm of virtual reality. While each module of the HR had a small vibrator and a rangefinder to measure distance to real obstacles, the VHR module lacks the rangefinder but accommodates instead a (cheap) ultrasound-based indoor positioning system that gives it the ability to know exactly where it is situated relatively to an external frame of reference. Each module maintains a simplified 3d map of the current virtual scene that can be updated wirelessly. If the module finds that its own position is inside the force field of a virtual object, it will vibrate.

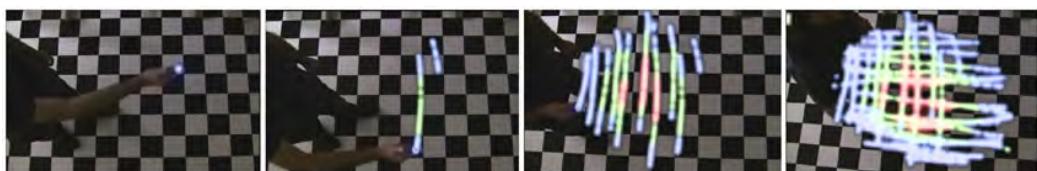
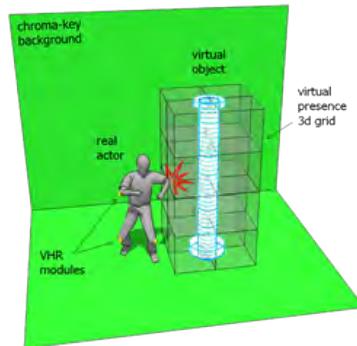
It is important to understand that the requirements for our tracking system are fundamentally different from that of traditional (optical or magnetic based) mo-cap systems: (1) each VHR module must know its own position in the room, independently from the others and without the need for a centralized computer; (2) the tracker must be inexpensive in order to enable scalability; (3) the modules must be invisible to the cameras (in particular, they should not emit or reflect visible light); and (4) interference should be minimal or nonexistent if one wants tens of modules to work simultaneously (this puts aside most non-sophisticated magnetic trackers).

With these considerations in mind, we first considered optical based methods such as Prakash [Raskar and al. 2007], which have been shown to satisfy all these constraints. However, we eventually preferred to develop a

このような要求を満たす構成として、例えば、Prakash [Raskar and al. 2007]のような光学式のシステムが考えられるが、複雑性を避けるために、超音波方式のカスタムシステムを採用した。開発したプロトタイプは、2から8個の15msごとに信号を出力する超音波モジュールから構成されている。受信機は到達時間の違いから自己位置を計測し、適切な振動の強度を計算するマイクロコントローラで構成されており、衣服の下に装着される。検証の結果、このような安価なシステムを用いて、4m×4m程度の空間における仮想物体の障害物回避に成功した。位置精度の向上が今後の課題である。

custom system based on ultrasonic triangulation and radio synchronization (the main reason for this choice being avoiding a complexity of the spatio-temporal structured optical beacon). Our prototype simply consists on 2 to 8 ultrasonic beacons emitting bursts every 15ms. A radio signal synchronizes receivers with the start of an ultrasound sequence. The receivers, concealed under the clothing, contain a micro-controller that computes the difference of arrival times, triangulates its own position and determines the adequate level of vibration. We successfully demonstrated this cheap solution for virtual object collision avoidance in a plane about 4x4 meters wide.

Future work will aim to decrease directivity of the ultrasonic beams which was shown to limits the range of movements of the user as well as improving the triangulation algorithm in order to compute height.



### 5.3 箱の中の自己 (boxedEgo): 自分をのぞき見るメディアアート



BoxedEgo(箱の中のエゴ)は自己の為の二重の戻である。展覧会を訪れた鑑賞者は、まず展示室の隅に置かれたピープショー(見せ物箱)と鑑賞者自身に好奇心をそそられることになる。のぞき穴をのぞくと、一見その箱には何も含まれていないかの様に見えるが、鑑賞者が言葉を発したり、息をすると、その箱は人間という

餌食を見つけ出し、彼らを箱の中に引きずり込んでしまう。その事によって、鑑賞者を鑑賞される対象へと変化させることになる。箱の中に閉じ込められた鑑賞者は徐々に三次元の小人として現れるが、ライフストリーミングの遅延を利用する事によって鑑賞者は当初他者を見ているかの様な錯覚に陥る。鑑賞者が静止すると、イルージョンは終わりを迎え、その箱は徐々に、無限に連なる隠れた空間から餌食を追い出して空になっていく。Boxed Egoは多数の映写技術的視覚効果を合わせる事で、不思議な体外離脱体験を創造する事を目的としている。(ステレオスコープ、ジオラマ、

ピープショー、ペッパーズゴースト)研究の観点から考察すると、この作品は脳科学の視点からみる小視症による人口遅延を用いた自己像幻視の闇を探る実験として捉えることが出来るだろう。

二つのステレオカメラは四角い見せ物箱のある小さな台の上に向けて設置され、カメラから撮影されたライブビデオは箱の中にある二つの小さなディスプレイから上映されている。(箱に付いている二つの穴は立体鏡眼鏡と言える。)現実空間に分離して設置された二つのビデオカメラ(目と目)の間の距離は実際の目と目の間の距離の約10倍に設定されている為、



**BoxedEgo** is a double trap for the Self. A peep-show box waiting in a corner of the exhibition space first captures the curiosity of the observer - and then the observer himself. The box appears empty;

however, if the observer talks or breathes, the box readily detects this human prey and traps it in its interior, effectively transforming the observer into its own object of observation. Indeed, a dwarfed, truly three-dimensional version of the observer (peering inside an even smaller box!) will slowly materialize inside the box (a short delay is introduced in the otherwise live video stream, so that for a very brief moment the observer may think he/she is seeing someone else). If the observer stays still, the illusion will come to an end and the box will gradually empty itself, expelling its human prey from a suggested infinite nested chain of boxed spaces. BoxedEgo seeks to combine several pre-cinematographic techniques in order to create a magical out-of-body experience (stereoscope, diorama, peep-show box and synthetic pepper ghost effect). From the research perspective, this work can be seen as a

鑑賞者は10分の1に縮小された展示場の中にいる同じく縮小された自己を見る事が出来る。これはハイパーステレオ効果を使った物である。(カメラとカメラの間隔を、人間の眼の間隔よりも遠くして、肉眼では知覚できない奥行きを作り出す)箱の中の角に確実に適合する誤った三次元の角はLCDを元にしたステレオペア(視差が生じるような2枚の画像を左右に並べたステレオグラム)よりもたらされ、特殊なレンズ/プリズムによって右の眼のバージェンス(双眼視のために必要とされる反対の方向の両方の目の同時に動き)を生む事が出来た。

preliminary experiment on the cognitive (and possible practical) aspects of time-delayed artificial autoscoppy/heautoscoppy with micropsia (see [1]).

Two stereo cameras are aimed towards a small platform on a corner of the exhibition space over which sits the cubic peep-show box; the live video from the cameras is fed into two small displays inside the box (the holes of the peep-box are in fact the eyepieces of a live-stereoscope). The separation of the video cameras in real space is set to about ten times the real interocular distance, so the viewer will see a ten times scaled-down version of himself, inside an equally miniaturized exhibition space (hyperstereo effect). False three-dimensional corners (from pre-recorded footage or synthetized by the computer) that exactly match the real corner of the box are generated through an LCD based stereo-pair and a special lens/prism is used to produce the right eye vergence.



## 5.4 変形するディスプレイ (Deformable Workspace): 3次元の仮想物体を扱うための新しい枠組み

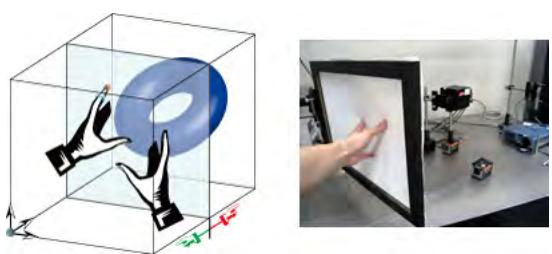
3次元の仮想物体を扱うための新しい枠組み Deformable Workspaceを提案する。提案技術では、現実と仮想の2つの空間において、知覚の整合性を保つことで、仮想物体との直感的なインタラクションを実現することを目的としている。本システムでは、透明でタンジブルな境界面として働く物理的な膜を介して、両空間が接続していることをメタファとして取り込むことで、本目的の実現を目指した。

システムは、3つの重要な技術を基盤として開発された。基盤技術となったものは、タンジブルで変形可

能な投影スクリーン、リアルタイム3次元センシング、アナモルフィック投影における適応的映像補正の3技術である。変形するタンジブルスクリーンの導入によって、知覚の問題を解消するとともに、独自に開発した高速センシングによって、適応的な映像補正とシームレスな操作が可能となっている。また、本システムで有効に作用する新たな応用を提案した。本論文では、マルチタッチによる物体の3次元操作、自由曲線や曲面の3次元モデリング、物体の内部構造の表示機能を具体的に実証した。

We propose a variant of the multi-touch display technology that introduces an original way of manipulating three-dimensional data. We will call the implemented system a deformable workspace.

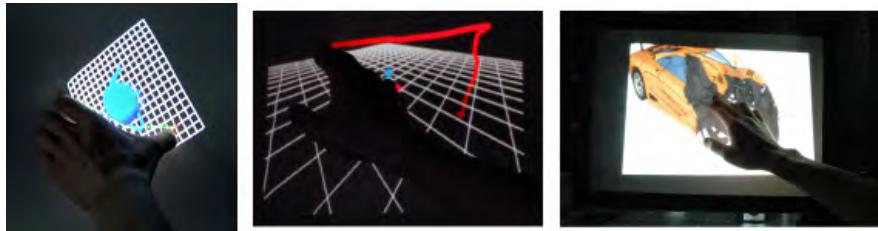
The left image illustrates the metaphor of our proposed deformable workspace. The virtual object "exists" and is represented in virtual space, while the user exists in real space, but is not represented (as a whole or in part) in the virtual space. The idea is to maintain a useful and simple relationship between



virtual and real space by using a unique coordinate system that is shared by both spaces. Between these spaces lies a "transparent" and tangible membrane. Users can manipulate the objects in virtual space by deforming the membrane and observing the effects on the virtual object (much like a surgeon operating on a patient with gloves).

By doing so, the interface can create the illusion of continuity between the user's real space and the virtual

three-dimensional space. The prototype system presented here enables this by employing three key technologies: a tangible and deformable projection screen, a real-time three-dimensional sensing mechanism, and an algorithm for dynamic compensation for anamorphic projection. We successfully demonstrated several applications including 3D translation, 3D manipulation by two hands, 3D freehand drawing, 3D sculpture, and arbitrary volume slicing.



## 5.5 パララックス・オーギュメンティッド・ディスプレー

本研究の目的は、2次元ディスプレー上でより広い範囲を扱うことができる簡単な空間的操作を実現することにある。この方法は、立方体を表示する際に、スクリーンでは隠れた面、すなわち他の5つの面まで表示し、アプリケーションの操作ができるようにするものである。このような方法によって、自然で効果的なインタラクションが実現できる。ユーザーの頭部位置はカメラによって測定し、立方体の各面は回転し投影された形で表現される。

画像は3次元ではないが、ユーザーの頭部位置に基

づき正確に計算された仮想的なパララックスを用いて、仮想的な3次元空間を産み出すことができる。それを用いることで、通常のGUIの環境の上でも、アイコンを選んだり、ウィンドウを空けたり閉じたりといった操作を簡素化することが可能となる。

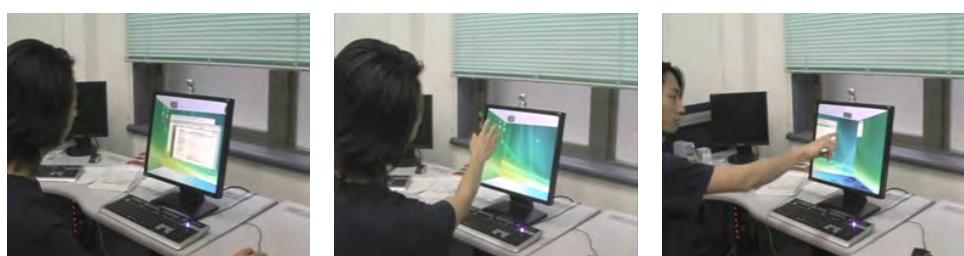
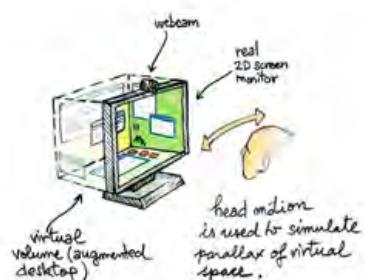
直感的で訓練の必要のないパララックス・オーギュメンティッド・デスクトップを試作し、遠く離れた情報を得ることに対して、通常のマウスによるスクローリングよりも高いパフォーマンスを得ることを示した。

The goal of this project is to exploit a simple spatial metaphor to simulate a much larger desktop area on a two-dimensional displaying screen. The metaphor consists on considering the actual displaying screen as the face of a cube that extends behind the screen (see figure below). The user is then able to see the other five faces of the cube (from the inside), and can place icons and organize applications over its faces. The interaction method is designed in such a way as to naturally and powerfully evoke the metaphor described above: the user head is continuously tracked by a webcam on top of the screen, and the virtual cube is rotated and projected on the screen creating the illusion of a real cube right behind the screen.

Even though the image is not in 3D, when fine tuned, the adequate simulation of virtual parallax with respect to the motion of the user's head creates a compelling illusion of a virtual three-dimensional space. We hypothesized that we could take advantage of this illusion in order to simplify the task of selecting icons,

closing and opening active windows as well as organizing information windows on a conventional Graphical User Interface environment.

Our first usability test was encouraging, as it showed that the use of the Parallax Augmented Desktop is very intuitive (training is not needed at all), and actually performs better (in terms of speed) than scrolling the mouse in order to get information on the far right or left of the screen .



## 5.6 3次元データの能動的表示 (Volume Slicing Display)

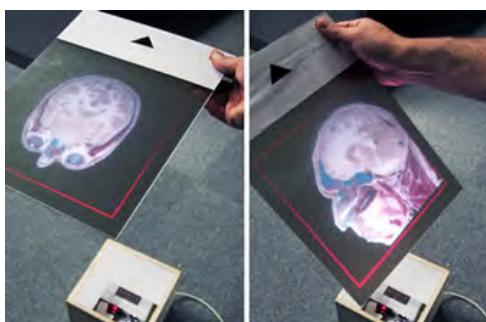
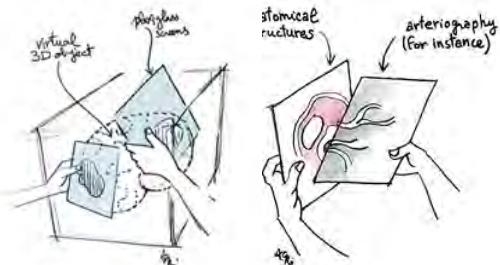
Volume Slicing Displayは、タンジブルスクリーンを用いて体積データをインタラクティブに探索するインターフェイスである。

このシステムでは、我々の研究室で開発された単眼超高速ビジョンシステム(ビジョンチップ)を用いて、空間中にある受動的スクリーン(アクリル板)の3次元的な形状と位置をトラッキングしている。そして、プロジェクトからリアルタイムに、スクリーンの傾きに合わせた3次元ヴァーチャルオブジェクト断面をスクリーンに投影する。

この実験的インターフェイスは多人数のユーザに実空間上に3次元ヴァーチャルオブジェクトが存在しているかのように感じさせるだろう。また、受動的かつ安価な投影表面(アクリルや紙でもよい)を用いることで、インタラクティブに3次元オブジェクトの任意断面を探索することを可能にしている。

構造化光源と我々のビジョンチップシステムとを

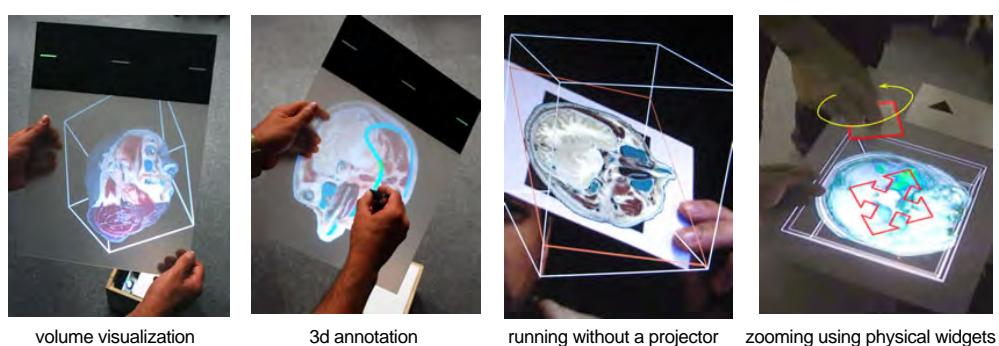
組み合わせることで、変形可能なスクリーンの形状をリアルタイムに取得することもできる。よって、任意形状の「切断曲面」を設定することができる。(この意味では、このプロジェクトはクロノスプロジェクタインターフェイスのゴールを拡張するものだと言える。)



We introduce a method and a prototype system for interactive exploration of volumetric data using a tangible screen, called the Volume Slicing Display. The system tracks the shape and the position of a passive screen (a piece of plexiglas or paper) using a custom

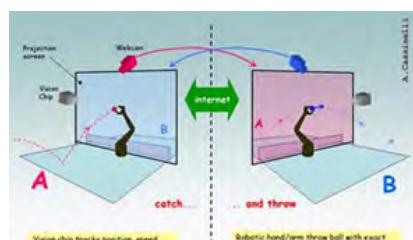
monocular high-speed vision system (Vision Chip) or using ARToolkit markers in a more recent setup conceived to be built from off-the-shelf hardware; then one or more projectors on the room project the corresponding slice of a 3D virtual object on that surface in real time. This experimental interface will enable multiple users to feel as if 3D virtual objects co-exist in real space, as well as to explore them interactively using cheap passive projection surfaces (plexiglas or even paper).

Coupling our Vision Chip system with a source of structured light we can also acquire the shape of a deformable screen in real time [see ref. 2], thus enabling the definition of arbitrarily shaped "cutting surfaces" (in this sense, this project extend the goal of the Khronos Projector interface). The ARToolkit markers also serve as buttons setting different interaction modes.



## 5.7 テレピンポン：IT を用いたワームホールの検証実験

満渕研究室と下条研究室の協力を得て、ロボットベースの遠隔現実感システムを開発した[1]。このシステムは、ユーザーが遠くにある対象物を認知し触れ合うことを可能にするもので、先進的な遠隔現実感システムである。このプロジェクトでは、この成果を用い、物理的な対象物に対してインターネットを通した遠隔操作をシミュレートする人工的なワームホールのようなシステムへレベルアップを図ろうとしている。物理的対象のすべての構造がインターネットを通して伝達できるのであれば、遠隔地ではその情報に基づいて対象物を再構成できるはずである。このことは、SFのテレポーテーションに近いものとなる。今回、



離れたところでピンポン球を遠隔操作してピンポンを行なうシステムを構築した。高速トラッキングにはビ

ジョンチップ[2]を用い、ピンポン玉の状態(位置、速度、回転[4])を測定し、投球／キャッチロボット[5]で用いた高速ロボットを用いることにより、双方でピンポン球を操作できるようになる。

研究室で既に開発済みのジョンチップベースのエアホッケーシステム[3]を用いてプロトタイプシステムを開発し、実証実験を行った。現在、これを改良し

Robotic-based tele-existence has been studied in our lab in collaboration with Mabuchi Lab and Shimojo Lab [1]. This was an advanced form of tele-presence allowing the user to feel and interact with object at a distance. With this project we try to bring the experience to the next level by simulating the teleportation of a physical object through internet, thus creating an artificial (IT-engineered!) gravitational wormhole. One can argue that, if all the structural information of a physical object could be transmitted through internet, and then on the other side a machine could exactly reconstructs the object based on this information (very much like "total fax" machine), this would be, if not exactly the same, something very close to SF-teleportation. We then set ourselves to simulate the teleportation of a ping-pong ball in a ping-pong game where the users are very far away from each other. Thanks to vision-chip based high-speed tracking [2], we can acquire in real time all the parameters of the relevant phase space of the ball (namely, its position, speed and spin [4]). Then, using high-speed and high-precision robotic arms such as the one used in our catching/throwing experiments

て、電磁的なキャッチャーと発射装置に高速のリニアアクチュエータを用いることで、正確な運動を再現するシステムを設計している[6]。伝達時間遅れは避けようがないが、発射のタイミングは予測を導入して補償し、実際のキャッチの前にデータを送ることが可能である。

[5], one can in principle catch the ball on one side, and throw another ball on the other side - with copied, identical dynamical parameters.

A prototype system was developed and successfully demonstrated in two dimensions, taking advantage of the research already done in our lab on a vision chip-based air-hockey system [3]. This configuration (namely a tele-air hockey system) was discussed in 2005 with a researcher in Australia who then went on developing a very similar system but without real transmission of the puck momentum, nevertheless demonstrating the thrilling possibilities of social interaction generated by physical games at a distance. We are now designing an electromagnetic catcher/ launcher mounted on a high-speed linear motor (THK GLM10) to exactly reproduce the momentum of the puck [6]. The delay for transmission is incompressible (not a real gravitational wormhole!), but the robot launching-time (i.e. setting the linear motor to the right speed/position) can be compensated by predicting the projectile trajectory and sending this data before the actual ball is caught in front of the screen.



## 5.8 クロノスプロジェクタ：時空間を操るディスプレイ



クロノスプロジェクトはあらかじめ録画してある映像コンテンツを探索できる、新しいインタラクティブアートインスタイルーションである。ユーザは、映像が投影されたスクリーンを変形させることで、映像の一部分の時間を進ませたり、巻き戻したりできる。柔らかいスクリーンを手で触ることでスクリーンを揺らしたり部分的に歪めたりすると、投影されている映像の時間が空間的に波打つ「時間の波」や、空間の一部分だけが異なる時間の映像になる「時間の島」をスクリーン内に創り出すことができる。こうしたスクリーン上の映像は、映像の空間軸と時間軸(奥行き)から成る直方体状の3次元データを「切断する」2次元の時空間断面を、インタラクティブに変形することで生成されている。このスクリーンは、伸び縮みする薄い布地を用いることで、触覚フィードバックを通じて繊細かつ自然な反応を実現している。これは人間と機械のインタラクションという観点からすれば、物に触れる際の繊細さを測れるタンジブルヒューマンマシンインターフェイスに向けての第一歩と言える。

このプロジェクトは多くのメディアアートフェスティバルやテレビ番組でこれまでに取り上げられてきた。

この変形型圧力感知スクリーンは、当初「ビデオ・キューブ」(上述した映像の空間と奥行きを時間軸とした直方体データ)の切断面を表現するために開発されたが、一般的にはどんな種類の立方データであれば(例: 人体のスキャナ画像)、任意の形の断面をインタラクティブに設定し、視覚化することができる。具体的には、実際に外科医が手術している時のように、人体の断面を複雑な形状の表面に表示することができるので、手術練習用インターフェイスの基礎技術になり得る。また、このコンセプトを拡張した Volume Slicing Display も我々の研究室で開発している。



The Khranos Projector is an interactive-art installation allowing people to explore pre-recorded movie content in an entirely new way. By touching the projection screen, the user is able to send parts of the image forward or backwards in time. By actually touching a deformable projection screen, shaking it or curling it, separate "islands of time" as well as "temporal waves" are created within the visible frame. This is done by interactively reshaping a two-dimensional spatio-temporal surface that "cuts" the spatio-temporal volume of data generated by a movie. From the human-machine interaction point of view, the Khranos-Projector tissue-based deformable screen is a first step towards a tangible human-machine interface capable of sensing the delicacy of a caress - while at the same time able to react in a subtle and natural way, also through tactile

feedback.

This project has been featured in a number of Media Art festivals and TV programs (abundant information, images and video can be found here). Although the pressure-sensitive deformable screen was initially developed for the slicing the "video-cube", it can in general be used to interactively define and visualize arbitrarily-shaped slices of any sort of volumetric data (e.g. body scanner images, layered geological data, architectural or mechanical drawings, etc). In particular, it can be a starting point for developing a pre-operative interface capable of showing inner body sections mapped onto complex surfaces, just as they would appear to the surgeon during an actual operation. The Volume Slicing Display also being developed in our lab is an extension of this concept.



## 5.9 Laserinne: 雪上へのレーザー描画を通じた大規模インタラクション

この研究のゴールは、スキー場の斜面全体をインタラクティブなディスプレイに変えてしまうことであり、スキーヤーの動きに合わせて雪上に絵が描かれていくことでもある。本研究ではレーザープロジェクションを用いることで、一ヶ所の投影機から、様々な距離におけるでこぼこした表面に絵が描かれていく（通常のプロジェクターでは難しい）。さらに、高いコントラストのイメージを投影することで、雪は優れた投影面となる。また、いくつかのインタラクションのシナリオは既に検討されている。

- ・仮想スキーヤー
- ・仮想障害物
- ・スキーヤーへの情報呈示（競争者のスコア、動きの軌跡、スピードの表示等）
- ・安全な場所の境界線
- ・初心者用と上級者用のトラック
- ・リアルタイムにネットワーク化された体験
- ・異なる場所
- ・大陸間のスキー斜面からのスキーヤーのシルエットの投影等

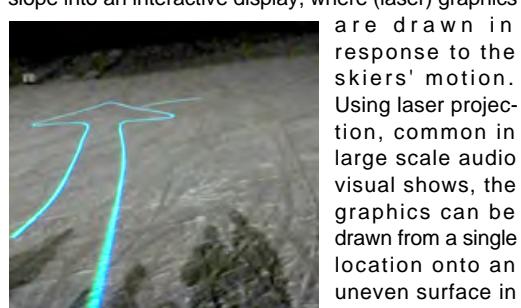
本研究は、ラップランド大学とベルリン芸術大学と東京大学の共同研究であり、直近のゴールを、2011FISアルペンスキーワールドカップにおいて、本システムを稼働させることに定めている。

本システムは通常のカメラトラッキングとカメラ

プロジェクター キャリブレーションを組み合わせており（カメラはステレオのペアか、既知の地形上にいるスキーヤーのトラッキング用カメラ1つを用いる）、レーザーセンシングディスプレイの理論的枠組みは我々の研究室で研究されてきた。後者の技術は、キャリブレーションのフェーズ無しの配置で簡単に、最小のフィードバック遅延でリアルタイムのインタラクションを可能とする。本システムは、情報学的なものからエンターテイメント的なものまで（観客やスキーヤー自身のため、スコアや安全圏、危険な障害物の喚起等）、いくらかの可能なインタラクションのシナリオを容易に実現させ、雪上斜面における新しい形での競争や体験を提供していくことを目指す。（雪上ののみならず、あらゆる種類の平面での適用が考えられる：サッカー、テニス、遊び場、クライミングウォール、卓球台、普通の道等）



The goal of the project is to transform a whole ski slope into an interactive display, where (laser) graphics are drawn in response to the skiers' motion.



Using laser projection, common in large scale audio visual shows, the graphics can be drawn from a single location onto an uneven surface in

varying distance (something impossible to attain with standard projectors). Moreover, snow provides an excellent projection surface, giving high contrast imagery. Various interaction scenarios are being explored, including interaction with virtual skiers and virtual obstacles, annotation (competition scores, motion trails, speed display, etc), demarcation of safety perimeters and tracks for novices and skilled skiers, as well as real-time networked experiences (e.g. projection of skiers silhouettes from a ski slope in a different continent, etc). This is a collaborative project between the University of Lapland, the Berlin University of the Arts and the University of Tokyo, and the immediate goal is to showcase the

easy deployment without the need of a calibration phase. All this facilitates numerous possible interaction scenarios ranging from informative to playful (for the audience and for the skiers themselves - including scores, secure perimeters, notification of dangerous

obstacles in real time), to new forms of competitions and experiences on the slopes (and eventually on all kind of playgrounds regardless of the scale and shape - such as football or tennis, playgrounds, climbing walls, ping-pong tables, or just the street).



## 5.10 Light Arrays: 光を用いた身体拡張



は以下に挙げる、研究の2つの興味深い方向を目指してのものである。

- ・人工的なビジュアルフィードバックシステムにより生成される、受容感覚の拡張。これは、複雑な身体的技術を学習することや、リハビリテーションのスピードを上げることや、身体の表現能力を探すことにもまた役に立つ。
- ・身体イメージのインタラクティブな拡張や、個人間のパーソナルスペースをビジュアルで明快に表すことによって促される、強化身体インタラクション。

このシステムは、Haptic Radarを補完する(とともに、いくらかの正反対の機能をもつ)ものである。Haptic Radarが着用者周囲の物体や触覚を変換した情報を集めるのに対してLight Arraysシステムは、着用者の姿勢についての情報をまとめ、周囲の観測者全員に投影するものである。

The Light Arrays project explores the extension of the body through an array of visible light beams projecting on the environment a dynamic representation of the body, its movement and posture. Interestingly, these light cues are visible both for the user wearing the device as well as for others. This feature points to two interesting lines of research:

- Augmented Proprioception generated with an artificial visual feedback system. This can be useful for learning complex somatic techniques, speeding-up rehabilitation, as well as exploring the body's expressive capabilities.
- Enhanced body interaction prompted by an interac-

我々は、レーザモジュール、サーボモータ、センサを用いて、Light Arraysの具現化を図っている。レーザ光の方向と強度は、着用者の動作や2人目の動作に応じて、制御される。これによって、同システムを利用する2人のユーザーの間で、拡張された身体が共有されるというインタラクションを創出できる可能性がある。

図に示すin-visible skirtプロトタイプでは、4つのサーボモータによりフレキシブルな変形や回転が可能な円状の支持体に、12個のレーザモジュール(635nm, 3mW)がついている。身体の動作を捉えるウェアラブルセンサのデータに応じて、コントローラは様々なサーボ指令を送り出し、モータを制御する。このビデオでは、前後左右の曲げ姿勢によって、in-visible skirtが動作する様子をデモンストレーションしている。3つの別々の電源がサーボ、レーザ、マイクロコントローラの駆動に用いられている。

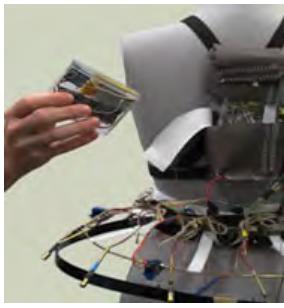
データは、XBee Znet2.5ネットワークを通じてワイヤレスで送られ、生データの30Hzでの転送とコードされたコマンドの低速での実行が可能である。それと同時に、センサデータが外部のデスクトップコンピュータに送られ、新しいシステムの挙動の設計やデータの解析に役立てられる。



tively augmented body image (in time and space), as well as a clear visual representation of interpersonal space.

well as a clear visual representation of interpersonal space.

This system complements - and to a certain extent functions as the exact reverse - of the Haptic Radar system, in which rangefinders were used to extend spatial awareness through vibrotactile feedback. Indeed, rather than gathering information on the objects surrounded the wearer and transducing it into tactile cues, the Light Arrays system gathers information about the wearer's posture, and projects this information onto



the surrounding for everybody to observe.

We are exploring several embodiments of the Light Arrays using laser modules, servo motors, and sensors (either worn or external). Both direction and intensity of the laser beams are modified according to the

motion of the wearer, or in response to the motion of a second person. This creates an interesting interaction scenario in which the extended body may be shared between two persons. In the in-visible skirt prototype

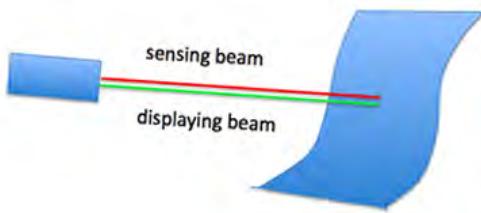
shown in the figures, each of the 12 laser modules (635nm, 3mW) attach to a flexible circular support that can be deformed and rotated thanks to a set of four servo motors. A microcontroller (ATmega168) maps sensor data coming from a second wearable "controller" into different meaningful servo positions. An elementary mapping demonstrated in this video shows forward/backward or left/right bending postures mapped as similar motions of a light-based skirt. A set of three separated battery sources is used to drive the servos, the lasers and the microcontroller. Data is sent wirelessly through an XBee 2.5 Znet network capable of transmitting raw data at a rate of 30Hz, or coded commands at a lower speed. At the same time, sensor data is sent to an external desktop computer that will be helpful in designing interesting new mappings and analysing the data.



## 5.11 スマートレーザープロジェクター： カメラレス センシングディスプレイシステム

スマートレーザープロジェクター(以降SLPと表記)は、レーザーを用いたプロジェクターであり、あらかじめ条件を指定されていない様々な物体表面に対してグラフィックを描画することが可能である。その一方、レーザーのビームを描画と同時にレーダーとして用いることで、照射表面の位置、形状、微細なテクスチャ、スペクトルの反射率、そして相対的な動きでさえも取得することが可能である(両者のビームは同時、異なる波長、もしくは偏光を利用)。そのため、様々な表面反射率を総合的に扱え、幾何学的な歪みを正しく補正することも可能である。また、すべてリアルタイムで処理され、カメラとプロジェクターのキャリブレーションを行う必要がない。これまで私たちは2つのプロトタイプを開発してきた。一つはラスター式キャンを行なうタイプで、もう一つはベクターグラフィックモードを搭載したものである。ベクターグラフィックモードでは、本研究以前に開発されたスマートレーザースキャナー、スコアライト、スティッキーライトを特別なアプリケーションとして組み込んでいる。

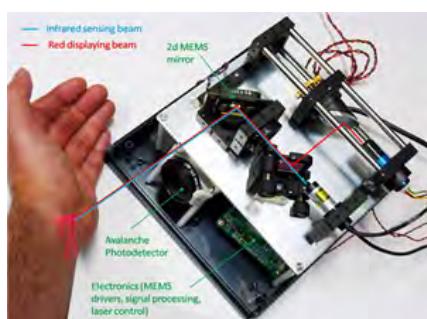
ARは、ここでは実際の物質上に記号(文字列)やアイコンを重ねて描画することを意味しており、危険な



障害物の方向を示すことや強調表示すること、そして実用的や美的的目的で線や輪郭を強調することにも利用可能である。

SLPは様々な応用分野を想定している。

- ・ 医療分野(皮膚科学：皮膚表面付近の静脈を強調して描画すること、癌細胞によって誘発される特異な偏光を皮膚表面に可視化すること)
  - ・ 非破壊コントロール(微細な傷、油分の付着した箇所、機械的な圧力の可視化)
  - ・ セキュリティ(個人認証：蛍光灯環境下における紫外線や赤外線の透かしの可視化)
  - ・ 様々な表面(テーブル、壁、床、人肌、印刷物、絵画、陳列された商品等)へのプロジェクションを可能とする、全ての種類のARアプリケーション
- レーザーを利用したセンシングディスプレイシステムは、従来のプロジェクターとカメラを利用したシステムに対して様々な利点を持っている。
- ・ カメラとプロジェクターのキャリブレーションが不要
  - ・ 高速なフィードバック(画像処理が必要ないことにによる)
  - ・ 幾何学的な補正、色やコントラストの強調及び補正が可能
  - ・ 極めて深い被写界深度
  - ・ 様々な解像度に対応：ROIにおいてレーザーのス



- ・キャニング幅が向上
- ・シンプルでコンパクトな光学システム：二次元の画像光学ではなく、そのため収差や大きな光学装置がない
- ・遠距離へのプロジェクションが可能(ベクターグラフィックモードにおいて。屋外でのインタラクティ

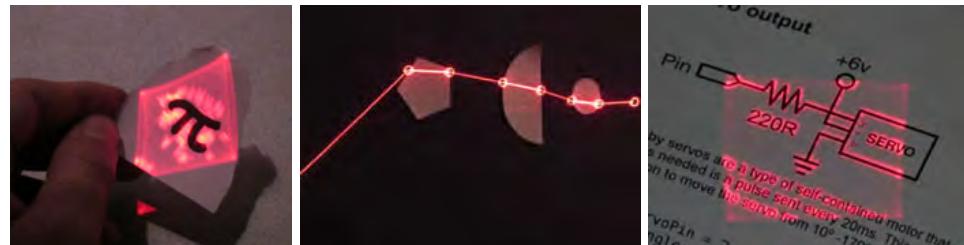
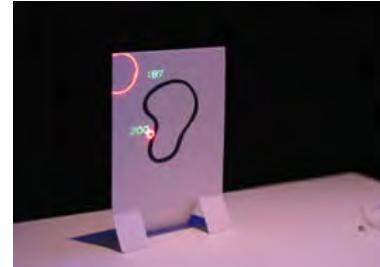
The 'Smart Laser Projector' (SLP) is a modified laser-based projector capable of displaying graphics on a variety of non-prepared surfaces, while simultaneously using the beam (at the same or different wavelength or polarization) as a LIDAR probe gathering information about that surface position, orientation and shape, fine texture, spectral reflectance and even relative motion. It is therefore possible to synthesize an artificial surface reflectance, or to correct geometrical warp, all in real time and without the need of calibrating a camera and a projector. We have developed two prototypes, one working in raster-scan mode, and another in vector graphics mode. Our previous research on the Smart Laser Scanner, scoreLight and Sticky Light can be seen as special applications of the SLP in vector-graphics mode.

Applications of the SLP may include dermatology (enhancement of superficial veins or direct visualization of anomalous polarization induced by cancerous cells), non-destructive control (visualization of microscopic scratches, oily spots or mechanical stress), authentication (visualization of non-fluorescent UV or IR watermarks thanks to 'artificial fluorescence'), and in general all sort of augmented reality applications using any available surface for projection (tables, desktops, walls and floors, but also human skin, printed material and paintings, market products on a shelf, etc). Augmentation means here overlaying of alphanumeric data or icons over real object (for instance, human-readable price tags appearing under machine-readable barcodes), dynamic cueing (marking secure perimeters, indicate directions or highlighting dangerous obstacles) and line and contour enhancement for practical or aes-

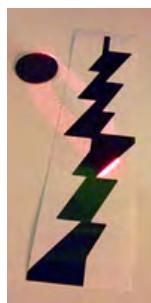
thetic purposes.  
The laser-based 'sensing display' paradigm presents a number of advantages with respect to the more classical 'projector-camera' setup used in sensor-enhanced displays, among which:

- no camera-projector calibration needed;
- very fast feedback (no image processing required);
- geometrical correction + color and contrast compensation possible;
- extremely large depth of field;
- variable resolution: the laser scanning step can be finer on regions of interest;
- simple and compact optical system: there is no 2d imaging optics, and hence no aberrations nor bulky optics;
- projection at very long distance in vector graphics mode ideal for outdoor interactive applications.

A MEMS based, compact SLP may eventually be embedded on clothes and used as a wearable display capable of transforming on-the-fly any surface nearby into a full interactive 'sensing display'.



## 5.12 スコアライト： レーザーを用いた人工的共感覚生成楽器



スコアライトは、手描きの線に沿ってリアルタイムに音を生成する楽器のプロトタイプである。同様に、(手、ダンサーのシルエット、建築物などの)3次元の物体の輪郭に沿って音を出すことも可能である。また、このシステムは、カメラとプロジェクタを使用しておらず、レコードプレイヤーにて針がレコードの表面の溝を探索しながら音を出すように、レーザーが絵の輪郭による溝を探索

しながら音を出す。音は、描かれた線の垂直方向からの角度、色、コントラストなどの曲がり具合によって生成され、変化する。また、空間性をもっており(下図:4つのデバイスを用いたシステム)、デバイスの探索位置、スピード、加速度などによってパンニング(音の定位の設定)ができる。スコアライトはジェスチャーや形、色などの見えるものを音に変えるといった、人工的な共感覚を実現している。例えば、線の方向が急に変わると、(バーカッションやグリッチのような)離散的な音が起因され、それによってベースとなるリズムが生まれる(一辺の長さによってテンポが定まる)。

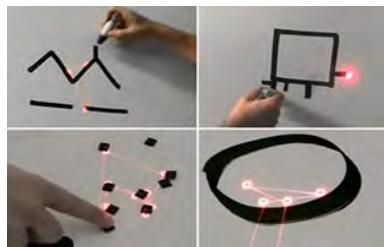
このハードウェアは、とてもユニークである。なぜなら、カメラとプロジェクターなしで(一点のセンサーと光源により)非常にめらかで速い動きのトラッキングが可能だからである。この光線は、盲目の人が杖を使って道の様子を探るのと全く同じ方法で、照射された物体の輪郭に沿って探索を行う。トラッキング技術の詳細はここに記す。このシステムを(右図のように)テーブルの上で使用するとき、レーザーの電力は0.5ミリワットとなり、弱いレーザーポイントの半分程度の電力となる。そのため、このシステムによる事故は起きにくいだろう。より電力の強い、多くの色を備えたシステムは、10メートル離れた建物の表面を(音と共に、目に見える形で)"augment"(強調)するなど、街の外観を"朗読する"ときなどに用いられる。

このシステムが楽器として価値があるかを評価するにはまだ早い。(幅広い表現が可能か?操作できることとランダムに生まれるところのバランスをどうるべきか?)しかし、興味深いことに、今のスコアライトは既に(芸術的な?)研究において予想だにしなかった

"scoreLight" is a prototype musical instrument capable of generating sound in real time from the lines of doodles as well as from the contours of three-dimensional objects nearby (hands, dancer's silhouette, architectural details, etc). There is no camera nor projector: a laser spot explores the shape as a pick-up head would search for sound over the surface of a vinyl record - with the significant difference that the groove is generated by the contours of the drawing itself. Sound is produced and modulated according to the curvature of the lines being followed, their angle with respect to the vertical as well as their color and contrast. Sound is also spatialized (see quadrophonic setup below); panning is controlled by the relative position of the tracking spots, their speed and acceleration. "scoreLight" implements gesture, shape and color-to-sound artificial synesthesia; abrupt changes in the direction of the lines produce trigger discrete sounds (percussion, glitches), thus creating a rhythmic base (the length of a closed path determines the overall tempo).

The hardware is very unique: since there is no camera nor projector (with pixelated sensors or light sources), tracking as well as motion can be extremely smooth and fluid. The light beam follows contours in the very same way a blind person uses a white cane to stick to a guidance route on the street. Details of this tracking technique can be found here. When using the system on a table (as in the image on the right), the laser power

た方向を暴きだした。ユーザーは、自分が絵を描いたり作曲をしていたとしても、そのことを本当に知らないということである。実際、聞こえるものと見えるものの相互の関係や(リアルタイムの)フィードバックがとても強力なため、ユーザーは、行動と音の新しい関係を作ろうとする欲求に駆られるだろう。絵を描いたり(drawing)、演奏したり(playing)しているわけではないが、同時にしているのである。drawplaying?



is less than half a milliwatt - half the power of a not very powerful laser pointer - and does not suppose any hazard. More powerful, multicolored laser sources can be used in order to "augment" (visually and with sound) facades of buildings tens of meters away - and then "read aloud" the city landscape.

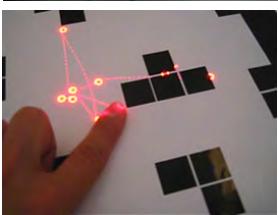
It is still too early to decide if this system can be effectively used as a musical instrument (has it enough expressivity? can we find a right balance between control and randomness?). However, it is interesting to note that "scoreLight", in its present form, already unveils an unexpected direction of (artistic?) research: the user does not really knows if he/she is painting or composing music. Indeed, the interrelation and (real-time) feedback between sound and visuals is so strong that one is tempted to coin a new term for the performance since it is not drawing nor is it playing (music), but both things at the same time... drawplaying?



## 5.13 スティックーライト：レーザーを用いた局所特徴の抽出と制御

レーザーによるスポットライトが、紙に描かれた模様で跳ね、模様の囲いから飛び出そうとします。このシステムにはカメラやプロジェクタがいっさい使われていません。Sticky Lightでは、ユーザーはレーザー

で映し出された点にそのまま触れ、インタラクションすることができます。だから、素手でピンポンだってできちゃうんです。このようにスポットライトの性質や柔軟な動きを通じて、他では味わえない体験が創出



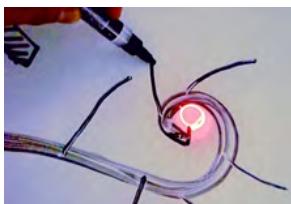
されます。Sticky Light の基盤技術には、1つのレーザーダイオード、1組のステアリングミラー、1つのフォトディテクタからなる“smart laser scanner”と呼ばれる技術を用いています。“smart laser scanner”は2003年に我々の研究室で開発された3次元トラッキングシステムです。スムーズに、柔軟に動きつつトラッキングを行うための十分な解像度をもつた画像センサー、光源

がついたカメラやプロジェクタが既存のものになかったため、ハードウェアも独自のものを用いています。(レーザーの電源は0.5mW以下であり、あまり強力でないレーザーポインタの半分程度なので危険性は低くなっています)探索範囲にインタラクション対象がない場合は、レーザードットが指、手、図形などの物体を探索するまで探索範囲を広げてゆきます。この探索のプロセスが端から見ていて愛らしくなるように設計されているため、ユーザとスポットライトとの間に自然とインタラクションが生じるようになっています。

インスタレーションとしてみると、このシステムで一番興味深い点は、紙に描かれた絵画の鑑賞する際に、照明が潜在的に絵画の見方の手がかりとなっていました。

ことです。自然光も人工光も基本的に我々が見たいものをいつも必ず照らし出してくれます。本システムではスポットライトの性質、また位置と角度によって描かれたものの知覚のされ方が変化します。実際のところ、光源自体は消極的な動作をしている訳ではありません。知覚された作品と、概念のレベルでインタラクションし見方を変化させているのです。このインスタレーションでは、次のような効果が特徴的です。描かれたものとの間へ、新たなインタラクションの方法を提示する。描かれたものを読み取り、その輪郭を辿ったり色の違いで跳ねたりすることでその絵画を拡張する。絵画の上を動くことで、スポットライトは視聴者の注意を惹き付ける。つまりところ、我々はレーザー光によって動的に生成された経路で絵画を見てしまうわけなんです。

HCIの研究としてみれば、(現状では既にMEMSマイクロミラーを用いて非常に小型化されている)このシステムを用いて、デザイン、広告、拡張現実アーキテクチャ、エンタテイメント、HCI、ユビキタスコンピューティング、(もうすぐ実現されるであろう)身近なものとインタラクションできるようにするウェアラブルディスプレイなど、非常に多様な分野においてアプリケーションが提示できることが挙げられます。



A laser spot bounces on a figure being drawn on paper, trying to escape the labyrinth of lines. There is no camera nor projector; Sticky Light proposes an experience where the audience can touch and interact with a beam of pure light - and even play a pong game with bare hands. The quality of the laser light, and the fluidity of

the motion makes for a very unique experience. The piece is based upon a 3d tracking technology developed in our lab in 2003, using a laser diode, a pair of steering mirrors, and a single non-imaging photodetector called the “smart laser scanner” (for details, see here). The hardware is very unique: since there is no camera nor projector (with pixelated sensors or light sources), tracking as well as motion can be extremely smooth and fluid. (The laser power is less than half a milliwatt - half the power of a not very powerful laser pointer - and does not suppose any hazard). When alone, the laser dot performs enlarging spirals until it finds some object of interest with which to play (fingers, hands, drawings, etc). A dialog then establishes naturally between the user and the spot of light - whose wanderings seem always playful and purposeful.

As an art installation, the most interesting aspect of the work is that it promotes a reflection on the role of light as a passive substance used for contemplating a painting or a drawing. Natural light, or an artificial spot of

light is always necessary to illuminate what we want to see; the quality of the light, the position and angle will modify the perception of a painting. In fact, the source of light is not really passive: it interacts and modifies the perceived work in an essential way. The installation amplifies such effect: it gives the light spot new ways of interacting with the painting; it augments its content by scanning the drawing, following the lines and bouncing on the colors. By moving on the drawing, the light spot attracts the attention of the viewer. It actually forces our sight to follow the dynamic path taken by the light.

From the point of view of HCI research, this system (which is now being miniaturized using MEMS micromirrors) will certainly find a number of applications in domains as varied as design and advertisement, augmented/live architecture, entertainment, human computer interfaces, ubiquitous, (and in the near future) wearable displays capable of interacting with their immediate surrounding.

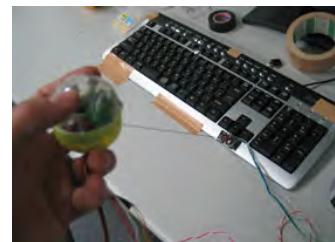




## 5.14 触覚フィードバックを用いた引き込み式3次元マウス

触覚フィードバックが可能な入力デバイスとして、机、衣服等、様々な所に取り付け可能な引き込み式の3次元マウスを提案、試作した。このシステムは我々が以前に提案した光ヘアモジュールに基づき、レーザーの代わりに手先部分と基部との間を物理的に繋いで触覚フィードバック機能を付加したものである。2軸のポテンショメーターにより引き込み可能なコードの2軸の方位角を計測すると同時に、手先部分にはロータリーエンコーダーによってコードの長さを測ることにより、3次元の位置及び速度を精度良くリアルタイムに検出している。また、マウスやトラックパッドのような従来の方法との比較を行った。その結果、2次元のカーソルの制御においても、引き込み式のコードを調節することで、速やかに対応が出来ることが示された。このシステムは、基部のないシステムに

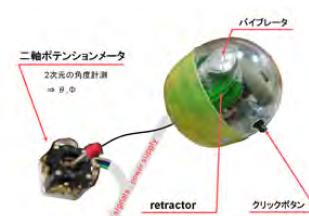
拡張でき、両手で操作することによりジェスチャー認識にも適用可能である。ロータリーエンコーダー、モーターによる振動子、プッシュボタン、多色LEDが手先部分に組み込まれている。現実点では引き込み可能なコードと信号線は別のものであるが、将来は一体化する予定である。この装置により入力されたデータはジェスチャー認識や仮想オブジェクトの操作等で利用できる。



We propose and demonstrate a retractable 3d tracking device that can be attached to any surface (desk, clothing, or another wearable electronic device) for use as an input interface providing haptic feedback. The system is based on "optical hair module" idea proposed earlier in our research (see smart laser scanner) but instead of a laser, it relies on a physical link between a reference base and a graspable extremity, and thus is capable of haptic feedback. A two axis potentiometer forms the base and records azimuth and elevation of the retractable cord (we also tried with two-axis isometric

force sensor), while a rotary encoder embedded on the mobile part continuously measures elongation, thus achieving precise 3D measurements in real time. We investigated pointing accuracy and pointing speed by fitting the parameters of Fitt's law and steering law [], and compared the device performances with that of more traditional interfaces such as the mouse and trackpad. An interesting feature of this system for controlling a 2d cursor is the ability to swiftly (and smoothly) trade cursor speed for accuracy by simply modifying the length of the retractable cord. The system was also tried on a base-less configuration, where each extremity is held in a different hand, thus providing fast or slow cursor displacement depending on which hand is performing the gesture.

A rotary encoder, a motor vibrator, push buttons and a multi-colored LED was embedded on the case containing the retractable keychain spring. (Presently, the retractable cord and the signal wires run separately, but we plan to use a conductor cable that would have this double function.) While 3D data recorded by this device can be used for gesture recognition or virtual object manipulation in a CAD environment as with the smart laser scanner, this research brings many interesting issues of its own. We also plan to put a speaker and a microphone in the case, so that the device could be coupled with a mobile phone - that would never leave the pocket! - and used alternatively as a microphone, speaker and annotation device.



## 5.15 スマートレーザスキャナ：カメラレス3次元インターフェイス

今日、自然環境中で手や指をいかにしてトラッキングするかという問題が注目を集めています。ビジョンシステムと高速な計算機によるイメージプロセッシングとによる受動的な計測方法が研究されています。それに対し我々は、レーザダイオード(可視または不可視光)、ステアリングミラー、単一のフォトディテクタを用いたシンプルな動的トラッキングシステムを開発している。

このシステムは、イメージプロセッシングを全く必要とせず、リアルタイムに手や指の3次元座標を取得することができる。本質的にはこのシステムは、視野全体を継続的にスキャンすることなく、対象と同じ大きさの非常に狭い領域にスキャニングを限定したスマートレンジファインダスキャナである。

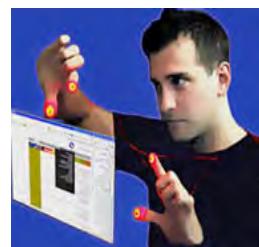
また、一つのシステムで、複数対象をトラッキングすることも可能である(対象を逐次的に処理する)。複数対象のトラッキングアプリケーションは数え切れないくらいあるだろう。例えば、複数のユーザが同時に同じヴァーチャル空間で対話したり、一人のユーザが同時にいくつかのヴァーチャルツールを操作したりすることができる。例えるなら、スピルバーグの映画「マイノリティリポート」を想起させるような、ウィンドウのサイズを変えたり、情報画面を操作したりといったことである。しかも、今回のシステムでは特殊

The problem of tracking hands and fingers on natural scenes has received much attention using passive acquisition vision systems and computationally intense image processing. We are currently studying a simple active tracking system using a laser diode (visible or invisible light), steering mirrors, and a single non-imaging photodetector. The system is capable of acquiring three dimensional coordinates in real time without the need of any image processing at all. Essentially, it is a smart rangefinder scanner that instead of continuously scanning over the full field of view, restricts its scanning area to a very narrow window precisely the size of the target.

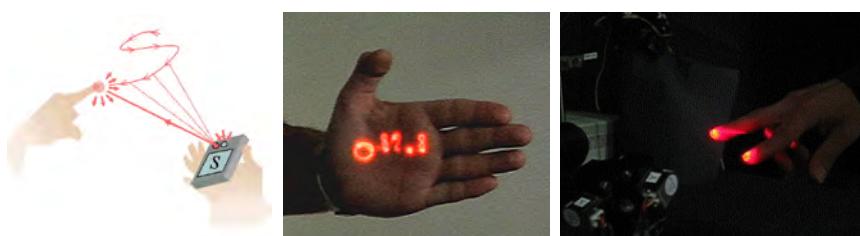
Tracking of multiple targets is also possible without replicating any part of the system (targets are considered sequentially). Applications of a multiple target tracking system are countless. Such a configuration allows, for instance, multiple users to interact on the

な手袋やマークは全く必要ない。

また、提案している3次元レーザベースの位置測定装置の注目すべき特徴に、出力デバイスとして使えることが挙げられる。実際に利用できる表面であれば、手のひらであっても、そこに英数字データを投影する形でユーザに情報を返すことができる。このデモは、すでにトラッキングと同時並行に行い、成功している。最後にハードウェアは、芸術の域に達していると言えるMicro-Opto-Electro-Mechanical-System (MOEMS)技術のおかげで、全てのシステムが1つのチップ上に載った簡易なものとなっている。このチップのおかげで、携帯型コンピュータデバイスとして使用できる多用途なヒューマンマシーン入出力インターフェイスとなっている。

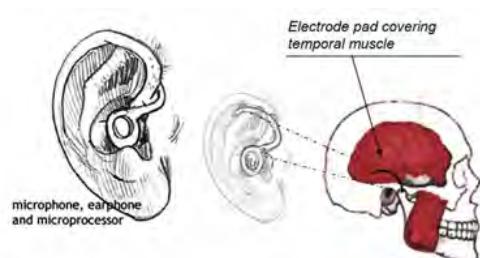


same virtual space; or a single user to control several virtual tools at the same time, resize windows and control information screens, as imagined in Spielberg's film "Minority Report" - but without the need to wear special gloves nor markers. A very interesting characteristic of the proposed 3D laser-based locator, is that it also can be used as an output device: indeed, the laser scanner can be used to write information back to the user, by projecting alphanumeric data onto any available surface, like the palm of the hand. This has been successfully demonstrated, without having to stop the tracking. Finally, hardware simplicity is such that using state-of-the-art Micro-Opto-Electro-Mechanical-System (MOEMS) technology, it should be possible to integrate the whole system on a single chip, making a versatile human-machine input/output interface for use in mobile computing devices.



## 5.16 Earlids: 筋電センシングによる聴覚情報制御

EARLIDSは聴覚機能をコントロールする半自律的な装着型デバイスです。このデバイスは“耳のまづげ”というべき機能を備えています。通常、まづげは素早く、無意識的に動いて繊細な耳という感覚器官を保護します。EARLIDSはこれを耳に対して行います。外見は普通のヘッドフォンに見えますが、覆われて見えない耳の中の部分では筋電電極が咬筋と側頭筋の収縮をセンシングしており、筋肉の伸び縮みに応じて左右の音を大きくしたり小さくしたりすることができます



す。この装置のアプリケーションは幅広くあると考えています。例えば、シンプルなハンズフリーなイヤホンとして使うこともできます。特に、クラブのDJのような音の大小が激しい環境に有効でしょう。また、個人個人に応じて、可能な限り非常にきめ細かい音響効果を提供することもできるようになるでしょう。

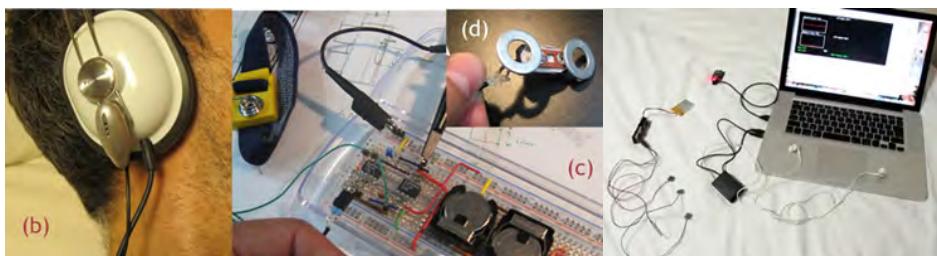
初代プロトタイプの概要は以下の通りです。まず、耳をすっぽりと覆うヘッドフォンにより、環境からユーザへの音の殆どは遮断されます。一方で、左右両方のヘッドフォン付近にあるマイクでは音を拾い、MAX/MSPパッチへ入力します。このパッチは、INA128アンプを拡張した筋電検知器からの出力を

制御信号として利用していく、マイクからユーザへの入力の大きさを制御していました。二代目プロトタイプでは、ノイズキャンセル機能をもった小型インカムを利用しておらず、初代と比較して一層耳と一体化したデバイスになりました。(とはいえ、現状ではインカムデバイスはデータを無線でノートパソコンに飛ばしていて、未だに制御などの処理はノートパソコン側で行っています。)二台目プロトタイプで利用しているワイヤレス筋電センサは真鍋大渡、照岡正樹両氏の提供していただきました。御二方の御好意に深く感謝します。(このセンサに関する詳細はTEI2010の“BodyHack”を参照してください。)

**EARLIDS** is a wearable device enabling the semi-voluntary control of auditory gain. Artificial “earlids” represent to the ears what natural eyelids are to the eyes: a fast and efficient reflex mechanism for protecting delicate sensory organs. Externally, the device presents itself as an ordinary pair of closed headphones, but hidden under each ear-cup we find EMG electrodes that monitor the contraction of the temporal and masseter muscles. When they contract or relax (consciously or unconsciously), the external sound being picked by binaural microphones placed on each side of the head will be greatly attenuated - or greatly amplified depending on the mode of operation. Applications may range from instant hearing protection without requiring the use of hands (in particular for people having to work at the boundary of environments with notably different sound levels such as night clubs), to the generation of highly

personal acoustic experiences rendered possible by the manipulation of the environmental acoustic material.

In a first prototype, sound is first blocked almost completely by circumaural (ear-cup) headphones; sound is picked by bin-aural microphones and fed to a MAX/MSP patch on a laptop computer. The patch modulates the gain before redirecting the sound stream towards the headphones, using as a control signal the output of a custom made EMG detector based on an INA128 instrumentation amplifier. A second prototype was built using noise canceling ear-buds, coming closer to in-ear ‘earlids’ (but the processing was done wirelessly on a laptop computer - bottom/right image). This second prototype was made using a wireless myoelectric sensor graciously provided by Daito Manabe and designed by Masaki Teruoka (for more information on this, check “BodyHack” workshop at TEI2010).



## 5.17 ハプティカ：ハプティックレーダーの自動車への応用



この研究はハプティックレーダープロジェクトを拡張及び補完した研究といえる。ハプティックレーダーの研究目標は、見えない障害物に対する個人の空間知覚、体の外側に向けて拡張された敏感な「光の触角」で、拡げることにあり、目で見えない領域に対しても視覚が拡張されることにあつた。本ハプティカシステムの実験装置は、センサーを表面に載せた車と、体にアクチュエーターを付けた運転手から成る。この方法で、運転手は車の周りにあるものを感じることが出来る。たとえば、車からの死角に潜む障害物の存在を、頭の後ろ側にあるアクチュエーターからの不快な刺激によって感知することが可能となる。

右の図はハプティカのインタラクションモデル

であり、新しいセンサー・モータループを表す。車の表面の距離センサーは障害物を検知することに用いられ、その情報は、必要なときには自動的にハンドルを切ることに役立つ(右の図における下側の経路)。また、距離情報によって運転手の頭の周囲に配置された小さなモーター振動子が動き出し、運転手が車内にいるときのみならず、遠隔操作する際にも車にいる感覚で操作することを可能とする。(右の図における上側の経路)

我々はこのコンセプトの下、2009年にラジコンカーの制作及び展示を行った。運転手はミニチュアカーの周囲の様子を、ウェアラブルのヘッドセットに付けられたモーター振動子を通じて、コンピューターの制御画面の前にいる限り、空間知覚の拡張として“感じる”ことが可能である。また、車には小さなカメラが実装されており、運転手の正面のコンピューターでライブビデオストリーミングを見ることが出来る。こうした機器構成は、本物の運転環境をハプティカによって模倣しているといえる。(視触覚情報の一体化の実現)

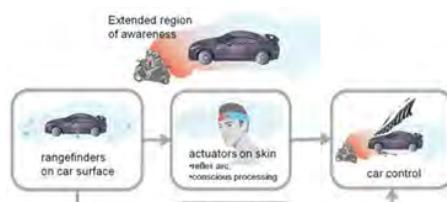


This research extends and complements the Haptic Radar project. The goal of the Haptic Radar was to augment an individual spatial awareness through a set of invisible, sensitive "light hairs" that extended the body outwards, and into regions not directly covered by the eyes. The Haptikar experiment consists on placing the sensors over the surface of a car, while maintaining the actuators over the body of the driver. This way, the driver would feel the surrounding of the car: obstacles on the car blind spots, proximity of the cars behind as "annoying" pressure on the back of the head, etc.

The figure on the right represents some new sensory-motors loops emerging on the haptic-radar car configuration: rangefinders over the surface of the car are used to sense obstacles, and this information is

used to automatically steer the car when necessary (lower path in the diagram) and also to activate small motor vibrators placed around the head of the driver - which in turn can control the car through a remote control (upper path of the diagram).

We demonstrated this concept using a reduced RC (radiocontrolled) model car in 2009; the driver was able to "feel" the extended region of awareness around the miniature car through haptic cues (motor vibrators on a wearable headband) while seated in front of a computer console. Data from and to the car was sent wirelessly. A tiny camera was also embedded on the car, and the live video stream was sent to a portable computer in front of the "driver". This configuration would then mimick certain aspects of real driving with the Haptikar (combined visual and tactile information).



## 5.18 ハプティックレーダー： 近接覚と振動刺激による皮膚感覚の拡張



我々は、空間情報を触覚情報に変換することで、ユーザが直感的かつ自然に反応できる装着型モジュールデバイスを開発している。



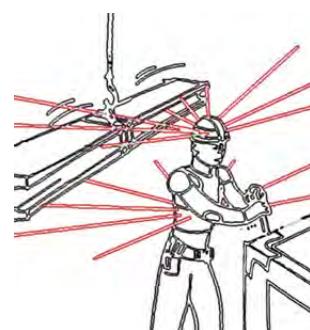
このシステムは、アレイ状の「光学的な触角モジュール」が皮膚上に並べてあり、個々のモジュールは距離情報を感知する。そして感知した情報は振動の強弱に変換されモジュール直下の皮膚に提示される。このセンサシステムは、人が、微生物の纖毛、昆虫の触角や哺乳類の髄のように、皮膚と直接接していない対象に触れた感覚を得ることを可能にするものである。

将来、このモジュールインターフェイスは、肌全体、あるいは体表面全体を覆い、あたかも2枚目の皮膚となり人間の触覚機能を拡張することができるようになるだろう。この種のセンサは、特に障害のない道筋を見つけたり、衝突を回避したりといったタスクにおいて既存の視触覚変換システムより優れていると我々は考えている。このインターフェイスが対象とするアプリケーションには、視力障害者のための視覚補助、危険な作業環境での空間認知補助、車の運転手

のためのわかりやすい知覚拡張(この場合、拡張された肌のセンサは車の表面全体を覆う)がある。

つまり、ここで我々が提案しているのは、人工的、着用型、光ベースの髄(または触角)である。実際の髄の毛に相当する物は、見えないレーザビームである。

近い将来、MOEMS技術を用いれば、チップ上に集積化された、皮膚に埋め込み可能な物を開発できる可能性がある。このMOEMS技術を用いることに関して、我々はスマートレーザスキャナのフレームワークで一定の成果を上げている。最初のプロトタイプである頭部装着型は、装着者の360°の空間認知を可能にするものであり、原理実験で非常に良好な結果を得ている。





We are developing a wearable and modular device allowing users to perceive and respond to spatial information using haptic cues in an intuitive and unobtrusive way. The system is composed of an array of "optical-hair modules", each of which senses range information and transduces it as an appropriate vibro-tactile cue on the skin directly beneath it (the module can be embedded on clothes or strapped to body parts as in the figures below). An analogy for our artificial sensory system in the animal world would be the cellular cilia, insect antennae, as well as the specialized sensory hairs of mammalian whiskers. In the future, this modular interface may cover precise skin regions or be distributed in over the entire body surface and then function as a double-skin with enhanced and tunable sensing capa-

bilities. We speculate that for a particular category of tasks (such as clear path finding and collision avoidance), the efficiency of this type of sensory transduction may be greater than what can be expected from more classical vision-to-tactile substitution systems. Among the targeted applications of this interface are visual prosthetics for the blind, augmentation of spatial awareness in hazardous working environments, as well as enhanced obstacle awareness for car drivers (in this case the extended-skin sensors may cover the surface of the car).

In a word, what we are proposing here is to build artificial, wearable, light-based hairs (or antennae, see figures below). The actual hair stem will be an invisible, steerable laser beam. In the near future, we may be able to create on-chip, skin-implantable whiskers using MOEMS technology. Results in a similar direction have been already achieved in the framework of the smart laser scanner project in our lab. Our first prototype (headband configuration) provides the wearer with 360 degrees of spatial awareness and had very positive reviews in our proof-of-principle experiments.



## 5.19 ChAff: 韻律的な情報によるリアルタイム会話分析

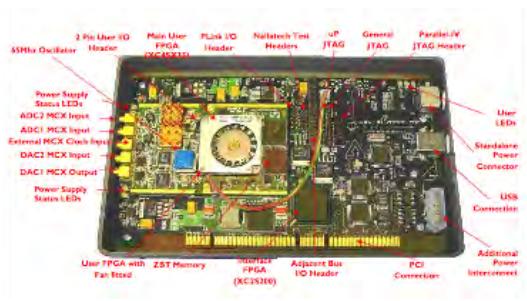
ロボットの不手際でミーティングが中断されることを想像してみる。この邪魔によって話者は、ロボットに怒り、口頭で激しい非難を浴びせる。ではさらに、ロボットが謝り、その行動を改めることを想像してみよう。このシナリオを実現するために、ChAffプロジェクトのゴールは韻律的な情報によってリアルタイムに会話を分類するFPGAをデザインすることである。

現在取り組んでいるのは、韻律に関する特徴に基づいたアプローチである。リアルタイム会話分析のシミュレーション結果から、我々は目的に適ったアルゴリズムを見つけることができる。シミュレーションが終わったら、会話分析アルゴリズムをレジスタトランസファレベル(RTL)記述に論理合成し、FPGA上で動作させる。

Imagine a robot clumsily interrupts a meeting. This disturbance causes the speaker to vocally and angrily chastise the robot's behavior. Further imagine that the robot was able to react by apologizing and changing its behavior. To realize this scenario, the goal of the ChAff project is to design an FPGA to classify speech in real-time according to prosodic information.

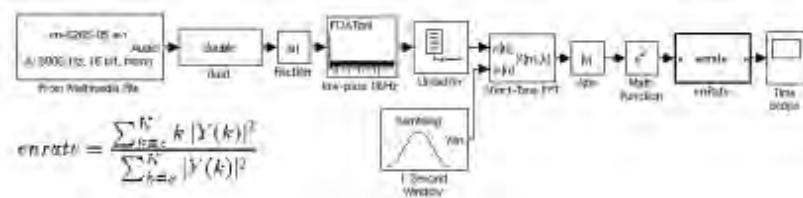
The approach taken is to build upon existing features related to prosody. By performing simulations of real-

現在、このシステムは会話速度(毎秒)、ピッチ(基本的には速度)や音量(デシベル)をリアルタイムに計算している。将来的には、速度・ピッチ・音量の空間における軌跡の分類を進めるつもりである。



time speech analysis we are able to find algorithms that are expedient. Following simulation, register transfer level representations of the prosody classifications are synthesized and run on a FPGA.

Currently, the system computes real-time estimates of speaking rate (syllables per second), pitch (fundamental frequency), and loudness (in dB). Future work centers on classifying the resulting trajectories in rate-pitch-loudness space.



## 5.20 Roboethics: ロボット倫理学

ロボット倫理学とは、ロボット分野に適用された倫理哲学である。ロボット倫理学に関する研究は2つのカテゴリーに分けることができる。

- 1.ロボットを社会に導入するための倫理的な検討
  - 2.ロボットを含めた倫理の発展
- SF作家はロボットが普及した社会を描いてきたが、

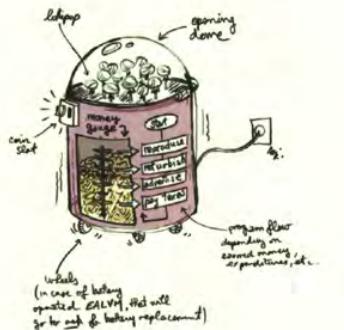
Roboethics is the application of ethical philosophy to domain of robotics. Research in Roboethics can be crudely split into two categories.

- 1.Ethical considerations that arise with robots as they are introduced into society.

### 2.Development of ethics for robots

While science fiction writers have attempted to depict society in which robots are pervasive, many complex and increasingly relevant questions remain unanswered about robots. Philosophers, policy makers, and robotic designers are now actively working to establish codes (cultural, legal, and software) to govern the behavior of robots.

ロボットとの関わり合いが強くなる一方で、複雑さを持った数々の問題は未だ解決されていない。哲学者やガイドライン立案者、ロボット開発者は現在、ロボットの行動を統治するための規範(文化的、法律的、ソフトウェア上の)を確立しようとしている。



## 5.21 メタ倫理学

Dimensional Metaethicsは、あるシステムについて「何が良いことか」を、多くの違う社会的な評価軸に関連付けて評価する行為のことである。この行為では最初に、システムのデザイナー達がシステムのデザインや役割に関係すると彼らが考える、違った評価軸を記述することを推進する。この次に、デザイナーはこ

れらの評価軸に沿った評価値について彼らが置いている仮定をリストする。最後に、デザイナーは、これらの仮定を変更し、その結果として倫理的な許容度がどのように変化するのかを推測、もしくは計測することを要求される。

Dimensional metaethics is a procedure that sees "what is good" about a system as related to the value of a number of different social dimensions. As such, it first advocates that designers of systems describe different dimensions that they think are relevant to their system's

design and use. The next step is then for the designers to list their assumptions about values along these dimensions. Lastly designers are asked to vary these assumptions and to speculate or (even better) to observe the resulting changes in ethical acceptability.

## 5.22 Boo-Hooray: 倫理に関する記述の識別、分析手法

「言語・真理・論理」(A. J. Ayer)は道徳的判断や説教、もしくは記述は真偽を問えるものではなく、単なる感情的記述であるという点で驚くべき立場にあると言える。彼の議論は論理実証主義的な立場を支持するものであり、コンピュータシステムが言葉の倫理的な側面(善悪)を認識するための新たな手法を示唆している。すなわち、感情表現は、隠喩的な群衆の倫理的な反応による「ブーイング」または「賞賛」になぞらえることができる。

この論文では、与えられた単語を検索し、検索結果の文章中にある単語を「ブーイング」と「賞賛」とに分類する単純な自然言語処理システムを示している。単語の分類では、Cowie et al.によって集められた感情

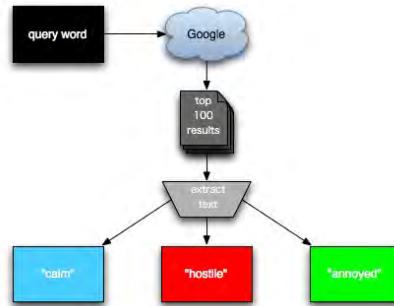
的言葉のリストや、WhisselやPlutchikによる言葉の位置付けの記録を利用している。このシステムでは、ユーザが選択する言葉に対し、感情的な得点を割り当てるためのこうした言葉のリストや、サーチエンジンを用いている。

本研究のオリジナリティは、計算機が原文の検索要求を倫理的に評価する初步的な手法の提示にある。

Boo-hoorayは、倫理に関する記述の識別、分析手法を追求するシステムの例である。これは、哲学的実験または、倫理の性質に関して批判と討議が起こり得る人為的結果、つまり話の種として捉えるべきものである。

In Language, Truth, and Logic Ayer took the surprising position that ethical judgments, exhortations, and descriptions are neither true nor false, but are emotive statements. While his argumentation was in support of the logical positivist position, it suggests a novel method for computational systems to recognize utterances regarding ethics. Namely, expressions of emotion can be likened to "boos" or "hoorays" issued from a metaphorical crowd in moral response. This paper presents a simple natural language processing system that searches for terms and categorizes the text accompanying these terms as a "boo" or "hooray," making use of a list of emotional terms compiled by Cowie et al. and orientations recorded by Whissel and Plutchik. The system uses this bag-of-words and a search engine to assign emotive scores to terms of the user's choosing. The contribution of this work is a primitive technique for computers to ethically evaluate textual queries.

Boo-hooray is presented as an example of a system which explores a method for identification and analysis of statements regarding ethics. The system should be viewed as a philosophical experiment or conversation piece, an artifact around which criticism and debate regarding the nature of ethics can take place.



# メンバ Members

教授 石川 正俊

Professor Masatoshi Ishikawa

講師 奥 寛雅

Assistant Professor / Lecturer  
Hiromasa Oku

助教

アルバロ カシネリ, 渡辺 義浩

Assistant Professor (Research Associate)  
Alvaro Cassinelli, Yoshihiro Watanabe

特任講師 カーソン レノツ

Project Assistant Professor / Lecturer (Research Associate)  
Carson Reynolds

特任助教

妹尾 拓, 山川 雄司

Project Assistant Professor (Research Associate)  
Taku Senoo, Yuji Yamakawa

大学院生 (博士課程)

古川 浩太郎, 奥村 光平, 早川 智彦, 望戸 雄史,  
王 立輝, 黄 守仁, 新倉 雄大, 村上 健一

Graduate Students

Koutaro Furukawa, Kohei Okumura,  
Tomohiko Hayakawa, Yushi Moko, Huang Shouren,  
Wang Lihui, Takehiro Nikura, Kenichi Murakami

大学院生 (修士課程)

糸山 浩太郎, 大岩 良行, 大野 紘明, 久保 伸太郎,  
柴山 裕樹, 竹岡 英樹, 松谷 淳史, 三浦 洋平, 村尾 一真,  
荒井 祐介, 五十嵐 渉, 大塚 博, 近藤 理貴, 田畠 義之,  
出口 裕己, 中農 士誠, 松崎 翔太, 横山 恵子

Koutaro Itoyama, Yoshiyuki Ohiwa, Hiroaki Ohno,  
Shintaro Kubo, Hiroki Shibayama, Hideki Takeoka,  
Atushi Matsutani, Yohei Miura, Kazuma Murao

Yusuke Arai, Wataru Ikarashi, Hiroshi Otsuka,  
Michitaka Kondo, Yoshiyuki Tabata, Hiroki Deguchi,  
Shisei Nakanou, Shota Matsuzaki, Keiko Yokoyama

研究生

金 賢梧, 滝井 美帆

Research Students

Hyuno Kim, Miho Tamei

共同研究員

渡辺 省吾, 山田 雅宏, チャン テオドルス

Research Fellows

Seigo Watanabe, Masahiro Yamada, Theodorus Tjhang

技術補佐員

アレクシィ ゼログ, 林 智子, 蕭 子文

Technical Assistant

Alexis Zerroug, Tomoko Hayashi, Eric Siu

学術支援専門職員 坂本 麗子

Research Support Staff Reiko Sakamoto

秘書

宮澤 範子, 小黒 恵美, 斎藤 由布

Secretary

Noriko Miyazawa, Emi Oguro, Yufu Saito



# 所在地／連絡先 Affiliation and Location

## 石川 奥 研究室 Ishikawa Oku Laboratory

東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻, 創造情報学専攻  
工学部 計数工学科 システム情報工学コース

Department of Information Physics and Computing, Department of Creative Informatics  
Graduate School of Information Science and Technology  
Department of Mathematical Engineering and Information Physics  
Faculty of Engineering University of Tokyo

住所： 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

Address :  
Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8656, Japan.

FAX : 教授室・講師室 03-5841-8604, 研究室 03-5841-6952

+81-3-5841-8604 (Prof. Ishikawa and Assistant Prof. Oku)  
+81-3-5841-6952 (other members)

石川教授室：工学部 6号館 2階 251号室 (Tel: 03-5841-8602 / 03-5841-6935)  
奥講師室：工学部 6号館 2階 254号室 (Tel: 03-5841-6936 / 03-5841-8703)

Faculty Members' Room  
Prof. Ishikawa: Room No.251, 2nd Floor, Faculty of Engineering Bldg. No.6 (Tel: +81-3-5841-8602)  
Assistant Prof. Oku: Room No.254, 2nd Floor, Faculty of Engineering Bldg. No.6 (Tel: +81-3-5841-6936)

研究室メンバー居室：工学部 6号館 2階  
230号室 (Tel: 03-5841-6937) 232号室 (Tel: 03-5841-7906) 233号室 (Tel: 03-5841-8702)

Lab Members' Room 2nd Floor, Faculty of Engineering Bldg. No.6  
Room No.230 (Tel: +81-3-5841-6937) Room No.232 (Tel: +81-3-5841-7906) Room No.233 (Tel: +81-3-5841-8702)

実験室：

工学部 6号館 地下1階  
060号室 (Tel: 03-5841-0225) 063号室 (Tel: 03-5841-6938) 067号室 (Tel: 03-5841-6939)  
MP SF/DIC VC/DIC

工学部 1号館 5階  
505号室 (Tel: 03-5841-8097)  
VC / MP

工学部14号館 5階  
505号室 (Tel: 03-5841-0224) 506号室  
プロジェクト MP / その他

Laboratory 1st Basement, Faculty of Engineering Bldg. No.6  
Room No.060 (Tel: +81-3-5841-0225) Room No.063 (Tel: +81-3-5841-6938) Room No.067 (Tel: +81-3-5841-6939)  
MP SF and DIC VC and DIC

5th Floor, Faculty of Engineering Bldg. No.1  
Room No.505 (Tel: +81-3-5841-8097) 5th Floor, Faculty of Engineering Bldg. No.14  
VC and MP Room No.505 Room (Tel: +81-3-5841-0224) Project No.506  
MP and others

SF:センサフュージョン/Sensor Fusion、DIC:ダイナミックイメージコントロール/Dynamic Image Control  
VC:ビジョンチップ/Vision Chip、MP:メタ・パーセプション/Meta-Perception

## 石川 奥 研究室（工学部6号館）へのアクセス方法

- 丸の内線／都営大江戸線 本郷三丁目駅より（所用時間約10分）
 

「本郷通り方面出口」を出て、つきあたりの本郷通りを左に曲がります。本郷通りを直進すると、約5分ほどで右手に「赤門」が見えます。東大キャンパスに入り、工学部6号館へ。
- 千代田線根津駅より（所用時間約12分）
 

「1番出口」を出て、信号を右に曲がり、言問通りに入ります。坂を上がったあと、左手に見える2番目の道に入ります。坂を下り、右手に見える「弥生門」から東大キャンパスに入り、工学部6号館へ。
- 都営三田線春日駅より（所用時間約15分）
 

「A6出口」を出て、右に曲がり言問通りに入ります。言問通り沿いに直進し、三差路を通過し、右手に見える公衆電話を通過したあと、右手に見える狭い坂道に入ります。この道を直進していくと、本郷通りに付き当たります。正面に見える東大正門から東大キャンパスに入り、工学部6号館へ。
- 南北線東大前駅より（所用時間約5分）
 

「1番出口」を出て、左に曲がります。東大弥生キャンパスの正門が左手に見えますが、これは通過して言問通りを渡り、20mほど直進します。左手に見える西方門より東大キャンパスに入り、工学部6号館へ。

## Directions to Our Lab. (Faculty of Engineering Bldg. No.6)

- From Hongo-sanchome Station (Marunouchi Line)
 

Take the "Hongo-dori ave." exit from the station. Turn left at the main road (Hongo-dori) and follow it, going straight through the traffic lights, until you reach the Red Gate or the Main Gate of Tokyo University. Follow the map to Engineering Building Number 6. Walking time: around 10 minutes.
- From Nezu Station (Chiyoda Line)
 

Take the #1 exit from the station and turn right at the traffic lights onto Kototoi-dori. Walk up the hill and take the second street on the left. Walk down the hill until you come to the Yayoi Gate. Follow the map to Engineering Building Number 6. Walking time: around 12 minutes.
- From Kasuga Station (Mita Line)
 

Take the A6 exit from the station and turn right onto the road (Kototoi-dori ave.) going away from Hakusan-dori. Walk up to the 3-way junction and continue straight on. Turn right after the telephone box and walk up the hill (narrow street). Continue straight on, through the Y-shaped junction until you reach the traffic lights at the main road (Hongo-dori ave.). The Main Gate is on the opposite side of the road. Follow the map to Engineering Building Number 6. Walking time: around 15 minutes.
- From Todai-mae Station (Namboku Line)
 

Take the No.1 exit from the station and turn left onto the main road (Hongo-dori ave.). Go past the first gate. Go straight on at the traffic lights. Walk on for ~200 meters until you reach the Main Gate. Follow the map to Engineering Building Number 6. Walking time: around 5 minutes.



## 学術論文

- ・溝口善智, 多田謙建二郎, 長谷川浩章, 明愛國, 石川正俊, 下条誠 : 近接・触・すべり覚を統合したインテリジェントロボットハンドの開発, 計測自動制御学会論文集, Vol.46, No.10, pp.632-640 (2010)
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速多指ハンドと高速視触覚フィードバックを用いた柔軟紐の結び操作, 日本ロボット学会誌, Vol.27, No.9, pp.1016-1024 (2009)
- ・西野高明, 下条誠, 石川正俊 : 選択走査方式を用いた省配線・分布型触覚センサ, 計測自動制御学会論文集, Vol.45, No.8, pp.391-397 (2009)
- ・岩下貴司, 下条誠, 石川正俊 : 等電位法に基づく分布型オーバサンプリングA-D変換を用いた触覚センサ, 電子情報通信学会論文誌C, Vol.J90-C, No.10, pp.683-692 (2007)
- ・東森充, 丁憲勇, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊, 金子真 : 二重旋回機構を備えた4本指ロボットハンドの開発, 日本ロボット学会誌, Vol.24, No.7, pp.813-819 (2006)
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速打撃動作における多関節マニピュレータのハイブリッド軌道生成, 日本ロボット学会誌, Vol.24, No.4, pp.515-522 (2006)
- ・尾川順子, 阪口豊, 並木明夫, 石川正俊 : 感覚運動統合システムにおけるダイナミックス整合の適応的獲得, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J87-D-II, No.7, pp.1505-1515 (2004)
- ・並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 高速センサフィードバックに基づく把握行動, 日本ロボット学会誌, Vol.20, No.7, pp.47-56 (2002)
- ・中坊嘉宏, 石川正俊 : 超並列・超高速ビジョンを用いたビジュアルインピーダンス, 日本ロボット学会誌, Vol.19, No.8, pp.959-966 (2001)
- ・奥寛雅, 石井抱, 石川正俊 : マイクロビジュアルフィードバックシステム, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol. J84-D-II, No.6, pp.994-1002 (2001)
- ・並木明夫, 石川正俊 : 視触覚フィードバックを用いた最適把握行動, 日本ロボット学会誌, Vol.18, No.2, pp.261-269 (2000)
- ・大脇崇史, 中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 視触覚モダリティ変換を用いたリアルタイム実環境仮想接触システム, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J81-D-II, No.5, pp.918-924 (1998)
- ・中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 超並列・超高速ビジョンを用いた1msターゲットトラッキングシステム, 日本ロボット学会誌, Vol.15, No.3, pp.417-421 (1997)
- ・向井利春, 石川正俊 : アクティブセンシングを用いた視触覚融合システム, 日本ロボット学会誌, Vol.15, No.1, pp.75-81 (1997)
- ・矢野晃一, 石川正俊 : 最適軌道の探索と逆モデルの学習を行う運動の習熟機構, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J80-D-II, No.5, pp.1231-1238 (1997)
- ・山口佳子, 石川正俊 : 視覚情報を用いた力制御の学習, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J80-D-II, pp.277-285 (1997)
- ・石井抱, 石川正俊 : 分布型触覚センサを用いた触覚パターン獲得のための能動的触運動, 日本ロボット学会誌, Vol.15, No.5, pp.795-801 (1997)
- ・向井利春, 石川正俊 : 複数センサによる予測誤差を用いたアクティブセンシング, 日本ロボット学会誌, Vol.12, No.5, pp.715-721 (1994)
- ・高橋昭彦, 石川正俊 : センサフュージョン技術の現状と課題, 機械の研究, Vol.45, No.12, pp.1219-1227 (1993)
- ・下条誠, 石川正俊, 金谷喜久雄 : 高密度フレキシブル圧力分布イメージャ, 機械学会論文集(C編), Vol.57, No.537, pp.1568-1574 (1991)
- ・下条誠, 石川正俊 : 空間フィルタ型触覚センサを用いた能動的センシング, 電子情報通信学会論文誌C-II, Vol.J74-C-II, No.5, pp.309-316 (1991)
- ・高橋昭彦, 石川正俊 : センサフュージョンシステムにおける物理ネットワークの再構成手法, 電子情報通信学会論文誌C-II, Vol.J74-C-II, No.5, pp.281-288 (1991)
- ・高橋昭彦, 石川正俊 : 物理ネットワークによる内部表現を用いたセンサフュージョン, 計測自動制御学会論文集, Vol.26, No.7, pp.803-810 (1990)
- ・石川正俊, 吉澤修治 : 多層型並列処理回路を用いたn次モーメントの検出方法, 計測自動制御学会論文集, Vol.25, No.8, pp.904-906 (1989)
- ・宇津木明男, 石川正俊 : 格子型ネットワーク回路による線形連想写像の学習, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J72-D-II, No.12, pp.2103-2110 (1989)
- ・金谷喜久雄, 石川正俊 : 触覚画像システムとその応用, バイオメカニズム学会誌, Vol.13, No.1, pp.45-48 (1989)
- ・石川正俊 : 並列処理を用いた能動的センサシステム, 計測自動制御学会論文集, Vol.24, No.8, pp.860-866 (1988)
- ・石川正俊, 下条誠 : ビデオ信号出力をもつ圧力分布センサと触覚パターン処理, 計測自動制御学会論文集, Vol.24, No.7, pp.662-669 (1988)
- ・石川正俊 : 並列処理を用いた局所パターン処理用LSIとその触覚センサへの応用, 計測自動制御学会論文集, Vol.24, No.3, pp.228-235 (1988)
- ・下条誠, 石川正俊 : 感圧導電性ゴムと液晶を用いた圧力分布の表示方法, 計測自動制御学会論文集, Vol.21, No.2, pp.177-182 (1985)
- ・下条誠, 石川正俊 : 薄型フレキシブル位置覚センサとその応用, 計測自動制御学会論文集, Vol.21, No.11, pp.1250-1252 (1985)
- ・石川正俊 : マトリクス状センサからの出力分布の中心の位置と総和の検出方法, 計測自動制御学会論文集, Vol.19, No.5, pp.381-386 (1983)
- ・石川正俊, 武田常広, 下条誠, 伴菊夫 : 3次元動態計測システムとその応用, バイオメカニズム6, pp.145-151, 東京大学出版会 (1982)
- ・石川正俊, 下条誠 : 感圧導電性ゴムを用いた2次元分布荷重の中心の位置の測定方法, 計測自動制御学会論文集, Vol.18, No.7, pp.730-735 (1982)

## 本

- ・石川正俊 : 2. 感覚統合とセンサフュージョン, 脳と認識(芋坂直行編), 朝倉書店, pp.74-93(1997.4)
- ・石川正俊 : ロボット群は周囲の状況をどうやって知るか, 自律分散をめざすロボ, オーム社, pp.17-29(1995.6.20)
- ・ホイットマン・リチャーズ編, 石川正俊, 平原達也訳 : ナチュラルコンピューテーション2 -聴覚と触覚・カセンシング・運動の計算理論-, パーソナルメディア (1994.7)
- ・山崎弘郎, 石川正俊編著 : センサフュージョン-実世界の能動的理解と知的再構成- (山崎弘郎, 石川正俊編), コロナ社 (1992.11.10)

- ・石川正俊：触覚情報のインテリジェント処理、センサの事典(高橋清, 森 泉豊栄, 藤定広幸, 江刺正喜, 芳野俊彦, 相沢益男, 館すずむ, 戸川達男, 小林彬編, 朝倉書店, pp.456-472 (1991.5)
- ・石川正俊：センシングとセンサフュージョン、ロボット工学ハンドブック (ロボット 工学ハンドブック編集委員会編), コロナ社, pp.103-110 (1990.10)
- ・赤松幹之, 石川正俊 : 形状知覚における視-触覚統合過程の解析 -感覚統合と能動性の関係-, バイオメカニズム10, 東京大学出版会, pp.23-32 (1990.9)
- ・石川正俊, 下条誠 : 第15章 圧力センサ, 透明導電性フィルムの製造と応用, 田畠三郎監修, CMC, pp.187-195 (1986.8)
- ・石川正俊 : 触覚センサー, 最新目視検査の自動化, テクノシステム, pp.101-111 (1986.8)
- ・石川正俊 : 第19章 演算機能を持つ触覚形センサ, わかるセンサ技術(佐々木清人編著), 工業調査会, pp.221-224 (1986.6)
- ・石川正俊 : 処理方式とその機能, 半導体センサの知能化, ミマツデータシステム, pp.273-303 (1985.4)

## 解説論文

- ・渡辺義浩, 妹尾拓, 石川正俊 : 高速ビジョンを用いた高速ロボットの実現, ロボット, Vol.192, pp.47-53 (2010)
- ・鏡慎吾, 石川正俊 : センサフュージョン — センサネットワークの情報処理構造 —(招待論文), 電子情報通信学会論文誌 A, Vol.J88-A, No.12, pp.1404-1412 (2005)
- ・並木明夫, 妹尾拓, 石川正俊 : 高速バッティングロボットシステムの開発, 自動車技術会誌, Vol.58, No.9, pp.79-80 (2004)
- ・石川正俊 : 超高速ビジョンシステムが開く新しいロボットの世界, 学術月報, Vol.53, No.9, pp.34-38 (2000)
- ・並木明夫, 金子真, 石川正俊 : 感覚運動統合に基づく「手と脳」の工学的実現, 日本ロボット学会誌, Vol.18, No.6, pp.805-806 (2000)
- ・並木明夫, 石川正俊 : 高速フィードバック技術の最先端, 日本音響学会誌, Vol.56, No.5, pp.361-366 (2000)
- ・石川正俊 : 新たなる計測の世界, 計測技術, Vol.26, No.4, pp.13-14 (1998)
- ・石川正俊 : センサ情報処理で変わるロボットの世界, システム／制御／情報, Vol.42, No.4, pp.210-216 (1998)
- ・石川正俊 : センサ情報の並列処理技術=センサフュージョンと光インターフェクション=, 計測技術, Vol.25, No.1, pp.61-64 (1997)
- ・石川正俊 : センサフュージョン一人間の五感の工学的実現を目指して-, 日本音響学会誌, Vol.52, No.4, pp.249-299 (1996)
- ・石川正俊 : The Art of Sensing, 横河技報, Vol.39, No.34, pp.107-108 (1995)
- ・石川正俊 : センサ情報の並列処理技術, 次世代センサ, Vol.5, No.1, pp.11-15 (1995)
- ・石川正俊 : センサフュージョン—五感に迫るはかる技術-, 日本機械学会誌, Vol.98, No.918, pp.378-381 (1995)
- ・石川正俊, 山崎弘郎 : センサフュージョンプロジェクト, 日本ロボット学会誌, Vol.12, No.5, pp.650-655 (1994)
- ・石川正俊 : センサフュージョン, 電気学会雑誌, Vol.113, No.2, pp.131-138 (1993)
- ・石川正俊 : 触覚をつくる, 数理科学, Vol.31, No.2 (No.356), pp.31-37 (1993)
- ・石川正俊 : アクティブセンシングとロボットハンド, 日本ロボット学会誌, Vol.11, No.7, pp.938-942 (1993)
- ・石川正俊 : センサ情報の群知能処理, 計測と制御, Vol.31, No.11, pp.1125-1130 (1992)
- ・石川正俊 : センサフュージョン(Sensor Fusion), 日本ファジィ学会誌, Vol.4, No.3, pp.487 (1992)
- ・石川正俊 : センサフュージョンがめざす新しいセンシング技術, Vol.1, No.8, pp.26-30 (1991)
- ・石川正俊 : センサ複合化の現状, 計測技術, Vol.19, No.6, pp.35-39 (1991)
- ・石川正俊 : センサフュージョンの課題, 日本ロボット学会誌, Vol.8, No.6, pp.735-742 (1990)
- ・館暲, 石川正俊, 木戸出正継, 三上章允 : 21世紀のロボット, 座談会-新しいロボットのコンセプト—NeuroRoboticsとは?-, 日本の科学と技術, Vol.31, No.258, pp.34-51 (1990)
- ・石川正俊 : センサとニューロロボティクス-新しいセンシング技術を求めて-, 日本の科学と技術, Vol.31, No.258, pp.64-70 (1990)
- ・石川正俊 : センサフュージョンシステム, センサ技術, Vol.10, No.2, pp.68-71 (1990)
- ・石川正俊 : 触覚のセンシング技術, 精密工学会誌, Vol.55, No.9, pp.1583-1587 (1989)
- ・石川正俊 : センサフュージョン, 計測と制御, Vol.28, No.4, pp.370 (1989)
- ・原田和茂(神戸製鋼所), 石川正俊 : Transputer搭載のMULTIBUSボードとFAシステムの応用案, 32ビット・マイクロプロセッサー-応用・開発・評価(日経データプロ編), 日経マグロウヒル刊, pp.125-138 (1988)
- ・石川正俊 : センサフュージョンシステム -感覚情報の統合メカニズム-, 日本ロボット学会誌, Vol.6, No.3, pp.251-255 (1988)
- ・石川正俊 : 触覚センサの研究・開発動向, オートメーション, Vol.33, No.4, pp.31-35 (1988)
- ・石川正俊 : 触覚センサの作り方・考え方=触覚センサのための信号処理技術=, 省力と自動化, Vol.19, No.2, pp.25-35 (1988)
- ・石川正俊 : センサフュージョンシステム -感覚情報の統合メカニズム-, 日本ロボット学会誌, Vol.6, No.3, pp.251-255 (1988)
- ・石川正俊 : 触覚システム, コンピュートロール, No.21, pp.59-66 (1988)
- ・石川正俊 : 触覚をつくる, 工業技術, Vol.28, No.7, pp.34-35 (1987)
- ・石川正俊 : 触覚センサとはなにか, 省力と自動化, Vol.18, No.3, pp.25-35 (1987)
- ・石川正俊 : 触覚センサー, 最新目視検査の自動化, テクノシステム, pp.101-111 (1986)
- ・石川正俊 : センサにおける信号処理技術の動向, センサ技術, Vol.6, No.7, pp.18-21 (1986)
- ・石川正俊 : 人間の手に近づくために触覚センサー, トリガー, Vol.5, No.2, pp.24-25 (1986)
- ・下条誠, 石川正俊 シート状圧力分布センサ, センサ技術, Vol.4, No.12, pp.68-72 (1984)
- ・石川正俊 : L S I 化を目指した新しい発想のインテリジェントセンサ, M & E, Vol.10, No.9, pp.30-31 (1983)
- ・石川正俊, 下条誠 : 感圧導電性ゴムを用いた圧力センサ, バイオメカニズム学会誌, Vol.6, No.3, pp.46-51 (1982)
- ・石川正俊, 下条誠 : マトリクス状触覚センサとその処理, センサ技術, Vol.3, No.6, pp.81-84 (1983)
- ・石川正俊, 下条誠 : 感圧導電性ゴムを使った触覚センサ, センサ技術, Vol.2, No.1, pp.33-36 (1982)

## 招待講演

- ・石川正俊：高速画像処理技術が拓く高速知能システムの新展開，第31回サイテックサロン（東京，2010.6.19）／講演録・対談録, pp.1-22
- ・石川正俊：センサ技術とネットワーク技術の真の融合はあるのか？一解くべき問題は何か？（基調講演），ユビキタス・センサネットワークシンポジウム（東京,2010.1.26）／予稿集, pp.1-4
- ・妹尾拓：人間を超える高速ロボットシステム，豊橋技術科学大学GCOEシンポジウム（ADIST2008）（豊橋，2008.10.17）／抄録集, p.7-15
- ・石川正俊：超並列・超高速ビジョンとその超高速ロボットへの応用 一見れないスピードで動くロボットの実現ー，第49回プログラミング・シンポジウム（箱根, 2008.1.9）
- ・並木明夫：超高速マニピュレーションの展望，第8回 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2007）（広島, 2007.12.20）／講演会論文集, pp.49-50
- ・石川正俊：高速ビジョンが拓く超高速ロボティクスの世界，第8回 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2007）（広島, 2007.12.20）／講演会論文集, pp.61-62
- ・石川正俊：より速く、より柔軟に ビジョンチップが拓く超高速ロボットの世界ー，東京大学公開講座（東京, 2006.10.21）／講義要録, pp.65-67
- ・石川正俊, 鏡慎吾：センサフェュージョン，電子情報通信学会 センサネットワーク研究会ワークショップ（東京, 2004.12.10）／pp.97-110
- ・石川正俊, 鏡慎吾：センサネットワークの課題，電子情報通信学会東京支部シンポジウム（東京, 2004.7.23）／pp.1-7
- ・石川正俊：知能システムにおけるセンシング技術の近未来（特別講演），第25回知能システムシンポジウム（東京, 1998.3.20）／資料, pp.99-105
- ・石川正俊：センシングシステムの未来ー1msビジョンチップとセンサフェュージョンー，第3回画像センシングシンポジウム（東京, 1997.6.11）／予稿集, pp.149-152
- ・石川正俊：知能ロボットの五感ーセンサフェュージョンの動向ー，日本植物工場学会第7回SHITAシンポジウム 21世紀の植物工場—安全・情報・未来ー（東京, 1997.1.22）／SHITA REPORT, No.13, pp.1-8
- ・石川正俊：アクティブセンシング（概論と展望），日本機械学会第73期全国大会（福岡, 1995.9.12）／資料集, Vol.VI, pp.75-77 (1995)
- ・石川正俊：センサフェュージョンーセンサ情報処理の新展開ー（チュートリアル），第39回システム制御情報学会研究発表講演会（大阪, 1995.5.19）／講演論文集, pp.25-32
- ・石川正俊：センサフェュージョンへの期待ーセンサ情報処理の新展開ー（基調講演），日本機械学会第72期全国大会（札幌, 1994.8.19）／講演論文集, pp.579-580
- ・石川正俊：センサとセンシング戦略（キーノート），日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会（神戸, 1994.7.1）／講演論文集, pp.1451-1456
- ・石川正俊：センサフェュージョンの現状と課題（チュートリアル），第29回 計測自動制御学会学術講演会（東京, 1990.7.24）／予稿集, pp.i-viii
- ・石川正俊：センサフェュージョンー感覚情報の統合メカニズムー（招待講演），センサの基礎と応用シンポジウム（東京, 1990.5.31）／講演概要集, p.21 / M.Ishikawa : Sensor Fusion -Mechanism for Integration of Sensory Information, Technical Digest of 9th SENSOR SYMPOSIUM, pp.153-158 (1990)

## 学会発表

- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊：ロボットアームの高速運動を用いた紐の変形制御，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2A1-K05
- ・奥村光平, 奥寛雅, 石川正俊：サッカードミラーと画像処理を用いた高速飛翔体の映像計測，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2A1-L10
- ・勅使河原誠一, 秋本直哉, 清水智, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：高速すべり覚情報処理システムの開発-信号処理手法の検討-, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2A2-O03
- ・勅使河原誠一, 森田竜峰, 清水智, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：高感度型すべり覚センサの研究開発-高速度カメラによるすべり検出原理の解明-, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2A2-O04
- ・国府田直人, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：布型近接覚センサからの情報処理, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2A2-P05
- ・森明日見, 寺田一貴, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：ネット状近接覚センサの抵抗値設計手法, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2P1-O01
- ・向山由宇, 鈴木陽介, 長谷川浩章, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：赤外線反射型近接センサレーの適切な光学素子配置に関する研究, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2P1-O15
- ・村上健一, 妹尾拓, 石川正俊：逆再生動作を用いた高速キャッチングのための実時間軌道生成, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.28)／講演会論文集, 2P2-P03
- ・鈴木健治, 叶沙, 長谷川浩章, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：ネット状近接覚センサを用いた物体姿勢検出手法による把持動作, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2011 (ROBOMECH 2011) (岡山, 2011.5.27)／講演会論文集, 1A1-J02
- ・西島良雄, 妹尾拓, 石川正俊, 並木明夫：高速多指ロボットアームを用いた投球制御, 第16回ロボティクスシンポジア（指宿, 2011.3.15）／講演論文集, pp.417-422
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊：高速多指ハンドシステムによる面状柔軟物体の動的操り, 第16回ロボティクスシンポジア（指宿, 2011.3.15）／講演論文集, pp.506-511
- ・米山大揮, 水澤悟, 妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊：高速視覚サーボによるピンセット型道具操り, 第16回ロボティクスシンポジア（指宿, 2011.3.15）／講演論文集, pp.512-517
- ・寺田一貴, 長谷川浩章, 国府田直人, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：ネット状近接覚センサの開発-センサ回路の簡略化-, 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2010）（仙台, 2010.12.25）／講演論文集, pp.1784-1787
- ・勅使河原誠一, 清水智, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：DWTを用いた高速すべり覚情報処理システムの開発, 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2010）（仙台, 2010.12.25）／講演論文集, pp.1788-1791
- ・長谷川浩章, 向山由宇, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：検出対象物の寸法・反射特性に対してロバストナニ層化近接覚センサの提案, 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2010）（仙台, 2010.12.25）／講演論文集, pp.1792-1793
- ・鈴木健治, 長谷川浩章, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠：ネット状近接覚センサを用いたロボットハンド・アーム方式の研究開発, 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2010）（仙台, 2010.12.25）／講演論文集, pp.1976-1978

- ・高橋陽介,鈴木陽介,石川正俊,明愛國,下条誠:ネット状近接覚センサの距離出力補正方式の研究,第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2010)(仙台,2010.12.23)／講演論文集,pp.139-140
- ・石川正俊:高速センサー技術に基づく調和型ダイナミック情報環境の構築,CREST「共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築」研究領域第一回公開シンポジウム(東京,2010.11.25)／講演予稿集,pp.75-83
- ・新納弘崇,下条誠,國本雅也,鈴木隆文,石川正俊,矢口博彬,満渕邦彦:末梢神経障害による感覚障害に対するマイクロスティミュレーション法を用いた感覚補填・感覚強化システムモデルの構築,第23回日本マイクロニューログラフィ学会(横浜,2010.10.24)／資料,p.4
- ・村上健一,妹尾拓,石川正俊:多関節アームによる反転動作に基づくキャッチング動作,第28回ロボット学会学術講演会(名古屋,2010.9.22)／予稿集,1M2-5
- ・山川雄司,並木明夫,石川正俊:高速多指ハンドシステムによる視覚フィードバックを用いた布の動的折りたみ操作,第28回ロボット学会学術講演会(名古屋,2010.9.22)／予稿集,1O3-6
- ・勅使河原誠一,堤隆弘,清水智,鈴木陽介,明愛國,石川正俊,下条誠:高速・高感度型すべり覚センサの研究開発—多指ロボットハンドへの応用—,第28回ロボット学会学術講演会(名古屋,2010.9.23)／予稿集,2O1-5
- ・寺田一貴,長谷川浩章,曾根聰史,鈴木陽介,明愛國,石川正俊,下条誠:全方位ネット状近接覚センサによる複数物体検出手法,第28回ロボット学会学術講演会(名古屋,2010.9.24)／予稿集,3I3-7
- ・山川雄司,並木明夫,石川正俊:2台の高速多指ハンドを用いた布の動的折りたみ動作,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.16)／講演会論文集,2A1-F05
- ・妹尾拓,丹野優一,石川正俊:1自由度脚ロボットの跳躍パターン解析,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.16)／講演会論文集,2A1-F30
- ・米山大揮,妹尾拓,並木明夫,石川正俊:多指ハンドによるピンセットでの三次元把持動作,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.16)／講演会論文集,2A2-D04
- ・曾根聰史,明愛國,石川正俊,下条誠:接触部位の面積とその中心位置が計測可能なセンサの開発,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.15)／講演会論文集,1A1-C16
- ・清水智,勅使河原誠一,明愛國,石川正俊,下条誠:高感度初期滑り検出センサの研究開発—感圧ゴムの種類と被覆材の検討,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.15)／講演会論文集,1A1-D02
- ・藤村竜徳,向山由宇,明愛國,石川正俊,下条誠:ネット状近接覚センサの三次元素子配置に関する研究～光線追跡法による光電式近接覚センサのシミュレーション～,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.15)／講演会論文集,1A1-D03
- ・長谷川浩章,明愛國,石川正俊,下条誠:指先にネット状近接覚センサを装着したロボットハンド-近接覚情報を利用した移動物体追従動作,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.16)／講演会論文集,2A2-C2
- ・西島良雅,妹尾拓,並木明夫:高速ハンドアームのダイナミクスを考慮した高速投球動作,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010(ROBOMECH 2010)(旭川,2010.6.15)／講演会論文集,1A1-G10
- ・山川雄司,並木明夫,石川正俊:線状柔軟物体の柔軟性を利用したロボットアームによる高速結び操作,第15回ロボティクスシンポジウム(吉野,2010.3.15)／講演論文集,pp.114-119
- ・勅使河原誠一,清水智,明愛國,下条誠,石川正俊:高感度初期滑り検出センサの研究開発-検出条件に関する検討-,第10回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2009)(東京,2009.12.25)／講演論文集,pp.1035-1038
- ・山川雄司,並木明夫,石川正俊:高速アームによる柔軟紐のダイナミックな結び操作,第10回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2009)(東京,2009.12.25)／講演会論文集,pp.1227-1228
- ・村上健一,妹尾拓,石川正俊:反転動作を用いた高速キャッチング,第10回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2009)(東京,2009.12.25)／講演会論文集,pp.1363-1364
- ・米山大揮,妹尾拓,並木明夫,石川正俊:高速多指ハンドによるピンセットを用いた微小物体把持,第10回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2009)(東京,2009.12.25)／講演会論文集,pp.1365-1366
- ・長谷川浩章,多田建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:指先にネット状近接覚センサを装着したロボットハンドの研究—高速な把持動作の実現のための制御系の構築-,第27回日本ロボット学会学術講演会(横浜,2009.9.15)／予稿集,1A3-O2
- ・寺田一貴,多田建二郎,石川正俊,下条誠:360°特異点の無いネット状近接覚センサの構成法,第27回日本ロボット学会学術講演会(横浜,2009.9.15)／予稿集,1I1-02
- ・田中和仁,妹尾拓,並木明夫,石川正俊:ダイナミックリグラスティングにおける非対称物体のスローイング戦略,第27回日本ロボット学会学術講演会(横浜,2009.9.17)／予稿集,3A1-O8
- ・勅使河原誠一,清水智,多田隈建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:感圧導電性ゴムを用いた高感度型滑り覚センサの研究開発,第27回日本ロボット学会学術講演会(横浜,2009.9.17)／予稿集,3I1-O4
- ・並木明夫,水澤悟,石川正俊:視覚サーボ制御に基づく多指ハンドによる道具の操り,第11回「運動と振動の制御」シンポジウム-MoViC2009-(福岡,2009.9.3)／講演論文集,pp.204-207
- ・田中和仁,妹尾拓,古川徳厚,並木明夫,石川正俊:ダイナミックリグラスティングにおけるスローイング戦略,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2A2-B05
- ・西島良雅,妹尾拓,並木明夫:多指ハンドアームを用いた高速投球動作,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2A2-B19
- ・山川雄司,並木明夫,石川正俊:高速ロボットアームを用いた線状柔軟物体のダイナミックマニピュレーション,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2A2-G07
- ・溝口善智,堤隆弘,長谷川浩章,明愛國,多田隈建二郎,石川正俊,下条誠:インテリジェントロボットハンドの研究開発-Pick and Place の達成-,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2A2-J04
- ・長谷川浩章,溝口善智,多田隈建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:薄型ネット状近接覚センサを装着したロボットハンド指先の開発と特性評価-手先に対し相対的に移動する把持対象物への追従制御-,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2A2-J08
- ・清水智,綿奈部裕之,勅使河原誠一,多田隈建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:感圧導電性ゴムの特性を用いた滑り覚センサの研究開発-法線および接線方向変形と抵抗値変化の関係-,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2P1-J13
- ・寺西正裕,高橋陽介,多田隈建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:障害物回避のための同期検波を利用したネット状近接覚センサ,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2P1-K02
- ・勅使河原誠一,清水智,多田隈建二郎,明愛國,石川正俊,下条誠:感圧導電性ゴムの特性を用いた滑り覚センサの研究開発-抵抗値変化の高周波成分について-,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.26)／講演論文集,2P1-K06
- ・妹尾拓,並木明夫,石川正俊:2台のマニピュレータによる非接触状態を利用した高速ダイナミックマニピュレーション,日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009)(福岡,2009.5.25)／講演論文集,1A1-B09
- ・妹尾拓,並木明夫,石川正俊:多指ハンドアームシステムによる高速投球動作,第14回ロボティクスシンポジウム(登別,2009.3.16)／講演会予稿集,pp.205-210

- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 多指ハンドの動作を考慮したスキル統合に基づく結び操作, 第14回ロボティクスシンポジア(登別, 2009.3.17) / 講演会予稿集, pp.331-336
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 多指ハンドによる結び操作実現を目指したスキル統合, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.5) / 講演会論文集, pp.329-330
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速投球動作におけるリリース制御の解析, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.5) / 講演会論文集, pp.331-332
- ・溝口善智, 多田隈建二郎, 石川正俊, 明愛国, 下条誠 : インテリジェントロボットハンドの研究開発 -触・近接覚センサによる捕獲から把持までの制御, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.7) / 講演会論文集, pp.991-992
- ・長谷川浩章, 溝口善智, 多田隈建二郎, 石川正俊, 明愛国, 下条誠, ロボットハンド指先に搭載可能な薄型ネット状近接覚センサシートの開発, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.7) / 講演会論文集, pp.995-996
- ・寺西正裕, 多田隈建二郎, 明愛国, 石川正俊, 下条誠 : 同期検波を利用したネット状近接覚センサの高機能化, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.7) / 講演会論文集, pp.997-998
- ・勅使河原誠一, 多田隈建二郎, 明愛国, 石川正俊 : 感圧導電性ゴムの特異性を用いた高感度型滑り覚センサの研究開発 -センサの試作と特性評価-, 第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)(岐阜, 2008.12.7) / 講演会論文集, pp.1005-1006
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速多指ハンドシステムを用いた線状柔軟物体の結び操作, 豊橋技術科学大学GCOEシンポジウム(ADIST2008)(豊橋, 2008.10.17) / 抄録集, p.64
- ・溝口善智, 多田隈建二郎, 明愛国, 石川正俊, 下条誠 : インテリジェントロボットハンドの研究開発, 第26回日本ロボット学会学術講演会(神戸, 2008.9.9) / 講演予稿集, 1E1-04
- ・勅使河原誠一, 明愛国, 多田隈建二郎, 石川正俊, 下条誠 : 高速・高感度な滑り覚センサの研究開発, 第26回日本ロボット学会学術講演会(神戸, 2008.9.11) / 講演予稿集, 3L1-08
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 運動連鎖スイングモデルに基づく高速スローイング動作, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008(ROBOMECH 2008)(長野, 2008.6.6) / 講演予稿集, 1A1-114
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : スキル統合に基づく結び操作と多指ハンドによる実現, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008(ROBOMECH 2008)(長野, 2008.6.6) / 講演予稿集, 1P1-A09
- ・水澤悟, 並木明夫, 石川正俊 : 高速多指ハンドによる高速視覚サーボを用いたピンセット型道具操り, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008(ROBOMECH 2008)(長野, 2008.6.6) / 講演予稿集, 1P1-A13
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 多指ハンドと視触覚フィードバックによる柔軟紐の高速マニピュレーション, 第13回ロボティクスシンポジア(香川, 2008.3.17) / 講演予稿集, pp.529-534
- ・並木明夫, 石原達也, 山川雄司, 石川正俊, 下条誠 : 高速多指ハンドを用いた棒状物体の回転制御, 第13回ロボティクスシンポジア(香川, 2008.3.17) / 講演予稿集, pp.541-546
- ・勅使河原誠一, 西永知博, 石川正俊, 下条誠 : 滑り検出と感圧導電性ゴムの性質, 第8回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.21) / 講演会論文集, pp.487-488
- ・西野高明, 石川正俊, 下条誠 : 省配線を可能とする荷重分布検出触覚センサの開発, 第8回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.21) / 講演会論文集, pp.489-490
- ・柴崎保則, 天本晴之, 下条誠, 石川正俊 : ロボットの全身を被覆可能なネット状近接覚センサの開発 -センサを用いた衝突回避動作-, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.21) / 講演会論文集, pp.491-492
- ・天本晴之, 下条誠, 柴崎保則, 石川正俊 : 赤外線を用いた接近感覚型センサにおけるロボットの対象物認識, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.21) / 講演会論文集, pp.493-494
- ・森川翔, 並木明夫, 石川正俊 : 画像モーメント情報を利用した棒状物体の回避行動, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.20) / 講演会論文集, pp.51-52
- ・水澤悟, 並木明夫, 石川正俊 : 高速視覚を用いた多指ハンドによる道具の操り, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.20) / 講演会論文集, pp.55-56
- ・溝口善智, 勅使河原誠一, 並木明夫, 石川正俊, 明愛国, 下条誠 : 滑り検出に基づくPick & Place動作, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.20) / 講演会論文集, pp.57-58
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速視触覚フィードバックを用いた多指ハンドによる柔軟紐の操り, 第8回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2007)(広島, 2007.12.20) / 講演会論文集, pp.59-60
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 触覚フィードバックを用いた柔軟紐の高速片手結び, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.12) / 講演論文集, 2A1-E08
- ・郡司大輔, 溝口善智, 明愛国, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 滑り検出に基づく多指ハンドの把持力制御, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.12) / 講演論文集, 1A2-B07
- ・溝口善智, 郡司大輔, 明愛国, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 触覚センサを用いた多指ハンドの接触力制御-触覚フィードバックによる多点接触力制御-, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1A2-B08
- ・勅使河原誠一, 石川正俊, 下条誠 : CoP触覚センサによる滑り検出-メカニズムの解明と被覆材の影響-, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1A2-B09
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 波動伝播に基づく高速スローイング動作, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1A2-F10
- ・下条誠, 天本晴之, 柴崎保則, 明愛国, 石川正俊 : 近接覚から触覚までをシームレスにつなぐ汎触覚センサの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2007(ROBOMECH 2007)(秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1P1-B10
- ・古川徳厚, 並木明夫, 妹尾拓, 石川正俊 : ビジュアルフィードバックに基づく高速多指ハンドを用いたダイナミックリグラスティング, 第12回ロボティクスシンポジア(長岡, 2007.3.15) / 講演論文集, pp.144-149
- ・並木明夫 : 高速マニピュレーションプロジェクト, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.722-723
- ・古川徳厚, 妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 未知な動的パラメーターの学習と高速視覚を用いたダイナミックリグラスティング, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.724-725
- ・石原達也, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速多指ハンドによる棒状物体の回転制御, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.726-727
- ・森川翔, 並木明夫, 石川正俊 : 高速ビジュアルサーボによる実時間障害物回避行動, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.728-729
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速スローイング動作におけるエネルギー伝播の解析, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.736-737
- ・大薄隆志, 並木明夫, 石川正俊 : 多閻間マニピュレータによる低衝撃捕球動作, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.738-739

- ・荻野俊明, 並木明夫, 石川正俊 : 高速視覚による多指ハンドのテレマニピュレーション, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.740-741
- ・郡司大輔, 荒木拓真, 明愛国, 並木明夫, 下条誠 : CoP触覚センサを装着したロボットハンドによる接線方向力に抗する把持力制御, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.742-743
- ・山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速多指ハンドを用いた柔軟紐の片手結び, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.744-745
- ・石川正俊, 並木明夫 : 超高速ロボティクスの展望, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.746-747
- ・柴崎保則, 天本晴之, 下条誠, 石川正俊 : 触覚・近接覚融合センサによる対象物検出方式, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.14) / 講演会論文集, pp.460-461
- ・荒木拓真, 下条誠, 河原宏太郎, 石川正俊 : 自由曲面への装着と省配線化を実現する網目状触覚センサの開発 -ヒューマンインターフェースへの応用-, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2006) (札幌, 2006.12.14) / 講演会論文集, pp.462-463
- ・森川翔, 並木明夫, 石川正俊 : 小型軽量高速ビジョンを搭載したロボットマニピュレータによる実時間障害物回避行動, 第24回日本ロボット学会学術講演会 (岡山, 2006.9.15) / 予稿集, 2B18
- ・古川徳厚, 姉尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : ダイナミックリグラスティングにおける把持戦略, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'06 (ROBOMECH 2006) (東京, 2006.5.27) / 講演論文集, 1A1-B34
- ・石原達也, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠 : 高速触覚システムを用いたベン状物体の高速把持・操り, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2006 (ROBOMECH 2006) (東京, 2006.5.27) / 講演論文集, 1A1-B39
- ・並木明夫, 石川正俊, 加藤真一, 金山尚樹, 小山順二 : 高速キャッチングロボットシステム, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2006 (ROBOMECH 2006) (東京, 2006.5.27) / 講演論文集, 1A1-E27
- ・塙形大輔, 並木明夫, 石川正俊 : 高速多指ハンドと視覚フィードバックによる高速ドリブル動作の研究, 第11回ロボティクスシンポジア (佐賀, 2006.3.17) / 講演会論文集, pp.482-487
- ・並木明夫 : 感覚と運動の統合によるロボットの高性能化, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.17) / 講演会論文集, pp.693-694
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速バッティングシステムによる打ち分け動作, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.17) / 講演会論文集, pp.695-696
- ・大薄隆志, 姉尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速視覚フィードバックによる非把握キャッチング, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.17) / 講演会論文集, pp.697-698
- ・古川徳厚, 姉尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速多指ハンドと高速視覚を用いたダイナミックリグラスティング, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.17) / 講演会論文集, pp.699-700
- ・石原達也, 並木明夫, 塙形大輔, 石川正俊, 下条誠 : 高速触覚フィードバックシステムによる動的なベン回し動作の実現, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.17) / 講演会論文集, pp.701-702
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速ロボットシステムによるバッティングタスクの実現, 第10回ロボティクスシンポジア (箱根, 2005.3.14) / 講演論文集, pp.75-80
- ・並木明夫, ハイパフォーマンス マニピュレーション, 第5回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1140-1141
- ・笠原裕一, 並木明夫, 石川正俊 : 多眼高速ビジョンを用いた高速マニピュレーション, 第5回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1142-1143
- ・下条誠, 谷保勇樹, 並木明夫, 石川正俊, 2次元分布荷重測定法を用いた触覚センサへの応用, 第5回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1144-1145
- ・鵜飼賀生, 大西政彦, 並木明夫, 石川正俊 : 高速視覚と柔軟指先を用いたソフトキャッチング, 第5回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1146-1147
- ・塙形大輔, 並木明夫, 石川正俊 : 高速ロボットハンドによるドリブル動作の実現, 第5回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1148-1149
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速バッティングシステムによる打球方向の制御, 第5回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2004) (つくば, 2004.12.19) / 講演会論文集, pp.1150-1151
- ・東森充, 丁憲勇, 金子真, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊 : 二重旋回機構を備えた高速4本指ロボットハンド, 第22回ロボット学会学術講演会 (岐阜, 2004.9.17) / 予稿集, 3J22
- ・塙形大輔, 並木明夫, 石川正俊 : 高速ロボットハンドによる物体の動的保持, 第22回ロボット学会学術講演会 (岐阜, 2004.9.17) / 予稿集, 3J13
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速バッティングロボットシステムの性能評価, 第22回ロボット学会学術講演会 (岐阜, 2004.9.15) / 予稿集, 1D25
- ・谷保勇樹, 下条誠, 石川正俊, 並木明夫 : 2次元分布荷重測定法を用いた触覚センサへの応用, 第22回ロボット学会学術講演会 (岐阜, 2004.9.15) / 予稿集, 1J31
- ・並木明夫, 今井睦朗, 石川正俊 : 高速多指ハンドによる能動的捕獲戦略, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2A1-L1-9
- ・大西政彦, 並木明夫, 橋本浩一, 石川正俊 : 柔軟な指先を持つ高速ハンドによる捕球動作の実現, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2A1-L1-10
- ・金子真, 丁憲勇, 東森充, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊 : 高速4本指ハンドシステムの開発, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2A1-L1-13
- ・東森充, 木村麻衣子, 並木明夫, 石川正俊, 金子真, 石井抱, 高速視覚情報に基づくダイナミックキャッチング, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2A1-L1-14
- ・東森充, 湯谷政洋, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊, 金子真, なぞり型ジャンピングロボットの基本的特性, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2A1-L1-73
- ・笠原裕一, 並木明夫, 小室孝, 石川正俊 : 高速マニピュレーションのための多眼ビジュアルフィードバックシステム, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2P2-L1-50
- ・鵜飼賀生, 並木明夫, 石川正俊 : モーメント特微量を利用した高速ビジョンによる実時間3次元形状認識, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.20) / 2P1-H-61
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊 : 高速打撃動作におけるマニピュレータのオンライン軌道生成, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.19) / 1P1-H-14
- ・今井睦朗, 並木明夫, 橋本浩一, 石川正俊, 金子真, 鶴田博, 小山順二 : 高速多指ハンドと高速視覚によるダイナミックキャッチング, 第9回ロボティクスシンポジア (那覇, 2004.3.9) / pp.517-522
- ・並木明夫, 石川正俊 : 高速視覚と多指ハンドアームを有する実時間感覚運動統合システム, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.109-110
- ・笠原裕一, 並木明夫, 小室孝, 石川正俊 : 多眼高速ビジョンを用いた把握システム, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.111-112

- ・鶴賀賀生, 並木明夫, 石川正俊: 高速ビジョンと能動的照明装置を用いた3次元形状認識, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.113-114
- ・今井睦朗, 並木明夫, 橋本浩一, 石川正俊: 高速多指ハンドによる柱状物体のキャッチング動作, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.121-122
- ・妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊: 多関節マニピュレータを用いた高速打撃動作の研究, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.123-124
- ・東森充, 原田学, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊, 金子真: ジャンピング動作のためのインピーダンス設計に関する基本的考察, 第4回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.129-130
- ・石川正俊, 並木明夫: 感覚運動統合理論に基づく「手と脳」の工学的実現, 第4回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.19) / pp.131-132
- ・並木明夫, 石川正俊, 金子真, 龜田博, 小山順二: 軽量高速多指ロボットハンドの開発, (社) 日本機械学会 ロボティクスマカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会2003 (ROBOMECH'03) (函館, 2003.5.24) / 講演論文集, 1P1-1F-G3 [PDF format]
- ・今井睦朗, 並木明夫, 橋本浩一, 石川正俊: 高速多指ハンドによる動的捕球動作の実現, (社) 日本機械学会 ロボティクスマカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会2003 (ROBOMECH'03) (函館, 2003.5.24) / 講演論文集, 1P1-1F-G2
- ・下条誠, 金森克彦, 明愛国, 金森哉史, 石川正俊: 液状感圧ゴムを用いた自由曲面型触覚センサの開発, (社) 日本機械学会 ロボティクスマカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会2003 (ROBOMECH'03) (函館, 2003.5.24) / 講演論文集, 1A1-3F-B3
- ・並木明夫, 石川正俊: 視覚情報から運動指令へのダイレクトマッピングによる捕球動作の実現, (社) 日本機械学会 ロボティクスマカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会2003 (ROBOMECH'03) (函館, 2003.5.25) / 講演論文集, 2A1-1F-C5 [PDF format]
- ・尾川順子, 並木明夫, 石川正俊: 学習進度を反映した割引率の調整: 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会 (札幌市, 2003.2.4) / 電子情報通信学会技術研究報告, NC2002-129, pp.73-78
- ・並木明夫, 今井睦朗, 石川正俊: 捕球動作のための視覚フィードバック制御, 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 (神戸, 2002.12.20) / 講演論文集, Vol.2, pp.219-220
- ・竹中麗香, 東森充, 金子真, 並木明夫, 石川正俊: 100Gキャプチャリングシステム -高速ビジョンを使った動体捕獲-, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (神戸, 2002.12.20) / 講演論文集, Vol.2, pp.217-218
- ・東森充, 竹中麗香, 金子真, 並木明夫, 石川正俊: 100Gキャプチャリングシステム -Dynamic Preshaping-, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (神戸, 2002.12.20) / 講演論文集, Vol.2, pp.215-216
- ・下条誠, 金森克彦, 明愛国, 金森哉史, 石川正俊: 高密度型触覚センサの開発 -液状感圧ゴムを用いた自由曲面型触覚センサの開発-, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (神戸, 2002.12.20) / 講演論文集, Vol.2, pp.211-212
- ・下条誠, 牧野了太, 小川博教, 鈴木隆文, 並木明夫, 斎藤敬, 國本雅也, 石川正俊, 満渕邦彦: ロボットハンドからの触覚情報を人間の触覚神経経由により提示するシステムの開発, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会 (大阪, 2002.10.12) / 講演論文集, 1E33
- ・下条誠, 金森克彦, 明愛国, 金森哉史, 石川正俊: 液状感圧ゴムを用いた自由曲面型触覚センサの開発, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会 (大阪, 2002.10.12) / 講演論文集, 1G24
- ・並木明夫, 石川正俊: 視覚情報に基づくオンライン軌道生成による捕球タスクの実現, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会 (大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 3M23
- ・今井睦朗, 並木明夫, 橋本浩一, 金子真, 石川正俊: 視覚フィードバックを用いた高速ハンドシステムの開発, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会 (大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 3E11
- ・下条誠, 牧野了太, 小川博教, 鈴木隆文, 並木明夫, 斎藤敬, 石川正俊, 満渕邦彦: ロボットハンドからの接触感覚を触覚神経経由により提示するシステムの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'02 (松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-E08
- ・並木明夫, 龜田博, 小林清人, 坂田順, 金子真, 石川正俊: 軽量高速ロボット指モジュールの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'02 (松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-F04 [PDF 形式]
- ・奥寛雅, 石川正俊: kHzオーダーで応答可能な可変焦点レンズの試作, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'02 (松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-J09
- ・並木明夫, 中坊嘉宏, 石川正俊: 高速視覚を用いたダイナミックグラスティング, 計測自動制御学会機械システム制御シンポジウム (東京, 2002.3.29) / 機械システム制御シンポジウム講演論文集, pp.96-99
- ・中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊: 2台の超高速ビジョンによる3次元トラッキング, 計測自動制御学会機械システム制御シンポジウム (東京, 2002.3.29) / 機械システム制御シンポジウム講演論文集, pp.78-81
- ・橋本浩一, 並木明夫, 石川正俊: ビジョンベースドマニピュレーションのための視覚運動アーキテクチャ, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 (名古屋, 2001.12.21) / SICE SI-2001 講演論文集, pp.137-138
- ・並木明夫, 中坊嘉宏, 石川正俊: ダイナミクスの整合に基づく高速マニピュレーション, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 (名古屋, 2001.12.21) / SICE SI-2001 講演論文集, pp.153-154
- ・金子真, 竹中麗香, 須田光史, 達敏夫, 並木明夫, 石川正俊: 高速キャプチャリングシステム, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 (名古屋, 2001.12.21) / SICE SI-2001 講演論文集, pp.155-156
- ・下条誠, 金森克彦, 石川正俊: 高密度型触覚センサの開発, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 (名古屋, 2001.12.21) / SICE SI-2001 講演論文集, pp.159-160
- ・中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊: 2台の高速ビジョンを用いた3次元トラッキング, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 (名古屋, 2001.12.21) / SICE SI-2001 講演論文集, pp.161-162
- ・下条誠, 金森克彦, 石川正俊: 低ヒステリシス型液状感圧ゴムの開発, 第19回日本ロボット学会学術講演会 (東京, 2001.9.20) / 予稿集, pp.1211-1212
- ・中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊: 超高速ビジョンを用いた3次元セルフウィンドウ法, 第19回日本ロボット学会学術講演会 (東京, 2001.9.20) / 予稿集, pp.939-940
- ・尾川順子, 阪口豊, 並木明夫, 石川正俊: 多様な制約に対するダイナミクス整合の学習, 第19回日本ロボット学会学術講演会 (東京, 2001.9.19) / 予稿集, pp.711-712
- ・並木明夫, 中坊嘉宏, 石川正俊: 高速視覚を用いたダイナミックマニピュレーションシステム, 第19回日本ロボット学会学術講演会 (東京, 2001.9.19) / 予稿集, pp.389-390 [PDF 形式 (0.2Mbytes)]
- ・中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊: 2台の高速アクティブビジョンによる3次元トラッキング, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'01 (高松, 2001.6.9) / 講演論文集, 2A1-C1
- ・奥寛雅, 石井抱, 石川正俊: 高速ビジュアルフィードバックによる微生物のトラッキング, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'01 (高松, 2001.6.10) / 講演論文集, 2P2-C4
- ・尾川順子, 阪口豊, 並木明夫, 石川正俊: ダイナミクス整合に基づく感覚運動統合---ターゲットトラッキングにおける戦略の学習---, 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会 (東京, 2001.3.14) / 電子情報通信学会技術研究報告, NC2000-109, Vol.100, No.686, pp.47-54
- ・池田立一, 下条誠, 並木明夫, 石川正俊, 満渕邦彦: ワイヤ縫込方式触覚センサの開発-4本指ハンドを用いた把持実験-, 第18回日本ロボット学会学術講演会 (草津, 2000.9.14) / 予稿集, 1B33, pp.69-70

- ・ 山田泉, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 実時間視力覚フィードバックを用いた実環境作業支援システム, 第18回日本ロボット学会学術講演会(草津, 2000.9.14) / 予稿集, 3A12 pp.959-960 [ PDF 形式 (0.2Mbytes) ]
- ・ 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 2台の超高速ビジョンシステムを用いた3次元トラッキング, 第18回日本ロボット学会学術講演会(草津, 2000.9.13) / 予稿集, 2K22, pp.821-822
- ・ 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 視力覚フィードバックを用いた小型作業支援ツールの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス'00講演会 (2000) / 論文集, 2P2-76-101 [ PDF 形式 (0.2Mbytes) ]
- ・ 奥寛雅, Andy Chen, 石井抱, 石川正俊 : 高速ビジュアルフィードバックによるマイクロアクチュエーション, 日本ロボット学会学術講演会 (平塚, 1999.9.10) / 予稿集, pp.637-638
- ・ 小室孝, 小川一哉, 鎌慎吾, 中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 高集積化に向けた汎用デジタルビジョンチップの開発とその応用, 第38回計測自動制御学会学術講演会(盛岡, 1999.7.29) / 予稿集, pp.375-376
- ・ 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 1ms感覚運動統合システムにおける高速並列分散処理, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'99講演会 (東京, 1999.6.13) / 講演論文集, 2P2-49-058 [ PDF 形式 (0.2Mbytes) ]
- ・ 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 高速センサフィードバックに基づく感覚運動統合アーキテクチャとその把握・操り行動への応用, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'99講演会 (東京, 1999.6.12) / 講演論文集, 1A1-64-094 [ PDF 形式 (0.2Mbytes) ]
- ・ 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 高速センサフィードバックを用いた感覚運動統合把握システム, 第4回ロボティクスシンポジア(仙台, 1999.3.31) / 予稿集, pp.1-6 [ PDF 形式 (0.3Mbytes) ]
- ・ 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 高速視覚を用いた多指ハンドによる物体操作, 第16回日本ロボット学会学術講演会(札幌, 1998.9.19) / 予稿集, pp.699-700
- ・ 奥寛雅, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 高速視覚を用いた運動教示システム, 日本ロボット学会学術講演会'98 (札幌, 1998.9.19) / 予稿集, pp.695-696
- ・ 白須潤一, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 描画機能を有する能動的実環境作業支援システム, 第16回日本ロボット学会学術講演会(札幌, 1998.9.19) / 予稿集, pp.771-772
- ・ 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 高速視覚を用いた多指ハンドによる物体操作, 第16回日本ロボット学会学術講演会(札幌, 1998.9.16) / 講演会論文集
- ・ 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 高速視覚を用いた把握行動システム, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'98講演会(仙台, 1998) / 講演会論文集
- ・ 大脇崇史, 並木明夫, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : 実時間ビジュアルハプタイゼーションシステムの開発, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'98講演会(仙台, 1998) / 講演会論文集
- ・ 日下部裕一, 春日和之, 石井抱, 石川正俊 : 人間の視触覚における能動的統合機能の解析, 日本バーチャルリアリティ学会第2回大会(名古屋, 1997.9.19) / 論文集, pp.336-339
- ・ 大脇崇史, 中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊 : 視触覚モダリティ変換機能を有するリアルタイム実環境提示システム, 日本バーチャルリアリティ学会第2回大会(名古屋, 1997.9.18) / 論文集, pp.151-154
- ・ 並木明夫, 石川正俊 : 能動的探り動作と目的行動の統合 -- 把握・マニピュレーションへの応用 --, 第15回日本ロボット学会学術講演会(東京, 1997.9.13) / 予稿集
- ・ 石井抱, 石川正俊 : 触覚パターンの獲得のための能動的触運動の解析, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'97(厚木, 1997.6.7) / 講演論文集, pp.549-552
- ・ 伊藤健太郎, 石川正俊 : 群を形成するロボット群の構成, 第14回日本ロボット学会学術講演会(新潟, 1996.11.1) / 予稿集, pp.1055-1056
- ・ 並木明夫, 石川正俊 : 観測行動を導入した最適把握位置姿勢の探索, 第14回日本ロボット学会学術講演会(新潟, 1996.11.1) / 予稿集, pp.331-332
- ・ 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊 : ビジュアルインピーダンスを用いたロボットの制御, ロボティクス・メカトロニクス講演会'96(宇部, 1996.6.21) / 講演論文集, ビデオプロセッシング, pp.999-1002
- ・ 並木明夫, 石川正俊 : 視触覚を用いた最適把握位置姿勢の探索行動, ロボティクス・メカトロニクス講演会'96(宇部, 1996.6.20) / 講演論文集, pp.1003-1006
- ・ 穴吹まほろ, 宇津木仁, 石井抱, 石川正俊 : 視触覚統合における能動性の影響, 第39回ヒューマンインターフェイス研究会(東京, 1996.5.28) / Human Interface News and Report, Vol.11, pp.273-278 / 電子情報通信学会技術報告, MVE96-27, Vol.96, No.82, pp.83-88
- ・ 並木明夫, 石井抱, 中坊嘉宏, 石川正俊 : 1ms感覚運動統合システムのアーキテクチャ, 第5回ロボットセンサシンポジウム(新潟, 1996.4.19) / 予稿集, pp.99-102
- ・ 山口佳子, 石川正俊 : 視覚教示を利用した力制御の学習, 第13回日本ロボット学会学術講演会(東京, 1995.11.5) / 予稿集, pp.1087-1088
- ・ 並木明夫, 石川正俊 : センサ情報を用いた最適把持位置の探索行動, 第13回日本ロボット学会学術講演会(東京, 1995.11.3) / 予稿集, pp.113-114
- ・ 鈴木伸介, 小室孝, 石川正俊 : ビジョンチップのための並列演算アーキテクチャ, 第34回計測自動制御学会学術講演会(札幌, 1995.7.27) / 予稿集, pp.495-496
- ・ 矢野晃一, 石川正俊 : 学習度に応じた最軌道の探索と逆モデルの学習を行う運動の習熟機構, 第34回計測自動制御学会学術講演会(札幌, 1995.7.26) / 予稿集, pp.209-210
- ・ 山口佳子, 石川正俊 : 視覚情報を用いた力制御の学習, 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会(金沢, 1995.5.22) / 電子情報通信学会技術報告, NC95-12, Vol.95, No.57, pp.89-96
- ・ 矢野晃一, 石川正俊 : 最適軌道の探索と逆モデルの学習を行う運動の習熟機構, 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会(東京, 1995.3.17) / 電子情報通信学会技術報告, NC94-112, Vol.94, No.562, pp.277-284
- ・ 石川正俊, 石井抱, 並木明夫, 中坊嘉宏, 山口佳子, 向井利春 : 1ms 感覚運動統合システム, 第13回日本ロボット学会(1995) / 予稿集, pp.483-484
- ・ 向井利春, 石川正俊 : 予測誤差を用いた能動的な視触覚融合, 第33回計測自動制御学会学術講演会(東京, 1994.7.26) / 予稿集, pp.127-128
- ・ 向井利春, 石川正俊 : 予測誤差を用いた複数センサによるアクティブセンシング, 第32回計測自動制御学会学術講演会(金沢, 1993.8.4) / 予稿集, pp.299-300
- ・ 石井抱, 石川正俊 : 動物体形状の能動的認識機構, 第10回ロボット学会学術講演会(金沢, 1992.11.1) / 予稿集, pp.679-680
- ・ 青野俊宏, 石川正俊 : 確率過程を用いた聴視触覚融合, 1992年電子情報通信学会春季大会(野田, 1992.3.27) / 予稿集, 第6分冊, pp.(6-293)-(6-294)
- ・ 森田彰, 石川正俊 : センサ情報処理のための大規模並列演算機構, 第30回計測自動制御学会学術講演会(米沢, 1991.7.17) / 予稿集, pp.371-372
- ・ 設楽光明, 郷有成, 石川正俊, 藤村貞夫 : シミュレーティッドアニーリングを用いたセンサフュージョンシステム, 第30回計測自動制御学会学術講演会(米沢, 1991.7.17) / 予稿集, pp.135-136
- ・ 青野俊宏, 石川正俊 : 確率的手法を用いたセンサフュージョン--多系列隠れマルコフモデルを用いた視触覚融合--, 第2回自律分散システムシンポジウム(大阪, 1991.1.16) / 予稿集, pp.115-118

## センサfusion 和文

- ・青野俊宏, 石川正俊: 確率過程を用いた聴視覚融合, 第34回自動制御連合講演会(日吉, 1991.11.22) / 予稿集, pp.特セ-87-89
- ・向井利春, 森隆, 石川正俊, 藤村貞夫: アクチュエータを含むセンサfusionシステム, 第8回日本ロボット学会学術講演会(仙台, 1990.11.3) / 予稿集, pp.853-856
- ・森隆, 向井利春, 石川正俊, 藤村貞夫: 位置情報間の学習を用いたセンサfusionシステム, 第29回計測自動制御学会学術講演会(東京, 1990.7.24) / 予稿集, pp.201-202

## Paper

- Hiroaki Hasegawa, Yosuke Suzuki, Aiguo Ming, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Robot Hand Whose Fingertip Covered with Net-Shape Proximity Sensor -Moving Object Tracking Using Proximity Sensing-, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.23, No.3, pp.328-337 (2011)
- Masatoshi Ishikawa: Is There Real Fusion between Sensing and Network Technology? — What are the Problems? (Invited Paper), IEICE Transactions on Communications, Vol.E93-B, No.11, pp.2855-2858 (2010)
- Makoto Shimojo, Takuma Araki, Aigou Ming, Member, IEEE, and Masatoshi Ishikawa: A High-Speed Mesh of Tactile Sensors Fitting Arbitrary Surfaces, IEEE SENSORS JOURNAL, Vol.10, No.4, pp.822-830 (2010)
- Alvaro Cassinelli, Stephane Perrin, and Masatoshi Ishikawa: Smart Laser-Scanner for 3D Human-Machine Interface, ACM SIGCHI 2005 (Portland, 4.2-7)
- Naoko Ogawa, Yutaka Sakaguchi, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Adaptive Acquisition of Dynamics Matching in Sensory-Motor Fusion System, Electronics and Communications in Japan (Part III: Fundamental Electronic Science), Vol.89, No.7, pp.19-30 (2006)
- Mitsuru Higashimori , Makoto Kaneko, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Design of the 100G capturing robot based on dynamic preshaping, International Journal of Robotics Research, Vol.24, No.9, pp.743-753 (2005)
- Makoto Shimojo, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, Ryota Makino, and Kunihiro Mabuchi: A Tactile Sensor Sheet Using Pressure Conductive Rubber With Electrical-Wires Stitched Method, IEEE SENSORS JOURNAL, Vol.4, No.5, pp.589-596 (2004)
- Makoto Kaneko, Mitsuru Higashimori, Reika Takenaka, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: The 100G Capturing Robot -- Too fast to see, IEEE/ASME Trans. on Mechatronics, Vol.8, No.1, pp.37-44 (2003)
- Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Moment feature-based 3-D tracking, Advanced Robotics, vol.17, no.10, pp.1041-1056 (2003)
- Akio Namiki, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Hierarchical Control Architecture for High-speed Visual Servoing, The International Journal of Robotics Research, vol.22, no.10, pp.873-888 (2003)
- Akio Namiki, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: High-speed sensory-motor fusion for robotic grasping, Measurement Science and Technology, Vol.13, No.11, pp.1767-1778 (2002)
- Akio Namiki, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: High Speed Sensory-Motor Fusion Based on Dynamics Matching, Proceedings of the IEEE, Vol.90, No.7, pp.1178-1187 (2002)
- Akio Namiki, Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: 1ms Sensory-Motor Fusion System, IEEE Transactions On Mechatronics, Vol.5, No.3, pp.244-252 (2000)
- Toshiharu Mukai, and Masatoshi Ishikawa: An Active Sensing Method Using Estimated Errors for Multisensor Fusion Systems, IEEE Trans. IES, Vol.43, No.3, pp.380-386 (1996)
- Toshihiro Aono, and Masatoshi Ishikawa: Auditory-Visual Fusion Using Multi-Input Hidden Markov Model, Robotics, Mechatronics and Manufacturing Systems (T.Takamori and K.Tsuchiya Eds.), pp.177-184, Elsevier (1993)
- Haruyoshi Toyoda, Naohisa Mukohzaka, Yoshiji Suzuki, and Masatoshi Ishikawa: Adaptive optical processing system with optical associative memory, Appl. Opt., Vol.32, No.8, pp.1354-1358 (1993)
- Masatoshi Ishikawa: Active Sensor System Using Parallel Processing Circuits, J. Robotics and Mechatronics, Vol.5, No.1, pp.31-37 (1993)
- Masatoshi Ishikawa: The Sensor Fusion System Mechanisms for Integration of Sensory Information, Advanced Robotics, Vol.6, No.3, pp.335-344 (1992)
- Masatoshi Ishikawa: Parallel Processing for Sensory Information, Electronics and Communications in Japan, Part 2, Vol.75, No.2, pp.28-43 (1992)
- Akio Utsugi, and Masatoshi Ishikawa: Learning of Linear Associative Mapping by Latticed Network Circuits, Systems and Computers in Japan, Vol.22, No.2, pp.56-65 (1991)
- Akio Utsugi, and Masatoshi Ishikawa: Construction of Inner Space Representation of Latticed Network Circuits by Learning, Neural Networks, Vol.4, pp.81-87 (1991)
- Makoto Shimojo, and Masatoshi Ishikawa: Thin and Flexible Position Sensor, J. Robo. Mech., Vol.2, No.1, pp.38-41 (1990)

## Book

- Akio Namiki, Taku Senoo, Satoru Mizusawa and Masatoshi Ishikawa: High-speed Visual Feedback Control for Grasping and Manipulation, Visual Servoing via Advanced Numerical Methods (G. Chesi and K. Hashimoto Eds.), pp.39-53, Springer (2010)
- Taku Senoo, Akio Namiki and Masatoshi Ishikawa: Ball Control in High-speed Throwing Motion Based on Kinetic Chain Approach, Robotics 2010 Current and Future Challenges (H. Abdellatif Ed.), pp.109-122, INTECH (2010)
- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa and Makoto Shimojo: Knotting a Flexible Rope using a High-speed Multifingered Hand System based on Synthesis of Knotting Manipulation Skills, Robotics 2010 Current and Future Challenges (H. Abdellatif Ed.), pp.149-166, INTECH (2010)
- Koichi Hashimoto, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Visuomotor Architecture for High-Speed Robot Control, Control and Modeling of Complex Systems (Koichi Hashimoto, Yasuaki Oishi and Yutaka Yamamoto Eds.), pp.323-337, Birkhauser (2002.9)
- Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Vision-Based Online Trajectory Generation and Its Application to Catching, Control Problems in Robotics (A.Bicchi, H.I.Christensen, and D. Prattichizzo Eds.), pp.249-264, Springer (2002)
- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Akio Namiki, and Idaku Ishii: 1ms Sensory-Motor Fusion System, Robotics Research (J.M.Hollerbach and D.E.Koditschek eds.), pp.359-364, Springer (2000.6)
- Masatoshi Ishikawa: Sensor Fusion : The State of the Art, Intelligent Sensors (ed. Hiro Yamasaki), Elsevier, pp.273-283 (1996)
- Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Tactile Systems, Intelligent Sensors (ed. Hiro Yamasaki), Elsevier, pp.165-176 (1996)
- Yoshihiro Aono, and Masatoshi Ishikawa: Auditory-Visual Fusion Using Multi-Input Hidden Markov Model, Robotics, Mechatronics and Manufacturing Systems (T.Takamori and K.Tsuchiya Eds.), pp.177-184, Elsevier (1993)

## General

- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Yoshihiro Nakabo, and Akio Namiki: The 1ms-Vision System and Its Application Examples, Workshop: Innovative Sensory-Motor Fusion Opens a New Robotic World (Organizers : Masatoshi Ishikawa, Makoto Kaneko), 2002 IEEE International Conference on Robotics and Automation, (Washington D.C. 2002.5.11)
- Makoto Kaneko, Toshio Tsuji, and Masatoshi Ishikawa: Design of Capturing System with 100G, Workshop: Innovative Sensory-Motor Fusion Opens a New Robotic World (Organizers: Masatoshi Ishikawa, Makoto Kaneko), 2002 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Washington D.C. 2002.5.11)

- Masatoshi Ishikawa: Robot Sensors with Parallel Processing Capabilities, International Journal of the Japan Society for Precision Engineering, Vol.29, No.3, pp.201-204 (1995)
- Masatoshi Ishikawa: Sensor Fusion, The State of the Art, J. Robotics and Mechatronics, Vol.2, No.4, pp.235-244 (1991)
- Masatoshi Ishikawa: Optical Neurocomputing - Optical Associative Memory with Learning Capabilities -, Now and Future, Vol.5, 1990-1, pp.4-6 (1990)

## Proceeding

- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Motion Planning for Dynamic Folding of a Cloth with Two High-speed Robot Hands and Two High-speed Sliders, 2011 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2011) (Shanghai, 2011.5.12)/Proceedings, pp.5486-5491
- Seiichi Teshigawara, Takahiro Tsutsumi, Satoru Shimizu, Yosuke Suzuki, Aigou Ming, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Highly Sensitive Sensor for Detection of Initial Slip and Its Application in a Multi-fingered Robot Hand, 2011 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2011) (Shanghai, 2011.5.10)/Proceedings, pp.1097-1102
- Masatoshi Ishikawa: Dynamic Information Space based on High-speed Sensor Technology, JST Open Café (Singapore, 2011.3.21)
- Masatoshi Ishikawa: Dynamic Information Space based on High-speed Sensor Technology, JST Workshop in conjunction with ISVRI 2011 (International Symposium on VR Innovation) (Singapore, 2011.3.20)
- Taku Senoo, Yuichi Tanno, and Masatoshi Ishikawa: Jumping Patterns Analysis for 1-DOF Two-legged Robot, 2010 11th International Conference on Control, Automation, Robotics and Vision (ICARCV 2010) (Singapore, 2010.12.8)/Proceedings, pp.603-608
- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Motion Planning for Dynamic Knotting of a Flexible Rope with a High-speed Robot Arm, 2010 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2010) (Taipei, 2010.10.19)/Proceedings, pp.49-54
- Taku Senoo, Daiki Yoneyama, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa: Tweezers-type Tool Manipulation By a High-speed Robot System, Workshop: Bridging Human Hand Research and the Development of Robotic Technology for Hands, IEEE BIOROB 2010 (Tokyo, 2010.9.26)
- Kunihiko Mabuchi, Hirotaka Niilo, Masanari Kunimoto, Takafumi Suzuki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Development of a Wearable Sensory Prosthetic Device for Patients with Peripheral Neural Disturbances, 15th Annual Conf. of the Int. FES Society (IFESS2010)(Vienna, 2010.9.8-12) /Proceedings, pp.309-311
- Akio Namiki, Ryoya Sugano, Satoru Mizusawa, Yuji Yamakawa, and Masatoshi Ishikawa: High Speed Dexterous Manipulation with High Speed Vision (Invited), 9th IFAC Symposium on Robot Control (SYROCO2009) (Gifu, 2009.9.11)/Proceedings, pp.529-534
- Masatoshi Ishikawa: High Speed Vision and Its Applications in Robotics (Invited), IEEE 1st Workshop on Computer Vision for Humanoid Robots in Real Environments (Kyoto, 2009.9.27) / Invited Talk Abstracts, p.10
- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: One-handed Knotting of a Linear Flexible Objectbased on Reconfigurable Skill Synthesis Strategy, ASME/IFTOMM International Conference on Reconfigurable Mechanisms and Robots (ReMAR 2009) (London, 2009.6.23)/Proceedings, pp.486-493/Reconfigurable Mechanisms and Robots, pp.478-485
- Taku Senoo, Yuji Yamakawa, Satoru Mizusawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Skillful Manipulation Based on High-speed Sensory-Motor Fusion, 2009 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Kobe, 2009.5.15)/Proceedings, pp.1611-1612
- Masatoshi Ishikawa: High Speed Vision and its Applications in Robotics (Plenary), The 5th Int. Conf. on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2008) (Seoul, 2008.11.21)/Proceedings, p.23
- Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: High-speed Throwing Motion Based on Kinetic Chain Approach, 2008 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (Nice, 2008.9.25)/Proceedings, pp.3206-3211
- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Knotting Manipulation of a Flexible Rope by a Multifingered Hand System based on Skill Synthesis, 2008 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (Nice, 2008.9.24)/Proceedings, pp.2691-2696
- Satoru Mizusawa, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Tweezers Type Tool Manipulation by a Multifingered Hand Using a High-Speed Visual Servoing, 2008 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (Nice, 2008.9.24)/Proceedings, pp.2709-2714
- Seiichi Teshigawara, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Development of High Speed and High Sensitivity Slip Sensor, 2008 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (Nice, 2008.9.23)/Proceedings, pp.47-52
- Daisuke Gunji, Yoshitomo Mizoguchi, Seiichi Teshigawara, Aigou Ming, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Grasping Force Control of Multi-fingered Robot Hand based on Slip Detection Using Tactile Sensor, International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology 2008 (SICE Annual Conference 2008) (Tokyo, 2008.8.20)/Proceedings, pp.894-899
- Seiichi Teshigawara, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Study of High Speed and High Sensitivity Slip Sensor Characteristic of conductive material, International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology 2008 (SICE Annual Conference 2008) (Tokyo, 2008.8.20)/Proceedings, pp.900-903
- Makoto Shimojo, Takuma Araki, Masahiro Teranishi, Aigou Ming, and Masatoshi Ishikawa: A Net-Structure Tactile Sensor Covering Freeform Surface with Reduced Wiring, International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology 2008 (SICE Annual Conference 2008) (Tokyo, 2008.8.20)/Proceedings, pp.904-909
- Akio Namiki, Yuji Yamakawa, and Masatoshi Ishikawa: Sensory-motor Integration for Dexterous High-speed Handling, International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology 2008 (SICE Annual Conference 2008) (Tokyo, 2008.8.22)/Proceedings, pp.3376-3379
- Daisuke Gunji, Yoshitomo Mizoguchi, Seiichi Teshigawara, Aigou Ming, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Grasping Force Control of Multi-fingered Robot Hand based on Slip Detection Using Tactile Sensor, 2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2008) (Pasadena, 2008.5.23)/Conference Proceedings, pp. 2605-2610
- Makoto Shimojo, Takuma Araki, Seiichi Teshigawara, Aigou Ming, and Masatoshi Ishikawa: A Net-Structure Tactile Sensor Covering Free-form Surface and Ensuring High-Speed Response, 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (San Diego, 2007.10.30)/Proceedings, pp.670-675
- Yuji Yamakawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: One-handed Knotting of a Flexible Rope with a High-speed Multifingered Hand having Tactile Sensors, 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (San Diego, 2007.10.30)/Proceedings, pp.703-708
- Masatoshi Ishikawa: System Architecture for Dynamic Information Fusion: Dynamics Matching and Meta Perception(Plenary), The 10th International Conference on Information Fusion (FUSION 2007) (Quebec, 2007.7.12)
- Sho Morikawa, Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Realtime collision avoidance using a robot manipulator with light-weight small high-speed vision systems, 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA'07) (Roma, 2007.4.11)/Proceedings, pp.794-799
- Akio Namiki, Taku Senoo, Noriatsu Furukawa, and Masatoshi Ishikawa: Visuomotor Integration in High-speed Manipulation System, SICE-ICASE International Joint Conference 2006 (Busan, 2006.10.2)/Proceedings, pp.4192-4197

- Tatsuya Ishihara, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Dynamic Pen Spinning Using a High-speed Multifingered Hand with High-speed Tactile Sensor, 2006 IEEE RAS International Conference on Humanoid Robots (HUMANOIDS'06) (Genova, 2006.12.5)/Proceedings, pp.258-263
- Alvaro Cassinelli, Carson Reynolds, and Masatoshi Ishikawa: Augmenting spatial awareness with Haptic Radar, Tenth International Symposium on Wearable Computers (ISWC2006) (Montreux, 2006.10.12)/Proceedings, pp.61-64
- Makoto Shimojo, Takuma Araki, Aigou Ming, and Masatoshi Ishikawa: A ZMP Sensor for a Biped Robot, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2006) (Orlando, 2006.5.16)/pp.1200-1205
- Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Ball Control in High-speed Batting Motion using Hybrid Trajectory Generator, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2006) (Orlando, 2006.5.17)/pp.1762-1767
- Noriatsu Furukawa, Akio Namiki, Taku Senoo, and Masatoshi Ishikawa: Dynamic Regrasping Using a High-speed Multifingered Hand and a High-speed Vision System, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2006) (Orlando, 2006.5.16)/pp.181-187
- Daisuke Shiokata, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Robot Dribbling Using a High-Speed Multifingered Hand and a High-Speed Vision System, 2005 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2005) (Alberta, 2005.8.5)/Proceedings, pp.3945-3950
- Dirk Ebert, Takashi Komuro, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Safe Human-Robot-Coexistence:Emergency-Stop Using a High-Speed Vision-Chip, 2005 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2005) (Alberta, 2005.8.4)/Proceedings, pp.1821-1826
- Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: The Analysis of High-speed Catching with a Multifingered Robot Hand, 2005 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2005) (Barcelona, 2005.4.20)/pp.2666-2671
- Mitsuru Higashimori, Hieyong Jeong, Idaku Ishii, Makoto Kaneko, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: A New Four-Fingered Robot Hand with Dual Turning Mechanism, 2005 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2005) (Barcelona, 2005.4.20)/pp.2690-2695
- Alvaro Cassinelli, Stephane Perrin, and Masatoshi Ishikawa: Markerless Laser-Based Tracking for Real-Time 3D gesture Acquisition, ACM SIGGRAPH 2004 (Los Angeles, 2004.8.10-11)
- Akio Namiki, Yoshiro Imai, Makoto Kaneko, and Masatoshi Ishikawa: Development of a High-speed Multifingered Hand System, International Conference on Intelligent Manipulation and Grasping (Genoa, 2004.7.1)/pp.85-90
- Stephane Perrin, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Gesture Recognition Using Laser-based Tracking System, 6th International Conference on Automatic Face and Gesture (Seoul, 2004.5.18)/pp.541-546
- Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: High-Speed Batting Using a Multi-Jointed Manipulator, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.28)/pp.1191-1196
- Yoshiro Imai, Akio Namiki, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Dynamic Active Catching Using a High-speed Multifingered Hand and a High-speed Vision System, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.29)/pp.1849-1854
- Akio Namiki, Yoshiro Imai, Taku Senoo, and Masatoshi Ishikawa: Dynamic Manipulation Using High-speed Multifingered Hand-Arm System - Grasping, Catching, and Batting -, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.26-5.1)/Video Proceedings, No.L
- Stephane Perrin, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Laser-Based Finger Tracking System Suitable for MOEMS Integration, Image and Vision Computing New Zealand 2003 (IVCNZ 2003) (Palmerston North, 2003.11.26)/Proceedings, pp.131-136
- Akio Namiki, Yoshiro Imai, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Kaneko: Development of a High-speed Multifingered Hand System and Its Application to Catching, 2003 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (Las Vegas, 2003.10.30)/pp.2666-2671 [ PDF format ]
- Makoto Kaneko, Mitsuru Higashimori, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa : The 100G Capturing Robot -Too Fast To See-, Proc. of 11th Int. Symp. on Robotics Research (Siena , 2003.10.22)/W.2A-2
- Stephane Perrin, and Masatoshi Ishikawa: Quantized Features for Gesture Recognition Using High Speed Vision Camera, SIBGRAPI 2003 (XVI Brazilian Symposium on Computer Graphics and Image Processing) (Sao Carlos, SP, 2003.10.15)/pp.383-390
- Makoto Shimojo, Ryota Makino, Hironori Ogawa, Takafumi Suzuki, Akio Namiki, Takashi Saito, Masanari Kunimoto, Masatoshi Ishikawa, and Kunihiko Mabuchi: Development of a System for Experiencing Tactile Sensation from a Robot Hand by Electrically Stimulating Sensory Nerve Fiber, 6th Japan-France & 4th Asia-Europe Mechatronics Congress (Saitama, 2003.9.11)/pp.471-476
- Akio NAMIKI, Yoshiro IMAI, Masatoshi ISHIKAWA, Makoto KANEKO, Hiroshi KAMEDA, and Junji KOYAMA: Dynamic Catching Using a Ultra-High-Speed Multifingered Hand System, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.17)/Video Proceedings, Abstracts & References, pp.28-29
- Akio NAMIKI, and Masatoshi ISHIKAWA: Robotic Catching Using a Direct Mapping from Visual Information to Motor Command, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.17)/pp.2400-2405 [ PDF format ]
- Mitsuru Higashimori, Makoto Kaneko, and Masatoshi Ishikawa: Dynamic Preshaping for a Robot Driven by a Single Wire, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.16)/pp.1115-1120
- Makoto Shimojo, Takafumi Suzuki, Akio NAMIKI, Takashi Saito, Masanari Kunimoto, Ryota Makino, Hironori Ogawa, Masatoshi ISHIKAWA, and Kunihiko Mabuchi: Development of a System for Experiencing Tactile Sensation from a Robot Hand by Electrically Stimulating Sensory Nerve Fiber, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.16)/pp.1264-1270
- Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Vision-Based Online Trajectory Generation and Its Application to Catching, Second Joint CSS/RAS International Workshop on CONTROL PROBLEMS IN ROBOTICS AND AUTOMATION (Las Vegas, 2002.12.14)(Invited) [PDF format ]
- Makoto Shimojo, Ryota Makino, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, Takafumi Suzuki, and Kunihiko Mabuchi: A Sheet Type Tactile Sensor using Pressure Conductive Rubber with Electrical-Wires Stitches Method, 2002 IEEE Sensors (Orlando, 2002.6.15)
- Makoto Kaneko, Toshio Tsuji, and Masatoshi Ishikawa: The Robot that can Capture a Moving Object in a Blink, 2002 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Washington D.C., 2002.5.14)
- Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Sensory-Motor Fusion Architecture Based on High-Speed Sensory Feedback and Its Application to Grasping and Manipulation Proceedings of the 32nd International Symposium on Robotics (Soul, 2001.4.19)/pp.784-789
- Hiromasa OKU, Idaku ISHII, and Masatoshi ISHIKAWA: Tracking a Protozoan Using High-Speed Visual Feedback, Proc. of 1st Annual Int. IEEE-EMBS Special Topic Conf. on Microtechnologies in Medicine & Biology (Lyon, 2000.10.12-14)/pp.156-159
- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Akio Namiki, and Idaku Ishii: 1ms Sensory-Motor Fusion System (Invited), Int. Symp. of Robotics Research (Snowbird, 1999.10.12)/pp.291-296 [PDF format]
- Masatoshi Ishikawa, Akio Namiki, Takashi Komuro, and Idaku Ishii: New Generation of Sensory Information Processing for Intelligent Systems - VLSI Vision Chip and Sensor Fusion System - (Plenary), Fourth Int. Conf. Electronics Measurement, and Instruments (ICEMI'99) (Harbin, 1999.8.18)/Proceedings,pp.1-6
- Masatoshi Ishikawa, Akio Namiki, Takashi Komuro, and Idaku Ishii: 1ms Sensory-Motor Fusion System with Hierarchical Parallel Processing Architecture (Invited), The Second International Conference on Information Fusion (Sunnyvale, 1999.7.7)/Proceedings, pp.640-647
- Akio Namiki, Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: High Speed Grasping Using Visual and Force Feedback, Proc. IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Detroit, 1999.5.14)/Proceedings, pp.3195-3200 [ PDF format (0.4Mbytes), ps+gzip format (2.0Mbytes)]

- Akio Namiki, Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: 1ms Grasping System Using Visual and Force Feedback, Video Proceedings of IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Detroit, 1999.5.13)/Abstract and References, p.12
- Yoshihiro Nakabo, and Masatoshi Ishikawa: Visual Impedance Using 1ms Visual Feedback System, Proc. IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Leuven, 1998.5.18)/Proceedings, pp.2333-2338
- Takashi Owaki, Yoshihiro Nakabo, Akio Namiki, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Real- time System for Virtually Touching Objects in the real world Using a high Speed Active Vision System, Video Proceedings of IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Leuven, 1998.5.18)/Abstract and References, p.2
- Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Optimal Grasping Using Visual and Tactile Feedback, IEEE International Conference on Multi-sensor Fusion and Integration for Intelligent Systems (Washington DC, 1996.12.11)/Proceedings, pp.589-596 [ PDF format 0.1Mbytes, ps+gzip format 0.6Mbytes]
- Toshiharu Mukai, and Masatoshi Ishikawa: An Active Sensing Method Using Estimated Errors for Multisensor Fusion Systems, International Conference on Multisensor Fusion and Integration for Intelligent Systems (Las Vegas, 1994.10.5)/Proceedings, pp.615-622
- Makoto Shimojo, and Masatoshi Ishikawa: An Active Touch Sensing Method Using a Spatial Filtering Tactile Sensor, IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Atlanta, 1993.5.3-5)/Proc. IEEE Int. Conf. Robotics and Automation, pp.948-954
- Akihiko Takahashi, and Masatoshi Ishikawa: Signal Processing Architecture with Bidirectional Network Topology for Flexible Sensor Data Integration, IROS '93 (1992 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems) (Yokohama, 1993.7.27)/Proceedings, pp.407-413
- Toshiharu Mukai, Takashi Mori, and Masatoshi Ishikawa: A Sensor Fusion System Using Mapping Learning Method, IROS '93 (1992 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems) (Yokohama, 1993.7.27)/Proceedings, pp.391-396
- Yoshihiro Aono, and Masatoshi Ishikawa: Auditory-Visual Fusion Using Multi-Input Hidden Markov Model, IMACS/SICE International Symposium on Robotics, Mechatronics and Manufacturing Systems '92 (Kobe, 1992.9.19)/Proceedings, pp.1085-1090
- Masatoshi Ishikawa: Robot Sensor Technology for Medical, Ergonomical and Physiological Applications, Colloquium on Medical and Neurological Applications in Robotics: New Trends, IROS'92 (1992 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems) (Raleigh, 1992.7.8)/Proceedings, pp.1-7
- Kikuo Kanaya, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo: Tactile Imaging System for Body Pressure Distribution, 11th Congress of Int. Ergonomics Association (Paris, 1991.7.15-20)/Proceedings (Designing for Everyone), Vol.2, pp.1495-1497
- Makoto Shimojo, Masatoshi Ishikawa, and Kikuo Kanaya: A Flexible High Resolution Tactile Imager with Video Signal Output, IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Sacramento, 1991.4.9-11)/Proc. IEEE Int. Conf. Robotics and Automation, pp.384-391

## 論文

- ・奥村光平, 奥寛雅, 石川正俊 : アクティブビジョンの高速化を担う光学的視線制御システム, 日本ロボット学会誌, Vol.29, No.2, pp.201-211 (2011)
- ・奥寛雅, 石川貴彦, 石川正俊 : 光学系と画像処理系の速度を整合した高速フォーカスビジョン, 日本ロボット学会誌, Vol.27, No.7, pp.739-748 (2009)
- ・尾川順子, 菊田恭平, 奥寛雅, 長谷川健史, アルバロカシネリ, 石川正俊 : 微生物との実世界インタラクションシステムの提案と初期検討, 情報処理学会論文誌, Vol.49, No.10, pp.3546-3552 (2008)
- ・長谷川健史, 尾川順子, 奥寛雅, 石川正俊 : 三次元空間内における微生物のマイクロロボット応用に向けた制御フレームワークの提案, 日本ロボット学会誌, Vol.26, No.6, pp.575-582 (2008)
- ・奥寛雅, 石川正俊 : キロヘルツオーダーで応答可能な高速ビジョンチップ用可変焦点レンズの構造, 光学, Vol.31, No.10, pp.758-764 (2002)

## 解説論文

- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速画像処理による運動細胞トラッキング, O plus E, Vol.33, No.3, pp.268-273 (2011)
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速ビジュアルフィードバックによる微生物トラッキング顕微鏡, 機能材料, Vol.31, No.2, pp.39-47 (2011)
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速液体レンズによる映像制御技術, 画像ラボ, Vol.21, No.9, pp.16-22 (2010)
- ・奥寛雅, 尾川順子, 石川正俊 : 高速ビジョンによる微生物トラッキング顕微鏡, 生物物理, Vol.49, No.1, pp.11-14 (2009)
- ・奥寛雅 : ミリ秒レベルの高速応答を実現する液体可変焦点レンズ, O plus E, Vol.31, No.1, pp.1-2 (2009)
- ・石川正俊 : ビジュアルサーボポインティングの現状と将来, 計測と制御, Vol.40, No.9, pp.615-617 (2001)
- ・橋本浩一 : ビジュアルサーボにおける予測と感度, 計測と制御, Vol.40, No.9, pp.630-635 (2001)
- ・中坊嘉宏, 石川正俊 : 1ms高速ビジョンを用いたビジュアルサーボポインティング, 計測と制御, Vol.40, No.9, pp.636-640 (2001)

## 招待講演

- ・奥寛雅 : 高速液体レンズによるダイナミックイメージコントロール, 世代画像入力ビジョン・システム部会第134回定例会(主催社団法人日本工業技術振興会) (東京, 2010.11.29) / 講演資料, pp.1-40
- ・奥寛雅 : 顕微鏡の高速制御技術とその生物学への応用, 定量生物学の会第三回年会 (東京, 2010.11.27)
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速・高解像力液体レンズによるダイナミックイメージコントロール, 映像情報メディア学会技術報告 (情報センシング研究会), IST2009-84, Vol.33, No.49, pp.7-14 (2009)
- ・尾川順子 : 高速ビジュアルサーボ技術を用いたマイクロ世界の計測と制御, 第21回エアロ・アクアバイオメカニズム研究会 (千葉, 2008.3.21) / 講演会資料集, pp.6-9
- ・尾川順子 : ゾウリムシをロボットに~微生物と高速ビジョンが拓くマイクロバイオロボティクス, ロボティクス若手ネットワーク・オープンセミナー「君と共に、ロボティクスが拓く未来」(第25回日本ロボット学会学術講演会一般公開セッション) (習志野, 2007.9.15)
- ・奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 1kHzの帯域幅を持つ高速可変焦点レンズ, 日本光学会年次学術講演会Optics Japan 2005 (東京, 2005.11.23) / 講演予稿集, pp.158-159
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 高速トラッキングを用いたゾウリムシの運動制御, 計測自動制御学会第5回制御部門大会 (仙台, 2005.5.27) / 資料, pp.687-690
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : ゾウリムシ電気走性のダイナミクスマodel, 計測自動制御学会第5回制御部門大会 (仙台, 2005.5.27) / 資料, pp.691-694
- ・橋本浩一 : 視覚と制御, 計測自動制御学会制御部門大会ワークショップ(京都, 2001.5.) 制御部門大会ワークショップテキスト / pp.37-68

## 学会発表

- ・奥寛雅, 清川博貴, 山野隆志, 吉川雅英, 石川正俊 : 位相差顕微鏡法における遊泳細胞の三次元トラッキング, 第17回画像センシングシンポジウム (SSII2011) (横浜, 2011.6.9) / 講演論文集, IS1-11
- ・奥村光平, 奥寛雅, 石川正俊 : 駆動鏡面を用いた超高速アクティブビジョン, 第16回画像センシングシンポジウム (SSII2010) (横浜, 2010.6.10-11) / 講演論文集, DS2-04
- ・等康平, 奥寛雅, 石川正俊 : 高速焦点スキャン画像群に基づく実時間画像認識フレームワークの提案, 第16回画像センシングシンポジウム (SSII2010) (横浜, 2010.6.10) / 講演論文集, IS1-03
- ・奥村光平, 奥寛雅, 石川正俊 : 駆動する鏡面を用いた高速視線制御システム-サッカードミラー-, 第15回ロボティクスシンポジア (吉野, 2010.3.15) / 講演論文集, pp.214-219
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速画像処理と高速光学デバイスによる光学顕微鏡の高機能化, 定量生物学の会第2回年会 (大阪, 2010.1.10-11) / ポスター発表要旨集, 100
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速液体可変焦点レンズの光学特性とコンピュータビジョンへの応用, 日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2009 (OPJ2009) (新潟, 2009.11.26) / 講演予稿集, 26aE5
- ・奥村光平, 奥寛雅, 石川正俊 : 駆動鏡面式超高速アクティブビジョン, 第27回日本ロボット学会学術講演 (横浜, 2009.9.17) / 予稿集, 3R1-02
- ・奥寛雅, 石川貴彦, 石川正俊 : 光学系と画像処理系の速度を整合した高速フォーカスビジョン, 第27回日本ロボット学会学術講演 (横浜, 2009.9.17) / 予稿集, 3R1-03
- ・細谷弘, 奥寛雅, 石川正俊 : 手の振戻のアクティブ制御による微細作業支援手法の提案, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009 (ROBOMECH 2009) (福岡, 2009.5.25) / 予稿集, 1P1-F05
- ・奥寛雅, 石川正俊 : ダイナミックイメージコントロール, 第3回新画像システム・情報フォトニクス研究討論会 (東京, 2009.5.20) / 講演予稿集, pp.10-11
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 微生物トラッキング顕微鏡-細胞運動の定量的な計測を実現する顕微鏡一, 定量生物学の会 第一回年会 (駒場, 2009.1.11) / 番号95
- ・菊田恭平, 尾川順子, 長谷川健史, 奥寛雅, Cassinelli Alvaro, 石川正俊 : ローバ型インターフェースによる微生物との実世界インタラクション, 日本バーチャルリアリティ学会第13回大会 (生駒, 2008.9.24) / 論文集, pp.173-176

- ・奥寛雅, 門内靖明, 石川正俊 : ミリセカンド高速液体可変焦点レンズとそのロボットビジョン応用への可能性, 第26回日本ロボット学会学術講演会 (神戸, 2008.9.11) / 予稿集, 311-03
- ・奥村光平, 長谷川健史, 奥寛雅, 石川正俊 : 運動する微生物の疑似静止観察一トラッキング映像のさらなる安定化一, 第26回日本ロボット学会学術講演会 (神戸, 2008.9.9) / 予稿集, 1D1-04
- ・奥寛雅, 門内靖明, 石川正俊 : ミリセカンド高速・高解像力液体可変焦点レンズ, 第69回応用物理学会学術講演会 (名古屋, 2008.9.2) / 講演予稿集, 2a-ZG-9
- ・牧瀬壯四郎, 奥寛雅, 石川正俊 : 細胞の回折像を用いた高速オートフォーカスの走査型顕微鏡への応用, 第47回生体医工学会大会 (神戸, 2008.5.8) / プログラム・論文集, pp.390-391
- ・柴小菊, 奥寛雅, 尾川順子, 石川正俊, 吉田学 : 高速ビジュアルフィードバックを用いたトラッキング顕微鏡によるホヤ精子運動の長時間長距離観察, 第60回日本動物学会関東支部大会 (東京, 2008.3.22) / 発表演題要旨, 36
- ・尾川順子, 長谷川健史, 奥寛雅, 石川正俊 : 微生物との実世界インタラクションに向けたインターフェース用アバタロボットの制御, インタラクション2008 (東京都, 2008.3.3) / 論文集, 0077
- ・長谷川健史, 尾川順子, 奥寛雅, 石川正俊 : 高速ビジョンによるトラッキングを用いた3次元空間内での微生物制御, 第25回日本ロボット学会学術講演会 (千葉, 2007.9.14) / 予稿集, 2D12
- ・石川貴彦, 奥寛雅, 石川正俊 : 単眼高速ビジョンを用いた画像安定化機能を備えるモバイル顕微鏡の基礎検討, 第13回画像センシングシンポジウム (横浜, 2007.6.8) / 講演論文集IN4-21
- ・尾川順子, 石川貴彦, 奥寛雅, 柴小菊, 吉田学, 石川正俊 : 高速ビジュアルフィードバックを用いたホヤ精子のトラッキング, ロボティクス・メカトロニクス講演会2007 (ROBOMECH 2007) (秋田, 2007.5.12) / 講演論文集, 2A2-005
- ・長谷川健史, 尾川順子, 奥寛雅, 石川正俊 : 高速ビジョンによる3次元トラッキングを用いた電場形成下での微生物運動計測, ロボティクス・メカトロニクス講演会2007 (ROBOMECH 2007) (秋田, 2007.5.12) / 講演論文集, 2A2-006
- ・石川貴彦, 奥寛雅, 石川正俊 : モバイル顕微鏡の実現に向けた単眼高速ビジョンによる画像安定化手法, ロボティクス・メカトロニクス講演会2007 (ROBOMECH 2007) (秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1A2-N01
- ・牧瀬壯四郎, 奥寛雅, 石川正俊 : 回折像を用いた細胞群深さ位置の広範囲・高速推定手法, ロボティクス・メカトロニクス講演会2007 (ROBOMECH 2007) (秋田, 2007.5.11) / 講演論文集, 1A2-N02
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 液体界面を屈折面とする高速可変焦点レンズの構造, 日本光学会年次学術講演会・日本分光学会秋季講演会, Optics & Photonics Japan 2006 (東京, 2006.11.9) / Post-Deadline論文集, pp.10-11
- ・牧瀬壯四郎, 奥寛雅, 石川正俊 : 回折像を用いた細胞群に対する高速なオートフォーカスの研究, ロボティクス・メカトロニクス講演会2006 (ROBOMECH 2006) (東京, 2006.5.27) / 講演論文集, 1A1-C28
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : マイクロロボット応用のための微生物の軌道計画, ロボティクス・メカトロニクス講演会2006 (ROBOMECH 2006) (東京, 2006.5.28) / 講演論文集, 2P1-A26
- ・奥寛雅, Theodorus, 橋本浩一, 石川正俊 : 回折パターンを用いた細胞の高速フォーカシング, 第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2005) (熊本, 2005.12.16) / 講演論文集, pp.121-122
- ・奥寛雅, 尾川順子, 橋本浩一, 石川正俊 : トラッキング顕微鏡による遊泳する微生物のin vivo計測, 第14回日本バイオイメージング学会学術集会 (東京, 2005.10.28) / 要旨集, pp.148-149
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 電気走性アクチュエーションにおけるゾウリムシの非ホロノミック性, 第23回日本ロボット学会学術講演会 (横浜, 2005.9.17) / 予稿集, 3F14
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : ゾウリムシ電気走性的ダイナミクスマodelによるオーバランの評価, ロボティクス・メカトロニクス講演会2005 (神戸, 2005.6.11) / 講演論文集, 2P1-N-078
- ・奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 1-kHz高速可変焦点レンズによる動的な顕微鏡下対象への高速焦点面トラッキング, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.19) / 1A1-H-25
- ・テオドルス, 奥寛雅, 石川正俊, 橋本浩一 : 微生物の三次元トラッキングに向けた高速ビジョンによる顕微鏡フォーカシング, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.19) / 1A1-H-26
- ・竹本征人, 尾川順子, 奥寛雅, 石川正俊, 橋本浩一 : 微生物トラッキングのための高速ビジョン用動的輪郭モデル, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.19) / 1A1-H-27
- ・山根淳, 尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : ゾウリムシの運動制御のための電流制御型電気刺激デバイス, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004 (ROBOMECH '04) (名古屋, 2004.6.19) / 1A1-H-28
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 微生物の電気走性の継続観察システム, 第4回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (東京, 2003.12.20) / pp.385-386
- ・奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : 1-kHz高速可変焦点レンズのための収差補正手法の検討, 日本光学会年次学術講演会 (OJ 2003) (浜松, 2003.12.8) / 講演論文集, pp.4-5
- ・奥寛雅, 尾川順子, 橋本浩一, 石川正俊 : イメージインテンシファイア付高速視覚による微生物トラッキングシステム, 計測自動制御学会 計測部門大会 第20回センシングフォーラム (小金井, 2003.9.17) / 講演論文集, pp.331-334
- ・橋本浩一 : ビジュアルサーボにおける構成とロバスト性, (社)日本機械学会 ロボティクスメカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会2003 (ROBOMECH '03) (函館, 2003.5.25) / 講演論文集, 2A1-1F-C4
- ・尾川順子, 奥寛雅, 橋本浩一, 石川正俊 : オーガナイズドバイオモジュールの実現に向けたゾウリムシの応答計測, (社)日本機械学会 ロボティクスメカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会 2003 (ROBOMECH '03) (函館, 2003.5.25) / 講演論文集, 2P2-3F-E3
- ・奥寛雅, 石川正俊 : 高速可変焦点レンズHFLによる顕微鏡下対象奥行き情報の1ms高速計測, 日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクス講演会 2003 (ROBOMECH '03) (函館, 2003.5.24) / 講演論文集, 1P1-3F-A5
- ・Koichi Hashimoto and Graziano Chesi : A Robust Visual Servoing with Global Stability, 計測自動制御学会機械システム制御シンポジウム (東京, 2002.3.29) / 講演論文集, pp.82-87
- ・Graziano Chesi and Koichi Hashimoto : Static-eye against hand-eye visual servoing, 第19回日本ロボット学会学術講演会 (東京, 2001.9.20) / 講演論文集, pp.947-948
- ・橋本浩一 : 視覚による機械システムのダイナミック制御, 第40回計測自動制御学会学術講演会 (名古屋, 2001.7.27) / 講演論文集, 209A-8
- ・新開誠, 橋本浩一, 石川正俊 : 高速ビジョンを用いたビジュアルサーボシステムの同定, 第40回計測自動制御学会学術講演会 (名古屋, 2001.7.27) / 講演論文集, 307C-6

**Paper**

- Hiromasa Oku and Masatoshi Ishikawa: High-speed liquid lens with 2 ms response and 80.3 nm root-mean-square wavefront error, Applied Physics Letters, Vol.94, 221108 (2009); DOI:10.1063/1.3143624
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Dynamics modeling and real-time observation of galvanotaxis in Paramecium caudatum, Bio-mechanisms of Swimming and Flying – Fluid Dynamics, Biomimetic Robots and Sports Science -- (N. Kato and S. Kamimura Eds.), pp.29-40, Springer (2007)
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Trajectory Planning of Motile Cell for Microrobotic Applications.Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.19, No.2, pp.190-197 (2007)
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: A physical model for galvanotaxis of Paramecium cell, Journal of Theoretical Biology, Vol.242, Issue 2, pp.314-328 (2006)
- Hiromasa Oku, Masatoshi Ishikawa, Theodorus, and Koichi Hashimoto: High-speed autofocusing of a cell using diffraction pattern, Opt. Express, No.14, pp.3952-3960 (2006)
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Microrobotic Visual Control of Motile Cells using High-Speed Tracking System, IEEE Transactions of Robotics, Vol. 21, No.4, pp.704-712 (2005)
- Hiromasa Oku, Naoko Ogawa, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Two-dimensional tracking of a motile microorganism allowing high-resolution observation with various imaging techniques, Review of Scientific Instruments, Vol.76, No.3, 034301 (2005)
- Hiromasa Oku, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: A microscopic visual feedback system, Systems and Computers in Japan, Vol.35, No.13, pp.71-79 (2004)
- Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Variable-focus lens with 1-kHz bandwidth, Optics Express, Vol.12, No.10, pp.2138-2149 (2004)
- Koichi Hashimoto, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Visuomotor Architecture for High-Speed Robot Control,
- Koichi Hashimoto: A review on vision-based control of robot manipulators, Advanced Robotics, Vol.17, No.10, pp.969-991 (2003)
- Graziano Chesi, and Koichi Hashimoto: Effects of camera calibration errors on static-eye and hand-eye visual servoing, Advanced Robotics, Vol.17, No.10, pp.1023-1039 (2003)
- Koichi Hashimoto, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Visuomotor Architecture for High-Speed Robot Control, Control and Modeling of Complex Systems (Koichi Hashimoto, Yasuaki Oishi and Yutaka Yamamoto Eds.), pp.323-337, Birkhauser (2002.9)

**Invited Talks and Tutorials**

- Hiromasa Oku and Masatoshi Ishikawa: A rapidly deformable liquid lens, SPIE Newsroom (Technical Article) (2009.12.14); DOI:10.1117/2.1200912.002505
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Microrobotic Control of Paramecium Cells using Galvanotaxis, 2005 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (Robio 2005) (Hong Kong and Macau, 2005.7.3)/Workshop Proceedings, pp.23-35
- Koichi Hashimoto: A visuomotor control architecture for high-speed grasping, Workshop on Visual Servoing at 2002 IEEE/RSJ Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems, (Lausanne, 2002.10.1)
- Koichi Hashimoto: A visuomotor control architecture for high-speed grasping, EURON Summer School on Visual Servoing, (Benicassim, 2002.9.20)
- Graziano Chesi, Koichi Hashimoto, D. Prattichizzo, and A. Vicino: Title: Keeping features in the camera's field of view: a visual servoing strategy, 15th Int. Symp. on Mathematical Theory of Networks and Systems (Notre-Dame, Indiana, 2002. 8.12-16)
- Koichi Hashimoto, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: A Visuomotor Control Architecture for High-Speed Grasping, 40th IEEE Conference on Decision and Control (Orlando, Florida, 2001.12.4)/Proceedings pp.15-20

**Proceeding**

- Kohei Okumura, Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: High-speed Gaze Controller for Millisecond-order Pan/tilt Camera, 2011 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2011) (Shanghai, 2011.5.12)/Proceedings, pp.6186-6191
- Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: High-Speed Liquid Lens for Computer Vision, 2010 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2010) (Anchorage, 2010.5.5)/Proceedings, pp.2643-2648
- Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: High-speed liquid lens with 2-ms response and 80.3-nm root-mean-square wavefront error, SPIE Photonics West 2010 (San Francisco, 2010.1.25)/Proceedings, 759407-1-011
- Nobuyuki Mizoguchi, Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: High-speed variable-focus optical system for extended depth of field, IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE 2009) (Seoul, 2009.7.8)/Proceedings, pp.1668-1673
- Hiromasa Oku, Naoko Ogawa, Kogiku Shiba, Manabu Yoshida, and Masatoshi Ishikawa: How to Track Spermatozoa using High-Speed Visual Feedback, 30th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2008) (Vancouver, 2008.8.21)/Conference Proceedings, pp.125-128
- Soshiro Makise, Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: Serial Algorithm for High-speed Autofocusing of Cells using Depth From Diffraction (DFD) Method, 2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2008) (Pasadena, 2008.5.23)/Conference Proceedings, pp.3124-3129
- Takahiko Ishikawa, Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: Mobile microscope : A new concept for hand-held microscopes with image stabilization, 2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2008) (Pasadena, 2008.5.23)/Conference Proceedings, pp.3130-3134
- Takeshi Hasegawa, Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: A New Framework for Microrobotic Control of Motile Cells based on High-Speed Tracking and Focusing, 2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2008) (Pasadena, 2008.5.23)/Conference Proceedings, pp.3964-3969
- Anchelee Davies, Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Visualization and Estimation of Contact Stimuli using Living Microorganisms, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO 2006) (Kunming, 2006.12.18)/Proceedings, pp.445-450
- Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: Rapid Liquid Variable-Focus Lens with 2-ms Response, 19th Annual Meeting of the IEEE Lasers & Electro-Optics Society (Montreal, 2006.11.2)/Proceedings, pp.947-948
- Koichi Hashimoto, Kiyonori Takahashi, Naoko Ogawa, and Hiromasa Oku: Visual Feedback Control for a Cluster of Microorganisms, SICE-ICASE International Joint Conference 2006 (SICE-ICCAS 2006) (Busan, Korea, 2006.10.20)/Proceedings, pp.4198-4201
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Dynamics Modeling and Real-Time Observation of Galvanotaxis in Paramecium caudatum toward Robotic Maneuvering, The 3rd International Symposium on Aero Aqua Bio-mechanisms (ISABMEC 2006) (Okinawa, 2006.7.5)/Proceedings, P02
- Hiromasa Oku, Theodorus, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: High-speed Focusing of Cells Using Depth-From-Diffraction Method, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2006) (Orlando, 2006.5.18)/Proceedings, pp.3636-3641

- Kiyonori Takahashi, Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, and Koichi Hashimoto: Organized Motion Control of a lot of Microorganisms Using Visual Feedback, 2006 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2006) (Orlando, 2006.5.16)/Proceedings, pp.1408-1413
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Evaluation and Suppression of Overrun of Microorganisms using Dynamics Model for Microrobotic Application, 9th International Conference on Intelligent Autonomous Systems (IAS-9) (Kashiwa, 2006.3.8)/pp.1015-1024
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Dynamics Model of Paramecium Galvanotaxis for Microrobotic Application, 2005 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2005) (Barcelona, 2005.4.19)/pp.1258-1263
- Hiromasa Oku, Naoko Ogawa, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Microorganism Tracking Microscope System, 2005 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2005) (Barcelona, 2005.4.18-22)
- Theodorus, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Optical Axis Tracking of Microorganism using High-speed Vision, Focus on Microscopy(FOM2005) (Jena, 2005.3.22)/p.105
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Motile Cell Galvanotaxis Control using High-Speed Tracking System, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.28)/pp.1646-1651
- Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa: Single-cell level continuous observation of microorganism galvanotaxis using high-speed vision, 2004 IEEE International Symposium on Biomedical Imaging(ISBI 2004) (Arlingtona, 2004.4.18)/pp.1331-1334
- Hiromasa Oku, and Masatoshi Ishikawa: A Variable-Focus Lens with 1kHz Bandwidth Applied to Axial-Scan of A Confocal Scanning Microscope, The 16th Annual Meeting of the IEEE Lasers & Electro-Optics Society 2003(LEOS 2003) (Tucson, 2003.10.28)/ Vol.1, pp.309-310
- Graziano Chesi, and Koich Hashimoto: Improving camera displacement estimation in eye-in-hand visual servoing: a simple strategy, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.18)/pp.3911-3916
- Graziano Chesi, Koich Hashimoto, D. Prattichizzo, and A. Vicino: A switching control law for keeping features in the field of view in eye-in-hand visual servoing, 2003 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Taipei, 2003.9.18)/pp.3929-3934
- Graziano Chesi, and Koich Hashimoto: A self-calibrating technique for visual servoing, 41st IEEE Conf. on Decision and Control (Las Vegas, 2002.12.10-13)/pp.2878-2883
- Graziano Chesi, and Koich Hashimoto: Static-eye against hand-eye visual servoing, 41st IEEE Conf. on Decision and Control (Las Vegas, 2002.12.10-13)/pp.2854-2859
- Graziano Chesi, and Koich Hashimoto: Static-eye against hand-eye visual servoing, the 19th Annual conference of the Robotics Society of Japan, (Tokyo, 2001.10)/pp.947-948

## 招待論文

- ・石川正俊：センサ情報の並列処理技術，電子情報通信学会論文誌C-II, Vol.J74-C-II, No.5, pp.255-266(1991)

## 学術論文

- ・渡辺義浩, アルバロカシネリ, 小室孝, 石川正俊：変形するタングブルスクリーンへの適応的映像投影を行うインタラクティブディスプレイシステム, 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.15, No.2, pp.173-182 (2010)
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊：超並列コプロセッサを搭載する高速ビジョンシステムとリアルタイム多点計測への適用, 電子情報通信学会論文誌D, Vol.J90-D, No.12, pp.3233-3245 (2007)
- ・石川正俊：ビジョンチップとその応用展開, 電子情報通信学会技術研究報告(集積光デバイス技術研究会), IPDO7-15, pp.36-41 (2007)
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊：多点瞬時解析高速ビジョンによる運動/変形物体のリアルタイム3次元センシング, 日本ロボット学会誌, Vol.25, No.6, pp.1005-1013 (2007)
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊, 片山善夫：超並列画像プロセッサのためのビットレベルコンパイラ, 情報処理学会論文誌コンピューティングシステム, Vol.48, No.SIG13, pp.106-116 (2007)
- ・鏡慎吾, 石川正俊：通信遅延を考慮したセンサ選択手法, 電子情報通信学会論文誌 A, Vol.J88-A, No.5, pp.577-587 (2005)
- ・鏡慎吾, 小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊：ビジョンチップを用いた実時間視覚処理システム VCS-IV, 電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol.J88-D-I, No.2, pp.134-142 (2005)
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊：ビジョンチップのための動的再構成可能なSIMD プロセッサ, 電子情報通信学会論文誌 D-II, Vol.J86-D-II, No.11, pp.1575-1585 (2003)
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊：ビジョンチップのためのマルチターゲットトラッキングとその応用, 電子情報通信学会論文誌 D-II, Vol.J86-D-II, No.10, pp.1411-1419 (2003)
- ・鏡慎吾, 小室孝, 藤村英範, 石川正俊：デジタルビジョンチップのためのソフトウェア A-D 変換手法, 映像情報メディア学会誌, Vol.57, No.3, pp.385-390 (2003)
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石井抱, 石川正俊：実時間視覚処理のためのビジョンチップシステムの開発, 電子情報通信学会論文誌 D-II, Vol.J84-D-II, No.6, pp.976-984 (2001)
- ・小室孝, 石井抱, 石川正俊, 吉田淳：高速対象追跡ビジョンチップ, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J84-D-II, No.1, pp.75-82 (2001)
- ・石井抱, 小室孝, 石川正俊：デジタルビジョンチップのためのモーメント計算法, 電子情報通信学会論文誌D-II, Vol.J83-D-II, No.8, pp.1733-1740 (2000)
- ・石井抱, 石川正俊：高速ビジョンのためのSelf Windowing, 電子情報通信学会論文誌 D-II, Vol.J82-D-II, No.12, pp.2280-2287 (1999)
- ・石井抱, 石川正俊：1msビジュアルフィードバックシステムのための高速対象追跡アルゴリズム, 日本ロボット学会誌, Vol.17, No.2, pp.195-201 (1999)
- ・石井抱, 石川正俊：高速ビジョンのための直線抽出法, 電子情報通信学会論文誌 D-II, Vol.J81-D-II, No.8, pp.1920-1926 (1998)
- ・小室孝, 鈴木伸介, 石井抱, 石川正俊：汎用プロセッシングエレメントを用いた超並列・超高速ビジョンチップの設計, 電子情報通信学会論文誌, Vol.J81-D-I, No.2, pp.70-76 (1998)

## 本

- ・小室孝, 石川正俊：VII 2-5 ビジョンチップ, 光科学研究の最前線(「光科学研究の最前線」編集委員会編), 強光子場科学研究懇談会, pp.414-415 (2005.8)
- ・石川正俊：6.4並列ビジョンセンサー, 6.5並列画像入力・処理システム, 光コンピューティングの事典(稻葉文男, 一岡芳樹編), 朝倉書店, pp.218-231 (1997.12)

## 解説論文

- ・渡辺義浩, 石川正俊：超高速センシングを実現するリアルタイムビジョンシステムの開発, 自動車技術, Vol.65, No.7, pp.114-115 (2011)
- ・石川正俊：ビジョンチップとその応用(巻頭言), アドバンテスト・テクニカル・レポート Probo35, No.35, pp.4-14 (2010)
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊：超高速3Dセンシング技術と3Dインフェイス, 映像情報インダストリアル増刊号, Vol.42, No.13, pp.27-30 (2010)
- ・渡辺義浩, 妹尾拓, 石川正俊：高速ビジョンを用いた高速ロボットの実現, ロボット, No.192, pp.47-53 (2010)
- ・小室孝, 石川正俊：インテリジェントカメラの可能性, 画像ラボ, Vol.19, No.9, pp.73-75 (2008)
- ・田畠友啓, 小室孝, 石川正俊：実用型高速ビジョン画像処理システム, 画像ラボ, Vol.19, No.9, pp.76-79 (2008)
- ・渡辺義浩：超並列コプロセッサ搭載型高速ビジョン-1,000対象を秒間1,000回解析するビジョンシステム-, 画像ラボ, Vol.19, No.2, pp.1-7 (2008)
- ・小室孝, 石川正俊, 鏡慎吾：ビジョンチップシステムを用いた高速視覚処理, 画像ラボ, Vol.16, No.11, pp.36-40 (2005)
- ・石川正俊：超高速ビジョンの展望：日本ロボット学会誌, Vol.23, No.3, pp.274-277 (2005)
- ・小室孝, 石川正俊, 石井抱, 吉田淳, 稲田喜昭, 小宮泰宏：高速対象追跡ビジョンチップの開発, 計測と制御, Vol.43, pp.802-804 (2004)
- ・渡辺義浩, 石川正俊：ビジョンチップによるマルチターゲットトラッキングと視覚計測への応用, 画像ラボ, Vol.15, No.9, pp.17-21 (2004)
- ・鏡慎吾, 石川正俊：分散リアルタイムセンシングによる高速動作獲得技術, 情報処理, Vol.44, No.1, pp.34-39 (2003)
- ・小室孝, 石川正俊：ビジョンチップを用いたオンライン計測, 計測技術, Vol.30, No.9, pp.1-4 (2002)
- ・小室孝, 石川正俊：ビジョンチップの概要と応用, 画像ラボ, Vol.13, No.7, pp.1-4 (2002)
- ・小室孝, 石川正俊：コンピュテーションナルセンサの研究の歴史と今後の展開, 日本ロボット学会誌, Vol.20, No.4, pp.381-384 (2002)

- ・小室孝, 並木明夫, 石川正俊 : 多機能な目, 映像情報メディア学会誌, Vol.56, No.3, pp.356-359 (2002)
- ・石川正俊, 小室孝 : デジタルビジョンチップとその応用, 映像情報インダストリアル, Vol.33, No.12, pp.35-43 (2001)  
(\*電子情報通信学会論文誌 VOL.J84-C No.6より抜粋)
- ・小室孝, 石川正俊 : 高速画像処理のワンチップ集積化, 光学, Vol.30, No.11, pp.725-731 (2001)
- ・豊田晴義, 向坂直久, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊 : 開発すすむ並列ビジョンシステム, エレクトロニクス, Vol.46, No.3, pp.18-21 (2001)
- ・吉田淳, 小室孝, 石川正俊 : 高速追跡用ビジョンチップの可能性, エレクトロニクス, Vol.46, No.3, pp.22-23 (2001)
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : 超並列ビジョンチップ開発は今…, エレクトロニクス, Vol.46, No.3, pp.6-9 (2001)
- ・小室孝, 石川正俊, 吉田淳 : ターゲットトラッキングビジョンチップ, 画像ラボ, Vol.12, No.6, pp.5-8 (2001)
- ・石川正俊, 小室孝 : デジタルビジョンチップとその応用, 電子情報通信学会論文誌C, Vol.J84-C, No.6, pp.451-461 (2001)
- ・小室孝 : ISSCC99詳報 ビジョンチップの最前線 -- 携帯機器開発に視覚情報を与える, エレクトロニクス, Vol.44, No.5, pp.27-29 (1999)
- ・小室孝 : ISSCC99詳報 イメージセンサの最前線, エレクトロニクス, Vol.44, No.4, pp.11-13 (1999)
- ・石井抱, 石川正俊 : 高速視覚とロボットシステム - 超並列ビジョンチップの開発とその応用 -, 画像ラボ, Vol.10, No.4, pp.10-14 (1999)
- ・小室孝, 石井抱, 石川正俊 : 超並列ビジョンチップの開発, 映像情報, Vol.30, No.23, pp.35-40 (1998)
- ・石川正俊 : 超並列・超高速視覚情報システム 一汎用ビジョンチップと階層型光電子ビジョンシステム, 応用物理, Vol.67, No.1, pp.33-38 (1998)
- ・石川正俊 : 並列処理を用いた知能化センシング, 計測と制御, Vol.36, No.9, pp.648-654 (1997)
- ・石川正俊 : 画像センシングの新展開, 映像情報, Vol.27, No.23, pp.25-28 (1995)
- ・石川正俊 : 高速ビジョン - その技術のうねり, エレクトロニクス, Vol.40, No.10, pp.21-23 (1995)
- ・石川正俊 : 光電子ハイブリッド型ビジョンシステム, O plus E, No.184, pp.76-82 (1995)
- ・石川正俊 : 超並列ビジョンアーキテクチャ, BREAK THROUGH, No.103, pp.17-19 (1995)
- ・石川正俊 : 超並列・超高速ワンチップビジョンとその応用, 日本ロボット学会誌, Vol.13, No.3, pp.335-338 (1995)
- ・石川正俊 : 超並列・超高速ワンチップビジョン, 映像情報, Vol.24, No.23, pp.73-78 (1992)

## 招待講演

- ・渡辺義浩, 石川正俊 : 高速3次元センシングの実現とその新応用(招待講演), 第57回応用物理学関係連合講演会 (神奈川, 2010.3.18) / 講演論文集, p.173
- ・石川正俊 : 超高速画像処理とその応用(招待講演), 電子情報通信学会2008年総合大会 (北九州, 2008.3.21) / 講演論文集, DS-3-4
- ・小室孝 : 高速イメージングと高速画像処理(招待講演), 第39回光波センシング研究会(浜松, 2007.6.13) / 講演論文集, pp.197-204
- ・石川正俊 : ビジョンチップが拓く未来, 第100回記念微小光学研究会 (東京, 2006.5.16) / MICROOPTICS NEWS, Vol.24, No.2, pp.7-12
- ・石川正俊, 小室孝 : ビジョンチップとその応用, 第29回光学シンポジウム (東京, 2004.6.18) / pp.63-68
- ・石川正俊, 小室孝 : 瞬く間に反応するロボット, 第89回微小光学研究会 (東京, 2003.7.29) / MICROOPTICS NEWS, Vol.21, No.3, pp.1-6
- ・石川正俊, 小室孝 : ビジョンチップ応用の新展開(特別招待講演), 電子情報通信学会集積回路研究会 (東京, 2003.7.24) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.103, No.216, ICD2003-43, pp.25-30
- ・石川正俊 : 機能イメージセンサの展望(招待講演), 第6回システムLSIワークショップ (琵琶湖, 2002.11.26) / 講演資料集, pp.99-108
- ・石川正俊, 小室孝, 鏡慎吾 : デジタルビジョンチップの新展開(特別招待講演), 電子情報通信学会集積回路研究会 (東京, 2002.7.25) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2002-39, Vol.102, No.234, pp.23-28
- ・石川正俊 : ビジョンチップとその応用(特別講演), 3次元画像コンファレンス(東京, 2002.7.4) / 講演論文集, pp.33-36
- ・石川正俊 : 1msビジョンチップの現状と将来(招待論文), 電子情報通信学会集積回路研究会 (熊本, 2000.9.22) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD00-138, Vol.100, No.652, pp.35-42, 映像情報メディア学会情報センシング研究会 / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.24, No.53, pp.35-42 (2000)
- ・石川正俊 : 1msビジョンチップとその応用(特別講演), AVIRG総会 (東京, 2000.5.25)
- ・石川正俊 : 超並列ビジョンチップ, 日本機械学会第75期通常総会「先端技術フォーラム」(東京, 1998.3.31) / 資料集VI, pp.286-287
- ・石川正俊 : 知能システムにおけるセンシング技術の近未来(特別講演), 第25回知能システムシンポジウム (東京, 1998.3.20) / 資料, pp.99-105
- ・石川正俊 : センシングシステムの未来 - 1msビジョンチップとセンサフュージョン-, 第3回画像センシングシンポジウム (東京, 1997.6.11) / 予稿集, pp.149-152
- ・石川正俊 : 超並列・超高速ビジョンチップ, 第10回回路とシステム軽井沢 ワークショップ (軽井沢, 1997.4.21) / 論文集, pp.151-155
- ・石川正俊 : 超並列・超高速ビジョンとその応用 (招待講演), レーザー学会学術講演会第16回年次大会 (横浜, 1996.1.25) / 講演予稿集, pp.302-305
- ・石川正俊 : 超並列・超高速ワンチップビジョンとその応用, 第15回光応用計測部会講演会 (東京, 1995.10.26) / 資料, pp.33-37
- ・石川正俊 : センサ技術と並列処理, 計測自動制御学会第8回先端電子計測部会講演会 (東京, 1991.11.29) / 予稿集, pp.21-24

## レター論文

- ・岩下貴司, 小室孝, 石川正俊 : 128x128画素を有する画像モーメントセンサの開発, 映像情報メディア学会誌, Vol.61, No.3, pp.123-126 (2007)
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : 超並列コプロセッサIPを用いたリコンフィギラブル高速ビジョンシステムの構築と評価, 情報科学技術レターズ, Vol.5, pp.25-28 (2006)

## 学会発表

- ・柴山裕樹, 小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊 : 単眼動画像からの可展面物体の3次元変形とその展開テクスチャの復元, 第12回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2011) (金沢, 2011.7.22) / 講演論文集, pp.1437-1444
- ・有間英志, 糸山浩太郎, 山田雅宏, 小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊 : 高速3次元センシングによる適応的撮像を行う高精細書籍電子化システムの提案, 第17回画像センシングシンポジウム (SSII2011) (横浜, 2011.6.10) / 講演論文集, IS2-17
- ・上田知広, 新倉雄大, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 高速カメラを用いた仮想物体とのインタラクションにおける同期精度向上, 映像情報メディア学会情報センシング研究会 (東京, 2011.5.27) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2011-21, Vol.35, No.19, pp.17-20 (2011)
- ・佐野乾一, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 物体の転がり運動を利用した三次元形状復元, 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2010) (仙台, 2010.12.25) / 講演論文集, pp.2168-2169
- ・大野紘明, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊, 深山理, 鈴木隆文, 満渕邦彦 : 姿勢と筋活動を提示するシンクロナ化ドビデオ, 第15回日本バーチャルリアリティ学会大会 (石川, 2010.9.17) / 講演論文集, pp.444-447
- ・三浦洋平, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 口唇形状の時間変化に基づく日本語子音認識, 映像情報メディア学会情報センシング研究会 (金沢, 2010.6.22) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2010-34, ME2010-106, Vol.34, No.22, pp.21-24 (2011)
- ・畠中哲生, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : ウェアラブルカメラを用いた人間の歩行状態推定, 第16回画像センシングシンポジウム (SSII2010) (横浜, 2010.6.11) / 講演論文集, IS3-05
- ・望戸雄史, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : Analysis-by-Synthesis法を用いた三次元物体姿勢推定手法のGPUによる実装, 第16回画像センシングシンポジウム (SSII2010) (横浜, 2010.6.11) / 講演論文集, IS4-17
- ・鍼利孝, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 投げ上げカメラによる広範囲画像センシング, 映像情報メディア学会情報センシング研究会 (東京, 2009.12.10) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2009-92, Vol.33, No.56, pp.9-12 (2009)
- ・田畠友啓, 小室孝, 石川正俊 : 高速エリニアカメラを用いた回転体の表面画像合成, 映像情報メディア学会情報センシング研究会 (東京, 2009.12.11) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2009-97, Vol.33, No.56, pp.29-32 (2009)
- ・渡辺義浩, 大野紘明, 小室孝, 石川正俊 : シンクロナ化ドビデオ : 身体動作と調和するビデオ操作, 第14回日本バーチャルリアリティ学会大会 (東京, 2009.9.9) / 講演論文集, 1A3-2
- ・小藤健太郎, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 人工物に対する事前知識を用いたステレオビジョンの高性能化, 第12回画像の認識・理解シンポジウム (島根, 2009.7.22) / 講演論文集, pp.1500-1507
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 複数の距離画像を用いた曲面/運動同時推定による高解像度形状復元, 第12回画像の認識・理解シンポジウム (島根, 2009.7.22) / 講演論文集, pp.1638-1645
- ・望戸雄史, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : CGとGPUを用いた三次元物体の姿勢推定, 第12回画像の認識・理解シンポジウム (島根, 2009.7.22) / 講演論文集, pp.1653-1660
- ・中島崇, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 可展面モデルを用いた非剛体変形の推定と展開, 第12回画像の認識・理解シンポジウム (島根, 2009.7.22) / 講演論文集, pp.1690-1697
- ・山本啓太郎, 小室孝, 石川正俊 : 高速ビジョンを用いたビデオモザイキング, 映像情報メディア学会情報センシング研究会・メディア工学研究会 (金沢, 2009.6.16) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2009-28, ME2009-104, Vol.33, No.23, pp.49-52 (2009)
- ・廣部祐樹, 船橋一訓, 新倉雄大, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 単眼カメラを用いた携帯機器向け空中タイピングインターフェース, 映像情報メディア学会情報センシング研究会・メディア工学研究会 (金沢, 2009.6.16) / 映像情報メディア学会技術報告, IST2009-32, ME2009-108, Vol.33, No.23, pp.65-68 (2009)
- ・田畠友啓, 小室孝, 石川正俊 : 高速ビジョンシステムを用いた回転体の表面展開図作成, 第15回画像センシングシンポジウム (横浜, 2009.6.11) / 講演論文集, IS1-18
- ・畠中哲生, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : ウェアラブルカメラを用いた人間の歩行状態推定手法の提案, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009(ROBOMECH 2009) (福岡, 2009.5.25) / 講演論文集, 1A1-D02
- ・山口光太, 小室孝, 石川正俊 : 顔追跡によるPTZ操作と魚眼パノラマへの応用, 情報処理学会インタラクション2009 (東京, 2009.3.5) / CD-ROM
- ・山口光太, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 遠隔カメラ映像のための覗き込みインターフェース, 第13回映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008) (伊豆, 2008.10.31) / シンポジウム資料, pp.83-84
- ・小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊 : 高フレームレートカメラを用いた動被写体の高画質撮影, 第13回映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008) (伊豆, 2008.10.31) / シンポジウム資料, pp.129-130
- ・渡辺義浩, 三浦洋平, 小室孝, 石川正俊 : めぐり動作を利用した書籍スキャニングシステムの試作, 第13回映像メディア処理シンポジウム (IMPS2008) (伊豆, 2008.10.31) / シンポジウム資料, pp.157-158
- ・小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊, 奈良部忠邦 : 高フレームレートカメラを用いた運動物体の高S/Nイメージング, 第11回画像の認識・理解シンポジウム (軽井沢, 2008.7.30) / 講演論文集, pp.973-978 (IS3-18)
- ・杉原裕, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 運動物体の三次元計測における高解像度形状の復元, 3次元画像コンファレンス2008 (東京, 2008.7.10) / 講演論文集, pp.19-22
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : マルチフレーム同時位置合わせに基づく運動物体形状の高解像度化, 第14回画像センシングシンポジウム (横浜, 2008.6.13) / 講演論文集, IN3-22
- ・宮城康輔, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : マルチフレーム画像合成による高速カメラ画像の高画質化, 第14回画像センシングシンポジウム (横浜, 2008.6.13) / 講演論文集, IN3-15
- ・田畠友啓, 小室孝, 石川正俊 : 産業用途向け高速ビジョンモジュール～PCベースエントリーシステムと組み込み型ボードシステム～(特別展示), 第14回画像センシングシンポジウム (横浜, 2008.6.13) / 講演論文集, EX2-03
- ・山本啓太郎, 山口光太, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 高速ビジョンを用いた特徴点追跡による3次元形状復元, 電子情報通信学会2008年総合大会 (北九州, 2008.3.21) / 講演論文集, DS-3-5
- ・寺嶋一浩, 小室孝, 石川正俊 : 高フレームレートカメラとFPGAによる空中タイピングシステムの構築, 動的画像処理実利用化ワークショップ2008 (豊田, 2008.3.7) / 講演論文集, pp.304-309
- ・田畠友啓, 小室孝, 石川正俊 : 産業用途に向けた高速ビジョンモジュールの開発, 動的画像処理実利用化ワークショップ2008 (豊田, 2008.3.7) / 講演論文集, pp.314-318
- ・石川正俊 : ビジョンチップとその応用展開, 電子情報通信学会集積光デバイス技術研究会 (名古屋, 2007.12.6) / 電子情報通信学会技術研究報告, IPD07-15, pp.36-41
- ・渡辺義浩, 河野仁, 小室孝, 石川正俊 : 運動物体の高分解能3次元センシングに向けた時系列統合の検討, 第25回日本ロボット学会学術講演会 (千葉, 2007.9.13) / 講演予稿集, 1N21

- ・西電健太, 小室孝, 石川正俊 : モーメントテーブルを用いた3次元物体のトラッキング, 第10回画像の認識・理解シンポジウム(広島, 2007.7.31) / 講演論文集, pp.1099-1104 (IS-3-30)
- ・宅見宗則, 向坂直久, 豊田晴義, 石川正俊 : 超高速インテリジェントビジョンシステム : CPV-4 一小型モジュール化のための128×128 PE アレイの1チップ化, 第13回画像センシングシンポジウム(横浜, 2007.6.7) / 講演論文集, LD1-08
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 超並列コプロセッサ搭載型高速ビジョンシステム, 第13回画像センシングシンポジウム(横浜, 2007.6.7) / 講演論文集, IN1-15
- ・寺嶋一浩, 岩下貴司, 小室孝, 石川正俊 : 高速ビジョンを用いた空中タイピング動作の認識, 第13回画像センシングシンポジウム(横浜, 2007.6.7) / 講演論文集, IN2-12
- ・福岡功慶, 小室孝, 石川正俊 : Zooming Touch Panel : 小型カメラを用いたタッチパネルの高機能化, 情報処理学会インテグレーション2007(東京, 2007.3.15) / 論文集, pp.33-34
- ・岩下貴司, 小室孝, 石川正俊 : 画像モーメントの抽出に特化した高分解能型ビジョンチップ, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2007.1.25) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.31, No.3 (IST2007-2) pp.5-8
- ・寺嶋一浩, 岩下貴司, 小室孝, 石川正俊 : 携帯機器向け空中キー入力インターフェースのための手指の動作認識アルゴリズム, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2006)(札幌, 2006.12.16) / 講演会論文集, pp.1378-1379
- ・渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 多点瞬時解析高速ビジョンシステムによる運動・変形物体のリアルタイム形状計測, 第24回日本ロボット学会学術講演会(岡山, 2006.9.15) / 予稿集, 2B17
- ・小室孝, ビヨーン ウエアクマン, 駒井崇志, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップシステムの小型化とウェアラブルマンマシンインターフェースへの応用, 第5回情報科学技術フォーラム(福岡, 2006.9.6) / 一般講演論文集第3分冊, pp.463-464 (K-037)
- ・山口光太, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : 高速画像認識のための超並列ビジョンプロセッサの設計, 第5回情報科学技術フォーラム(福岡, 2006.9.5) / 一般講演論文集第1分冊, pp.181-184
- ・山口光太, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊 : メモリ共有型マルチSIMDアーキテクチャを有する高性能ビジョンプロセッサの設計, 電子情報通信学会集積回路研究会・情報処理学会アーキテクチャ研究会(川崎, 2006.6.9) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.106, No.92, (ICD2006-56) pp.89-94
- ・斎藤翔一郎, 鏡慎吾, 石川正俊 : ネットワーク接続機能を実装した高速ビジョンチップシステム, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'05(神戸, 2005.6.11) / 講演論文集, 2A1-N-096
- ・葭本香太郎, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップによる背景存在下での高速トラッキング, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'05(神戸, 2005.6.11) / 講演論文集, 2P1-N-096
- ・岩下貴司, 下条誠, 石川正俊 : 触覚情報処理用 Mixed signal LSI の開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'05(神戸, 2005.6.11) / 講演論文集, 2P1-N-103
- ・小室孝, 鏡慎吾, 渡辺義浩, 竹内大介, 神明前方嗣, 石川正俊 : ビジョンチップシステムを用いた高速視覚処理, 第11回画像センシングシンポジウム(横浜, 2005.6.10) / 講演論文集, pp.325-330 (G-2)
- ・小室孝, 鏡慎吾, 渡辺義浩, 並木明夫, 妹尾拓, 奥寛雅, 石川正俊 : ビジョンチップによる高速視覚計測と機械制御への応用, 第5回計測自動制御学会制御部門大会(仙台, 2005.5.25) / 資料, pp.5-8
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : リアルタイム画像計測のための多数粒子情報の並列抽出アーキテクチャの設計と実装, 第12回 FPGA/PLD Design Conference(横浜, 2005.1.27) / 論文集, pp.1-6
- ・葭本香太郎, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップを用いた複雑背景下での二値画像トラッキング, 第5回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2004)(つくば, 2004.12.17) / 講演会論文集, pp.200-201
- ・駒井崇志, 鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : ウェアラブルインターフェースのためのビジョンチップの位置姿勢推定法の検討, 第5回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2004)(つくば, 2004.12.17) / 講演会論文集, pp.202-203
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ドミノ論理を用いた可変長バイ二進法と機能イメージセンサへの応用, 第8回システムLSIワーキングショップ(北九州市, 2004.11.30) / 講演資料集およびポスター資料集, pp.259-262
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : 数多物体の画像モーメント取得のための並列演算アーキテクチャ, 第8回システムLSIワーキングショップ(北九州市, 2004.11.30) / 講演資料集およびポスター資料集, pp.271-274
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : 画像モーメントセンサの設計, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2004.10.15) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.28, No.59 (IST2004-86) pp.5-8
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : 高速・高感度ビジョンチップのための画素内 A-D 変換を行う光検出回路の検討, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2004.10.14) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.28, No.58 (IST2004-79) pp.25-28
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップを用いたリアルタイム形状認識, 第22回日本ロボット学会学術講演会(岐阜, 2004.9.17) / 予稿集, 3F21
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : ビジョンチップシステム VCS-IV を用いたソフトウェア撮像制御, 電子情報通信学会集積回路研究会(大阪, 2004.7.13) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2004 - 40, pp.17-22
- ・千條吉基, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : リアルタイムビジョンのための画像マッチングによるモデルベース形状認識, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004(ROBOME'04)(名古屋, 2004.6.20) / 2P1-L1-54
- ・小室孝, 石川正俊 : リアルタイム图形処理のための次元階層並列プロセッサ, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004(ROBOME'04)(名古屋, 2004.6.20) / 2P2-L1-45
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップを用いたリアルタイム視覚計測, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004(ROBOME'04)(名古屋, 2004.6.20) / 2P2-L1-46
- ・神明前方嗣, 鏡慎吾, 小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊 : ビジョンチップを用いた時間符号化光の画素並列検出手法, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004(ROBOME'04)(名古屋, 2004.6.20) / 2P1-L1-47
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : 実時間視覚センシングにおけるフレームレートの最適選択, ロボティクス・メカトロニクス講演会2004(ROBOME'04)(名古屋, 2004.6.20) / 2P2-L1-51
- ・竹内大介, 鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊 : ソフトウェアA-D変換を用いたビジョンチップの固定パターンノイズ除去手法, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2003.10.16) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.27, No.58 (IST2003-71) pp.1-4
- ・宗玄清宏, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップのための並列処理を用いた形状認識手法の検討, 日本ロボット学会第21回学術講演会(東京, 2003.9.20) / 予稿集, 1K21
- ・佐々木広, 笠原裕一, 小室孝, 石川正俊 : 複数のビジョンチップを用いた広視野ターゲットトラッキング, 日本ロボット学会第21回学術講演会(東京, 2003.9.20) / 予稿集, 1K23
- ・鏡慎吾, 石川正俊 : 通信遅延を考慮したセンサ選択手法, 日本ロボット学会第21回学術講演会(東京, 2003.9.20) / 予稿集, 1F25
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップを用いた動画像統計解析とそのリアルタイム計測への応用, 計測自動制御学会 計測部門大会 第20回センシングフォーラム(東京, 2003.9.17) / 講演論文集, pp.325-330
- ・山野高将, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊 : ビジョンチップコンパイラのビットレベル最適化手法, 情報科学技術フォーラム2003(札幌, 2003.9.10) / 講演論文集, 第1分冊, pp.177-178
- ・豊田晴義, 向坂直久, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊 : 超高速インテリジェントビジョンシステム(CPV-II)を用いた動画像特徴量抽出方法の検討, 第9回画像センシングシンポジウム(横浜, 2003.6.13) / 講演論文集, E-2, pp.289-294

- ・島居晋太郎, 小室孝, 石川正俊: ビジョンチップにおけるモーメント計算回路のパイプライン化, 電子情報通信学会集積回路研究会(東京, 2003.7.24) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.103, No.216, ICD2003-42, pp.19-24
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊: ディジタルビジョンチップを用いた実時間視覚処理システム—小型化・高速化と感度特性制御の実現—, (社)日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門ロボティクス・メカトロニクス講演会 2003 (ROBOMECH '03) (函館, 2003.5.25) / 講演論文集2P2-1F-D8
- ・向坂直久, 豊田晴義, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム: CPV-IIを用いたステレオ視, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(神戸, 2002.12.21) / 講演論文集, Vol.3, pp.55-56
- ・沓掛暁史, 佐藤辰雄, 鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊: 高速ビジョンチップのためのぶれ画像復元の一手法, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会(大阪, 2002.10.12) / 講演論文集, 1A31
- ・向坂直久, 豊田晴義, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム: CPV-II —2眼システムによるステレオ視実験—, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会(大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 1H21
- ・小室孝, 石井抱, 石川正俊, 吉田淳: 高速対象追跡ビジョンチップを用いた複数物体のトラッキング, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会(大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 3A16
- ・山野高将, 中坊嘉宏, 橋本浩一, 石川正俊, ビジョンチップに適した並列化スネークアルゴリズム, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会(大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 3A12
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊: ビジョンチップを用いた分割領域のラベリングと回転計測への応用, 日本ロボット学会創立20周年記念学術講演会(大阪, 2002.10.14) / 講演論文集, 3A14
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊: ビジョンチップのためのソフトウェア A-D 変換とその動的制御, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2002.6.21) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.26, No.42 (IPU2002-46), pp.51-54
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊: 超高速ビジョンチップの試作と感度評価, 映像情報メディア学会情報センシング研究会(東京, 2002.6.20) / 映像情報メディア学会技術報告, Vol.26, No.41 (IPU2002-30) pp.25-28
- ・小室孝, 鏡慎吾, 石川正俊: 高性能デジタルビジョンチップの開発, ロボティクス・メカトロニクス講演会'02(松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-G02
- ・渡辺義浩, 小室孝, 鏡慎吾, 橋本浩一, 石川正俊: ビジョンチップを用いた高速回転物体の運動計測, ロボティクス・メカトロニクス講演会'02(松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-G03
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊: ディジタルビジョンチップの動的な感度特性制御手法, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'02(松江, 2002.6.9) / 講演論文集, 2P2-G06
- ・鏡慎吾, 小室孝, 藤村英範, 石川正俊: ディジタルビジョンチップのためのソフトウェア A-D 変換方式の検討, 電子情報通信学会集積回路研究会・VLSI設計技術研究会共催(沖縄, 2002.3.7) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2001-228, VLD2001-153, pp.51-58
- ・武内喜則, 川合英雄, 柴田元司, 馬場彩子, 小室孝, 藤村英範, 石川正俊: 高速視覚センサ「デジタル・スマートピクセル」と高速機器制御, 画像電子学会第190回研究会(大阪, 2001.11.22) / 画像電子学会研究会予稿集01-05-04, pp.23-28
- ・川合英雄, 馬場彩子, 柴田元司, 武内喜則, 小室孝, 藤村英範, 石川正俊: デジタル・スマートピクセルによる画像処理と $16 \times 1$  6デバイスの試作, 日本光学会年次学術講演会(東京, 2001.11.15) / 予稿集, pp.39-40
- ・向坂直久, 豊田晴義, 田中博, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム, 電子情報通信学会集積回路研究会(神戸, 2001.9.7) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2001-100, pp.63-66
- ・鏡慎吾, 小室孝, 中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊: ビジョンチップ評価システムとソフトウェア開発環境, 第19回日本ロボット学会学術講演会(東京, 2001.9.18) / 予稿集, pp.387-388
- ・豊田晴義, 向坂直久, 田中博, 宮見宗則, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム: CPV-II-センサ部および並列演算部の小型集積化-, 第19回日本ロボット学会学術講演会(東京, 2001.9.18) / 予稿集, pp.383-384
- ・沓掛暁史, 佐藤辰雄, 鏡慎吾, 小室孝, 石川正俊: ビジョンチップの高速検査・計測への適用に関する検討, 第19回日本ロボット学会学術講演会(東京, 2001.9.18) / 予稿集, pp.381-382
- ・吉田淳, 小室孝, 石川正俊: 高速対象追跡ビジョンチップエバレーションボードの紹介, 第19回日本ロボット学会学術講演会(東京, 2001.9.18) / 予稿集, pp.237-238
- ・小室孝, 石川正俊: ブロック内特微量フィードバック機構を有するデジタルビジョンチップ, 第19回日本ロボット学会学術講演会(東京, 2001.9.18) / 予稿集, pp.71-72
- ・川合英雄, 馬場彩子, 柴田元司, 武内喜則, 小室孝, 藤村英範, 石川正俊: デジタル・スマートピクセルによる画像処理, 第62回応用物理学学会学術講演会(愛知, 2001.9.12) / 講演論文集, pp.764
- ・小室孝, 石川正俊: PE 結合機能を持つ汎用デジタルビジョンチップの設計, 電子情報通信学会集積回路研究会(シリコン材料・デバイス研究会共催)(室蘭, 2001.8.2) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2001-37(SDM2001-114), pp.9-16
- ・小室孝, 鏡慎吾, 小川一哉, 石井抱, 石川正俊: 高集積化ビジョンチップの開発, 第40回計測自動制御学会学術講演会(名古屋, 2001.7.27) / 講演論文集, 31OC-2
- ・藤村英範, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: 完全ピットシリアルディジタルビジョンチップのための変動テンプレート相関トラッキングアルゴリズム, 第40回計測自動制御学会学術講演会(名古屋, 2001.7.27) / 講演論文集, 31OC-3
- ・向坂直久, 豊田晴義, 田中博, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム-小型モジュール化-, 第7回画像センシングシンポジウム(横浜, 2001.6.6) / 講演論文集, A-1, pp.1-4
- ・小室孝, 石井抱, 石川正俊, 吉田淳: 高速対象追跡ビジョンチップの設計と試作, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'01(高松, 2001.6.10) / 講演論文集, 2P1-N4
- ・鏡慎吾, 小室孝, 小川一哉, 石井抱, 石川正俊: 超並列ビジョンチップ: アーキテクチャとそのシステム開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'01(高松, 2001.6.10) / 講演論文集, 2P1-N5
- ・中坊嘉宏, 石川正俊, 豊田晴義, 向坂直久, 水野誠一郎: 1ms列並列ビジョン(CPV)システム, 第94回光コンピューティング研究会(東京, 2001.5.25) / 予稿集, pp.18-22
- ・鏡慎吾, 小室孝, 小川一哉, 石井抱, 石川正俊: 64×64 PE を集積した超並列ビジョンチップとそのシステム開発, 第4回システムLSI琵琶湖ワークショップ(守山, 2000.11.28) / 講演資料集およびボスター資料集, pp.271-274
- ・藤村英範, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: ディジタルビジョンチップのためのグレイコードを用いたピットシリアルAD変換, 電子情報通信学会集積回路研究会(熊本, 2000.9.22) / 電子情報通信学会技術研究報告, ICD2000-85(Vol.100, No.310) / pp.7-14
- ・小室孝, 鏡慎吾, 奥寛雅, 小川一哉, 石井抱, 石川正俊: 高集積化ビジョンチップとその応用, 第39回計測自動制御学会学術講演会(飯塚, 2000.7.27)
- ・豊田晴義, 向坂直久, 水野誠一郎, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超高速インテリジェントビジョンシステム: CPV 第6回画像センシングシンポジウム(横浜, 2000.6.15)
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: 超並列ビジョンチップシステムを用いた高速ロボットビジョン, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'00(熊本, 2000.5.12) / 講演論文集, 1A1-50-070
- ・中坊嘉宏, 石川正俊, 豊田晴義, 水野誠一郎: ピュアルフィードバックのための1ms列並列ビジョン(CPV)システム, 第5回ロボティクスシンポジウム論文集(神戸, 2000.3.27) / 予稿集, 22C2, pp.375-380
- ・中坊嘉宏, 石川正俊, 豊田晴義, 水野誠一郎: 超高速・列並列ビジョンシステム(CPV-I)を用いたアクティブビジョン, 第17回日本ロボット学会学術講演会(東京, 1999.9.9) / 予稿集, 2B23, pp.491-492

- ・小室孝, 小川一哉, 鏡慎吾, 中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊: 高集積化に向けた汎用デジタルビジョンチップの開発とその応用, 第38回計測自動制御学会学術講演会(盛岡, 1999.7.29) / 予稿集, pp.375-376
- ・小室孝, 石井抱, 中坊嘉宏, 石川正俊: デジタルビジョンチップのためのモーメント抽出アーキテクチャ, 電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会(函館, 1999.7.16) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.PRMU99-51, pp.17-22
- ・石井抱, 小室孝, 石川正俊: ビットプレーン特徴分解を用いたモーメント計算法, 電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会(函館, 1999.7.16) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.PRMU99-52, pp.23-28
- ・中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊, 豊田晴義, 水野誠一郎: 列並列S3PEアーキテクチャによる超高速ビジョンシステム(CPV-I), 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'99(東京, 1999.6.13) / 講演論文集, 1P1-65-096
- ・小川一哉, 小室孝, 鏡慎吾, 石井抱, 石川正俊: 汎用デジタルビジョンチップのワンチップ集積化とシステム実装, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'99講演会(東京, 1999.6.13) / 講演論文集, 2P2-49-057
- ・小川一哉, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: S3PEアーキテクチャに基づくデジタルビジョンチップとその高集積化, 電子情報通信学会集積化回路研究会(松山, 1999.4.16) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.ICD99-4, pp.7-13
- ・鏡慎吾, 中坊嘉宏, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: 1msビジョンチップシステムの制御アーキテクチャ, 電子情報通信学会集積回路研究会(松山, 1999.4.16) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.ICD99-4, pp.15-20
- ・小川一哉, 小室孝, 中坊嘉宏, 並木明夫, 石井抱, 石川正俊: スーパービジョンチップと応用システムのための処理アーキテクチャ, 第2回システムLSI琵琶湖ワークショップ(滋賀, 1998.11.26) / 講演資料集及びポスター資料集, pp.269-271
- ・鏡慎吾, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: ロボットビジョンのためのビジョンチップシステムの設計, 第16回日本ロボット学会学術講演会(札幌, 1998.9.19) / 予稿集, pp.697-698
- ・小室孝, 石井抱, 石川正俊: 汎用プロセッsingエレメントを用いた超並列ビジョンチップの開発, 日本機械学会ロボット・メカトロニクス'98講演会(仙台, 1998.6.27) / 講演論文集, 2CII4-2
- ・石井抱, 村田達也, 松内良介, 小室孝, 石川正俊: 高速ロボット制御のための超並列ビジョンチップシステム, 第3回ロボティクスシンポジア(広島, 1998.5.7) / 予稿集, pp.59-66
- ・村田達也, 松内良介, 中坊嘉広, 石井抱, 石川正俊: 超並列・超高速ビジョンチップシステムのための制御アーキテクチャ, 電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会(小樽, 1997.11.20) / 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.PRMU97-150, pp.161-168
- ・松内良介, 村田達也, 中坊嘉広, 石井抱, 石川正俊: ビジョンチップシステムのためのソフトウェア開発環境の構築, 情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会(阿蘇, 1997.8.20) / 情報処理学会研究報告, Vol.ARC-125, No.7, pp.37-42
- ・村田達也, 松内良介, 石井抱, 石川正俊: 超並列・超高速ビジョンチップの制御構造, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'97(厚木, 1997.6.8) / 講演論文集, pp.1089-1092
- ・小室孝, 鈴木伸介, 坂口隆明, 石川正俊: プログラマブルな超高速ビジョンチップの設計および試作, 電気学会センサ・マイクロマシン部門総合研究会(東京, 1996.11.12) / 資料, pp.465-474
- ・石井抱, 石川正俊: 超高速ビジョンのための2値画像処理アルゴリズム, 電気学会センサ・マイクロマシン部門総合研究会(東京, 1996.11.12) / 資料, pp.455-464
- ・中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊: 超並列・超高速ビジョンシステムを用いたビジュアルフィードバック, 電気学会センサ・マイクロマシン部門総合研究会(東京, 1996.11.12) / 資料, pp.445-454
- ・中坊嘉宏, 石川正俊: ビジュアルインピーダンスを利用しため合い動作, 第14回日本ロボット学会学術講演会(新潟, 1996.11.1) / 予稿集, pp.755-756
- ・坂口隆明, 小室孝, 石井抱, 石川正俊: ビジョンチップのためのモーメント出力回路, 第35回計測自動制御学会学術講演会(鳥取, 1996.7.27) / 予稿集, pp.829-830
- ・小室孝, 鈴木伸介, 石川正俊: 超並列ビジョンチップの設計と試作, 1996年テレビジョン学会年次大会(名古屋, 1996.7.19) / 講演予稿集, pp.25-26
- ・小室孝, 鈴木伸介, 石川正俊: FPGAを用いた超並列ビジョンチップの試作, ロボティクス・メカトロニクス講演会'96(宇部, 1996.6.20) / ROBOME'96講演論文集, pp.698-701
- ・石井抱, 中坊嘉宏, 石川正俊: 1msビジュアルフィードバックシステムのための画像処理アルゴリズム, 第5回ロボットセンサシンポジウム(新潟, 1996.4.20) / 予稿集, pp.141-146
- ・石井抱, 中坊嘉宏, 石川正俊: 超並列・超高速ビジョンチップアーキテクチャ, テレビジョン学会情報入力研究会(東京, 1995.10.27) / テレビジョン学会技術報告, Vol.19, No.57, pp.13-18
- ・鈴木伸介, 小室孝, 石川正俊: ビジョンチップのための並列演算アーキテクチャ, 第34回計測自動制御学会学術講演会(札幌, 1995.7.27) / 予稿集, pp.495-496
- ・石井抱, 石川正俊: 超並列・超高速ビジョンのためのマッチングアルゴリズム, 電子情報通信学会パターン認識・理解研究会(札幌, 1995.7.20) / 電子情報通信学会技術研究報告, PRU95-70, Vol.95, No.165, pp.121-126 (1995)
- ・小室孝, 鈴木伸介, 石川正俊: 超並列ビジョンチップアーキテクチャ, 電子情報通信学会コンピュータシステム研究会(フォールドトレゾント研究会, 集積回路研究会共催)(新潟, 1995.4.28) / 電子情報通信学会技術研究報告, CPSY95-19, Vol.95, No.21, pp.63-69
- ・山田義浩, 高柳信夫, 石川正俊: VLSIビジョンセンサの試作と評価, 第42回応用物理学関係連合講演会(東京, 1995.3.31) / 予稿集, pp.948
- ・石井抱, 向井利春, 石川正俊: 並列処理に基づく視覚センサ情報処理システム, 電気学会A部門総合研究会(箱根, 1994.11.22) / 技術資料IM-94-85, pp.53-62
- ・中坊嘉宏, 石井抱, 石川正俊: 並列ビジョンシステムを用いた高速ターゲットトラッキング, 第34回計測自動制御学会学術講演会(札幌, 1994.7.26) / 予稿集, pp.21-22
- ・山田義浩, 高柳信夫, 戸田真志, 石川正俊: 超高速ビジョンを用いた高速ターゲットトラッキングシステム, ロボティクス・メカトロニクス講演会'93(札幌, 1993.7.6) / ROBOME'93 講演論文集, pp.190-193
- ・石井抱, 石川正俊: 超高速ビジョンを用いた高速ターゲットトラッキングアルゴリズム, ロボティクス・メカトロニクス講演会'93(札幌, 1993.7.6) / ROBOME'93 講演論文集, pp.615-622
- ・向井利春, 石川正俊: 並列ビジョンのための2次元座標変換回路, 電子情報通信学会パターン認識・理解研究会(京都, 1992.11.19) / 電子情報通信学会技術研究報告, PRU92-72, Vol.92, No.329, pp.111-116
- ・高柳信夫, 石川正俊: 超並列・超高速視覚センサシステムの制御構造, 第31回計測自動制御学会学術講演会(熊本, 1992.7.24) / 予稿集, pp.701-702
- ・高柳信夫, 森田彰, 石川正俊: 大規模並列処理を用いた知能化視覚センサシステム, 電気学会センサ技術研究会(東京, 1992.3.13) / 資料, ST-92-4, ST-92-4, pp.29-35
- ・高柳信夫, 森田彰, 石川正俊: 大規模並列処理を用いた高速視覚センサシステム, 第3回ロボットセンサシンポジウム(名古屋, 1992.1.18) / 予稿集, pp.145-148

## Paper

- Tomohira Tabata, Takashi Komuro, Masatoshi Ishikawa: Surface Image Synthesis of Moving Spinning Cans Using a 1000-fps Area Scan Camera, Machine Vision and Applications, Vol.21, No.5, pp.643-652 (2010)
- Takashi Komuro, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa: A Reconfigurable Embedded System for 1000 f/s Real-Time Vision, IEEE Transactions on Circuits and Systems for Video Technology, Vol.20, No.4, pp.496-504 (2010)
- Takashi Komuro, Atsushi Iwashita, and Masatoshi Ishikawa: A QVGA-size Pixel-parallel Image Processor for 1,000-fps Vision, IEEE Micro, Vol.29, No.6, pp.58-67 (2009)
- Atsushi Iwashita, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: An Image-Moment Sensor with Variable-Length Pipeline Structure, IEICE Transactions on Electronics, Vol. E90-C, No.10, pp.1876-1883 (2007)
- Shingo Kagami, Masatsugu Shinmeimae, Takashi Komuro, Yoshihiro Watanabe, and Masatoshi Ishikawa: A Pixel-Parallel Algorithm for Detecting and Tracking Fast-Moving Modulated Light Signals, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.17, No.4, pp.387-394 (2005)
- Takashi Komuro, Yoshiki Senjo, Kiyohiro Sogen, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Real-time Shape Recognition Using a Pixel-parallel Processor, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.17, No.4, pp.410-419 (2005)
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Parallel Extraction Architecture for Information of Numerous Particles in Real-time Image Measurement, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.17, No.4, pp.420-427 (2005)
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Multi-Target Tracking Using a Vision Chip and its Applications to Real-Time Visual Measurement, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.17, No.2, Apr., Special Issue on Selected Papers from ROBOMECH'04 (I), pp.121-129 (2005)
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: A Dynamically Reconfigurable SIMD Processor for a Vision Chip, IEEE Journal of Solid-State Circuits, Vol.39, No.1, pp.265-268 (2004.1)
- Takashi Komuro, Idaku Ishii, Masatoshi Ishikawa, and Atsushi Yoshida: A Digital Vision Chip Specialized for High-speed Target Tracking, IEEE transaction on Electron Devices, Vol.50, No.1, pp.191-199 (2003.1)
- Idaku Ishii, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Moment calculation method for digital vision chip, Systems and Computers in Japan, Vol.34, Issue 1, pp.89-97 (2003.1)
- H. Kawai, A. Baba, M. Shibata, Y. Takeuchi, Takashi Komuro, H. Fujimura, and Masatoshi Ishikawa: High-speed image processing on digital smart pixel array, Electronics Letters, Vol.38, No.12, pp.590-591 (2002.6.6)
- Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Self windowing for high-speed vision, Systems and Computers in Japan, Vol.32, Issue 10, pp.51-58 (2001.9)
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Device and System Development of General Purpose Digital Vision Chip, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.12, No.5, pp.515-520 (2000)
- Takashi Owaki, Yoshihiro Nakabo, Akio Namiki, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Real-time system for virtually touching objects in the real world using modality transformation from images to haptic information, Systems and Computers in Japan, Vol.30, Issue 9, pp.17-24 (1999.8)

## Book

- Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: 64x64 Pixels General Purpose Digital Vision Chip, SOC Design Methodologies (Michel Robert et al. ed.), pp.15-26, Kluwer Academic Publishers, (2002.7)
- Masatoshi Ishikawa: Description and Applications of a CMOS Digital Vision Chip Using General Purpose Processing Elements, Smart Imaging Systems (Bahram Javidi ed.), pp.91-109, SPIE PRESS, (2001)

## Review Paper

- Takashi Komuro, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: General-purpose vision chip architecture for real-time machine vision, Advanced Robotics, Vol.12, No.6, pp.619-627 (1999)

## Proceeding

- Yushi Moko, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Masatoshi Ishikawa, Masami Nakajima, and Kazutami Arimoto: Implementation and evaluation of FAST corner detection on the massively parallel embedded processor MX-G, The Seventh IEEE Workshop on Embedded Computer Vision (Colorado Springs, 2011.6.20)/Proceedings, pp.157-162
- Masatoshi Ishikawa: New Application Areas Made Possible by High Speed Vision (Invited), 2011 International Image Sensor Workshop (IISW 2011) (Hakodate-Onuma, 2011.6.9)/Proceedings, pp.189-192
- Kentaro Kofuji, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Stereo 3D Reconstruction using Prior Knowledge of Indoor Scenes, 2011 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2011) (Shanghai, 2011.5.10)/Proceedings, pp.5198-5203
- Masatoshi Ishikawa: The Correspondence between Architecture and Application for High Speed Vision Chip (Invited), IEEE Symp. on Low-Power and High-Speed Chips (COOL Chips XIV) (Yokohama, 2011.4.22)/Proceedings
- Yoshihiro Watanabe, Tetsuo Hatanaka, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Human Gait Estimation Using a Wearable Camera, IEEE Workshop on Applications of Computer Vision (WACV 2011) (Hawaii, 2011.1.5)/Proceedings, pp.276-281
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Nakashima, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Estimation of Non-rigid Surface Deformation using Developable Surface Model, 20th International Conference on Pattern Recognition (ICPR 2010) (Istanbul, 2010.8.23)/Proceedings, pp.197-200
- Takehiro Niikura, Yuki Hirobe, Alvaro Cassinelli, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: In-air Typing Interface for Mobile Devices with Vibration Feedback, The 37th International Conference and Exhibition on Computer Graphics and Interactive Techniques (SIGGRAPH2010), (Los Angeles, 2010.7.25-29)/Article No.15
- Toshitaka Kuwa, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Wide Range Image Sensing Using a Throw-up Camera, 2010 IEEE International Conference on Multimedia & Expo (ICME2010) (Singapore, 2010.7.21)/Proceedings, pp.878-883
- Takehiro Niikura, Yuki Hirobe, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: 3D Input Interface for Mobile Devices (demo session), 12th Virtual Reality International Conference (VRIC 2010/Laval Virtual) (Laval, 2010.4.7-11)/Proceedings, pp.297-298
- Masatoshi Ishikawa: Vision Chip and Its Applications to human interface, inspection, bio/medical industry, and robotics (Invited), ISSCC 2010 Forum on High Speed Image Sensor Technologies (San Francisco, 2010.2.11)/Proceedings, pp.1-42
- Takashi Nakashima, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Book Flipping Scanning, 22nd ACM Symposium on User Interface Software and Technology (UIST2009) (Victoria, 2009.10.5)/Adjunct Proceedings, pp.79-80

- Yoshihiro Watanabe, Hiroaki Ohno, Takashi Komuro, Masatoshi Ishikawa: Synchronized Video: An Interface for Harmonizing Video with Body Movements, 22nd ACM Symposium on User Interface Software and Technology (UIST2009) (Victoria, 2009.10.5)/Adjunct Proceedings, pp.75-76
- Yuki Hirobe, Takehiro Niikura, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Vision-based Input Interface for Mobile Devices with High-speed Fingertip Tracking, 22nd ACM Symposium on User Interface Software and Technology (UIST2009) (Victoria, 2009.10.5)/Adjunct Proceedings, pp.7-8
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: High-resolution Shape Reconstruction from Multiple Range Images based on Simultaneous Estimation of Surface and Motion, The 12th IEEE International Conference on Computer Vision (ICCV2009) (Kyoto, 2009.10.1)/Proceedings, pp.1787-1794
- Atsushi Iwashita, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A 320x240 Pixel Smart Image Sensor for Object Identification and Pose Estimation, IEEE Symposium on Low-Power and High-Speed Chips (COOL Chips XII) (Yokohama, 2009.4.17)/Proceedings, pp.331-346
- Kazuhiro Terajima, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Fast Finger Tracking System for In-air Typing Interface, The 27th Annual CHI Conference on Human Factors in Computer Systems (CHI2009) (Boston, 2009.4.7)/Extended Abstracts, pp.3739-3744
- Kota Yamaguchi, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: PTZ Control with Head Tracking for Video Chat, The 27th Annual CHI Conference on Human Factors in Computer Systems(CHI2009) (Boston, 2009.4.7)/Extended Abstracts, pp.3919-3924
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Integration of Time-Sequential Range Images for Reconstruction of a High-Resolution 3D Shape, The 19th International Conference on Pattern Recognition(ICPR 2008) (Florida, 2008.12.8)/Proceedings
- Masatoshi Ishikawa: Massively Parallel Processing Vision and Its Applications (Plenary), International Topical Meeting on Information Photonics 2008 (Awajishima, 2008.11.17)/Technical Digest, p.18
- Takashi Komuro, Yoshihiro Watanabe, Masatoshi Ishikawa and Tadakuni Narabu: High-S/N Imaging of a Moving Object using a High-frame-rate Camera, 2008 IEEE International Conference on Image Processing(ICIP 2008) (San Diego, 2008.10.13)/Proceedings, pp.517-520
- Haruyoshi Toyoda, Munemori Takumi, Naohisa Mukozaka, and Masatoshi Ishikawa: 1 kHz Measurement by Using Intelligent Vision System -Stereovision experiment on Column Parallel Vision system:CPV4-, International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology 2008(SICE Annual Conference 2008) (Tokyo, 2008.8.20)/Proceedings, pp.325-328
- Kota Yamaguchi, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Interleaved Pixel Lookup for Embedded Computer Vision, Fourth Workshop on Embedded Computer Vision(ECVV) (Anchorage, 2008.6.28)
- Shingo Kagami, Shiochiro Saito, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A Networked High-Speed Vision System for 1,000-fps Visual Feature Communication, First ACM/IEEE International Conference on Distributed Smart Cameras (Vienna, 2007.9.26)/Proceedings, pp.95-100
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A High-speed Vision System for Moment-based Analysis of Numerous Objects, 2007 IEEE International Conference on Image Processing(ICIP' 07) (San Antonio, 2007.9.19)/Proceedings, pp.V177-V180
- Kota Yamaguchi, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Design of a Massively Parallel Vision Processor based on Multi-SIMD Architecture, 2007 IEEE International Symposium on Circuits and Systems(ISCAS2007) (New Orleans, 2007.5.30)
- Takashi Komuro, Björn Werkmann, Takashi Komai, Masatoshi Ishikawa, and Shingo Kagami: A High-Speed and Compact Vision System Suitable for Wearable Man-machine Interfaces, IAPR 10th Conference on Machine Vision Applications(MVA2007) (Tokyo, 2007.5.17)/Proceedings, pp.199-202
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: 955-fps Real-Time Shape Measurement of a Moving/Deforming Object Using High-Speed Vision for Numerous-Point Analysis, 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA'07) (Roma, 2007.4.13)/Proceedings, pp.3192-3197
- Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A Moment-based 3D Object Tracking Algorithm for High-speed Vision, 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA'07) (Roma, 2007.4.11)/Proceedings, pp.58-63
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Parallel Extraction Architecture for Image Moments of Numerous Objects, IEEE 7th International Workshop on Computer Architecture for Machine Perception(CAMP'05) (Palermo, 2005.7.4)/Proceedings, pp.105-110
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, Masatoshi Ishikawa, and Yoshio Katayama: Development of a Bit-level Compiler for Massively Parallel Vision Chips, IEEE 7th International Workshop on Computer Architecture for Machine Perception(CAMP'05) (Palermo, 2005.7.5)/Proceedings pp.204-209
- Björn Werkmann, Takashi Komuro, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: Development of a High Speed Eye Tracking System Using the Vision Chip, 2005 JSME Conference on Robotics and Mechatronics (Kobe, 2005.6.11)/2P1-N-094
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa: A High-speed Vision Chip and Robot Applications, 2004 1st IEEE Technical Exhibition Based Conference on Robotics and Automation(TExCRA 2004) (Tokyo, 2004.11.18-19.)/pp.3-4
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Real-time Visual Measurements using High-speed Vision, Optics East 2004 (Philadelphia, 2004.10.28)/Machine Vision and its Optomechatronic Applications, Proceedings of SPIE Vol. 5603, pp. 234-242 [PDF]
- Dirk EBERT, Takashi KOMURO, Akio NAMIKI, and Masatoshi ISHIKAWA: Safe Human-Robot-Coexistence : Emergency Stop Using a High-speed Vision Chip, The 22nd Annual Conference of the Robotics Society of Japan (Gifu, 2004.9.16)/Proceedings, 2E11
- Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: A Sensor Selection Method Considering Communication Delays, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.28)/pp.206-211
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Real-Time Visual Measurement using a High-Speed Vision Chip, 2004 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA 2004) (New Orleans, 2004.4.26-5.1)/Video Proceedings
- Shingo Kagami, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A High-Speed Vision System with In-Pixel Programmable ADCs and PEs for Real-Time Visual Sensing, 8th IEEE International Workshop on Advanced Motion Control (Kawasaki, 2004.3.26)/pp.439-443
- Daisuke Takeuchi, Shingo Kagami, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Improving the Sensitivity of a Vision Chip Using the Software A-D Conversion Method, IS&T/SPIE 16th Annual Symposium on Electronic Imaging Science and Technology (San Jose, 2004.1.21)/Sensors and Camera Systems for Scientific, Industrial, and Digital Photography Applications V, Proceedings of SPIE, Vol.5301, pp.138-148
- Masatoshi Ishikawa: High-speed digital vision chips, and its applications, 2003 16th International Conference on Optical Fiber Sensors (Nara, 2003.10.14)/Proceedings, pp.28-31
- Shingo Kagami, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: An Advanced Digital Vision Chip and Its System Implementation, SICE Annual Conference 2003 (Fukui, 2003.8.5)/Proceedings, pp.2512-2515
- Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: Vision Chip Architecture for Simultaneous Output of Multi-Target Positions, SICE Annual Conference 2003 (Fukui, 2003.8.5)/ Proceedings, pp.2591-2594
- Shingo Kagami, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: A Software-Controlled Pixel-Level A-D Conversion Method for Digital Vision Chips, 2003 IEEE Workshop on Charge-Coupled Devices and Advanced Image Sensors (Elmau, 2003.5.17)
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: A High Speed Digital Vision Chip with Multi-grained Parallel Processing Capability, 2003 IEEE Workshop on Charge-Coupled Devices and Advanced Image Sensors (Elmau, 2003.5.15)

- Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: 3D Tracking Using Two High-Speed Vision Systems, IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems(IROS 2002) (Lausanne, 2002.10.4)/Proceedings, pp360-365
- Takashi Komuro, Shingo Kagami, and Masatoshi Ishikawa: A New Architecture of Programmable Digital Vision Chip, 2002 Symposium on VLSI circuits (Honolulu, 2002.6.15)/Proceedings pp. 266-269
- Shingo Kagami, Takashi Komuro, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: A Real-Time Visual Processing System using a General-Purpose Vision Chip, 2002 IEEE International Conference on Robotics and Automation (Washington D.C. 2002.5.13)/Proceedings pp.1229-1234
- Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: 64 x 64 Pixels General Purpose Digital Vision Chip, 11th IFIP International Conference on Very Large Scale Integration (VLSI-SOC'01) (Montpellier. 2001.12.4)/Proceedings pp.327-332
- Masatoshi Ishikawa: High Speed Vision and Its Applications (Invited Lecture), Advance Science Institute 2001 (Tokyo, 2001.7.28)
- Hideo Kawai, Asako Baba, Motoshi Shibata, Yoshinori Takeuchi, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Image Processing on a Digital Smart Pixel Array, CLEO/Pacific Rim 2001 (Makuhari, 2001.7.19)/Technical Digest, Vol.II, pp.680-681
- Haruyoshi Toyoda, Naohisa Mukohzaka, Seiichiro Mizuno, Yoshihiro Nakabo, and Masatoshi Ishikawa: Column parallel vision system (CPV) for high-speed 2D-image analysis, Optical Engineering for Sensing and Nanotechnology(ICOSN 2001) (Yokohama. 2001.6.6)/Proceedings of SPIE Vol.4416, pp.256-259
- Masatoshi Ishikawa, and Takashi Komuro: Digital Vision Chips and High-Speed Vision Systems (Invited), 2001 Symposium on VLSI Circuits (Kyoto, 2001.6.14-16)/Digest of Technical Papers, pp.1-4
- Masatoshi Ishikawa: High-Speed VLSI Vision Chip and Its Applications (Plenary), Int. Congress on High-Speed Photography and Photonics (Sendai, 2000.9.27)/Proc. SPIE, Vol.4183, pp.1-8
- Takashi Komuro, Idaku Ishii, Masatoshi Ishikawa, and Atsushi Yoshida: High Speed Target Tracking Vision Chip, Int. Conf. on Computer Architecture for Machine Perception (Padova, 2000.9.11)/proceedings, pp.49-56
- Idaku Ishii, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Method of Moment Calculation for a Digital Vision Chip System, Int. Conf. on Computer Architecture for Machine Perception (Padova, 2000.9.11)/proceedings, pp.41-48
- Yoshihiro Nakabo, Masatoshi Ishikawa, Haruyoshi Toyoda, and Seiichiro Mizuno: 1ms Column Parallel Vision System and Its Application of High Speed Target Tracking, IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (San Francisco, 2000.4.26)/Proceedings, pp.650-655
- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Akio Namiki, and Idaku Ishii: New Generation of Sensory Information Processing for Intelligent Systems - VLSI Vision Chip and Sensor Fusion System -(Plenary), Fourth International Conference on Electronic Measurement and Instruments (Harbin, 1999.8.18)/Proceedings, pp.1-6
- Masatoshi Ishikawa, Akio Namiki, Takashi Komuro, and Idaku Ishii: 1ms Sensory-Motor Fusion System with Hierarchical Parallel Processing Architecture (Invited), The Second International Conference on Information Fusion (Sunnyvale, 1999.7.7)/Proceedings, pp.640-647
- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Kazuya Ogawa, Yoshihiro Nakabo, Akio Namiki, and Idaku Ishii: Vision Chip with General Purpose Processing Elements and Its Application, Int. Symp. on Future of Intellectual Integrated Electronics (Sendai, 1999.3.16)/Proceedings, pp.169-174
- Masatoshi Ishikawa, Kazuya Ogawa, Takashi Komuro, and Idaku Ishii: A CMOS Vision Chip with SIMD Processing Element Array for 1ms Image Processing, 1999 Dig. Tech. Papers of 1999 IEEE Int. Solid-State Circuits Conf(ISSCC'99) (San Francisco, 1999.2.16)/Abst. pp.206-207
- Ferenc Birlni, and Masatoshi Ishikawa: Depth Estimation Using Focusing and Zooming, for High Speed Vision Chip, Int. Conf. Intelligent Autonomous Systems 5 (Sapporo, 1998.6.3)/Intelligent Autonomous Systems (Y.Kakazu, M.Wada, and T.Sato eds.), pp.116-122, IOP Press
- Masatoshi Ishikawa: 1ms VLSI Vision Chip System and Its Application (Plenary), Int. Conf. on Automatic Face and Gesture Recognition (Nara, 1998.4.15)/Proceedings, pp.214-219
- Takashi Komuro, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Vision Chip Architecture Using General-Purpose Processing Elements for 1ms Vision System, 4th IEEE Int. Workshop on Computer Architecture for Machine Perception(CAMP'97) (Cambridge, 1997.10.22)/Proceeding, pp.276-279 [PDF]
- Idaku Ishii, Yoshihiro Nakabo, and Masatoshi Ishikawa: Target Tracking Algorithm for 1ms Visual Feedback System Using Massively Parallel Processing, IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Minneapolis, 1996.4.25)/Proc. IEEE Int. Conf. Robotics and Automation, pp.2309-2314
- Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: High Speed Target Tracking Using 1ms visual Feedback System, Video Proceedings of IEEE Int. Conf. Robotics and Automation (Minneapolis, 1996.4.24-26)/Abstract, p.6 [ps+gzip]
- Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Yoshihiro Nakabo, and Idaku Ishii: Massively Parallel Processing Vision and Its Applications, 4th Int. Conf. on Soft Computing (Iizuka, 1996.10.3)/proceedings, pp.117-120
- Toshiharu Mukai, and Masatoshi Ishikawa: Resistive Network for Detecting the Centroid of Nonlinear Coordinates, The 22nd Annual Int. Conf. on Industrial Electronics, Control, and Instrumentation (Taipei, 1996.8.8)/Proceedings, pp.1052-1058
- Masatoshi Ishikawa: Parallel Processing Architecture for Sensory Information, The 8th International Conference on Solid-State Sensors and Actuators (Transducers'95), and Eurosensors (Stockholm, 1995.6.27)/Proceedings, pp.103-106
- Masatoshi Ishikawa: High speed vision system with massively parallel processing architecture for integration into one chip, Workshop on Computer Architectures for Machine Perception(CAMP'93) (New Orleans, 1993.12.15)
- Yoshihiro Yamada, and Masatoshi Ishikawa: High Speed Target Tracking Using Massively Parallel Processing Vision, IROS '93 (1992 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems) (Yokohama, 1993.7.27)/Proceedings, pp.267-272
- Masatoshi Ishikawa, Akira Morita, and Nobuo Takayanagi: Massively Parallel Processing System with an Architecture for Optical Computing, Optical Computing Topical Meeting (Palm Springs, California, 1993.3.18)/1993 Technical Digest Series, Vol.7, pp.272--275
- Masatoshi Ishikawa, Akira Morita, and Nobuo Takayanagi: High Speed Vision System Using Massively Parallel Processing, IROS'92 (1992 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems) (Raleigh, 1992.7.8)/Proceedings, pp.373-377

### 解説論文

- 渡辺義浩, 石川正俊 : 仮想物体を3次元操作するインタラクティブディスプレイシステム -The Deformable Workspace-, 機能材料, Vol.31, No.1, pp.33-42 (2011)

### 招待講演

- 石川正俊, アルバロカシネリ, カーソンレノツ : メタ・パーセプション(招待講演), レーザー学会学術講演会第28回年次大会 (名古屋, 2008.1.31) / 講演予稿集, pp.199-200

### 学会発表

- 吉田匠, 家室証, 南澤孝太, 新居英明, 館暉 : 再帰性投影型多視点立体ディスプレイのための物体操作インターフェース, 第15回日本バーチャルリアリティ学会大会 (石川, 2010.9.16) / 講演論文集, 2A2-2
- 伊藤崇仁, Alvaro Cassinelli, 小室孝, 石川正俊 : タンジブルスクリーンを用いた3次元物体表現, 第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (札幌, 2006.12.15) / 講演会論文集, pp.774-775

## Proceedings

- Alexis Zerroug, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Invoked computing: Spatial audio and video AR invoked through miming, Virtual Reality International Conference (VRIC 2011) (Laval, 2011.4.7)/Proceedings, pp.31-32
- Chi Man Siu, and Carson Reynolds: Optical Handlers - eeyee, Third Workshop on Devices that Alter Perception (DAP 2010) in conjunction with 2010 IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2010) (Seoul, 2010.10.13)/Proceedings, pp.13-17
- Carson Reynolds: Surfel Cameras, Third Workshop on Devices that Alter Perception (DAP 2010) in conjunction with 2010 IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2010) (Seoul, 2010.10.13)/Proceedings, pp.38-41
- Alvaro Cassinelli: EARLIDS & entacoustic performance, Third Workshop on Devices that Alter Perception (DAP 2010) in conjunction with 2010 IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2010) (Seoul, 2010.10.13)
- Alvaro Cassinelli, and Stephane Perrin: To Blink or Not To Blink, Third Workshop on Devices that Alter Perception (DAP 2010) in conjunction with 2010 IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2010) (Seoul, 2010.10.13)
- Tomoko Hayashi, and Carson Reynolds: Empathy Mirrors, Third Workshop on Devices that Alter Perception (DAP 2010) in conjunction with 2010 IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2010) (Seoul, 2010.10.13)
- Danielle Wilde: The Poetics of Extension: using art & design ideation techniques to develop engaging body-worn devices, 2010 IEEE International Symposium on Wearable Computing (ISWC 2010) (Seoul, 2010.10.12)/Proceedings, pp.242-247
- Carson Reynolds: Uncanny Moral Behavior, 8th European Conference on Computing and Philosophy (ECAP10) (Munich, 2010.10.4-6)/pp.173-175
- Danielle Wilde, Alvaro Cassinelli, Alexis Zerroug, R J N Helmer, and Masatoshi Ishikawa: Light Arrays: a system for extended engagement, 2010 International Conference Series on Disability, Virtual Reality and Associated Technologies (ICDVRAT) with ArtAbilitation (Chile, 2010.9.1)/Proceedings, pp.157-164
- Danielle Wilde, R J N Helmer, and M Miles: Extending body & imagination: moving to move, 2010 International Conference Series on Disability, Virtual Reality and Other Technologies (ICDVRAT) with ArtAbilitation (Chile, 2010.9.1)/Proceedings, pp.175-183
- Alvaro Cassinelli, Alexis Zerroug, Yoshihiro Watanabe, and Masatoshi Ishikawa: Camera-less Smart Laser Projector (Invited), The 37th International Conference and Exhibition on Computer Graphics and Interactive Techniques (SIGGRAPH2010) (Los Angeles, 2010.7.25-29)/Article No.9
- Alvaro Cassinelli, Yusaku Kuribara, Alexis Zerroug, Masatoshi Ishikawa, and D. Manabe: scoreLight: Playing with a human-sized laser pick-up, International Conference on New Instruments for Musical Expression (NIME2010) (Sydney, 2010.6.15-18)/Proceedings, pp.144-149
- Alvaro Cassinelli, Alexis Zerroug, and Masatoshi Ishikawa: Camera-less Smart Laser Projector, 12th Virtual Reality International Conference (VRIC 2010/Laval Virtual) (Laval, 2010.4.7-11)/Proceedings, pp.291-295
- Yoshihiro Watanabe, Alvaro Cassinelli, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: The DeformableWorkspace:a Membrane between Real and Virtual Space, IEEE International Workshop on Horizontal Interactive Human-Computer Systems (Tabletops & Interactive Surfaces 2008) (Amsterdam, 2008.10.3)/Proceedings, pp.155-162
- Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Boxed Ego, Devices that Alter Perception Workshop (DAP2008) in conjunction with UbiComp 2008 (Seoul, 2008.9.21)/Proceedings, pp.10-13
- Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Aural Antennae, Devices that Alter Perception Workshop (DAP 2008) in conjunction with UbiComp 2008 (Seoul, 2008.9.21)/Proceedings, pp.26-29
- Alexis Zerroug, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Spatial coverage vs. sensorial fidelity in VR, Devices that Alter Perception Workshop (DAP 2008) in conjunction with UbiComp 2008 (Seoul, 2008.9.21)/Proceedings, pp.34-37
- Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, Yoshihiro Watanabe, and Masatoshi Ishikawa: Manipulating Perception, 6th European Conference on Computing and Philosophy (Montpellier, 2008.6.16)
- Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Meta-perception: reflexes and bodies as part of the interface, Conference on Human Factors in Computing Systems(CHI 2008) (Florence, 2008.4.7)/Proceedings, pp.3669-3674
- Carson Reynolds: Image Act Theory, Seventh International Conference of Computer Ethics, Philosophical Enquiry (San Diego, 2007.7.12-14) [PDF]
- Carson Reynolds, and Masatoshi Ishikawa: Robotic Thugs, The Ninth ETHICOMP International Conference on the Social and Ethical Impacts of Information and Communication Technology(ETHICOMP 2007) (Tokyo, 2007.3.28)/Proceedings, pp.487-492 [PDF]
- Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Economically Autonomous Robotic Entities, 2007 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA'07) (Roma, 2007.4.14) [PDF-54KB]
- Carson Reynolds, and Masatoshi Ishikawa: Robot Trickery, International Workshop on Ethics of Human Interaction with Robotic, Bionic and AI Systems: Concepts and Policies (Naples, 2006.10.18)/Proceedings, pp.43-46 [PDF]
- Carson Reynolds, Hiroshi Tsujino, and Masatoshi Ishikawa: Realizing Affect in Speech Classification in Real-Time, Aurally Informed Performance Integrating Machine Listening and Auditory Presentation in Robotic Systems (Washington, D.C., 2006.10.13)/Proceedings, pp.53-54 [PDF]
- Carson Reynolds, and Wren C.: Worse Is Better for Ambient Sensing, Workshop on Privacy, Trust and Identity Issues for Ambient Intelligence, In conjunction with the 4th International Conference on Pervasive Computing (Dublin, 2006.5.7-10) [PDF]
- Carson Reynolds: Boo-Hooray and Affective Approaches to Ethical Textual Analysis, Computers and Philosophy, an International Conference (Laval, 2006.5.3-5) [PDF]
- Alvaro Cassinelli, Carson Reynolds, and Masatoshi Ishikawa: Augmenting spatial awareness with Haptic Radar, Tenth International Symposium on Wearable Computers(ISWC) (Montreux, 2006.10.11-14)/pp.61-64 [PDF-103KB] [PPT-6.4MB]
- Alvaro Cassinelli, Carson Reynolds, and Masatoshi Ishikawa: Haptic Radar, The 33rd International Conference and Exhibition on Computer Graphics and Interactive Techniques(SIGGRAPH) (Boston, 2006.8.1) [PDF-202KB, Large Quicktime Video, Small Quicktime Video, MPG-4]
- Alvaro Cassinelli, Takahito Ito, and Masatoshi Ishikawa: Khronos Projector, Interactive Tokyo 2005 (Tokyo, 2005.8.25-26)/p.23 [PDF-2.1MB]
- Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Khronos Projector, Emerging Technologies, SIGGRAPH 2005 (Los Angeles, 2005)/One page abstract [PDF-0.5MB] Video Demo [WMB-40MB] Power Point presentation (with abundant video) [PPT-10MB]
- Alvaro Cassinelli, Stephane Perrin, and Masatoshi Ishikawa: Smart Laser-Scanner for 3D Human-Machine Interface, ACM SIGCHI 2005 (Portland, 2005.4.2-7 )/pp.1138-1139 [PDF-835KB] Video Demo : Good Quality: [MPG-176MB] Compressed : [MPG-28MB] Slides Presentation [PPT-10MB]
- Alvaro Cassinelli, Stephane Perrin, and Masatoshi Ishikawa: Markerless Laser-based Tracking for Real-Time 3D Gesture Acquisition, ACM SIGGRAPH 2004 (Los Angeles, 2004.8.8-12)/Abstract [PDF-87KB] Video Demo : Good Quality : [AVI-24,7MB] Compressed : [AVI-6MB] Poster [JPG -835KB]
- Stephane Perrin, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Gesture Recognition Using Laser-based Tracking System, 6th International Conference on Automatic Face and Gesture Recognition 2004(FG 2004) (Seoul, 2004.5. 17-19)/pp.541-546 [PDF-402KB], Poster [PPT-457KB]
- Stephane Perrin, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Laser-Based Finger Tracking System Suitable for MOEMS Integration, Image and Vision Computing, New Zealand(IVCNZ 2003) (Palmerston North, 2003.11.27)/proceedings, pp.131-136 [PDF-239KB], Poster presentation [PPT-1432KB]

## Invited Talks and Tutorials

- Alvaro Cassinelli : Time Delayed Cinema, [PPT-28MB], invited talk at Microwave/Animatronica New Media Art Festival (Hong Kong, 2006.11.4-15)

## 論文

- ・成瀬誠, 石川正俊: 光インターフェクションを用いたシステムのための並列アルゴリズムの構築, 情報処理学会論文誌, Vol.41, No.5, pp.1509-1516 (2000)
- ・成瀬誠, 石川正俊: 特異値分解を用いた光インターフェクションのアライメント解析, 光学, Vol.29, No.2, pp.101-107 (2000)
- ・成瀬誠, ニール マッカーダル, 豊田晴義, 小林祐二, 川又大典, 石川正俊: 再構成可能光インターフェクションを用いた階層的並列処理システム, 電子情報通信学会論文誌 C, Vol.83, No.5, pp.397-404 (2000)
- ・石川正俊, 石田隆行: ホログラムを用いた光インターフェクション, 光学, Vol.24, No.6, pp.341-342 (1995)
- ・豊田晴義, 石川正俊: スパースコーディングを用いた相関学習, 光学, Vol.22, No.4, pp.210-215 (1993)
- ・石川正俊, 原俊弘, 塩田心ゆひこ, 原宏: ジオジソンダブルジャンクションのアナログシミュレーション, 応用物理, Vol.47, No.7, pp.641-648 (1978)

## 本

- ・石川正俊: 光インターフェクションを用いた並列処理システム, 光通信技術の最新資料集V, オプトロニクス社, pp.286-290 (2001.6)
- ・石川正俊: 光ニューロコンピューティング, 生物化学素子とバイオコンピュータII -バイオコンピューティング研究戦略- (神沼二貴, 甘利俊一, 相澤益男, 三輪綾司編), サイエンスフォーラム, pp.326-331 (1990.12)
- ・石川正俊: 光ニューロコンピューティング, ニューロコンピューターの現状と将来 (甘利俊一監修, 日本学際会議編), 共立出版, pp.61-98 (1990.7)
- ・石川正俊: ニューラルネットワークプロセッサ, 光コンピュータ技術(谷田貝豊彦 監修), トリケップス, pp.91-109 (1989.7)

## 解説論文

- ・石川正俊: The Art of Photonics, O plus E, Vol.23, No.1 (2001)
- ・石川正俊: 情報技術の中で輝く光技術, オプトロニクス, No.229, p.53 (2001)
- ・石川正俊: 光インターフェクションを用いた並列処理システム, オプトロニクス, No.223, pp.176-180 (2000)
- ・石川正俊: 自由空間型スマートピクセルと並列処理システムへの応用, 情報処理, Vol.41, No.9, pp.1021-1025 (2000)
- ・石川正俊: 光インターフェクションで変わるコンピュータの世界, エレクトロニクス実装学会誌, Vol.1, No.3, pp.176-179 (1998)
- ・石川正俊: 光インターフェクションで変わるコンピュータ技術, Computer Today, Vol.16, No.1, pp.19-24 (1999)
- ・石川正俊: スマートピクセルと並列画像処理, オプトロニクス, No.203, pp.145-152 (1998)
- ・石川正俊: 光インターフェクションで変わるコンピュータ技術, M&E, Vol.25, No.8, pp.134-139 (1998)
- ・石川正俊: 超並列・超高速視覚情報システム -汎用ビジョンチップと階層型光電子ビジョンシステム-, 応用物理, Vol.67, No.1, pp.33-38 (1998)
- ・石川正俊: スマートピクセル並列処理システム, O plus E, No.209, pp.99-106 (1997)
- ・石川正俊: 光インターフェクションと光設計, 光学, Vol.25, No.12, pp.705-706 (1996)
- ・石川正俊: 同じ方向に向っていくようなことをやっていたのでは、エネルギーの無駄遣いになります, O plus E, No.195, pp.67-73 (1996)
- ・石川正俊: 光オリエンティッドなアーキテクチャを実現しないと光は電子の下僕になります, O plus E, No.194, pp.69-74 (1996)
- ・石川正俊: 光インターフェクションと超並列処理, 光技術コンタクト, Vol.32, No.3, pp.137-143 (1994)
- ・石川正俊: 光センシングの現状と将来, 計測と制御, Vol.32, No.11, pp.877-883 (1993)
- ・神谷武志, 森村正直, 大津元一, 石川正俊: ハイテクノロジーはいま —光技術の夢を語る, Renta Station, No.27 (1993)
- ・石川正俊: 超高速・超並列ビジョンシステム, 光学, Vol.21, No.10, pp.678-679 (1992)
- ・石川正俊: センサ情報の並列処理技術, 電子情報通信学会論文誌C-II, Vol.J74-C- No.5, pp.255-266 (1991)
- ・石川正俊: 並列処理システムとしての光ニューロコンピューティング, 光学, Vol.19, No.11, pp.755-761 (1990)
- ・石川正俊: 光ニューロコンピューティング, vision, Vol.3, No.3, pp.137-144 (1990)
- ・石川正俊: 光アソシアトロンー学習可能な光連想記憶システム, 別冊数理科学「脳と情報—ニューロサイエンス」, サイエンス社, pp.144-148 (1989.4)
- ・石川正俊: 光アソシアトロンー学習を実現した光連想記憶システム, 電気学会雑誌, Vol.109, No.6, pp.438-444 (1989)
- ・石川正俊: 光コンピューティング, 電子情報通信学会誌, Vol.72, No.2, pp.157-163 (1989)
- ・石川正俊: センサ情報の並列処理技術, 光技術コンタクト, Vol.27, No.1, pp.9-14 (1989)
- ・石川正俊: 学習機能を実現した光連想記憶システム, O Plus E, No.110, pp.97-103 (1989)
- ・石川正俊: 光並列演算による連想記憶システム, Inter AI, Vol.2, No.3, pp.36-38 (1988)
- ・石川正俊: 光ニューロコンピュータ, I/O, Vol.13, No.5, pp.233-236 (1988)
- ・石川正俊: 光連想記憶システム, コンピュートロール, No.24, pp.82-90 (1988)
- ・石川正俊: 光ニューロ・コンピューティング, 光技術コンタクト, Vol.26, No.8, pp.543-552 (1988)
- ・石川正俊: 光アソシアトロンー学習可能な光連想記憶システム, Computer Today, Vol.5, No.5(No.27), pp.68-72 (1988)
- ・石川正俊: 光並列演算による連想記憶システム, エレクトロニクス, Vol.33, No.8, pp.39-44 (1988)
- ・石川正俊: 光コンピュータと並列学習情報処理, 計測と制御, Vol.27, No.12, pp.1115-1122 (1988)

### 招待講演

- ・石川正俊：光波センシングと光コンピューティングの接点, 第17回光波センシング技術研究会(大宮, 1996.6.19)／講演論文集, pp.99-106
- ・石川正俊：計測・センシングにおける光の役割, 計測自動制御学会第9回光応用計測部会講演会(東京, 1992.11.5)／資料, pp.1-6
- ・石川正俊, 豊田晴義, 向坂直久, 鈴木義二：光アソシエーション－学習を実現した光連想記憶システム－(招待講演), レーザー学会学術講演会第9回年次大会(大阪, 1989.1.27)／予稿集, pp.217-220

### 学会発表

- ・成瀬誠, 石川正俊：高密度光インターネットの機械的ダイナミクスを用いたアクティブライメント, 第49回応用物理学関係連合講演会(神奈川, 2002.3.30)／講演予稿集, pp.1193
- ・成瀬誠, 山本成一, 斎藤章人, 石川正俊：自由空間光インターネットのための実時間アクティブライメント, 第62回応用物理学会学術講演会(愛知, 2001.9.11)／講演予稿集, pp.887
- ・藤田元信, 成瀬誠, 石川正俊：面発光レーザアレイを用いたコンフォーカルマイクロスコープ, 第26回光学シンポジウム(東京, 2001.6.21)／講演予稿集, pp.61-62
- ・川合英雄, 馬場彩子, 武内喜則, 小室孝, 石川正俊：8×8デジタル・スマートピクセルと光接続, Optics Japan '00(北見, 2000.10.7)／講演予稿集, pp.31-32
- ・成瀬誠：システムフォトニクス－計測・処理・通信の統合－, 第99回光コンピューティング研究会(京都, 2000.7.7)／pp.33-37
- ・成瀬誠, 豊田晴義, 小林祐二, 石川正俊：階層的並列処理のための自由空間光インターネットモジュール, 信学技報, EMD2000-3(2000-4)／pp.13-17
- ・成瀬誠, 石川正俊：スマートピクセルを用いた高速・並列共焦点顕微鏡システム, 第47回応用物理学関係連合講演会(東京, 2000.3.29)
- ・石川正俊, 成瀬誠, 小林祐二, 豊田晴義：再構成可能な光インターネットを用いた並列処理システム, レーザ・量子エレクトロニクス研究会(東京, 2000.2.23)
- ・川合英雄, 馬場彩子, 武内喜則, 小室孝, 石川正俊：デジタル・スマートピクセルと光接続, Optics Japan '99(大阪, 1999.11.25)／講演予稿集, pp.127-128, 23pA4
- ・川又大典, 成瀬誠, 石井抱, 石川正俊：固有空間法による動画像データベース構築・検索アルゴリズム, Optics Japan '99(大阪, 1999.11.25)
- ・成瀬誠, 豊田晴義, 小林祐二, 川又大典, ニール マッカドール, 石川正俊：光インターネットを用いた階層的並列処理システム(OCULAR-II), Optics Japan '99(大阪, 1999.11.23)
- ・成瀬誠：Optoelectronic VLSIと光インターネットを用いたシステムにおける認識系アルゴリズム, 第84回光コンピューティング研究会(1998.12.4)
- ・川又大典, 成瀬誠, 石井抱, 石川正俊：超並列アーキテクチャ SPEを用いた画像検索アルゴリズム, Optics Japan '98(岡山, 1998.9.19)／講演予稿集
- ・N.McArdle, M.Naruse, A.Okuto, T.Komuro, and M.Ishikawa : Realization of a Smart-Pixel Parallel Optoelectronic Computing System, Optics Japan '97(仙台, 1997.10.1)／講演予稿集, pp.169-170
- ・成瀬誠, 石川正俊：光電子ハイブリッドシステムのための階層的処理アルゴリズム, Optics Japan '97(仙台, 1997.10.1)／講演予稿集, pp.171-172
- ・奥戸あかね, 成瀬誠, ニール・マッカドール, 石川正俊：光電子ハイブリッドシステム(SPE-II)における光インターネットの特性評価, Optics Japan '97(仙台, 1997.10.1)／講演予稿集, pp.173-174
- ・田畠友啓, 石川正俊：フーリエ変換ホログラムを用いた書き換え可能なスペースパリアント光インターネット, 第44回応用物理学関係連合講演会(東京, 1997.3.29)／予稿集, pp.909
- ・N.McArdle, and M.Ishikawa : Comparison of GRIN Rods and Conventional Lenses for Imaging of 2D Optoelectronic Computing Devices, 第44回応用物理学関係連合講演会(東京, 1997.3.29)／予稿集, pp.909
- ・成瀬誠, 石川正俊：特異値分解を用いた2次元光デバイスのアライメントの解析, 第44回応用物理学関係連合講演会(東京, 1997.3.29)／予稿集, pp.908
- ・田畠友啓, 石川正俊：書き換え可能なスペースパリアントインターネットを用いた実時間ガーベッジコレクションの提案, 電子情報通信学会コンピュータシステム研究会(東京, 1996.10.31)／電子情報通信学会技術研究報告, CPSY-73, Vol.96, No.342, pp.31-38
- ・N.McArdle, M.Naruse, T.Komuro, H.Sakaida and M.Ishikawa : An optoelectronic smart-pixel parallel processing, 光学連合シンポジウム(福岡, 1996.9.7)／講演予稿集, pp.247-248
- ・山本裕紹, 石川正俊：非線形写像変換を有する光フィードバックシステム, 光学連合シンポジウム(東京, 1995.9.22)／講演予稿集, pp.389-390
- ・境田英之, Neil McArdle, 石川正俊：光電子ハイブリッド並列処理システム(SPE-II)における多段光インターネット, 光学連合シンポジウム(東京, 1995.9.21)／講演予稿集, pp.217-218
- ・成瀬誠, 石川正俊：光インターネットを利用した3次元シトリックアレイアーキテクチャ, 光学連合シンポジウム(東京, 1995.9.21)／講演予稿集, pp.215-216
- ・石田隆行, 石川正俊：バイナリーホログラムを用いた再構成可能なスペースパリアント光インターネット, 光学連合シンポジウム(東京, 1995.9.21)／講演予稿集, pp.213-214
- ・田畠友啓, 石川正俊：光－電子ハイブリッドチップ間光インターネットの提案, 光学連合シンポジウム(東京, 1995.9.21)／講演予稿集, pp.211-212
- ・山本裕紹, 成瀬誠, 石川正俊：再構成可能な光インターネットを用いた汎用並列処理システム, 情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会(別府, 1995.8.24)／情報処理学会研究報告, 95-ARC-113, Vol.95, No.80, pp.113-120
- ・成瀬誠, 山本裕紹, 石川正俊：光インターネットを用いた並列処理システムにおけるパターン抽出, 第42回応用物理学関係連合講演会(東京, 1995.3.29)／予稿集, pp.905
- ・田畠友啓, 石川正俊：超並列・超高速ビジョンと光インターネット, 第4回フォトニック情報処理研究会(大阪, 1994.11.9)／資料, PIP94-30, PIP94-30, pp.53-62
- ・石田隆行, 鈴木隆文, 田畠友啓, Andrew Kirk, 石川正俊：光インターネットを用いた並列演算処理システム, 第54回応用物理学学会学術講演会(札幌, 1994.9.28)／予稿集(第Ⅲ分冊), pp.877
- ・田畠友啓, 石川正俊：実時間フーリエ変換ホログラムを用いた光インターネット－性能評価と最大チャンネル数の改善－, 光学連合シンポジウム(浜松, 1994.9.22)／予稿集, pp.95-96
- ・成瀬誠, 山本裕紹, 石川正俊：光インターネットを用いた並列処理システムのための演算アルゴリズム, 光学連合シンポジウム(浜松, 1994.9.22)／予稿集, pp.209-210

- ・石田隆行, 石川正俊 : アダプティブバイナリーホログラム, 光学連合シンポジウム(浜松, 1994.9.22) / 予稿集, pp.207-208
- ・中坊嘉宏, 寺田夏樹, 山本裕紹, 成瀬誠, 石川正俊 : 再構成可能な光インターフェース用いた並列処理システム, 光学連合シンポジウム(浜松, 1994.9.22) / 予稿集, pp.97-98
- ・田畠友啓, アンドリュー・カーク, 石川正俊 : 実時間フーリエ変換ホログラムを用いた光インターフェース, 光学連合シンポジウム(旭川, 1993.9.25) / 予稿集, pp.27-28
- ・Andrew Kirk, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa : Signal to noise ratio enhancement with quasi-periodic computer generated holograms (quasi-periodic 構造を有する計算機ホログラムにおけるS/N比の改善), 第40回応用物理学関係連合講演会(東京, 1993.3.30) / 予稿集, pp.902
- ・Andrew Kirk, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa : Reconfigurable shift-invariant diffractive interconnects for parallel processing (書き換え可能なホログラムを用いた並列処理用光インターフェース), 第40回応用物理学関係連合講演会(東京, 1993.3.29) / 予稿集, pp.876
- ・大石峰士, 田原鉄也, 石川正俊 : Poisson方程式を解くための光演算アーキテクチャ, 第53回応用物理学会学術講演会(大阪, 1992.9.16) / 予稿集, pp.790

## Paper

- Makoto Naruse, Hirokazu Hori, Kiyoshi Kobayashi, Masatoshi Ishikawa, Kenji Leibnitz, Masayuki Murata, Naoya Tate, and Motoichi Ohtsu: Information theoretical analysis of hierarchical nano-optical systems in the subwavelength regime, Journal of the Optical Society of America B, Vol.26, No.9, pp.1772-1779 (2009)
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Multistage Network with Globally-Controlled Switching Stages and its implementation using Optical Multi-interconnection Modules, IEEE/OSA Journal of Lightwave Technology, Vol.22, No.2, pp.315-328 (2004)
- Alain Goulet, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Simple integration technique to realize parallel optical interconnects: implementation of a pluggable two-dimensional optical data link, Applied Optics, Vol.4, No.26, pp.5538-5551 (2002.9.10)
- H. Kawai, A. Baba, M. Shibata, Y. Takeuchi, T. Komuro, H. Fujimura, and M. Ishikawa: High-speed image processing on digital smart pixel array, Electronics Letters, Vol.38, No.12, pp.590-591 (2002.6.6)
- Makoto Naruse, Seiichi Yamamoto, and Masatoshi Ishikawa: Real-time Active Alignment Demonstration for Free-space Optical Interconnections, IEEE Photonics Technology Letters, Vol.13, No.11, pp.1257-1259 (2001)
- James Gourlay, Tsung-Yi Yang, and Masatoshi Ishikawa; Andrew C. Walker: Low-order Adaptive Optics for Free-space Optoelectronic Interconnects, Applied Optics, Vol.39, No.5, pp.714-720 (2000)
- Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Analysis and Characterization of Alignment for Free-Space Optical Interconnects Based on Singular-Value Decomposition, Applied Optics, Vol.39, No.2, pp.293-301 (2000)
- Neil McArdle, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Optoelectronic Parallel Computing Using Optically Interconnected Pipelined Processor Arrays, IEEE Journal of Selected Topics in Quantum Electronics, Vol.5, No.2, pp. 250-260 (1999)
- Masatoshi Ishikawa, and Neil McArdle: Optically Interconnected Parallel Computing Systems, IEEE Computer, Vol.3, No.2, pp.61-68 (1998)
- Haruyoshi Toyoda, and Masatoshi Ishikawa: Learning and recall algorithm for optical associative memory using a bistable spatial light modulator, Appl. Opt., Vol.34, No.17, pp.3145-3151 (1995)
- Andrew G. Kirk, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa: Programmable diffractive optical interconnections for cellular processing applications, International Journal of Optoelectronics, Vol. 9, No.1, pp.13-23 (1994)
- Andrew G. Kirk, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa: Design of an optoelectronic cellular processing system with a reconfigurable holographic interconnect, Appl. Opt., Vol.33, No.8, pp.1629-1639 (1994)
- Andrew G. Kirk, Tomohira Tabata, Masatoshi Ishikawa, and Haruyoshi Toyoda: Reconfigurable Computer Generated Holograms, Opt. Comm., Vol.105, No.5, pp.302-308 (1994)
- Masatoshi Ishikawa, Sadao Fujimura, and Tadashi Ito: Massively Parallel Optical Computing, Ultrafast and Ultra-Parallel Optoelectronics - Interim Report -, pp.95-96 (1992)
- Masatoshi Ishikawa: Optical Neuron Computers - Associative Memory and Learning by Optical Parallel Processing -, J. Robotics and Mechatronics, Vol.2, No.4, pp.322-323 (1991)
- Masatoshi Ishikawa, Naohisa Mukohzaka, Haruyoshi Toyoda, and Yoshiji Suzuki: Experimental studies on learning capabilities of optical associative memory, Appl. Opt., Vol.29, No.2, pp.289-295 (1990)
- Masatoshi Ishikawa, Naohisa Mukohzaka, Haruyoshi Toyoda, and Yoshiji Suzuki: Experimental Studies on Adaptive Optical Associative Memory, Optical Computing 88, J.W.Goodman, P.Chavel, G.Roblin, Eds., Proc. SPIE, Vol.963, pp.527-536 (1989)
- Masatoshi Ishikawa, Naohisa Mukohzaka, Haruyoshi Toyoda, and Yoshiji Suzuki: Optical Associatron - A Simple Model for Optical Associative Memory -, Appl. Opt., Vol.28, No.2, pp.291-301 (1989)

## Book

- Masatoshi Ishikawa, Haruyoshi Toyoda, and Ming Hsein Wu: Optical Associative Memory and Adaptive Learning, Optical Storage and Retrieval (Eds. Francis T. S. Yu and Suganda Jutamulia), Marcel Dekker, Inc., pp.247-282 (1996)
- Masatoshi Ishikawa: Optoelectronic Parallel Computing System with Reconfigurable Optical Interconnection, Optoelectronic Interconnects and Packaging (Eds. Ray T.Chen and Peter S. Guilfoyle), Critical Reviews of Optical Science and Technology, SPIE , Vol.CR62, pp.156-175 (1996)
- Masatoshi Ishikawa: Parallel Optoelectronic Computing System, Ultrafast and Ultra-Parallel Optoelectronics (Eds. T.Sueta and T.Okoshi), Ohmsha and John Wiley & Sons, pp.486-494 (1995)
- Masatoshi Ishikawa: Parallel optoelectronic computing systems and applications, Proc. Int. Conf. Optical Computing '94/Optical Computing, Inst. Phys. Conf. Ser., No.139: Part I, pp.41-46 (1995)
- Masatoshi Ishikawa, Naohisa Mukohzaka, Haruyoshi Toyoda, and Yoshiji Suzuki: Optical Associative Memory with Learning Capabilities, Optical Computing in Japan (S.Ishihara ed.), NOVA Science Publishers, pp.175-182 (1990)

## General

- Masatoshi Ishikawa, Makoto Naruse, T. Haruyoshi, and Y. Kobayashi: Reconfigurable free-space optical interconnection module, Optics & Information Systems (SPIE's International Technical Group Newsletter), Vol.11, No.1, May 2000.
- Masatoshi Ishikawa, and Neil McArdle: Optically Interconnected Parallel Computing Systems, IEEE Computer, pp.61-68, 1998
- Masatoshi Ishikawa: Optoelectronic Parallel Computing Systems and Applications, Optoelectronics Research in Japan and the U.S., Stanford University, 1996.5.9
- Masatoshi Ishikawa: Parallel optoelectronic computing system with reconfigurable optical interconnection, Optical Processing \& Computing (SPIE), Vol.7, No.1, pp.6, 1996
- Masatoshi Ishikawa: System Architecture for Integrated Optoelectronic Computing (Invited Paper), Optoelectronics - Devices and Technologies -, Vol.9, No.1, pp.29-38 , 1994
- Masatoshi Ishikawa: Optical Neurocomputing, Japan Computer Quarterly, No.89, pp.45-50, 1992
- Masatoshi Ishikawa: Optical Neurocomputing - Optical Associative Memory with Learning Capabilities -, Now and Future, Vol.5, pp.4-6, 1990-1
- Masatoshi Ishikawa: Optical Neurocomputing, Science & Technology In Japan

## Proceeding

- Alvaro Cassinelli, Alain Goulet, Makoto Naruse, Fumito Kubota, and Masatoshi Ishikawa: Load-Balanced Optical Packet Switching using two-stage time-slot interchangers, IEICE Conference (Tokushima, 2004.9.23)/Proceedings, pp.49-50
- Alain Goulet, Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, Fumihito Kubota, and Masatoshi Ishikawa: A Load-Balanced Optical Packet Switch Architecture 30th European conference on Optical Communication(ECOC 2004) (Stockholm, 2004.9.5-9)
- Alain Goulet, Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, Fumihito Kubota, and Masatoshi Ishikawa: A Load-Balanced Optical Packet Switch Architecture with an O(1) scheduling complexity, 9th Optoelectronic and Communications Conference / 3rd International Conference on Optical Internet(OECC/COIN) (Yokohama, 2004.7.12)
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, Alain Goulet, and Masatoshi Ishikawa: Arbitration-free Time-Division Permutation Switching suitable for All-Optical Implementation, IEICE meeting (Koufu, 2003.12.18)/pp.23-27
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Stage-Distributed Time-Division Permutation Routing in a Multistage Optically Interconnected Switching Fabric, ECOC-IOOC 2003 (Rimini, 2003.9.24)/pp.830-831, Poster presentation, We4.P.137
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, Masatoshi Ishikawa, and Fumito Kubota: Reconfigurable optical interconnections using multi-permutation-integrated fiber modules, Optics Japan 2003 Conference, Japanese Society of Applied Physics and Related Societies(JSAP) (Kanagawa, 2003.3.27)/Extended Abstracts p.1256 (27a-W12)
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, Masatoshi Ishikawa, and Fumito Kubota: A modular, guided wave approach to plane-to-plane optical interconnects for multistage interconnection networks, Optics Japan 2002 Conference, Japanese Society of Applied Physics(JSAP) (Koganei, 2002.11.2-4)/Extended Abstracts pp.124-125(3aES4)
- Makoto Naruse, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Two-dimensional fiber array with integrated topology for short-distance optical interconnections 2002 IEEE LEOS Annual Meeting Conference Proceedings (2002.11.14)/pp.722-723
- Makoto Naruse, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa: Real-Time Alignment Using Mechanical Dynamics of Optical Interconnection Systems, OSA Annual Meeting & Exhibit 2002 (Orlando, 2002.10.1)/Conference Program, p.77
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Quad-tree image compression using reconfigurable free-space optical interconnections and pipelined parallel processors, Optics in Computing conference, Grand Hotel Taipei (Taipei, 2002.4.8-11)/Proceedings, pp.23-25
- Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Active alignment for dense optical interconnections using mechanical dynamics of optical systems, The Japan Society of Applied Physics and Related Societies, Extended Abstracts (The 49th Spring Meeting, 2002) (Kanagawa, 2002.3.27)/p.1204
- Alvaro Cassinelli, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Elemental optical fiber-based blocks for building modular computing parallel architectures, The Japan Society of Applied Physics and Related Societies, Extended Abstracts, The 49th Spring Meeting, 2002 (Kanagawa, 2002.3.27)/p.1204
- Motonobu Fujita, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Parallel confocal microscope using vertical-cavity surface-emitting laser array, Microscopy and Microanalysis 2001 (Long Beach, 2001.8.7)/pp.1004-1005
- Masatoshi Ishikawa, Makoto Naruse, Alain Goulet, Haruyoshi Toyoda, and Yuji Kobayashi: Reconfigurable Free-space Optical Interconnection Module for Pipelined Optoelectronic Parallel Processing (Invited), Int. Symp. on Optical Science and Technology, Conference 4457: Spatial Light Modulators : Technology and Applications (San Diego, 2001.7.31)/proceedings, Vol.4457, pp.82-87
- Masatoshi Ishikawa, and Makoto Naruse: Optoelectronic Parallel Computing System with Reconfigurable Interconnection (Invited), CLEO/Pacific Rim 2001 (Makuhari, 2001.7.19)/Technical Digest, Vol.II, pp.678-679
- Alain Goulet, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Integration technique to realize alignment-free opto-electronic systems, 2001 International Topical Meeting on Optics in Computing (Lake Tahoe, 2001.1.11)/Technical Digest, pp.122-124
- Alain Goulet, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Novel integration and packaging technique for free-space optoelectronic systems, Optics Japan 2000, (Kitami, 2000.10.8)/pp.247-248
- Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Parallel Confocal Laser Microscope System using Smart Pixel Arrays, The International Symposium on Optical Science and Technology 2000 (San Diego, 2000.10.1)
- Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: An Optimal Distribution of Interconnections and Computations for Optically Interconnected Parallel Processing Systems, 2000 IEEE/LEOS Summer Topical Meetings (Aventura, 2000.7.25)
- D. Kawamata, Makoto Naruse, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa: Image Database Construction and Search Algorithm for Smart Pixel Optoelectronic systems, in Optics in Computing 2000, R. A. Lessard and T. Galstian, eds., Proc. SPIE, 4089 (2000)/pp.797-805
- Makoto Naruse, Haruyoshi Toyoda, Yuji Kobayashi, D. Kawamata, Neil Mc Ardle, Alain Goulet, and Masatoshi Ishikawa, "An Optically Interconnected Pipelined Parallel Processing System: OCULAR-II," in Optics in Computing 2000, R. A. Lessard and T. Galstian, eds., Proc. SPIE, 4089 (2000)/pp.440-448
- Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, Haruyoshi Toyoda, Yuji Kobayashi, and Masatoshi Ishikawa: Reconfigurable Optical Interconnections for Parallel Computing (Invited), Proc. IEEE, Vol.88, No.6, pp.829-837 (2000)
- Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, Masatoshi Ishikawa, Haruyoshi Toyoda, and Yuji Kobayashi: Implementation of a Pipelined Optoelectronic Processor : OCULAR-II, 1999 International Topical Meeting on Optics in Computing (Snowmass, 1999.4.13)/Technical Digest, pp.72-74
- Haruyoshi Toyoda, Kobayashi, N.Yoshida, Y.Igasaki, T.Hara, Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: Compact Optical Interconnection Module for OCULAR-II: a pipelined parallel processor, 1999 International Topical Meeting on Optics in Computing (Snowmass, 1999.4.15)/Technical Digest, pp.205-207
- Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, Akane Okuto, and Masatoshi Ishikawa: Design of a Pipelined Optoelectronic Processor, Optics in Computing (Brugge, 1998.6.19)/Optics in Computing'98 (P.Chavel, D.A.B.Miller, and H.Tienpont eds.), Proc.SPIE, Vol.3490, pp.302-305 (1998)
- Neil Mc Ardle, S.J.Francey, J.A.B.Dines, J.F.Snowdon, Masatoshi Ishikawa, and A.C.Walker: Design of Parallel Optical Highways for Interconnecting Electronics, Optics in Computing (Brugge, 1998.6.18)/Optics in Computing '98 (P.Chavel, D.A.B.Miller, and H.Tienpont eds.), Proc.SPIE, Vol.3490, pp.143-146 (1998)
- Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa: Realization of a Smart-Pixel Parallel Optoelectronic Computing System, International Conference on Massively Parallel Processing Using Optical Interconnections (Montreal, 1997.6.24)/Proceedings, pp.190-195
- Makoto Naruse, and Masatoshi Ishikawa: A theoretical and experimental analysis of active alignment based on singular value decomposition, 1997 International Topical Meeting on Optics in Computing (Lake Tahoe, 1997.3.20)/Technical Digest, pp.230-232
- Neil Mc Ardle, and Masatoshi Ishikawa: Analysis of GRIN Rod and Conventional Optical Systems for Imaging of Two-Dimensional Optoelectronic Device Arrays, 1997 International Topical Meeting on Optics in Computing (Lake Tahoe, 1997.3.18)/Technical Digest, pp.36-38
- Masatoshi Ishikawa: System Architecture for Optoelectronic Parallel Computing (Invited), 1996 International Topical Meeting on Optical Computing (Sendai, 1996.4.21)/Technical Digest, pp.8-9
- Masatoshi Ishikawa: Optoelectronic parallel Computing System with Reconfigurable Optical Interconnection, Photonics WEST, OE/LASE '96 SPIE's International Symposium on Lasers and Integrated optoelectronics, conference CR62 (San Jose, 1996.1.30)/proceedings, Vol.CR62, pp.156-175
- Neil Mc Ardle, Makoto Naruse, Takashi Komuro, Hideyuki Sakaida, Masatoshi Ishikawa, Yuji Kobayashi, and Haruyoshi Toyoda: A Smart-Pixel Parallel Optoelectronic Computing System with Free-Space Dynamic Interconnections, International Conference on Massively Parallel Processing Using Optical Interconnections (Maui, 1996.10.28)/Proceedings, pp.136-157

- Neil McArdle, Takashi Komuro, Makoto Naruse, Hideyuki Sakaida, and Ishikawa: An Optoelectronic Smart-Pixel Parallel Processing System with Dynamic Interconnections, OSA Annual Meeting & Exhibit (Rochester, 1996.10.22)
- Neil McArdle, Takashi Komuro, Makoto Naruse, Hirotsugu Yamamoto, Hideyuki Sakaida, and Masatoshi Ishikawa: A Smart-Pixel Free-Space Interconnected Parallel Processing System, 1996 Summer Topical Meeting on Smart Pixels (Keystone, 1996.8.8)/Digest, pp.59-60
- Makoto Naruse, Neil McArdle, Hirotsugu Yamamoto, and Masatoshi Ishikawa: An algorithmic approach to hierarchical parallel optical processing systems, 1996 International Topical Meeting on Optical Computing (Sendai, 1996.4.21)/Technical Digest, pp.102-103
- Neil McArdle, Hideyuki Sakaida, Hirotsugu Yamamoto, and Masatoshi Ishikawa: A Compact Dynamically-Interconnected Parallel Optoelectronic Computing System, 1996 International Topical Meeting on Optical Computing (Sendai, 1996.4.21)/Technical Digest, pp.16-17
- Masatoshi Ishikawa: Parallel optoelectronic computing system, '95 RWC Symposium (Tokyo, 1995.6.15)/Proceedings, pp.145-146
- Takayuki Ishida, and Masatoshi Ishikawa: Reconfigurable Space-Variant Optical Interconnection Using Binary CGH, Optical Computing Topical Meeting (Salt Lake City, Utah, 1995.3.14)/1995 Technical Digest Series, Vol.10, pp.PD1 1-1 - PD 1-4
- Masatoshi Ishikawa: Parallel Optoelectronic Processing Systems and Applications (Invited), International Conference on Optical Computing (Edinburgh, 1994.8.25)/Technical Digest, pp.385-386
- Masatoshi Ishikawa: Massively Parallel Processing System with Reconfigurable Diffractive Interconnects, International Symposium on Ultrafast and UltraParallel Optoelectronics (Makuhari, 1994.7.12)/Proceedings, pp.203-206
- Andrew Kirk, Tomohira Tabata, Takayuki Ishida, and Masatoshi Ishikawa: Optoelectronic parallel processing system with reconfigurable diffractive interconnections, International Conference on Optical Computing (Edinburgh, 1994.8.25)/Technical Digest, pp.85-86
- Andrew G. Kirk, Tomohira Tabata, and Masatoshi Ishikawa: Cellular processing with diffractive optical elements, Optical Computing Topical Meeting (Palm Springs, California, 1993.3.18)/1993 Technical Digest Series, Vol.7, pp.272-275
- Andrew G. Kirk, Masatoshi Ishikawa, S.Jamieson, and T.J.Hall: The Design and Fabrication of Quasi- Periodic Computer Generated Holograms, Fourth Int. Conf. on Holographic Systems, Components and Applications (Switzerland, 1993.9.13-15)
- Haruyoshi Toyoda, and Masatoshi Ishikawa: Sparse Encoding Algorithm for Optical Associative Memory Using Bistable Spatial Light Modulator, Japan Display '92 (Kobe, 1992.9.19)/Proceedings, pp.371-374
- Masatoshi Ishikawa, Haruyoshi Toyoda, Naohisa Mukohzaka, and Yoshiji Suzuki: Optical Associative Memory Combining with Optical Preprocessing, OPTICAL COMPUTING '90 (Kobe, 1990.4.10)/Technical Digest, pp.160-161
- Masatoshi Ishikawa, Naohisa Mukohzaka, Haruyoshi Toyoda, and Yoshiji Suzuki: Experimental studies on adaptive optical associative memory, OPTICAL COMPUTING '88 (Touron, 1988.9.1)/Proc. SPIE, Vol.963, pp.527-536

## 学会論文賞・技術賞・業績賞等（国内）

- 2010年 日本ロボット学会論文賞（奥寛雅，石川貴彦，石川正俊）  
2010年 日本ロボット学会フェロー（石川正俊）  
2010年 計測自動制御学会論文賞（西野高明，下条誠，石川正俊）  
2008年 日本ロボット学会論文賞（渡辺義浩，小室孝，石川正俊）  
2005年 応用物理学会 光・電子集積技術業績賞（林巖雄賞）（石川正俊）  
2004年 計測自動制御学会技術賞友田賞（石川正俊，小室孝，石井抱，吉田淳，稻田喜昭，小宮泰宏）  
2004年 映像情報メディア学会技術振興賞開発賞（インテリジェントビジョンシステム開発グループ [浜松木トニクス、理化学研究所、東京大学、代表：豊田晴義，中坊嘉宏，石川正俊] ）  
2001年 日本ロボット学会論文賞（並木明夫，石川正俊）  
1999年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門学術業績賞（石川正俊）  
1998年 日本ロボット学会論文賞（中坊嘉宏，石井抱，石川正俊）  
1997年 計測自動制御学会フェロー（石川正俊）  
1990年 応用物理学会光学論文賞（石川正俊）  
1984年 計測自動制御学会論文賞（石川正俊，下条誠）

## 学会以外表彰等（国内）

- 2010年 文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞（アルバロ カシネリ，真鍋大度，栗原優作，アレクシィ ゼログ）  
2010年 ファナックFAロボット財団論文賞受賞（下条誠，西野高明，石川正俊）  
2009年 エリクソン・ヤング・サイエンティスト・アワード（渡辺義浩）  
2006年 文化庁メディア芸術祭アート部門大賞（アルバロ カシネリ）  
2002年 エリクソン・ヤング・サイエンティスト・アワード（小室孝）  
2002年 LSI IPデザイン・アワード IP賞（石川正俊，鏡慎吾，小室孝，石井抱）  
2000年 光科学技術研究振興財団研究表彰（成瀬誠）  
2000年 井上研究奨励賞（成瀬誠）  
2000年 LSI IPデザイン・アワード IP優秀賞（石川正俊，小室孝，小川一哉，石井抱）  
1999年 光産業技術振興協会櫻井健二郎氏記念賞（石川正俊）  
1998年 高度自動化技術振興賞（本賞）（中坊嘉宏，石井抱，石川正俊）  
1988年 工業技術院長賞（石川正俊）

## 学会奨励賞等（国内）

- 2009年 日本ロボット学会研究奨励賞（奥寛雅）  
2006年 日本ロボット学会研究奨励賞（尾川順子）  
2005年 計測自動制御学会学術奨励賞（妹尾拓）  
2004年 日本ロボット学会研究奨励賞（鏡慎吾）  
2002年 映像情報メディア学会研究奨励賞（小室孝）  
2000年 日本ロボット学会研究奨励賞（並木明夫）  
1999年 日本ロボット学会研究奨励賞（石井抱）

## 学内

- 2011年 情報理工学系研究科 研究科長賞（システム情報学専攻博士課程）（山川雄司）  
2008年 情報理工学系研究科 研究科長賞（創造情報学専攻修士課程）（寺嶋一浩）

## 国際会議論文賞等

- 2011年 Best Presentation Award, 42nd IEEE VAIL Computer Elements Workshop (Masatoshi Ishikawa)  
2011年 Le Grand Prix du Jury, 13th Int.Conf.on Virtual Reality (Laval Virtual) (Alexis Zerroug, Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa)  
2010年 IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (Yuji Yamakawa)  
2009年 Best project in the category of Medicine and Health, 11th Int.Conf.on Virtual Reality (Laval Virtual) (Alvaro Cassinelli, and Masatoshi Ishikawa)  
2008年 IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (ICRA'08) (Takeshi Hasegawa)  
2007年 Best Paper Nomination Finalist, 2007 RSJ/SICE/IEEE Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems (Makoto Shimojo, Takuma Araki, Aiguo Ming, and Masatoshi Ishikawa)  
2006年 Best Paper in Biomimetics, 2006 IEEE Int. Conf. on Robotics and Biomimetics (Anchelee Davies, Naoko gawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa)

- 2006年 Best Manipulation Paper Award, 2006 IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Noritsugu Furukawa, Akio Namiki, Taku Senoo, and Masatoshi Ishikawa)
- 2004年 Best Vision Paper Award Finalist, 2004 IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Yoshihiro Imai, Akio Namiki, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa)
- 2003年 Excellent Paper Award, 2003 6th Japan-France Congress on Mechatronics & 4th Asia-Europe Congress on Mechatronics (Makoto Shimojo, Ryota Makino, Hironori Ogawa, Takafumi Suzuki, Akio Namiki, Takashi Saito, Masanori Kunimoto, Masatoshi Ishikawa, and Kunihiiko Mabuchi)
- 1996年 Best Video Award Finalist, 1996 IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa)

## 学会以外表彰等（国際）

- 2010年 Nissan Research Challenge Innovative Concept Award, Nissan Research Center (Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, Yoshihiro Watanabe, Masatoshi Ishikawa, Tomoko Hayashi, Isao Kanemaki, Takehiro Goto, Takashi Asari, Yuichi Nakamura, Koutaro Furukawa)

## 国内会議論文賞等

- 2011年 画像センシングシンポジウムSSII2011オーディエンス賞（有間英志, 糸山浩太郎, 山田雅弘, 小室孝, 渡辺義浩, 石川正俊）
- 2010年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2010優秀講演賞（寺田一貴, 長谷川浩章, 国府田直人, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠）
- 2010年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2010優秀講演賞（長谷川浩章, 向山由宇, 鈴木陽介, 明愛国, 石川正俊, 下条誠）
- 2009年 3次元画像コンファレンス2008 優秀論文賞（杉原裕, 渡辺義浩, 小室孝, 石川正俊）
- 2008年 豊橋技術科学大学グローバルCOE ADISTシンポジウム ADIST2008 最優秀ポスター講演賞（山川雄司）
- 2008年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2008優秀講演賞（溝口善智, 多田隈建二郎, 明愛国, 石川正俊, 下条誠）
- 2008年 映像メディア処理シンポジウム ベストポスター賞（山口光太）
- 2007年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門ROBOMECH表彰受賞（古川徳厚, 妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊）
- 2006年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2006優秀講演賞（古川徳厚, 妹尾拓, 並木明夫, 石川正俊）
- 2006年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2006優秀講演賞（山川雄司, 並木明夫, 石川正俊, 下条誠）
- 2005年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2005ベストセッション講演賞（奥寛雅, Theodorus, 橋本浩一, 石川正俊）
- 2005年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門ROBOMECH表彰（金子真, 丁憲勇, 東森充, 石井抱, 並木明夫, 石川正俊）
- 2004年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門SI2004ベストセッション講演賞（塩形大輔, 並木明夫, 石川正俊）
- 2003年 2003年度計測自動制御学会システムインテグレーション部門奨励賞（並木明夫, 今井睦朗, 石川正俊）
- 2003年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門ROBOMECH表彰（下条誠, 牧野了太, 小川博教, 鈴木隆文, 並木明夫, 斎藤敬, 石川正俊, 満渕邦彦）
- 2000年 IEEE Solid-State Circuits Society Japan Chapter 奨励賞受賞（鏡慎吾, 小室孝, 小川一哉, 石井抱, 石川正俊）
- 1998年 ロボティックスシンポジア最優秀論文賞（石井抱, 村田達也, 松内良介, 小室孝, 石川正俊）

## Awards (Academic Society) (Domestic)

- 2010 Best Paper Award from Robotics Society of Japan (Hiromasa Oku, Takahiko Ishikawa, and Masatoshi Ishikawa)
- 2010 Fellow of Robotics Society of Japan (Masatoshi Ishikawa)
- 2010 Best Paper Award from Society of Instrument and Control Engineers (Takaaki Nishino, Makoto Shimojo, and Masatoshi Ishikawa)
- 2008 Best Paper Award from Robotics Society of Japan (Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa)
- 2005 Major Contribution Award in integration of opto-electronics from Society of Applied Physics in Japan (Izuo Hayashi Award) (Masatoshi Ishikawa)
- 2004 Best Technique Award, Tomoda Award from Society of Instrument and Control Engineers (Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Idaku Ishii, Atsushi Yoshida, Yoshiaki Inada, and Yasuhiro Komiya)
- 2004 Best Development Award from the Institute of Image Information and Television Engineers (Intelligent Vision System Development Group [Hamamatsu Photonics, RIKEN, University of Tokyo, Haruyoshi Toyoda, Yoshihiro Nakabo, and Masatoshi Ishikawa] )
- 2001 Best Paper Award from Robotics Society of Japan (Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa)

- 1999 Major Contribution Award from the Robotics and Mechatronics Division of the Japan Society of Mechanical Engineers (Masatoshi Ishikawa)  
1998 Best Paper Award from Robotics Society of Japan (Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa)  
1997 Fellow of Society of Instrument and Control Engineers (Masatoshi Ishikawa)  
1990 Best Optics Paper Award from Society of Applied Physics in Japan (Masatoshi Ishikawa)  
1984 Best Paper Award from Society of Instrument and Control Engineers (Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo)

## Awards (Except Academic Society) (Domestic)

- 2010 Japan Media Arts Festival Entertainment Division Excellence Prize (Alvaro Cassinelli, Daito Manabe, Yusaku Kuribara, and Alexis Zerroug)  
2010 Best Paper Award from FANUC FA and Robot Foundation (Makoto Shimojo, Takaaki Nishino, and Masatoshi Ishikawa)  
2009 Ericsson Young Scientist Award (Yoshihiro Watanabe)  
2006 Japan Media Arts Festival Art Division Grand Prize (Alvaro Cassinelli)  
2002 Ericsson Young Scientist Award (Takashi Komuro)  
2002 IP Award (LSI IP Design Award) from Steering Committee of LSI IP Design Award (Masatoshi Ishikawa, Shingo Kagami, Takashi Komuro, and Idaku Ishii)  
2000 Research Award by Research Foundation for Opto-Science and Technology (Makoto Naruse)  
2000 Inoue Research Award for Young Scientists (Makoto Naruse)  
2000 Best IP Award (LSI IP Design Award) from Steering Committee of LSI IP Design Award (Masatoshi Ishikawa, Takashi Komuro, Kazuya Ogawa, and Idaku Ishii)  
1999 Kenjiro Sakurai Memorial Prize from Optoelectronic Industry and Technology Development Association (Masatoshi Ishikawa)  
1998 Award for Progress in Advanced Automation Technology from the Foundation for Promotion of Advanced Automation Technology (Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa)  
1988 Best Researcher Award from Agency of Industrial Science and Technology (Masatoshi Ishikawa)

## Awards for Young Researcher (Academic Society) (Domestic)

- 2009 Robotics Society of Japan, Young Investigation Excellence Award (Hiromasa Oku)  
2006 Robotics Society of Japan, Young Investigation Excellence Award (Naoko Ogawa)  
2005 Society of Instrument and Control Engineers, Young Author Award (Taku Senoo)  
2004 Robotics Society of Japan, Young Investigation Excellence Award (Shingo Kagami)  
2002 Institute of Image Information and Television Engineers, Best Author Award (Takashi Komuro)  
2000 Robotics Society of Japan, Young Investigation Excellence Award (Akio Namiki)  
1999 Robotics Society of Japan, Young Investigation Excellence Award (Idaku Ishii)

## University of Tokyo

- 2011 Awards from Dean of Graduate School of Information Science and Technology (Department of Information Physics and Computing) (Yuji Yamakawa)  
2008 Awards from Dean of Graduate School of Information Science and Technology (Department of Creative Informatics) (Kazuhiro Terajima)

## Best Paper Awards (International Conference)

- 2011 Best Presentation Award, 42nd IEEE VAIL Computer Elements Workshop (Masatoshi Ishikawa)  
2011 Le Grand Prix du Jury, 13th Int.Conf.on Virtual Reality (Laval Virtual) (Ishikawa Komuro Laboratory)  
2010 IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (Yuji Yamakawa)  
2009 Best project in the category of Medicine and Health, 11th Int.Conf.on Virtual Reality (Laval Virtual) (Ishikawa Komuro Laboratory)  
2008 IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (ICRA'08) (Takeshi Hasegawa)  
2007 Best Paper Nomination Finalist, 2007 RSJ/SICE/IEEE Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems (Makoto Shimojo, Takuma Araki, Aiguo Ming, and Masatoshi Ishikawa)  
2006 Best Paper in Biomimetics, 2006 IEEE Int. Conf. on Robotics and Biomimetics (Anchelee Davies, Naoko Ogawa, Hiromasa Oku, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa)  
2006 Best Manipulation Paper Award, 2006 IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Noritsugu Furukawa, Akio Namiki, Taku Senoo, and Masatoshi Ishikawa)  
2004 Best Vision Paper Award Finalist, 2004 IEEE Int. Conf. on Robotics and Automation (Yoshihiro Imai, Akio Namiki, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa)  
2003 Excellent Paper Award, 2003 6th Japan-France Congress on Mechatronics & 4th Asia-Europe Congress on Mechatronics (Makoto Shimojo, Ryota Makino, Hironori Ogawa, Takafumi Suzuki, Akio Namiki, Takashi Saito, Masanori Kunimoto, Masatoshi Ishikawa, and Kunihiro Mabuchi)  
1996 Best Video Award Finalist, 1996 IEEE Int.Conf.on Robotics and Automation (Yoshihiro Nakabo, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa)

## Awards (Except Academic Society) (International)

2010 Nissan Research Challenge Innovative Concept Award, Nissan Research Center (Carson Reynolds, Alvaro Cassinelli, Yoshihiro Watanabe, Masatoshi Ishikawa, Tomoko Hayashi, Isao Kanemaki, Takehiro Goto, Takashi Asari, Yuichi Nakamura, Koutaro Furukawa)

## Best Paper Awards (Domestic Conference)

2011 Audience Award, Symposium on Sensing via Image Information SSII2011 (Hideshi Arima, Koutaro Itoyama, Masahiro Yamada, Takashi Komuro, Yoshihiro Watanabe, and Masatoshi Ishikawa)

2010 SI2010 Best Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Kazuki Terada, Hiroaki Hasegawa, Naoto Kouda, Yosuke Suzuki, Aiguo Ming, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo)

2010 SI2010 Best Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Hiroaki Hasegawa, Yu Mukoyama, Yosuke Suzuki, Aiguo Ming, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo)

2009 Best Paper Award, 3D Image Conference 2008 (Yutaka Sugihara, Yoshihiro Watanabe, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa)

2008 Toyohashi University of Technology Global COE, ADIST Symposium, ADIST2008 Best Poster Award (Yuji Yamakawa)

2008 SI2008 Best Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Yoshitomo Mizoguchi, Kenjiro Tadakuma, Aiguo Ming, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo)

2008 Image Media Processing Symposium, Best Poster Award (Kota Yamaguchi)

2007 ROBOMECH Award from the Robotics and Mechatronics Division of the Japan Society of Mechanical Engineers (Noriatsu Furukawa, Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa)

2006 SI2006 Best Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Noriatsu Furukawa, Taku Senoo, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa)

2006 SI2006 Best Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Yuji Yamakawa, Akio Namiki, Masatoshi Ishikawa, and Makoto Shimojo)

2005 SI2005 Best Session Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Hiromasa Oku, Theodorus, Koichi Hashimoto, and Masatoshi Ishikawa)

2005 ROBOMECH Award from the Robotics and Mechatronics Division of the Japan Society of Mechanical Engineers (Makoto Kaneko, Hiyoung Jeong, Mitsuhiro Higashimori, Idaku Ishii, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa)

2004 SI2004 Best Session Presentation Award from Society of Instrument and Control Engineers, System Integration Technical Division (Daisuke Shiokata, Akio Namiki, and Masatoshi Ishikawa)

2003 Award for Encouragement from System Integration Technical Division of Society of Instrument and Control Engineers (Akio Namiki, Yoshiro Imai, and Masatoshi Ishikawa)

2003 ROBOMECH Award from the Robotics and Mechatronics Division of the Japan Society of Mechanical Engineers (Makoto Shimojo, Ryota Makino, Hironori Ogawa, Takafumi Suzuki, Akio Namiki, Takashi Saito, Masatoshi Ishikawa, and Kunihiko Mabuchi)

2000 Award for Encouragement from IEEE Solid-State Circuits Society Japan Chapter (Shingo Kagami, Takashi Komuro, Kazuya Ogawa, Idaku Ishii, and Masatoshi Ishikawa)

1998 Best Paper Award, Third Robotics Symposia (Idaku Ishii, Tatsuya Murata, Ryosuke Matsuuchi, Takashi Komuro, and Masatoshi Ishikawa)

石川 奥 研究室  
Ishikawa Oku Laboratory

---

非売品  
平成23年9月20日 初版

発行 石川 奥 研究室  
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1  
電話 03-5841-6935

本書に関する情報などは当研究室Webサイトをご参照ください  
<http://www.k2.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

---



## 石川奥研究室

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

電話 石川教授室 (251) 03-5841-6935  
奥講師室 (254) 03-5841-6936

研究室 (230, 232, 233) 03-5841-6937

FAX 03-5841-8604

<http://www.k2.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>